ISSN 1883-132X

沖縄県立博物館・美術館年報

No. 3

2010

沖縄県立博物館・美術館

序

沖縄県立博物館は２００７年１１月１日に首里から現在のおもろまちへ移転し、県民待望の美術館を合わせ持つ複合施設「沖縄県立博物館・美術館」として開館しました。同時に組織体制が新しくなり、館の運営に当たっては指定管理者制度が導入されています。おかげさまで旧館時代と比較しますと年間の入館者数では約１０倍増となっており、２００９（平成２１）年１１月１９日には入館者１００万人を達成いたしました。これもひとえに県民の皆様をはじめとする県内外各位の本館に対する大きな期待の表れであると考えております。

博物館の常設展は「海と島に生きる」をメインテーマに、沖縄の海洋性気候と島嶼性の中で育まれてきた個性豊かな自然や歴史、文化などを体系的に展示しています。美術館ではこれまでに収集された沖縄及び沖縄県にゆかりのある作家の近現代美術作品を中心にして、日本及びアジア諸国、アメリカの現代美術作品のコレクション展示が行われています。２００９年度には１６０９年の薩摩の琉球侵攻からかぞえてちょうど４００年の節目の年にあたりました。それに合わせて博物館特別展　薩摩の琉球侵攻４００年　琉球使節、江戸へ行く！　～琉球慶賀使・謝恩使一行２，０００キロの旅絵巻～　を開催しました。展示会だけではなく、文化講座やシンポジウムなどの関連催事におきましても会場に入りきれないほどのお客様が見えられ、あらためて琉球の歴史に対する県民の関心の高さが伺えました。美術館ではアメリカ現代陶芸界において“クイーン”と称されるタカエズトシコ氏より５０点の作品をご寄贈いただきました。１月１日から３月１４日まで行われた展示会では多くの県民の皆様にご観覧いただきました。その他にも特別展や企画展を博物館、美術館、指定管理者合わせて計１６本開催すると同時に、文化講座や体験学習教室、展示解説会をはじめとする様々な取り組みを行ってまいりました。このような活動は、本県の特色ある自然、歴史、文化、芸術等を県内外に発信するとともに、教育、学術、文化、生活福祉等の向上に資するものとして今後も大きな役割を担っています。

博物館・美術館の活動には本県に関わりのある資料の収集や保管、展示、教育普及および調査研究があり、それらを集約した沖縄県立博物館・美術館は「県民の知的共有財産」であります。県民の皆様が楽しみながら学習することによって自らの来歴に自信と誇りを持ち、主体的に生きていく意識形成の拠点になりうるものと考えています。これからも現状に甘んじることなく常に進化する博物館・美術館を目指して職員一同微力を投入していこうと決意を新たにしています。

今後ともより一層のご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

２０１０年（平成２２）１月

沖縄県立博物館・美術館

館長　**牧野浩隆**

目　次

序

概要 …… 1

Ⅰ　沿革
Ⅱ　日誌抄
Ⅲ　施設・設備
Ⅳ　組織
Ⅴ　沖縄県立博物館・美術館協議会
Ⅵ　予算
Ⅶ　収蔵資料現在高

利用統計 …… 19

Ⅰ　入館者統計
　1．総入館者集計　2．団体入館者集計　3．展覧会別入館者集計
　4．減免申請集計　5．団体入館内訳
Ⅱ　施設利用者統計
　1．月別施設利用集計　2．施設貸出内訳

博物館 …… 35

Ⅰ　調査研究等の活動
　1．調査研究の概要　2．博物館総合調査－竹富島総合調査－
　3．博物館共同研究事業　4．調査・研究等　5．講演等
　6．著作論文等　7．職員研修
Ⅱ　展示活動
　1．展示活動概要　2．常設展　3．部門展示替え
　4．企画展「新収蔵品展－平成２０年度収蔵資料－」
　5．特別展「琉球使節、江戸へ行く！」
　6．企画展「大嶺薫コレクション展－初代館長　大嶺薫の宝もの－」
　7．企画展「造礁サンゴ－楽園をつくった偉大な建築家－」
　8．企画展「ものづくり今昔－自然の恵みを活かす－」
Ⅲ　教育普及活動
　1．博物館教育普及活動の概要　2．学校連携事業　3．博物館体験学習教室
　4．博物館文化講座　5．学芸員講座　6．展示解説会
　7．バックヤードツアー　8．夏休み子ども相談週間　9．博物館ボランティア活動
　１０．ふれあい体験室　１１．フリーパス　１２．職場研修受入
　１３．職場体験受入　１４．普及資料の貸出
Ⅳ　資料収集・保存管理
　1．収蔵資料現在高　2．２００９（平成２１）年度新収蔵資料高
　3．２００９（平成２１）年度新収蔵資料目録　4．所蔵指定文化財
　5．修理事業　6．レプリカ等製作事業　7．化石資料受入事業
　8．資料収集事業－資料収集－　9．資料収集事業－基金－
　１０．収蔵資料等整理事業　１１．資料貸出

美術館 …… 85

Ⅰ　調査研究等の活動
　1．調査研究の概要　2．調査・研究等　3．講演等
　4．著作論文等
Ⅱ　展示活動
　1．展示活動概要　2．コレクション展（常設展）
　3．企画展「名渡山愛順展－名渡山愛順が愛した沖縄」
　4．企画展「タカエズトシコ展－両親に捧ぐ－」
Ⅲ　教育普及活動
　1．美術館教育普及活動の概要　2．鑑賞活動支援　3．バックヤード・ツアー
　4．実技体験支援　5．講演会及び上映会　6．ワークショップ
　7．教員向け講座　8．写真を学ぶ高校生のための支援プログラム
　9．展覧会関連催事
Ⅳ　作品収集・保存管理
　1．収蔵作品現在高　2．２００９（平成２１）年度新収蔵作品高
　3．２００９（平成２１）年度新収蔵作品目録　4．作品収集事業
　5．保存管理業務　6．作品貸出

文化の杜共同企業体（指定管理者）…… 113

Ⅰ　文化の杜共同企業体概要
Ⅱ　運営方針
Ⅲ　組織
Ⅳ　文化の杜共同企業体・美術館企画アドバイザー会議
Ⅴ　展示活動
　1．展示活動概要（美術館企画展）
　（1）「アトミックサンシャインの中へ　ｉｎ　沖縄」
　（2）「豊潤の美を求めて－　金城安太郎と高畠華宵展」
　（3）「琉球絵画展」　（4）「オキナワデザインの現在」
　2．展示活動概要（自主事業展覧会）
　（1）王昭展
　（2）「定点　慰霊の日」（写真展）
　3．県民ギャラリー
Ⅵ　教育・イベント活動（自主活動）
　1．自主事業としての教育普及およびイベント活動に関する概要
　2．講演会・シンポジウム　3．ワークショップ・観察会等
　4．映画上映　5．講座等　6．展示会
　7．文化庁・地域文化芸術振興プラン推進事業　8．おもろ夜会
　9．しまくとぅばプロジェクト　１０．その他
　１１．職場体験受け入れ
Ⅶ　広報・交流事業
　1．広報事業　2．地域イベントへの参加
Ⅷ　調査・研究等の活動
　1．調査・研究等　2．著作論文等
Ⅸ　その他
　1．職員研修　2．スタッフ接客研修　3．特別展・企画展研修
　4．消防訓練

全館共同事業 …… 149

Ⅰ　学芸員実習
　1．博物館実習　2．美術館実習
Ⅱ　国際博物館の日
Ⅲ　移動展
Ⅳ　燻蒸・消毒処理
Ⅴ　刊行物

その他の活動 …… 161

Ⅰ　沖縄県博物館協会
Ⅱ　全国の組織との関わり
　1．日本博物館協会　2．全国科学博物館協議会総会
　3．九州博物館協議会総会
Ⅲ　沖縄博物館友の会
Ⅳ　ｈａｐｐ（美術館支援会）

関係法規抄録 …… 167

○博物館法　○博物館法施行令
○博物館法施行規則　○博物館の登録に関する規則
○沖縄県立教育機関組織規則（抄）　○沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例
○沖縄県立博物館・美術館管理規則　○沖縄県立博物館・美術館館長執務規程
○博物館・美術館学芸業務嘱託員設置規程　○博物館・美術館教育普及業務嘱託員設置規程
○美術品調査嘱託員設置規程　○美術品保存修復嘱託員設置規程
○沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領

概　要

Ⅰ　沿革
Ⅱ　日誌抄
Ⅲ　施設・設備
Ⅳ　組織
Ⅴ　沖縄県立博物館・美術館協議会
Ⅵ　予算
Ⅶ　収蔵資料現在高

Ⅰ．沿革

【前史】

１９３６年（昭和１１）沖縄縣教育會附設として旧首里城北殿を利用して『郷土博物館』が創設されたが、沖縄戦により全焼した。終戦直後の１９４５年（昭和２０）８月、米国海軍軍政府は石川市（現うるま市）東恩納の地に『沖縄陳列館』を設立した。また、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、１９４６年（昭和２１）３月頃、首里の汀良に『首里市立郷土博物館』が設立された。

【創設】

１９４６年（昭和２１）４月２４日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され、『東恩納博物館』と改称して、新発足した。これが当館の創立にあたる。

【発展】

１９５３年（昭和２８）東恩納博物館と首里の博物館が合併、１９５５年（昭和３０）には『琉球政府立博物館』に改称した。また、１９６６年（昭和４１）には首里大中町の旧中城御殿跡に新館を建設して移転した。１９７２年（昭和４７）の日本への復帰に伴い名称を『沖縄県立博物館』と改め、１９７３年（昭和４８）に２階部を増築し展示スペースを拡充した。

１９８０年代末（昭和６０年代）頃から建物の老朽化が顕著になり、新館建設・移転が具体的に計画される。２００４年（平成１６）に那覇市新都心に新館の建設を着工。首里在の博物館は、新館への移転準備のため２００６年４月１日より休館。２００７年（平成１９）１１月１日に那覇新都心（おもろまち）に美術館を併設した『沖縄県立博物館・美術館』として開館した。

【あゆみ】

１９４６（昭和２１）	４月	沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し、沖縄民政府の所管となる。（４月２４日）
１９４７（昭和２２）	１２月	前年３月に首里汀良町に設立された首里市立郷土博物館も同民政府に移管し「沖縄民政府立首里博物館」に改称する。
１９５３（昭和２８）	３月	東恩納博物館を首里博物館に移転合併する。
	５月	首里博物館は汀良町から当蔵町に移り、龍潭池畔に瓦葺の本館が完成した。 米国民政府によりペルリ来琉百周年記念事業の一環として、ペルリ記念館を附設して落成、贈呈される。
１９５５（昭和３０）	９月	「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」に改称する。
１９６５（昭和４０）	９月	大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿）を購入する。
１９６６（昭和４１）	１０月	米国による援助で鉄筋コンクリート建の新館を新敷地に建設し移転する。
	１１月	開館する。
１９７２（昭和４７）	２月	サントリー美術館との共催で、『５０年前の沖縄』写真展開催
	５月	日本への復帰に伴い「沖縄県立博物館」に改称する。
１９７３（昭和４８）	２月	国庫補助により２階部を増築し、展示室を３室増設する。
１９７６（昭和５１）	４月	創立３０周年記念式典を行う。
	１２月	『博物館３０年の歩み展』開催
１９７９（昭和５４）	６月	特別展『沖縄の洞穴と洞穴生物』開催
１９８０（昭和５５）	１月	特別展『日本の美－救世熱海美術館名品展－』及び『沖縄県立博物館名品展』開催
	２月	「移動博物館」を久米島の具志川・仲里両村で開催する。以後、離島市町村で毎年実施する（２００８年度からは「移動展」に改称）。
	８月	特別展『琉球のシダ植物』開催
	１１月	特別展『失われた生物たち－大恐竜展－』開催
１９８１（昭和５６）	３月	博物館法に基づき『登録博物館』として登録される。（３月３０日付け）
	１０月	特別展『沖縄の美－日本民芸館蔵－』及び『戦前の沖縄写真展』開催
１９８２（昭和５７）	５月	新たに常設展として自然部門を設置
	７月	企画展『沖縄の昆虫』開催
	１０月	特別展『熊本県・沖縄県交流展－熊本の歴史と文化－』開催
１９８３（昭和５８）	５月	企画展『琉球の漆工芸』開催
	１１月	特別展『沖縄県・熊本県交流展－沖縄の美　風土と美術工芸－』を熊本県立美術館にて開催
１９８４（昭和５９）	６月	企画展『玉城朝薫生誕三百年記念展－琉球芸能の世紀－』開催
	７月	企画展『沖縄のシダ・貝・昆虫標本展』開催
	１０月	企画展『今帰仁グスク展』開催
１９８５（昭和６０）	２月	企画展『紅型衣装と型紙展』開催
	１１月	特別展『グスクーグスクが語る古代琉球の歴史とロマンー』開催

１９８６（昭和６１）　２月　特別展『大嶺薫コレクション－美術工芸の美を求めて－』開催
１９８７（昭和６２）１０月　スポーツ芸術・特別展『沖縄の自然・歴史・文化』『沖縄近代の絵画－物故作家－』開催
１２月　企画展『田名家収蔵品展－ある首里士族の４００年－』開催
企画展『現代沖縄の陶芸－天野鉄夫コレクション－』開催
１９８８（昭和６３）　８月　特別展『ヤンバルの自然』開催
１１月　特別展『三線名器１００挺展』開催
１９８９（平成　元）１１月　特別展『インドネシア更紗展』開催
１２月　企画展　真境名由康生誕１００年記念『芸能資料展』開催
１９９０（平成　２）　１月　特別展『大アンデス文明展』開催
８月　企画展『沖縄の野鳥展』開催
１１月　企画展『沖縄の祭り』開催
１９９１（平成　３）　２月　企画展『技と美－大城志津子の世界－』開催
８月　企画展『沖縄のチョウ展』開催
９月　企画展『壺屋陶工遺作展』開催
１０月　特別展『アジアの祭りと芸能』開催
１９９２（平成　４）　２月　企画展『琉球の香り・あわもりの歴史と文化』開催
６月　特別展『古代メキシコ至宝展』開催
８月　特別展『沖縄の貝類展』開催
１０月　復帰２０周年記念特別展『琉球王国展』開催
１９９３（平成　５）　１月　特別展『尚家継承琉球王朝文化遺産展』開催
２月　企画展『謝花雲石展』開催
７月　企画展『芭蕉布と平良敏子』開催
８月　特別展『沖縄の川と生きもの』開催
１１月　企画展『刻まれた歴史－沖縄の石碑と拓本－』開催
１９９４（平成　６）　７月　特別展『子どもの世界』開催
１９９５（平成　７）　６月　戦後５０周年記念特別展『甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展』開催
１９９６（平成　８）　７月　特別展『大久米島展』開催
１２月　企画展『沖縄県立博物館５０年の歩み』開催、創立５０周年式典を行う。
１９９７（平成　９）　４月　特別展『アルゼンチンの大恐竜展』開催
１９９８（平成１０）　７月　企画展『琉球王国時代の植物標本展』開催
１１月　特別展『包むこころ　ふろしき展』開催
１９９９（平成１１）　８月　特別展『三線のひろがりと可能性展』開催
１０月　企画展『日本の技－伝統のかたち－』開催
（第７回全国重要無形文化財保持団体秀作展『日本の伝統美と技の世界』巡回展）
２０００（平成１２）　２月　企画展『工芸王国－きらめく手わざの世界を沖縄から－』開催
７月　特別展サミット開催記念『大琉球展』開催
１１月　特別展ハワイ移民１００周年記念『日系移民１世紀展』開催
２００１（平成１３）　２月　企画展『沖縄の繊維・染料植物展』開催
３月　企画展『工芸王国－人・技・心－』開催
１１月　特別展『かざりとかたち展』開催
２００２（平成１４）　９月　特別展『港川人展』開催
１０月　企画展『沖縄の文化財展』開催
２００３（平成１５）　２月　企画展『おきなわナースものがたり』開催
７月　企画展『旅する種子－運ばれるための巧妙なしかけ－』開催
１０月　特別企画展『沖縄織物へのメッセージ－田中俊雄の研究－』開催
２００４（平成１６）　２月　企画展『戦前・戦後の文化財保護－仲座久雄の活動をとおして－』開催
８月　企画展『沖縄歴史を綴る秘宝展』開催
１１月　企画展『自然界のエイリアン－海をこえて持ちこまれた動物たち－』開催
２００５（平成１７）　２月　特別展『いま・むかし、おもちゃ大博覧会－入江正彦児童文化史コレクション－』開催
２００６（平成１８）　２月　閉館記念特別展『柳宗悦の心と眼－柳宗悦の民藝と巨匠たち展－』開催
３月　『ありがとう・さよなら』キャンペーン（３月２２日～３月３１日　無料入館）
２００７（平成１９）　企画展『わたしの宝もの展』（博物館友の会主催）開催
閉館の集い実施（３１日）
４月１日から博物館新館移転準備のため２００７年（平成１９）１０月末まで休館する。
新館へ事務所移転（２９日）。首里在の沖縄県立博物館閉館式（３０日）を行い、沖縄県立博物館の全ての組織・機能等は教育庁文化施設建設室に、また首里の博物館敷地及び建物の管理は教育庁文化課にそれぞれ引き継ぐ（３１日）。

４月　新館での事務を開始する。（１日）
７月　沖縄県立博物館・美術館の指定管理者として「文化の杜共同企業体」が指定を受ける。
８月　指定管理者・文化の杜共同企業体が開館事前準備のため事務をはじめる。
１１月　那覇市おもろまちに沖縄県立博物館・美術館が開館する。同時に、博物館新館開館記念展『人類の旅－港川人の来た道－』と美術館開館記念展『沖縄文化の軌跡1872-2007』を開催する。（１日）

２００８（平成２０）　２月　博物館企画展『新収蔵品展－平成１７・１８年度収蔵資料－』」開催
３月　指定管理者企画展『世界の現代アーティスト５０人展』開催
美術館常設展開会式（２５日）
５月　博物館企画展『新収蔵品展－平成１９年度収蔵資料－』開催
指定管理者企画展『情熱と戦争の狭間で－無言館・沖縄・画家たちの表現－』開催
７月　美術館企画展『新収蔵品展　ポリエドール～沖縄・アジアの多様性～』開催
指定管理者特別展『恐竜ミュージアム２００８』開催
９月　指定管理者企画展『しまくぅば』開催
博物館企画展『ずしがめの世界』開催
１１月　開館一周年記念博物館特別展『甦る琉球王国の輝き』開催
美術館企画展『美術家たちの「南洋群島」』開催

２００９（平成２１）　１月　博物館企画展『発掘された日本列島２００８』開催
博物館企画展『沖縄考古学ニュース』開催
美術館企画展『移動と表現－変容する身体・言語・文化－』開催
４月　指定管理者企画展『アトミックサンシャインの中へ　in　沖縄』開催
５月　博物館企画展『新収蔵品展－平成２０年度資料－』開催
指定管理者企画展『王昭展』開催
指定管理者企画展『豊潤の美を求めて－金城安太郎と高畠華宵－』開催
７月　指定管理者企画展『琉球絵画展』開催
９月　指定管理者企画展『オキナワデザインの現在』開催
１０月　博物館特別展『琉球使節、江戸へ行く！』開催
美術館企画展『名渡山愛順展－名渡山愛順が見た沖縄』開催
１２月　博物館企画展『大嶺コレクション展』開催

２０１０年（平成２２年）
１月　美術館企画展『タカエズトシコ展』開催
博物館企画展『造礁サンゴ』開催
博物館企画展『ものづくり今昔』開催

【歴代館長】

○東恩納博物館
大嶺　　薫（１９４６年４月～１９５３年３月）

○首里博物館
豊平　良顕（１９４７年１２月～１９４８年３月）
原田　貞吉（１９４８年８月～１９５３年３月）

○沖縄民政府立首里博物館
原田　貞吉（１９５３年３月～１９５５年５月）

○琉球政府立博物館
山里　永吉（１９５５年５月～１９５８年８月）
金城増太郎（１９５８年９月～１９６１年１２月）
大城　知善（１９６２年２月～１９６９年１１月）
外間　正幸（１９６９年１２月～１９７２年４月）

○沖縄県立博物館
外間　正幸（１９７２年５月～１９８１年３月）
大城徳次郎（１９８１年４月～１９８３年３月）
大城　立裕（１９８３年４月～１９８６年３月）
大城　宗清（１９８６年４月～１９９２年３月）
宜保榮治郎（１９９２年４月～１９９４年３月）
糸数　兼治（１９９４年４月～１９９６年３月）
當間　一郎（１９９６年４月～１９９９年３月）
大城　将保（１９９９年４月～２０００年３月）
平田　與進（２０００年４月～２００２年３月）
當眞　嗣一（２００２年４月～２００５年３月）
名嘉　政修（２００５年４月～２００６年３月）
宮城　清志（２００６年４月～２００７年３月）
新垣　隆雄（２００７年４月～２００７年１０月）

○沖縄県立博物館・美術館
牧野　浩隆（２００７年１１月～　　）

Ⅱ．日誌抄（２００９年4月１日～２０１０年3月３１日）

２００９年（平成２１）

４月　６日　マスコミ等への挨拶回り(牧野館長、千木良副館長、翁長副館長、濱口班長、前田主幹)
　　１５日　新旧教育長歓送迎会(於：ハーバービューホテル)
　　１６日　久米島町教育委員会比嘉氏来館
　　17日　沖縄県議会文教厚生委員会委員による視察
　　２８日　建築業協会賞審査会
５月　９日　博物館特別展「琉球使節江戸へ行く」関連シンポジウム(第384回文化講座　於：講堂)
　　１０日　美術館コレクション展『戦争と人間』『ベトナム現代絵画漆絵の可能性』『沖縄の前衛 混沌（カオス）からの出発』終了（２／１７～）
　　１１日　教育長への博物館・美術館年次報告(牧野館長、千木良副館長)
　　１２日　広島大多和田氏来館
　　１３日　総務省須江審議会来館
　　１５日　Ｈ２１年度博物館ボランティア養成講座開校式
　　１８日　富山大学小倉氏及び大浦氏来館
　　１９日　新種ネズミ化石、新収蔵品展記者会見(於：博物館講座室)
　　１９日　沖縄特別支援学校中学部文化連盟の表敬(牧野館長、千木良副館長)
　　２３日　美術館コレクション展『風土と自我～水が造り出す心像～』（～８／３０）
　　２３日　美術館コレクション展『沖縄美術の愉しみ』（～２０１０．４／１８）
　　２６日　指定管理者企画展『王昭展』開会式（～６／２８）
　　２６日　博物館企画展『新収蔵品展』開会式（～６／２８）
　　２６日　沖縄博物館友の会総会(牧野館長、千木良副館長、濱口班長　於：講堂)
　　２７日　美術館企画展『豊潤の美を求めて』開会式（～６／２８）
　　２８日　九州博物館協議会総会・研修会(於：講堂)
　　２８日　福島県立博物館館長赤坂氏来館
　　２９日　九州地区監査員事務局長来館
６月　９日　全国博物館協会理事会(千木良副館長　於：東京)
　　１０日　全国博物館協会館長会議(千木良副館長　於：東京)
　　１１日　全国科学博物館協会総会(千木良副館長　於：国立科学博物館)
　　１３日　デロリア博士講演会(千木良副館長挨拶対応)
　　１８日　沖縄県博物館協会総会・春の研修会(於：講堂)
　　２２日　学芸員実習開講式（博物館・美術館）（～７／２）
７月　２日　建築協会賞教育長報告（館長、副館長　於：教育長室）
　　２９日　燻蒸（～７／１０）により休館
　　１１日　美術館コレクション展『まなざしの向う側』（～８／３０）
　　１３日　大分県職員視察
　　１４日　博物館歴史部門展示『琉球王国の証－琉球の辞令書－』（～２０１０．２／７）
　　１５日　三重県博物館建設担当者視察
　　１５日　紺授褒賞伝達式（翁長副館長　於：教育長室　）
　　１７日　美術館企画展『琉球絵画展』開会式（～８／３０）
　　２５日　博物館美術工芸部門展示『琉球の美』（～１２／３１）
　　３０日　高校生用博物館学習ノート編集会議(於：博物館講座室)
８月１２日　博物館資料収集委員会
　　１７日　第Ⅱ期学芸員実習開講式(博物館・美術館　於：博物館講座室)
　　１８日　特別支援学校中学部総合文化祭開会式(於：県民ギャラリー)
　　２４日　平和祈念資料館館長来館
　　２５日　横山學氏（ノートルダム清心女子大教授）来館
　　２７日　文科省副大臣来館
　　３０日　兵庫・沖縄友愛事業担当者視察
９月　４日　神奈川県議会視察
　　５日　大城区絵旗字旗寄贈式(牧野館長、千木良副館長、濱口班長　於：南城市大城区集落センター)
　　８日　美術館企画展『オキナワデザインの現在』開会式（～１０／４）

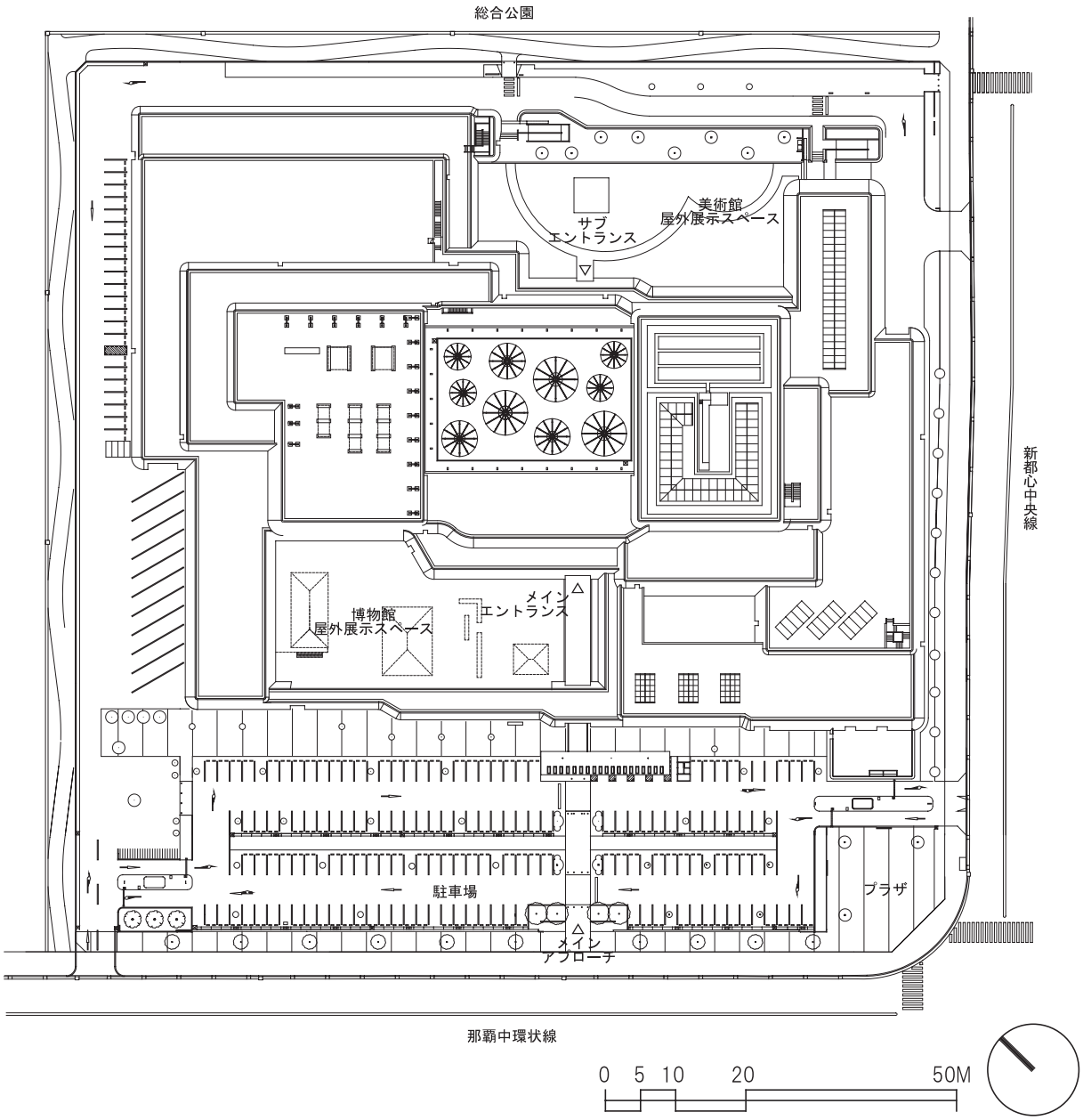
９月１０日　博物館ボランティア登録証交付式(於：博物館講座室)
１０日　美術館企画展『タカエズトシコ展』アメリカ調査、交渉、搬出（翁長副館長）
１１日　九州県立図書館協議会視察
１２日　美術館コレクション展『版画に見る多様性～技法と表現～』『沖縄女性美術家展』（～１２／６）
１４日　沖縄県立博物館・美術館協議会(於：博物館講座室)
１８日　美ら島大使視察
２８日　２０１０年度美術館美術品収集委員会
３０日　全国博物館大会（牧野館長　於：北海道）
１０月　６日　博物館特別展『琉球使節江戸へ行く』開会式（～１１／２９）
８日　日本芸術文化振興会茂木賢三郎理事長来館
１６日　カンボジア国立トゥール・スレン博物館長来館
１７日　中国第一歴史档案館関係者来館
１７日　文化庁次長来館
１８日　常陸宮同妃両殿下お成り
２０日　ＪＩＣＡ研修
２１日　秋田県議会議員視察
２３日　第２回博物館・美術館移動展(於：久米島町、～１０／２５）
２９日　美術館特別展『名渡山愛順展』開会式、内覧会（～１２／２０）
３０日　山口県議会議員視察
１１月　３日　南風原文化センター開館式(千木良副館長代理参加)
５日　兵庫県議会議員視察
５日　沖縄県文化功労者表彰式(於：講堂)
１０日　長崎県議会議員視察
１２日　福岡市議長会視察
１８日　秋篠宮妃殿下お成り
２７日　韓国行政チーム視察
１２月　２日　駐米大使婦人他４人来館
２日　イタリア大使来館
８日　中部地区中学校校長会視察
１７日　ＢＣＳ賞報告(牧野館長、千木良副館長　於：教育長室)
２２日　博物館企画展『大嶺コレクション展』（～１／１１）
２０１０年（平成２２）
１月　１日　美術館企画展『タカエズトシコ展』開会式（～３／１４）
１月　３日　博物館美術工芸部門展示『くらしと美』（～５／９）
６日　大嶺信一氏関係者来館
８日　県立学校長研修会行政説明(於：県庁４階講堂)
１０日　タカエズトシコ感謝状贈呈式
１５日　兵庫教育大学学長梶田氏来館
１９日　美術館コレクション展『昭和～時代の肖像～』『貴方を愛する時と憎む時』（～２０１０．４／１８）
２０日　浜松市議会議員視察
２２日　県立学校教頭研修会行政説明(於：県庁４階講堂)
２３日　玉井文化庁長官来館
２５日　館内燻蒸消毒により休館
２７日　高校総体選手誘致調整(於：高校総体推進課)
２７日　国立民族学博物館佐々木氏来館
２月　３日　うるま市教育長、教育委員来館
５日　博物館企画展『造礁サンゴ展』開会式（～３／１４）
５日　韓国在福岡総領事来館
９日　博物館歴史部門展示『刻まれた歴史－石碑・拓本－』（「土木工事を伝える碑」）（～５／２３）
１５日　博物館特別展『ものづくり今昔』展マスコミ内覧会
１６日　博物館特別展『ものづくり今昔』展開会式（～３／２８）
１６日　米国上院議員ウェブ氏来館

３月１６日　博物館歴史部門展示『坂口總一郎が見た沖縄－大正～昭和初期－』（～６／６）
１７日　日本博物館協会研修会議(千木良副館長　於：栃木県立博物館)
２４日　平成２１年度第２回博物館・美術館協議会(於：博物館講座室)
９日　博物館美術工芸室企画展示『首里円覚寺と近世仏教文化』（～５／９）
１２日　Ｈ２２年度人事異動内示
１７日　長谷川コレクション化石資料調整(千木良副館長、濱口班長、仲里学芸員　於：群馬県立自然史博物館)
２４日　博物館民俗展示『諸職のワザ　塩づくり』（～現在）
２５日　古波蔵氏作品収集調整（翁長副館長、瑞慶山学芸員　於：那覇）
２９日　九州国立博物館副館長来館

「タカエズトシコ展感謝状贈呈式」

展示風景（東照宮への参拝）

Ⅲ. 施設・設備



建築概要

●敷地面積…… 31,287㎡
●建築面積…… 13,452㎡
●延床面積…… 23,721㎡
　博物館専有面積… 10,478㎡
　美術館専有面積…… 7,537㎡
　共有面積…… 5,708㎡
●高さ…… 最高高さGL＋21.8m
●駐車場
　一般駐車場…… 140台
　（うち身障者用４台）
　大型バス駐車場…… 10台
　駐輪場…… 25台
　関係者駐車場…… 22台

供用施設

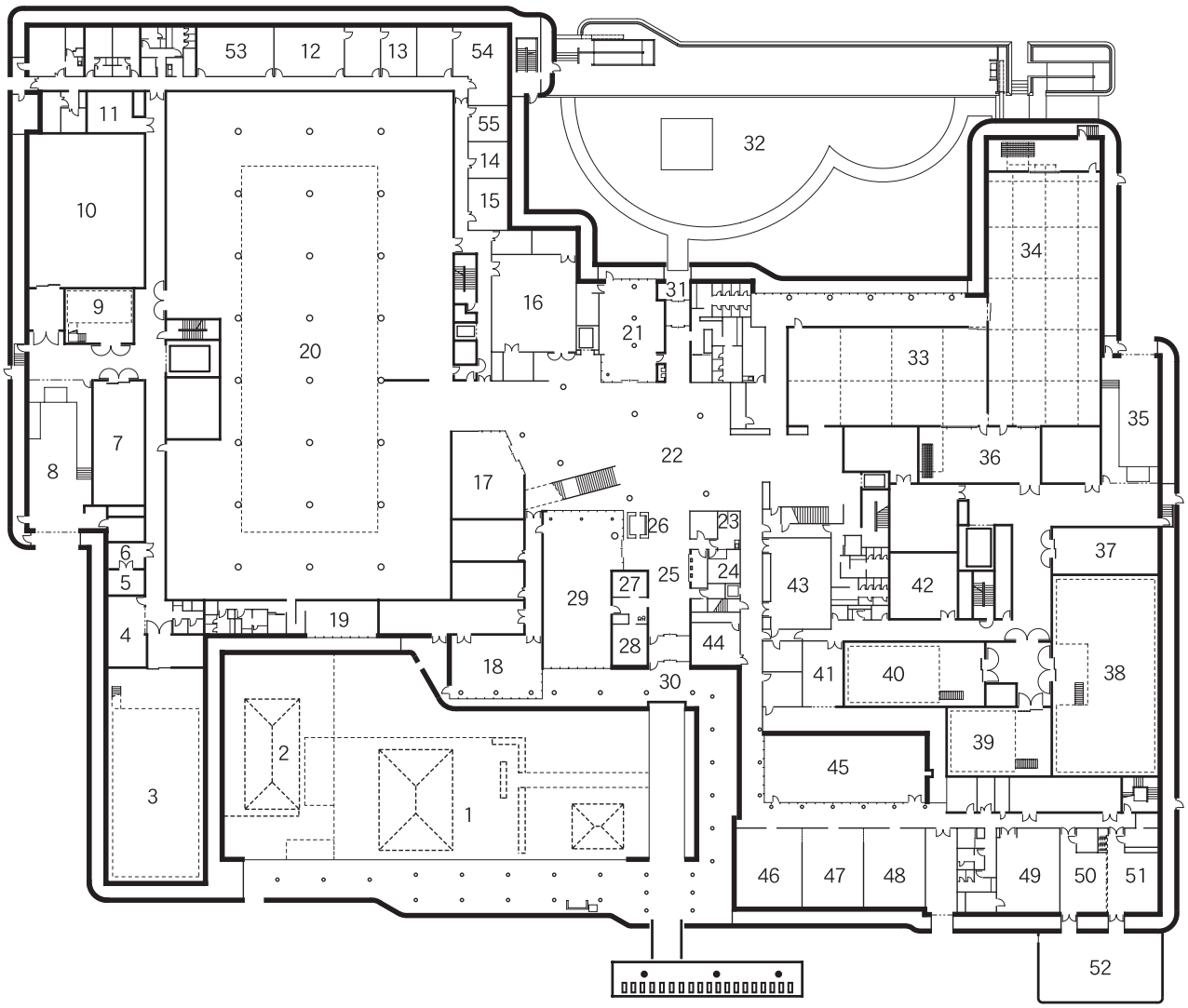
●エントランスホール…… 724㎡
●情報センター…… 217㎡
●講堂（212席） …… 349㎡

博物館の主たる施設

●展示施設
　総合展示室…… 1,252㎡
　部門展示室…… 1,344㎡
　　自然史部門…… 360㎡
　　考古部門…… 262㎡
　　美術工芸部門…… 180㎡
　　歴史部門…… 120㎡
　　民俗部門…… 421㎡
　屋外展示場…… 1,425㎡
　企画展示室…… 351㎡
　特別展示室…… 459㎡
●教育普及施設
　ふれあい体験室…… 110㎡
　博物館講座室…… 191㎡
　実習室…… 108㎡
●収蔵施設（ダブルデッキ含む）
　自然史収蔵庫…… 417㎡
　化石収蔵庫…… 245㎡
　考古・陶磁器収蔵庫…… 613㎡
　特別収蔵庫…… 439㎡
　民俗収蔵庫…… 668㎡
　大型収蔵庫…… 358㎡
　液浸標本室…… 97㎡
　一時保管庫…… 119㎡
●調査研究施設……
　研究室…… 176㎡
　研究資料室…… 111㎡
　会議室…… 72㎡

美術館の主たる施設

●展示施設
　企画ギャラリー１……394㎡
　企画ギャラリー２……490㎡
　コレクションギャラリー１……164㎡
　コレクションギャラリー２……284㎡
　コレクションギャラリー３……370㎡
　県民ギャラリー（１～３）……277㎡
　県民ギャラリー（スタジオ）……111㎡
　県民アトリエ…… 65㎡
　こどもアトリエ…… 70㎡
　屋外展示場……1,368㎡
●教育普及施設
　美術館講座室……109㎡
●収蔵施設（ダブルデッキ含む）
　収蔵庫Ａ……683㎡
　収蔵庫Ｂ……248㎡
　収蔵庫Ｃ……204㎡
●調査研究施設
　研究室…… 98㎡
　研究資料室…… 98㎡
　会議室…… 58㎡



1階

1階

（博物館）

1　博物館野外展示
2　湧田古窯
3　民俗収蔵庫
4　写真撮影室
5　冷凍庫
6　石工室
7　一時保管庫
8　トラックヤード
9　液浸標本室
10　大型収蔵庫
11　修理修復室
12　博物館・美術館庶務室
13　館長室
14　支援会室
15　博物館ボランティア室
16　博物館講座室
17　博物館ふれあい体験室
18　博物館実習室
19　博物館常設展示休憩室
20　博物館常設展示室

（共有）

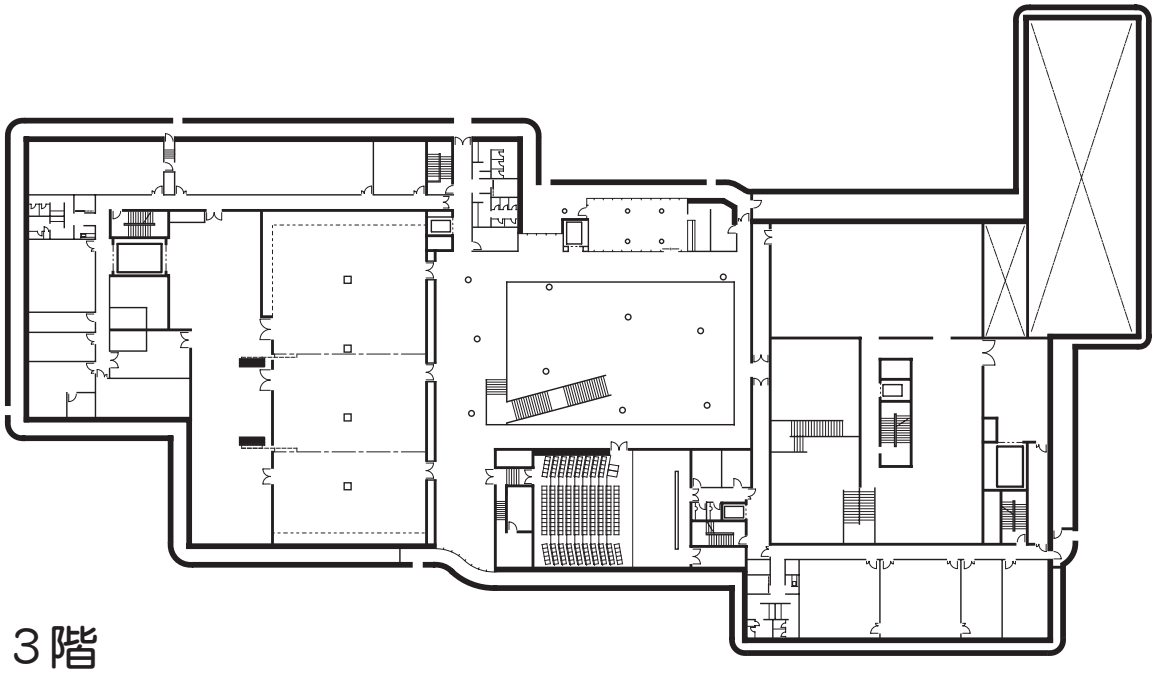
21　ミュージアムショップ
22　エントランスホール
23　授乳室
24　託児室
25　券売
26　総合案内
27　救護室
28　コインロッカー
29　情報センター
30　メインエントランス
31　サブエントランス

（美術館）

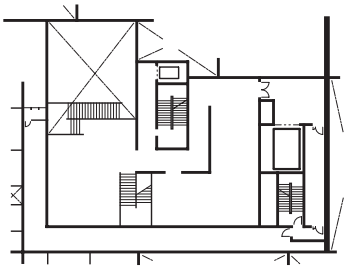
32　美術館野外展示
33　美術館企画ギャラリー１
34　美術館企画ギャラリー２
35　トラックヤード
36　展示準備室
37　一時保管庫
38　収蔵庫Ａ
39　収蔵庫Ｂ
40　収蔵庫Ｃ
41　保存修復室
42　工作室
43　美術館講座室
44　美術館ボランティア室
45　中庭
46　県民ギャラリー１
47　県民ギャラリー２
48　県民ギャラリー３
49　県民ギャラリー（スタジオ）
50　県民アトリエ
51　こどもアトリエ
52　屋外活動スペース

（文化の杜共同企業体・指定管理者）

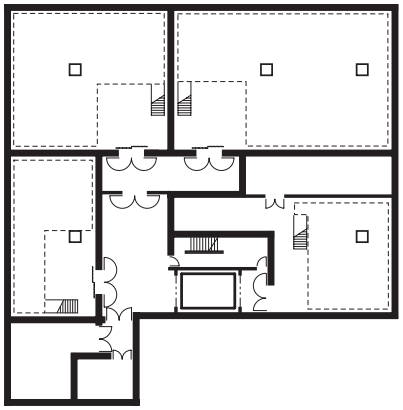
53　会議室
54　事務室
55　展示交流員控室



３階



２階



地階

３階

（博物館）

1　企画展示室２
2　企画展示室１
3　特別展示室
4　展示準備室
5　工作室
6　自然史実験室
7　保存科学室
8　フィルム保管庫
9　映像編集室
10　学芸員会議室
11　研究資料室
12　学芸員研究室
13　研修室

（共有）

14　喫茶室
15　ホワイエ
16　講堂

（美術館）

17　研究資料室
18　学芸員研究室
19　情報処理室
20　学芸員会議室
21　コレクションギャラリー２
22　コレクションギャラリー３
23　展示準備室

地階

（博物館）

1　特別収蔵庫
2　考古陶磁器収蔵庫
3　自然史収蔵庫
4　劣化フィルム収蔵庫
5　写真パネル収蔵庫
6　化石収蔵庫

２階

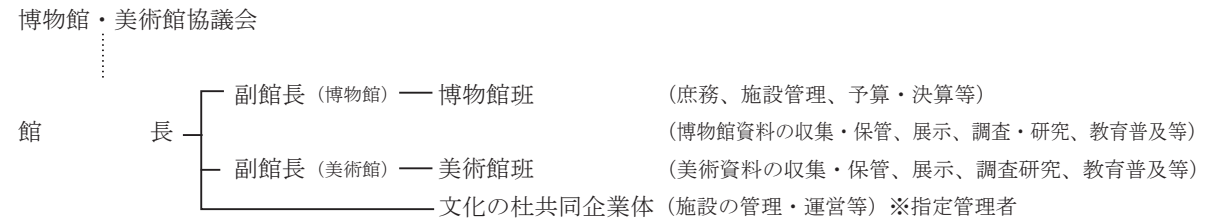
（美術館）

1　ホワイエ
2　コレクションギャラリー１
3　展示準備室

Ⅳ. 組織

【組織】

沖縄県立博物館・美術館は首里に在った博物館に新たに美術館を併設し、那覇市新都心地区に２００７年（平成１９）１１月１日に移転・開館した。この新館開館を機に指定管理者制度も導入しているため、組織は以下のように「博物館班」「美術館班」「文化の杜（指定管理者)」の３つにより構成されている。なお、文化の杜共同企業体に関しては別項にて記述しているので参照頂きたい。



【職員構成】　　２００９年4月1日　現在

職　名	氏　名	担　当　業　務
館長	牧野　浩隆	◎博物館・美術館業務の総理に関すること。
参事兼 博物館副館長	千木良芳範	◎博物館業務の統括に関すること。 ◎博物館・美術館業務の統括に関すること。
美術館副館長 兼班長	翁長　直樹	◎美術館業務の統括に関すること。

博物館班（庶務）

職　名	氏　名	担　当　業　務
主幹	前田　直昭	◎博物館・美術館の事務の総括に関すること。 ◎予算・執行の総括に関すること。 ◎文書管理の総括に関すること。 ◎指定管理者との調整に関すること。 ◎経営調整会議に関すること。 ◎博物館・美術館の連絡調整に関すること。 ○九州博物館協議会沖縄開催に関すること。 ○議会対応に関すること。 ○視察対応に関すること。 ○広報宣伝に関すること。 ◎その他庶務事務に関すること。
主査	大城　洋子	◎博物館・美術館の庶務業務に関すること。 ◎出納業務に関すること。 ◎予算・決算の資料作成に関すること。 ◎会計業務（負担行為・支出）に関すること。 ◎文書、公印、公用車の管理業務に関すること。 ◎職員の給与、福利、服務及び研究業務に関すること。 ◎博物館・美術館の連絡調整に関すること。 ◎その他の庶務事務に関すること。
主査	上原　善彦	◎施設・財産関連業務に関すること。 ◎備品の登録業務に関すること。 ◎県債、建物及び使用料等債務に関すること。 ◎博物館・美術館広報宣伝に関すること。 ◎視察対応に関すること。 ◎情報管理（ホームページ等）に関すること。 ◎博物館・美術館の連絡調整に関すること。 ○博物館・美術館協会及び経営調整会議に関すること。 ◎その他庶務事務に関すること。
主査	新里　勝	◎施設管理に関すること。 ◎施設管理にかかる指定管理者との調整業務に関すること。 ◎その他施設管理事務に関すること。
事務補助員	与那覇美幸	○文書受付に関すること。 ○業務補助に関すること。

（博物館班　学芸）

職　　名	氏　　名	担　当　業　務
博物館班長	濱口　寿夫	◎博物館班の総括に関すること。 ◎博物館予算に関すること。 ◎議会対応の総括に関すること。 ◎視察対応の総括に関すること。 ◎出納員に関すること。 ◎博物館・美術館協議会に関すること。 ◎博物館資料の収集方針に関すること。 ◎博物館活動の計画に関すること。 ◎学芸員実習の受け入れに関すること。 ◎博物館特別展示室・企画展示室の運営・管理に関すること。 ◎博物館の鍵の管理に関すること。 ◎九州博物館協議会沖縄開催に関すること。 ◎指定管理者との調整に関すること。 ◎平成２１年度企画展『造礁サンゴ展』に関すること。 ○博物館友の会に関すること。 ○沖縄博物館協会に関すること。 ◎研修の受け入れに関すること。
主任学芸員 （美術工芸）	與那嶺一子	◎美術工芸資料（染織・書跡・彫刻）の収集・保管・整理・調査研究・公開に関すること。 ◎美術工芸分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎平成２１年度企画展『ものづくり今昔』に関すること。 ○平成２２年度特別展『八重山展（仮称)』に関すること。 ○Ｈ２１年度特別展『琉球使節、江戸へ行く！』に関すること。 ○Ｈ２２年度企画展『琉球の古陶（仮称)』に関すること。 ○ＩＰＭ及び博物館資料の燻蒸・消毒に関すること。 ○博物館資料収集事業（基金）に関すること。 ○博物案資料修理事業に関すること。 ○ふれあい体験室の運営に関すること。
主任学芸員 (自然史･生物)	田中　　聡	◎生物資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎生物分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎屋外展示（植生）に関すること。 ◎Ｈ２１年度企画展『造礁サンゴ』に関すること。 ◎博物館総合調査に関すること。 ◎剥製製作に関すること。 ◎沖縄県サンゴ礁保全推進協議会に関すること。 ○沖縄県博物館協会に関すること。 ○平成２２年度特別展『八重山展（仮称)』に関すること。 ○博物館『紀要』の編集・発行に関すること。 ○学芸研究資料室の図書に関すること。
主任学芸員 （民　俗）	岸本　　敬	◎民俗資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎民俗分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎屋外展示（民家・高倉）に関すること。 ◎Ｈ２１年度企画展『ものづくり今昔』に関すること。 ◎学芸研究室の図書に関すること。 ○Ｈ２２年度特別展「八重山展」に関すること。 ○収蔵品データの総括管理（収蔵品台張）に関すること。 ○保存環境調査（展示室・収蔵庫）に関すること。 ○新収蔵品展に関すること。 ○文化財公開承認施設及び登録博物館に関すること。
主任学芸員 （歴　史）	岸本　弘人	◎歴史資料（近現代）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎歴史分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎常設総合展示室に関すること。 ◎『国際博物館の日』関連事業に関すること。 ◎Ｈ２２年度特別展『八重山展（仮称)』に関すること。 ○Ｈ２１年度特別展『琉球使節、江戸へ行く！』に関すること。 ○『博物館・美術館年報』の編集・発行に関すること。 ○ＩＰＭ及び博物館資料の燻蒸・消毒に関すること。 ○保存環境調査（展示室・収蔵庫）に関すること。 ○博物館広報に関すること。 ○沖縄県博物館協会に関すること。

主任学芸員 (自然史･地学)	仲里　　健	◎地質・化石資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎地質・化石分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎化石資料整理事業に関すること。 ◎ＩＰＭ及び博物館資料の保存環境・燻蒸・消毒に関すること。 ○九州博物館協議会沖縄開催に関すること。 ○沖縄県博物館協会に関すること。 ○Ｈ２１年度企画展『造礁サンゴ』に関すること。 ○Ｈ２１年度企画展『ものづくり今昔』に関すること。 ○共同研究事業に関すること。
主　　任 (考　古)	羽方　　誠	◎考古資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎考古分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎屋外展示（湧田窯）に関すること。 ◎資料（土器等）の修復に関すること。 ◎文化財公開承認施設及び登録博物館に関すること。 ◎移動展に関すること。 ○Ｈ２１年度企画展『ものづくり今昔』に関すること。 ○Ｈ２２年度特別展『八重山展（仮称)』に関すること。 ○常設総合展示室に関すること。 ○情報センターの図書・データに関すること。
主　　任 (歴　　史)	崎原　恭子	◎歴史資料（古琉球・近世）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎歴史分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎Ｈ２１年度特別展『琉球使節、江戸へ行く！』に関すること。 ◎資料収集事業に関すること。 ◎常設総合展示室に関すること。 ◎保存環境調査（展示室・収蔵庫）に関すること。 ○「国際博物館の日」関連事業に関すること。 ○博物館資料修理事業に関すること。 ○収蔵品台帳に関すること。
主　　任 (美術工芸)	平川　信幸	◎美術工芸資料（絵画・陶器・漆器）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎美術工芸分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎沖縄県博物館協会に関すること。 ◎博物館資料収集事業（基金）に関すること。 ◎博物館資料修理事業等に関すること。 ◎Ｈ２２年度企画展『琉球の古陶（仮称)』に関すること。 ○Ｈ２１年度特別展『琉球使節、江戸へ行く！』に関すること。 ○Ｈ２１年度企画展『ものづくり今昔』に関すること。 ○写真資料の整理・貸出、博物館資料の撮影等に関すること。
主　　任 (人　　類)	藤田　祐樹	◎人類学資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎人類学分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎港川人骨の管理に関すること。 ◎収蔵品データの総括管理（収蔵品台帳）に関すること。 ◎新収蔵品展に関すること。 ◎『博物館紀要』の編集・発行に関すること。 ◎Ｈ２２年度人類学企画展に関すること。 ○共同研究事業に関すること。 ○自然史部門展示に関すること。 ○博物館総合調査に関すること。 ○博物館ホームページに関すること。
主　　任 (人　　類)	山崎　真治	◎人類学資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎人類学分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎Ｈ２１年度企画展『ものづくり今昔』に関すること。 ◎情報センターの図書・データに関すること。 ◎博物館ホームページに関すること。 ◎共同研究事業に関すること。 ○Ｈ２２年度人類学企画展に関すること。 ○自然史部門展示に関すること。 ○港川人骨の管理に関すること。 ○移動展に関すること。

（博物館班　学芸）

嘱　託　員 （学　　芸）	上原　　久	◎『博物館・美術館年報』の編集・発行に関すること。 ◎博物館の写真撮影の受付、写真資料の貸出及び整理に関すること。 ◎博物館広報に関すること。 ◎博物館の発送業務集約に関すること。 ○歴史・美術工芸に関すること。

（博物館班　教育普及）

主任学芸員 （教育普及）	上原　成美	◎教育普及事業（ふれあい体験室、実習室、講座等）に関すること。 ◎教育普及資料の収集・購入・受入・保管・整理に関すること。 ◎博物館学習等の調査研究に関すること。 ◎視聴覚機器の整理・保管に関すること。 ◎博物館友の会に関するこ　と。 ◎総合・部門展示の学習プログラムの策定・指導に関すること。 ◎ボランティア活動事業に関すること。 ◎体験学習教室の企画及び野外展示の活用に関すること。 ◎学校連携事業に関すること。 ◎ワークシート等の企画編集に関すること。 ○文化講座の企画等に関すること。 ○移動展に関すること。 ○ふれあい体験室の運営に関すること。
嘱　託　員 （教育普及）	宮平真由美	◎文化講座の企画等に関すること。 ◎ふれあい体験室の運営に関すること。 ◎ボランティア活動の連絡調整に関すること。 ○ふれあい体験室、実習室、講座に関すること。 ○教育普及資料の収集・購入・保管・整理等に関すること。 ○博物館学習等の調査研究に関すること。 ○視聴覚機器の整理・保管に関すること。 ○総合・部門展示の学習プログラムの策定・指導に関すること。 ○博物館学習への各種照会事項対応の補助に関すること。 ○ワークシート等に関すること。

（美術館班）

美術館副館長 兼美術館班長	翁長　直樹	◎美術館予算に関すること。 ◎議会対応の総括に関すること。 ◎視察対応の総括に関すること。 ◎博物館・美術館協議会に関すること。 ◎美術館資料の収集方針及び収集に関すること。 ◎美術館活動の計画に関すること。 ◎美術館の鍵及びカードの管理に関すること。 ◎指定管理者との調整に関すること。 ◎文化課との調整に関すること。 ◎展示企画アドバーザー会議に関すること。 ◎県芸術祭に関すること。 ◎経営者調整会議に関すること。 ◎美術館沿革史に関すること。 ◎美術館連絡協議会に関すること。 ○収集委員会に関すること。 ○常設展示室２に関すること。 ○県民ギャラリーに関すること。 ○前向き会議に関すること。 ○ＩＰＭに関すること。
主任学芸員	瑞慶山　昇	◎美術館学芸員の総括に関すること。 ◎調査研修に関すること。 ◎沖縄美術アーカイブに関すること。 ◎企画展示の総括に関すること。 ◎美術館『年報』・『紀要』に関すること。 ◎学芸員実習の受け入れに関すること。 ◎班会議の記録に関すること。 ◎常設展示室３『沖縄美術の愉しみ』に関すること。 ◎収集員会に関すること。

主任学芸員	瑞慶山　昇	○Ｈ２１年度県企画２『トシコ・タカエズ展』に関すること。 ○美術館予算に関すること。 ○議会対応に関すること。 ○博物館・美術館協議会に関すること。 ○県芸術祭に関すること。 ○美術館資料の収集方針及び収集に関すること。 ○企画展の会議に関すること。 ○経営者会議に関すること。
主任学芸員	豊見山　愛	◎展示総括に関すること。 ◎常設展示に関すること。 ◎沖縄戦後女性差別の調査研究に関すること。 ◎常設展示室２『沖縄女性美術家展』に関すること。 ◎移動展『名渡山愛順展』に関すること。 ◎沖縄美術１期（戦前期)、沖縄デザイン、沖縄工芸に関する調査研究・保存に関すること。 ◎常設展示室３『沖縄の色彩』に関すること。
主任学芸員	新里　義和	◎情報発信総括に関すること。 ◎寄贈者表彰式に関すること。 ◎沖縄美術３期（復帰後）の調査研究・保存に関すること。 ◎日本美術の調査研究・保存に関すること。 ◎常設展示室内環境点検管理に関すること。 ◎移動展に関すること。 ◎広報活動に関すること。 ○収集委員会の資料作成及び事務全般に関すること。 ○画像の貸出に関すること。 ○『国際博物館の日』に関すること。 ○Ｈ２１年度県企画２『トシコ・タカエズ展』に関すること。 ○情報センターのデータ・ベースの改善に関すること。 ○学校見学に関すること。 ○常設展示室１の運営に関すること。
主任学芸員	大城　仁美	◎保存総括に関すること。 ◎沖縄美術２期（戦後～復帰）の調査研究・保存に関すること。 ◎沖縄写真の調査・保存に関すること。 ◎作品貸し出し事務に関すること。 ◎企画展示室内環境点検管理に関すること。 ◎県民スタジオの運営に関すること。 ◎ＩＰＭに関すること。
主任学芸員	國吉　亮子	◎教育普及の総括に関すること。 ◎東アジア、東南アジア、亜大陸美術に関する調査研究・保存に関すること。 ◎常設展示室２『風土と自我』に関すること。 ◎常設展示ボランティア育成に関すること。 ◎美術館支援団体happに関すること。 ◎ボランティア組織の指導育成にに関すること。 ◎学校との連携に関すること。 ◎身体表現、ワークショップにに関すること。 ◎県民アトリエ・子供アトリエにに関すること。 ◎講座室にに関すること。
嘱　託　員	吉田　祥子	◎収蔵品データベースに関すること。 ◎収蔵品ポジ管理及び撮影、画像の貸出に関すること。 ◎各企画展のデータベースに関すること。 ◎情報センターデータベースの改善に関すること。 ○収集委員会の資料作成に関すること。 ○美術館ホームページの作家紹介の更新に関すること。
嘱　託　員	仲村美奈子	◎室内環境点検管理に関すること。 ◎保存管理に関すること。 ◎美術品専用倉庫燻蒸に関すること。 ◎収蔵庫管理（マット・モップ）に関すること。 ○ＩＰＭに関すること。 ○県企画展１、２の補助に関すること。 ○常設展１『版画に見る多様性』に関すること。 ○作品貸出事務に関すること。
事務補助員	友寄　寛子	◎文書の収受、発送、図書の受付、整理に関すること。 ○業務補助に関すること。

【人事異動】　　２０１０年4月1日　現在

	職　　名		氏　　名	摘　　要
転　出	博物館班（庶務）	主　幹	前 田 直 昭	
		主　査	大 城 洋 子	
			上 原 善 彦	
	博物館班（学芸）	主任学芸員	上 原 成 美	石垣市立崎枝中学校校長
転　入	庶務班	班　長	前 田 直 昭	組織変更
		主　査	大 城 洋 子	〃
		事務補助員	上 原 善 彦	〃
	博物館班（学芸）	主任学芸員	佐藤 みゆき	採用
	美術館班（学芸）	事務補助員	池 原 盛 浩	与那国町立久部良中学校教頭
			上 原 祐 子	採用
昇　任	博物館班（学芸）	主　任	藤 田 祐 樹	専門員（昇任）
		主　任	山 崎 真 治	専門員（昇任）
退　職	博物館班（庶務）	事務補助員	与那覇 美幸	
	博物館班（学芸）	嘱託員	上 原　　久	
	美術館班（学芸）	事務補助員	友 寄 寛 子	

Ⅴ．沖縄県立博物館・美術館協議会

【第１回会議】

日　時：２００９年９月１４日（月）　10：00 ～ 12：00
場　所：博物館講座室
辞令交付（新任の委員のみ）
館長あいさつ
会　議
　報告事項
　　・２００９年度事業報告　　文化の杜、博物館班、美術館班
　　・２０１０年度事業中間報告　　文化の杜、博物館班、美術館班
　協議事項
　　・２０１０度事業計画案　　文化の杜、博物館班、美術館班

【第２回会議】

日　時：２０１０年２月２４日（水）　10：00 ～ 12：00
場　所：博物館講座室
辞令交付式
館長あいさつ
会長・副会長選出
会　議
　報告事項
　　・２００９年度事業経過説明　　文化の杜、博物館班、美術館班
　協議事項
　　・２０１０年度事業計画案　　文化の杜、博物館班、美術館班

沖縄県立博物館・美術館協議会委員名簿　　（任期：２０１０年２月１５日～平成２４年２月１４日）

分　野		氏　名	所　属	職　名
学識経験者	自然史	○新城　和治	元琉球大学	元教授
	歴　史	高良　倉吉	琉球大学法文学部	教　授
	考　古	當眞　嗣一	元沖縄県立博物館	元館長
	民　俗	稲福みき子	沖縄国際大学	教　授
	人　類	土肥　直美	琉球大学医学部	准教授
	美術（絵画）	◎宮城　篤正	沖縄県立芸術大学	学　長
	美術（立体）	西村　貞雄	元琉球大学	元教授
	美術（写真）	前原　基男	沖縄県写真連盟	会　長
学校教育関係者	小学校教育	嶺井　光政	沖縄県小学校長会	副会長
	中学校教育	新城　静治	沖縄県中学校長会	副会長
	高校教育	新崎　速	沖縄県高等学校長会	会　長
社会教育関係者	社会教育	藏根　芳雄	沖縄県社会教育委員連絡協議会	会　長
	ＰＴＡ	仲村　博幸	沖縄県高等学校ＰＴＡ連合会	副会長

（◎会長、○副会長　　２０１０年３月３１日現在）

Ⅵ. 予算

２００９年度　歳出（決算）　（単位：円）

	博物館・美術館一般管理運営費	博物館・美術館指定管理費	博物館費	美術館費	博物館・美術館収蔵資料等整理事業（緊急雇用）	PCB適正処理事業（博物館・美術館）	合計
報酬	6,211,220	0	3,738,840	3,735,540	0	0	13,685,600
共済費	0	0	0	0	2,114,311	0	2,114,311
賃金	1,469,000	0	0	1,501,419	18,547,865	0	21,518,284
報償費	0	0	198,400	50,400	0	0	248,800
旅費	128,840	0	3,328,300	3,721,089	0	0	7,178,229
需用費	564,447	0	7,376,171	2,288,623	1,727,837	0	11,957,078
役務費	134,330	0	8,812,795	3,646,861	0	126,000	12,719,986
委託料	0	320,000,000	11,593,000	47,679,249	0	653,600	379,925,849
使用料及び賃借料	0	0	73,100	620,298	0	0	693,398
備品購入費	0	0	7,206,000	16,000,000	0	0	23,206,000
負担金補及び交付金	0	0	103,000	0	0	0	103,000
繰出金	0	0	0	49,295	0	0	49,295
公課費	75,600	0	0	0	0	0	75,600
合計	8,583,437	320,000,000	42,429,606	79,292,774	22,390,013	779,600	473,475,430

２００９年度　歳入（決算）　（単位：円）

	収入済額	説明
土地使用料	25,760	自動販売機土地使用料
建物使用料	6,907,198	喫茶室、ミュージアムショップの建物使用料
展示会等助成金	6,309,140	「海と船の企画展」支援金（特別展「琉球使節、江戸へ行く！」:3,779,140、企画展「造礁サンゴ」:2,530,000）
雑入	1,622,259	電気料金、雇用保険料等
合計	14,864,357	

Ⅶ. 収蔵資料現在高

当館が所蔵する資料の件数は以下の通りである。詳しい内訳は博物館、美術館それぞれの章において詳しく記述しているのでその頁をご参照頂きたい。

２０１０年３月３１日現在

	分類	件数	小計
博物館	自然史	５５，８４８	９０，０７４
	人類	６５	
	美術工芸	１０，１６０	
	歴史	１１，１７４	
	考古	６，６６６	
	民俗	６，１６１	
美術館	平面	２，８２９	３，０１２
	立体	１１１	
	映像	２０	
	その他	５２	
総計			９３，０８６

利用統計

Ⅰ　入館者統計
Ⅱ　施設利用者統計

Ⅰ．入館者統計

1．総入館者集計

月別総入館者

（単位：人）

年	月	博物館												美術館									全体				総入館者	開館日数	1日平均入館者数
		常設展			企画展			特別展			全体			コレクション展			企画展			全体			展示室合計			展示以外（共有）			
		有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	合計	有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	合計	有料	無料	合計				
2009	4	5,920	2,986	8,906	0	0	0	0	0	0	5,920	2,986	8,906	1,745	1,056	2,801	1,082	91	1,173	2,827	1,147	3,974	8,747	4,133	12,880	34,270	47,150	26	1,813
	5	6,539	5,663	12,202	220	102	322	0	0	0	6,759	5,765	12,524	1,739	3,153	4,892	2,383	556	2,939	4,122	3,709	7,831	10,881	9,474	20,355	62,159	82,514	27	3,056
	6	5,243	2,416	7,659	569	170	739	0	0	0	5,812	2,586	8,398	1,603	1,165	2,768	2,035	737	2,772	3,638	1,902	5,540	9,450	4,488	13,938	9,436	23,374	24	974
	7	3,300	1,957	5,257	0	0	0	0	0	0	3,300	1,957	5,257	1,257	703	1,960	1,032	93	1,125	2,289	796	3,085	5,589	2,753	8,342	12,264	20,606	18	1,145
	8	6,822	3,601	10,423	0	0	0	0	0	0	6,822	3,601	10,423	2,497	1,002	3,499	4,004	571	4,575	6,501	1,573	8,074	13,323	5,174	18,497	28,823	47,320	26	1,820
	9	4,424	1,860	6,284	0	0	0	0	0	0	4,424	1,860	6,284	1,302	591	1,893	1,655	280	1,935	2,957	871	3,828	7,381	2,731	10,112	8,412	18,524	26	712
	10	6,779	5,033	11,812	0	0	0	2,125	185	2,310	8,904	5,218	14,122	2,016	1,822	3,838	472	176	648	2,488	1,998	4,486	11,392	7,216	18,608	12,308	30,916	27	1,145
	11	5,501	6,935	12,436	0	0	0	3,683	687	4,370	9,184	7,622	16,806	1,087	2,948	4,035	2,056	368	2,424	3,143	3,316	6,459	12,327	10,938	23,265	12,749	36,014	25	1,441
	12	6,502	3,319	9,821	0	368	368	0	0	0	6,502	3,687	10,189	951	283	1,234	1,678	376	2,054	2,629	659	3,288	9,131	4,346	13,477	9,486	22,963	24	957
2010	1	5,195	1,287	6,482	27	664	691	0	0	0	5,222	1,951	7,173	1,860	705	2,565	1,515	204	1,719	3,375	909	4,284	8,597	2,860	11,457	12,243	23,700	26	912
	2	4,500	1,968	6,468	2,739	399	3,138	0	0	0	7,239	2,367	9,606	1,505	870	2,375	2,035	196	2,231	3,540	1,066	4,606	10,779	3,433	14,212	9,541	23,753	24	990
	3	5,257	1,728	6,985	2,838	653	3,491	0	0	0	8,095	2,381	10,476	1,390	521	1,911	1,678	268	1,946	3,068	789	3,857	11,163	3,170	14,333	17,503	31,836	26	1,224
合　計		65,982	38,753	104,735	6,393	2,356	8,749	5,808	872	6,680	78,183	41,981	120,164	18,952	14,819	33,771	21,625	3,916	25,541	40,577	18,735	59,312	118,760	60,716	179,476	229,194	408,670	299	16,189
目　標		158,501			8,740			14,613			23,353			35,357			62,102			97,459			120,812						
達成率		41.6%			73.1%			39.7%			334.8%			53.6%			34.8%			41.6%			98.3%						

※文化の日は特別対応として博物館常設展を無料とした。その人数は常設展にはカウントされていない。

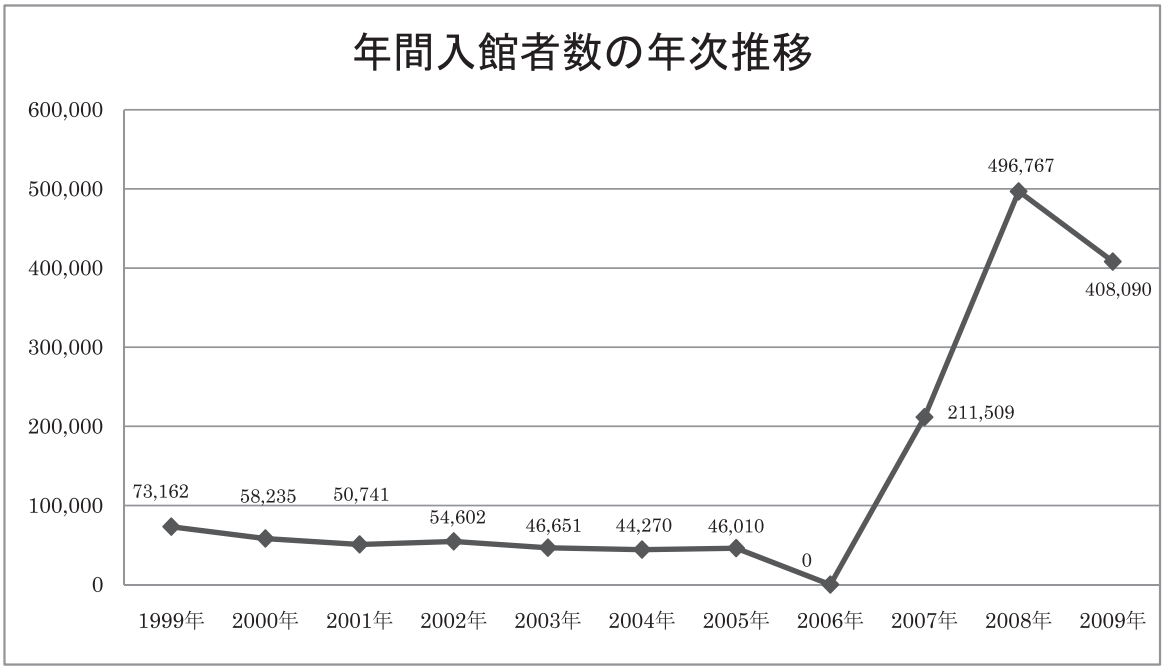
2．団体入館者集計

（単位：人）

年	月	県内										県外										國外								合計	
		小中生		高大生		特別支援校		その他		小計		小中生		高大生		特別支援校		その他		小計		小中生		高大生		その他		小計			
		団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
2009	4	3	449	2	468	0	0	1	16	6	933	6	636	3	255	1	11	0	0	10	902	0	0	1	36	0	0	1	36	17	1,871
	5	13	1,117	5	652	0	0	0	0	18	1,769	7	915	3	133	0	0	0	0	10	1,048	2	217	0	0	0	0	2	217	30	3,034
	6	20	931	2	103	0	0	1	18	23	1,052	3	145	8	1,208	0	0	0	0	11	1,353	0	0	0	0	0	0	0	0	34	2,405
	7	1	22	3	84	1	52	12	413	17	571	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	571
	8	1	36	0	0	0	0	58	2,286	59	2,322	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	15	1	15	60	2,337
	9	11	1,052	4	87	0	0	2	51	17	1,190	1	133	1	14	0	0	0	0	2	147	0	0	0	0	0	0	0	0	19	1,337
	10	37	3,230	2	545	0	0	1	46	40	3,821	6	510	19	1,779	0	0	1	42	26	2,331	0	0	0	0	0	0	0	0	66	6,152
	11	66	5,257	2	355	0	0	4	100	72	5,712	1	290	15	1,176	0	0	0	0	16	1,466	0	0	1	11	0	0	1	11	89	7,189
	12	40	2,325	5	166	0	0	1	80	46	2,571	2	127	17	2,866	0	0	0	0	19	2,993	1	59	0	0	0	0	1	59	66	5,623
2010	1	3	161	6	143	1	10	0	0	10	314	2	363	3	502	0	0	0	0	5	865	1	76	0	0	0	0	1	76	16	1,255
	2	8	514	5	238	2	26	5	408	20	1,186	1	37	5	310	1	22	0	0	7	369	0	0	0	0	0	0	0	0	27	1,555
	3	3	256	1	11	0	0	4	126	8	393	2	118	4	344	0	0	0	0	6	462	1	156	1	24	0	0	2	180	16	1,035
合　計		206	15,350	37	2,852	4	88	89	3,544	336	21,834	31	3,274	78	8,587	2	33	1	42	112	11,936	5	508	3	71	1	15	9	594	457	34,364

※その他に含まれる団体は幼稚・保育園などの教育機関である。※数値は団体見学を事前予約し観覧した学校である。

2009年度月間別入館者数
90,000
80,000
70,000
60,000
50,000
40,000
30,000
20,000
10,000
0
展示室以外
無料
有料
34,270
4,133
8,747
61,562
9,543
11,409
8,244
4,631
10,499
12,264
2,753
5,589
28,823
5,174
13,323
8,412
2,731
7,381
12,308
7,216
11,392
12,866
10,821
12,327
9,486
4,053
9,424
12,243
2,887
8,570
9,541
3,433
10,199
17,503
3,170
11,163
4
5
6
7
8
9
10
11
12
1
2
3


年間入館者数の年次推移
600,000
500,000
400,000
300,000
200,000
100,000
0
73,162
58,235
50,741
54,602
46,651
44,270
46,010
0
211,509
496,767
408,090
1999年
2000年
2001年
2002年
2003年
2004年
2005年
2006年
2007年
2008年
2009年

３．展覧会別入館者集計

（単位：人）

覧会名		観覧者区分	当日券	団体券	前売券	招待券	一日利用券	全館一日利用券	年間パス	合計
博物館	企画展「新収蔵品展」	一般	340	42	0	272	285	0	65	1,004
		高・大生	6	0	0	0	18	0	0	24
		小・中学生	15	0	0	0	18	0	0	33
	特別展「琉球使節、江戸へ行く！」	一般	2,016	76	92	872	2,904	0	163	6,123
		高・大生	89	66	3	0	195	0	0	353
		小・中学生	136	30	10	0	28	0	0	204
	企画展「大嶺コレクション展」	一般	754	0	0	194	0	0	37	985
		高・大生	58	0	0	0	0	0	0	58
		小・中学生	16	0	0	0	0	0	0	16
	企画展「ものづくり今昔－自然の恵みを活かすー」	一般	390	16	0	448	1,563	0	62	2,479
		高・大生	22	0	0	0	226	0	0	248
		小・中学生	77	52	0	0	46	0	0	175
	企画展「造礁サンゴ～楽園を作った偉大な建築家」	一般	756	47	29	604	1,603	0	90	3,129
		高・大生	70	45	0	0	202	0	0	317
		小・中学生	115	141	3	0	22	0	0	281
美術館	企画展「名渡山愛順展～名渡山愛順が愛した沖縄～」	一般	1,543	51	596	773	970	0	177	4,110
		高・大生	126	121	9	0	77	0	0	333
		小・中学生	58	97	4	0	8	0	0	167
	企画展「タカエズトシコ展～両親に捧ぐ～」	一般	2,544	70	271	668	1,655	0	262	5,470
		高・大生	116	15	0	0	167	0	0	298
		小・中学生	76	35	3	0	14	0	0	128
指定管理者	企画展「アトミックサンシャインの中へ　in　沖縄」	一般	1,195	111	64	292	1,082	0	123	2,867
		高・大生	148	79	2	0	100	0	0	329
		小・中学生	81	106	0	276	18	0	0	481
	企画展「豊潤の美を求めて～金城安太郎と高畠華宵～」	一般	1,072	34	120	816	865	0	121	3,028
		高・大生	47	0	4	0	66	0	0	117
		小・中学生	50	0	4	0	8	0	0	62
	企画展「琉球絵画」	一般	1,976	41	181	664	1,941	0	146	4,949
		高・大生	176	0	0	0	220	0	0	396
		小・中学生	215	1	1	0	138	0	0	355
	企画展「オキナワデザインの現在」	一般	621	25	57	427	943	0	103	2,176
		高・大生	90	0	1	0	131	0	0	222
		小・中学生	40	0	0	0	13	0	0	53
	合計	一般	13,207	513	1,410	6,030	13,811	0	1,349	36,320
		高・大生	948	326	19	0	1,402	0	0	2,695
		小・中学生	879	462	25	276	313	0	0	1,955

4．減免申請集計

（単位：人）

		学校関係	旅行社	マスコミ	福祉施設	博物館美術館	その他	合　計
2009	4月	27	6	0	6	0	0	39
	5月	10	11	0	0	0	4	25
	6月	16	6	0	1	0	3	26
	7月	86	5	0	0	0	50	141
	8月	178	25	0	1	0	8	212
	9月	50	14	0	0	0	0	64
	10月	47	15	0	5	10	11	88
	11月	26	7	0	1	0	2	36
	12月	63	3	4	0	10	0	80
2010	1月	18	0	0	0	7	0	25
	2月	35	0	0	5	0	0	40
	3月	33	22	0	10	0	5	70
合　計		589	114	4	29	27	83	846

5．団体入館内訳

県内　小学校　　のべ177校　12,481名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	4	12	大山小学校	191	41	10	2	石嶺小学校	149	81	11	6	羽地小学校	66
2		26	古堅小学校	119	42		2	城東小学校	99	82		6	大謝名小学校	103
3		30	宮城小学校	139	43		2	崎本部小学校	8	83		6	船越小学校	64
4	5	8	翔南小学校	92	44		6	宇栄原小学校	93	84		6	嘉芸小学校	36
5			城辺小学校	22	45		9	黒島小学校	9	85		6	松田小学校	19
6			松島小学校	142	46		9	西小学校	26	86		6	安謝小学校	113
7			来間小中学校	6	47		15	粟国小学校	19	87		10	とよみ小学校	126
8			北谷小学校	103	48		16	読谷小学校	103	88		10	美東小学校	137
9			佐良浜小学校	30	49		16	古堅南小学校	125	89		10	喜名小学校	100
10			鏡原小学校	19	50		16	南原小学校	49	90		11	糸満小学校	6
11			南小学校	84	51		16	田場小学校	121	91		11	渡嘉敷小学校	12
12			西城小学校	18	52		22	東小学校	18	92		11	津嘉山小学校	121
13	6	3	多良間小学校	26	53		22	具志川小学校	59	93		11	奥間小学校	24
14		4	伊良部小学校	32	54		22	糸満南小学校	79	94		12	仲井真小学校	107
15		4	砂川小学校	27	55		22	屋良小学校	45	95		12	坂田小学校	171
16		4	狩俣小学校	8	56		23	久辺小学校	42	96		12	普天間小学校	140
17		5	海星小学校	14	57		23	屋部小学校	61	97		12	大原小学校	8
18		5	西辺小学校	17	58		23	大宮小学校	157	98		12	古見小学校	4
19		5	平良第一小学校	88	59		23	城前小学校	73	99		12	南風原小学校	134
20		10	糸満小学校	60	60		23	屋冨祖小学校	25	100		13	久部良小学校	14
21		12	久松小学校	46	61		28	嘉数小学校	165	101		13	豊見城小学校	73
22		12	ふくみね小学校	17	62		28	天妃小学校	97	102		13	志真志小学校	119
23		17	東小学校	103	63		29	西原東小学校	70	103		13	諸見小学校	133
24		18	銘苅小学校	141	64		29	大岳小学校	36	104		13	真喜良小学校	75
25		19	宜野座小学校	26	65		29	光洋小学校	109	105		14	八島小学校	60
26		19	慶留間小学校	9	66		29	稲田小学校	22	106		14	垣花小学校	72
27		19	座間味小学校	14	67		30	高良小学校	158	107		17	百名小学校	41
28		19	川原小学校	7	68		30	真喜屋小学校	25	108		17	城東小学校	102
29		24	北小学校	68	69		30	東江小学校	112	109		18	宮城小学校	127
30		26	北玉小学校	94	70		30	伊江小学校	29	110		18	与儀小学校	108
31		26	池間小学校	8	71	11	4	佐敷小学校	64	111		18	真地小学校	84
32	7	14	銘苅小学校	22	72		4	大里南小学校	126	112		18	白川小学校	93
33	9	17	馬天小学校	62	73		4	大名小学校	54	113		19	西崎小学校	113
34		18	竹富小学校	14	74		5	比屋根小学校	112	114		19	前田小学校	87
35		18	富野小学校	8	75		5	津覇小学校	85	115		19	勝連小学校	75
36		19	神森小学校	218	76		5	与那国小学校	13	116		19	浦添小学校	104
37		25	座安小学校	130	77		5	伊波小学校	152	117		20	北谷第二小学校	94
38		25	北美小学校	102	78		5	三原小学校	177	118		20	与那城小学校	101
39		26	沖縄ｶﾄﾘｯｸ小学校	71	79		5	島袋小学校	53	119		23	屋我地小学校	19
40		29	長嶺小学校	91	80		6	名護小学校	126	120		25	松川小学校	97

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
121	11	25	牧港小学校	109	140		4	久志小学校	15	159		17	宮城小学校	145
122		25	曙小学校	59	141		4	喜如嘉小学校	19	160		17	北中城小学校	145
123		25	久茂地小学校	34	142		4	北玉小学校	96	161		18	瀬喜田小学校	14
124		26	神原小学校	93	143		4	安田・安波小学校	12	162		18	今帰仁小学校	42
125		26	与那原東小学校	119	144		4	高原小学校	128	163		18	内間小学校	120
126		26	瀬底小学校	16	145		4	室川小学校	67	164		18	上本部小学校	23
127		26	真和志小学校	92	146		5	高良小学校	4	165		19	高良小学校	8
128		26	中川小学校	18	147		8	上原小学校	10	166		24	小禄南小学校	147
129		27	赤道小学校	140	148		8	若狭小学校	74	167	1	29	本部小学校	85
130		27	安和小学校	17	149		8	前島小学校	57	168	2	4	伊平屋・野甫小学校	24
131		27	漢那小学校	22	150		8	真嘉比小学校	10	169		5	北美小学校・わかば	25
132		27	伊良波小学校	90	151	12	9	松島小学校	150	170		5	宮森小学校	79
133	12	3	泊小学校	152	152		10	小禄小学校	72	171		17	宇栄原小学校	92
134		3	山田小学校	42	153		11	兼次小学校	27	172		19	伊豆見小学校	18
135		3	奥小学校	12	154		11	登野城小学校	86	173		19	高良小学校	146
136		3	北国小学校	12	155		11	高良小学校	4	174		25	真地小学校	92
137		4	湧川小学校	9	156		12	高良小学校	16	175	3	2	さつき小学校	103
138		4	金武小学校	81	157		13	高良小学校	4	176		5	松川小学校	20
139		4	塩屋小学校	13	158		16	さつき小学校	124	177		16	東風平小学校	133

県内　中学校　　のべ 29 校　2,869 名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	5	1	南星中学校	203	11		2	那覇中学校	258	21	12	9	興南中学校	14
2		5	宮里中学校	2	12		9	具志川東中学校	206	22		11	平安座中学校	34
3		15	具志頭中学校	120	13		16	糸満中学校	167	23		18	コザ中学校	274
4		19	港川中学校	276	14		20	伊江中学校	67	24		18	兼城中学校	4
5	6	26	真和志中学校	126	15		20	金武中学校	123	25		27	狩俣中学校	26
6	8	7	安岡中学校	36	16		29	金城中学校	6	26		27	伊良部中学校	33
7	9	16	松城中学校	107	17	11	5	上本部中学校	26	27	1	15	石田中学校	7
8		17	昭和薬科付属中学校	229	18		6	山田中学校	53	28		22	伊良波中学校	69
9		17	琉球大学付属中学校	20	19		12	琉球大学付属中学校	43	29	2	25	普天間中学校	38
10	10	2	長嶺中学校	220	20		26	高嶺中学校	82	30				

県内　高校　　のべ 29 校　2,544 名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	4	15	北中城高等学校	285	13		23	南風原高等学校	338	25		5	北中城高等学校	12
2		17	石川高等学校	183	14	11	18	興南高校	319	26		10	八重山農林高等学校	32
3	5	1	ゴザ高等学校	463	15	12	4	尚陽高等学校	7	27		23	首里高等学校	78
4		12	浦添工業高等学校	41	16		9	興南高等学校	8	28		26	首里高等学校	79
5		12	浦添工業高等学校	82	17		11	沖縄工業高等学校	40	29	3	5	沖縄工業高等学校	11
6		26	美里工業高等学校	42	18	1	8	北部農林高等学校	42					
7	6	12	辺土名高等学校	67	19		8	北中城高等学校	20					
8		19	那覇工業高等学校	36	20		15	泊高等学校（定時制）	21					
9	7	16	沖縄工業高等学校	7	21		19	小禄高等学校	16					
10	9	4	中部農林高等学校	7	22		29	北部農林高等学校	38					
11		25	沖縄工業高等学校	20	23		30	八重山高等学校	6					
12	10	22	西原高等学校	207	24	2	5	名護商工高等学校	37					

県内　専門学校・大学　　のべ　8 校　308 名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	5	20	沖縄大学	24	4	9	20	沖縄大学	48	7	12	15	那覇看護専門学校	80
2	7	15	沖縄国際大学	43	5		23	沖縄県立芸術大学	12	8		19	琉球大学	31
3		22	琉球大学	34	6	11	7	沖縄ｷﾘｽﾄ教学院大学	36					

県内　特別支援学校　　のべ 4 校　88 名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	7	15	大平特別支援学校（中学部）	52	3	2	24	沖縄ろう学校	4					
2	1	21	那覇特別支援学校（小学部）	10	4		24	島尻特別支援学校（中等部）	22					

県内　幼稚園・保育園・その他

のべ 84 団体　3,388 名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	4	3	東江区児童園	16	32		7	大地学童ｸﾗﾌﾞ	21	61		20	緑学童	41
2	7	16	慈愛幼稚園	23	33		7	東江区学童園	37	62		20	大城学童	23
3		17	第２ｴﾐｰﾙ保育園	19	34		8	ひだまり保育園	30	63		20	志真志幼稚園	25
4		22	すずらん保育園	22	35		11	當間学童児童ｸﾗﾌﾞ	92	64		20	愛和保育園	16
5		23	浜川児童ｸﾗﾌﾞ	22	36		11	みらい保育園	15	65		21	すくすく保育園	52
6		24	ひよこの家学童ｸﾗﾌﾞ	32	37		11	コスモ保育園	23	66		21	池原すみれ学童ｸﾗﾌﾞ	51
7		24	松川児童ｸﾗﾌﾞ	49	38		12	学童塾　琉童	39	67		21	ﾃﾞｭｰｷｯｽﾞｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｱｶﾃﾞﾐｰ	22
8		28	みやび児童ｸﾗﾌﾞ	45	39		12	うーぴー学童	12					
9		30	泊幼稚園	37	40		12	美浜ｷｯｽﾞｸﾗﾌﾞ	30	68		23	なないろ保育園	18
10		30	泊学童ｸﾗﾌﾞ	40	41		12	あさひが丘保育園学童ｸﾗﾌﾞ	54	69		25	沖縄ｷｯｽﾞｸﾗﾌﾞ	58
11		31	ゆたか学童ｸﾗﾌﾞ	45						70		29	神森学童ｸﾗﾌﾞ	24
12		31	たんぽぽ保育園学童	32	42		12	みやび保育園	42	71	9	10	しののめ保育園	24
13		31	与那覇学童ｸﾗﾌﾞ	47	43		13	小禄保育園	23	72	10	31	東の森保育園	46
14	8	4	大育学童ｸﾗﾌﾞ	47	44		13	沖縄中央育成園あさひ寮	30	73	11	12	安謝保育所	27
15		4	ﾊﾟﾝﾀﾞ保育園	22						74		14	内間児童ｾﾝﾀｰ	21
16		4	長田保育園	24	45		13	太陽の子学童ｸﾗﾌﾞ	65	75		21	こひつじ保育所	26
17		4	愛翔学園	25	46		13	名護わかば園	33	76		21	珊瑚舎ｽｺｰﾚ	26
18		4	夢が丘保育園	27	47		13	風の子学童ｸﾗﾌﾞ	39	77	2	3	銘苅幼稚園	107
19		4	津嘉山学童ｸﾗﾌﾞ	44	48		14	ﾌｧｽﾀｰﾁｬｲﾙﾄﾞ育成ｾﾝﾀｰ	50	78		23	ｵｷﾅﾜｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｽｸｰﾙ	22
20		5	学童館	80	49		14	上田学童ｸﾗﾌﾞ	43	79		25	安謝幼稚園	72
21		5	長田児童ｸﾗﾌﾞ	23	50	8	14	平安幼稚園	101	80		25	松島幼稚園	80
22		5	大育保育園	23	51		14	たいよう学童	48	81		27	恩納村こども会	127
23		5	学童ｸﾗﾌﾞくじら隊	22	52		15	安富祖子ども育成会	86	82	3	2	あやめ保育園	43
24		5	与儀児童ｸﾗﾌﾞ	37	53		16	当間子ども会	44	83		9	ミツワ保育園	24
25		5	学童ｸﾗﾌﾞわらびんちゃー	47	54		18	こがね森学童ｸﾗﾌﾞ	31	84		10	友愛幼稚園	28
					55		18	にこにこ保育園	30					
26		5	児童ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ北谷	17	56		19	大育保育園	26					
27		6	開南児童ｸﾗﾌﾞ	32	57		19	童夢幼児園・保育園	85					
28		6	たばる児童ｸﾗﾌﾞ	37	58		19	木の国学童	105					
29		6	大名児童ｸﾗﾌﾞ	33	59		19	名護市ことばの教室にこにこ	34					
30		7	ｻｳﾝﾄﾞ幼児学童	72										
31		7	よなは学童ｸﾗﾌﾞ	26	60		20	小禄南児童ｸﾗﾌﾞ	50					

県外　小学校

のべ 5 校　226 名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	5	12	犬田布小学校（鹿児島県）	21	3		23	母間小学校（鹿児島県）	4	5		30	和光鶴川小学校（東京都）	81
2	6	16	龍瀬小学校（鹿児島県）	23	4	10	27	和光小学校（東京都）	22					

県外　中学校

のべ 26 校 2,855 名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	4	17	南郷中学校（福島県）	26	10		21	鏡中学校（熊本県）	172	19	11	6	愛知淑徳中学校（愛知県）	290
2		17	満濃中学校（香川県）	162	11		26	邑久中学校（岡山県）	78	20	12	3	阿南第二中学校（徳島県）	77
3		17	松梅中学校（佐賀県）	16	12		30	美原中学校（大阪府）	181	21	12	3	秋田大学付属中学校（秋田県）	50
4		21	氷上中学校（兵庫県）	193	13	6	26	吉名･忠海･加茂川中学校（広島県）	100	22	1	15	八次中学校（広島県）	90
5		25	大畠中学校（山口県）	25	14	9	26	桃山中学校（京都府）	133	23	12	3	秋田大学付属中学校（秋田県）	50
6	5	9	中央中学校（滋賀県）	185	15	10	9	五霊中学校（熊本県）	123	24	2	25	鶴岡第４中学校（山形県）	37
7		9	湊川中学校（兵庫県）	75	16		14	親和中学校（兵庫県）	112	25	3	6	会津学鳳中学校（福島県）	91
8		15	河合第一中学校（奈良県）	78	17		21	富山大学付属中学校（富山県）	41	26		18	上越教育大学付属中学校（新潟県）	27
9		16	大寺中学校（奈良県）	146	18		22	三島中学校（大阪府）	74					

県外　高校

のべ 66 校　8,399 名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	4	10	成女高等学校(東京都)	30	24		25	なかみなと第一高等学校(茨城県)	169	47		4	さくら清修高等学校(栃木県)	244
2		18	永山高等学校(東京都)	214	25		29	逗葉高等学校(神奈川県)	277	48		5	宇都宮短期大学付属高等学校(栃木県)	399
3		23	田無工業高校(東京都)	150	26		30	豊岡高等学校(埼玉県)	34	49		6	宇都宮短期大学付属高等学校(栃木県)	271
4	5	22	工芸高等学校(東京都)	63	27		30	柚ケ浦高等学校(千葉県)	46	50		9	聖和学園高等学校(宮城県)	86
5	6	19	四谷商業高等学校(東京都)	14	28	11	4	小金高等学校(千葉県)	20	51		9	巨摩高等学校(山梨県)	248
6		23	明法高等学校(東京都)	164	29		5	猪苗代高等学校(福島県)	81	52		10	高田商業高等学校(新潟県)	164
7		23	九州産業高等学校(福岡県)	131	30		6	船橋芝山高等学校(千葉県)	121	53		15	府中高等学校(東京都)	232
8		24	小松原高等学校(埼玉県)	380	31		12	木更津高等学校(千葉県)	100	54		15	横浜緑が丘高等学校(神奈川県)	283
9		24	九州産業高等学校(福岡県)	133	32		12	名古屋大学付属高等学校(愛知県)	12	55	1	10	神港高等学校(兵庫県)	244
10		25	九州産業高等学校(福岡県)	119	33		12	県陽高等学校(埼玉県)	167	56		15	調布南高等学校(東京都)	244
11		26	九州産業高等学校(福岡県)	130	34		12	下高井農林高等学校(長野県)	5	57		20	更級農業高等学校(長野県)	14
12		27	九州産業高等学校(福岡県)	137	35		15	山形学院高等学校(山形県)	153	58	2	2	都留高等学校(山梨県)	8
13	10	4	佐野女子高等学校(栃木県)	207	36		17	東京学芸大学付属高等学校(東京都)	24	59		3	西陵高等学校(愛知県)	7
14		6	下館第一高等学校(栃木県)	43	37		18	東京学芸大学付属高等学校(東京都)	19	60		3	日体荏原高等学校(東京都)	21
15		9	茨田高等学校(大阪府)	65	38		20	東海大学山形高等学校(山形県)	37	61		5	大泉桜高等学校(東京都)	42
16		14	公文国際学園高等部(神奈川県)	169	39		25	共栄学園高等学校(東京都)	336	62		12	島田工業高等学校(静岡県)	232
17		14	ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ清心高等学校(広島県)	182	40	12	2	柏陽高等学校(神奈川県)	286	63	3	9	長野俊英高等学校(長野県)	27
18		16	新城高等学校(神奈川県)	39	41		2	湖西高等学校(静岡県)	185	64		9	常盤高等学校(埼玉県)	189
19		17	田島高等学校(福島県)	132	42		3	庵原高等学校(静岡県)	153	65		16	同志社高等学校(京都府)	25
20		20	進徳女子高等学校(広島県)	44	43		3	豊栄高等学校(新潟県)	8	66		18	東京都市大学付属高等学校(東京都)	103
21	10	23	工業高等学校(石川県)	32	44		4	浜松工業高等学校(静岡県)	41	67				
22		23	池新田高等学校(静岡県)	187	45		4	明成高等学校(宮城県)	20	68				
23		23	藤枝西高等学校(静岡県)	41	46		4	富岳館高等学校(静岡県)	216	69				

県外　専門学校・大学

のべ 11 校　381 名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	4	19	昭和学院短期大学	75	5		15	名古屋造形大学	24	9		8	駒澤大学	31
2	5	16	関西学院大学	49	6		24	高松医師会看護専門学校	42	10		21	岐阜女子大学	46
3	9	9	和光大学	14	7		24	奈良大学	31					
4	10	15	名古屋造形大学	35	8	11	4	京都造形芸術大学	24					

県外　専門学校・大学

のべ 11 校　381 名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	4	19	昭和学院短期大学	75	5		15	名古屋造形大学	24	9		8	駒澤大学	31
2	5	16	関西学院大学	49	6		24	高松医師会看護専門学校	42	10		21	岐阜女子大学	46
3	9	9	和光大学	14	7		24	奈良大学	31					
4	10	15	名古屋造形大学	35	8	11	4	京都造形芸術大学	24					

県外　その他（基地内含む）

のべ 14 団体　697 名

No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数	No	月	日	学　校　名	人数
1	4	22	新潟聾学校(新潟県)	11	7	9	16	ｵｷﾅﾜｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｽｸｰﾙ	27	13		14	ｿｳﾙ教育大学大学院	24
2	4	30	ｶﾃﾞﾅﾊｲｽｸｰﾙ	30	8	11	28	ﾒﾘｰﾗﾝﾄﾞ・ﾕﾆﾊﾞｰｼﾃｨｶﾚｯｼﾞ	11	14		27	きのくに学童	31
3	5	5	ｶﾃﾞﾅJHS	132	9	12	17	ﾎﾞﾌﾟﾎｰﾌﾟ小学校	59					
4		21	琉球中学校	85	10	1	15	ｷﾝｻﾞｰ小学校	76					
5	6	2	ｵｷﾅﾜｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｽｸｰﾙ	18	11	2	11	横浜市立ろう特別学校(高等部)(神奈川県)	22					
6	8	7	Cherry Blossom PreSchool	15	12	3	12	ｶﾃﾞﾅｴﾚﾒﾝﾀﾘｰｽｸｰﾙ	156					

Ⅱ．施設利用者統計

１．月別施設利用集計

単位：527 件

		博物館				美術館							共有		その他			合計
		特別展示室	企画展示室	講座室	実習室	企画ギャラリー1	企画ギャラリー2	講座室	県民アトリエ	子供アトリエ	スタジオ	県民ギャラリー	講堂	エントランス	3階回廊	屋外展示	中庭	
2009	4月	1	1	5	0	0	0	10	0	0	0	4	5	0	0	0	0	26
	5月	1	0	4	1	0	0	9	1	1	1	3	4	0	1	0	0	26
	6月	1	0	8	3	0	0	8	0	1	2	2	9	0	0	0	0	34
	7月	1	1	7	2	0	0	10	1	1	0	5	3	0	0	0	0	31
	8月	1	1	6	1	0	0	7	3	3	1	7	9	0	0	0	1	40
	9月	1	0	7	1	0	0	7	0	0	0	4	8	1	1	0	0	30
	10月	0	0	8	6	0	0	7	3	0	7	8	11	0	0	0	1	51
	11月	0	0	13	1	0	0	13	0	0	0	7	11	0	0	0	0	45
	12月	1	0	7	5	0	0	13	2	2	3	5	9	1	0	0	0	48
2010	1月	1	0	10	2	0	0	20	1	1	3	5	12	0	0	0	0	55
	2月	0	0	8	5	0	0	20	4	1	9	5	8	0	0	1	0	61
	3月	0	0	12	6	0	0	19	3	5	5	6	15	4	1	4	0	80
合計		8	3	95	33	0	0	143	18	15	31	61	104	6	3	5	2	527

２．施設貸出内訳

	日付		曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
2009	4	2	木	美術館　講座室	オム・ファム㈱15期経営企画発表会
		5	日	博物館　講座室	琉大市民講座
		5	日	共有　講堂	第4回琉大病院市民講座
		8	水	博物館　講座室	サンコム安全大会
		10	金	共有　講堂	沖縄タイムス講演会
		11	土	共有　講堂	公開シンポジウム「沖縄にネアンデルタール人は来たか」
		12	日	博物館　講座室	基盤研究のまとめ、22年度科研新学術「交替劇」再挑戦について
		12	日	美術館　講座室	リビングサイエンス㈱ＬＭＳ
		14	火	美術館　講座室	e-ラーニングの未来
		14	水	美術館　講座室	沖縄県商工振興課会議
		16	木	美術館　講座室	㈱ペリドット健康相談会
		16	木	美術館　講座室	ＮＧＮの未来
		19	日	共有　講堂	「沖縄返還密約を問い直す―知る権利と民主主義―」
		21	火	美術館　講座室	㈱アトラスワールド事業説明会
		21	火	共有　講堂	沖縄平和祈願音楽會
		22	水	美術館　講座室	ＪＡＩＦＡソニー沖縄研修会
		24	金	博物館　講座室	「医師と職員の事業考課を軌道にのせるポイント」セミナー
		24	金	美術館　講座室	ＮＧＮの未来
		25	土	美術館　講座室	那花ゆくい講演会
		28	火	博物館　講座室	㈱七田チャイルドアカデミー　らくらくスーパー子育て術
	4/1～4/30			博物館　特別･企画展示室	人体の不思議展
	5	8	金	博物館　実習室	コンパス　ホリスティックセミナー
		8	金	博物館　講座室	ウィナライト説明会
		9	土	県民アトリエ	沖縄県美術家協会
		10	日	博物館　講座室	「受けていますか？子宮がん検診」講演会
		10	日	共有　講堂	
		10	日	美術館　講座室	ＬＭＳビジネス研修会
		15	金	博物館　講座室	平成21年度沖縄県高等学校英語教育研究会総会
		15	金	博物館　講座室	美術館支援会ｈａｐｐ総会
		16	土	美術館　講座室	本田健ＤＶＤセミナー
		17	日	博物館　講座室	沖縄県臨床工学技師会　第５０回ＣＥ技術交流会及び市民公開講座
		17	日	美術館　講座室	沖縄県美術家連盟
		20	水	美術館　講座室	平成２１年県立高等学校就業体験（インターンシップ）教員向けビジネスマナー講習会
		22	金	美術館　講座室	盛和塾「沖縄」５月度定例会
		24	日	美術館　講座室	沖縄県美術家連盟
		26	火	美術館　講座室	アトラスワールド･Aプラス講演会
		26	火	共有　講堂	博物館友の会総会
		28	木	博物館　講座室	平成２１年度九州博物館協議会総会　総会
		28	木	美術館　講座室	平成２１年度九州博物館協議会総会　理事
		28	木	共有　講堂	平成２１年度九州博物館協議会総会　講演
		30	土	スタジオ	美術館支援会ｈａｐｐ総会

	日　付		曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
2009	5	30	土	ホワイエ	dotFes２００９ＯＫＩＮＡＷＡ　with Flash Flaver
		30	土	共有　講堂	
	6	5	金	共有　講堂	青木純トークイベント
		6	土	博物館　講座室	沖縄県青少年フレンドシップｉｎ九州班長研修会
		6	土	美術館　講座室	沖縄県マンション管理組合連合
		7	日	共有　講堂	ｈａｐｐ　Ａｒｔ　Ｓａｌｏｎ文化講座第２弾「和文化紀行」
		9	火	美術館　講座室	ｅ－ラーニングの勉強会
		9	火	共有　講堂	基調講演会「大いなる明日のために！」
		11	木	博物館　実習室	おもろまち自治会総会
		12	金	博物館　実習室	タッチフォーヘルス無料体験会
		13	土	博物館　講座室	慶應法学会総会
		13	土	博物館　実習室	ユニバーサルコンパス　カウンセリングセミナー
		13	土	美術館　講座室	慶應法学会総会
		13	土	共有　講堂	
		14	日	美術館　講座室	２００９年都市環境デザインフォーラムin琉球 新景観政策１年を経過した京都から学ぶもの
		16	火	美術館　講座室	ｅ－ラーニングの未来
		16	火	共有　講堂	闘わないガン治療：粒子線治療
		17	水	共有　講堂	沖縄県倫理法人会　女性委員会　第四回女性セミナー
		19	金	博物館　講座室	盛和塾「沖縄」６月定例会
		19	金	博物館　講座室	サンコム勉強会
		20	土	博物館　講座室	サンコム勉強会
		20	土	子どもアトリエ	小池アミイゴ氏絵画教室
		20	土	スタジオ	ｈａｐｐ
		21	日	共有　講堂	第１２回日本外科病理学会沖縄支部会公開講座
		23	火	美術館　講座室	アトラスワールド事業説明会
		24	水	博物館　講座室	玉野コンサルタント情報交換会
		25	木	共有　講堂	芸術工学会リハーサル
		26	金	博物館　講座室	芸術工学会春季大会
		26	金	博物館　講座室	－地球社会のなかの沖縄を探る－公開講座シリーズ
		26	金	博物館　講座室	－地球社会のなかの沖縄を探る－公開講座シリーズ
		26	金	美術館　講座室	芸術工学会春季大会
		27	土	美術館　講座室	第６回通常支部総会
		27	土	スタジオ	平成２１年度第２回理事会および第１回臨時総会
		27	土	共有　講堂	芸術工学会春季大会
	7	11	土	博物館　講座室	ＣＳＳ　nite　in　ＯＫＩＮＡＷＡ２００９
		11	土	美術館　講座室	竹田薬品工業　市民公開講座 高血圧セミナー那覇「高血圧に負けないために」
		11	土	共有　講堂	
		12	日	美術館　講座室	中川希望塾　エキスパート研修会
		12	日	共有　講堂	沖縄考古学会２００９年度総会並びに研修発表会
		14	火	美術館　講座室	雇用開発機構　高校生職場見学会
		14	火	美術館　講座室	日本セーラアンチェイジング研修
		16	木	博物館　実習室	平安病院　デイケアプログラム「思い出茶屋」
		16	木	博物館　講座室	平成２１年度沖縄県市町村行政相談連絡担当者協議会全体会議
		17	金	美術館　講座室	九州・山口各県ジョブカフェ事業　県担当者･カウンセラー会議
		17	金	共有　講堂	ピアニスト宮谷理香ピアノ講座－ショパン「バラード第１番」への道－
		18	土	博物館　講座室	三井生命保険㈱　住宅ローンセミナー「ここが知りたい、新住宅ローン減税」
		18	土	美術館　講座室	南西諸島水中文化遺産研究会議
		19	日	博物館　実習室	レムリア･ルネッサンス会議
		19	日	美術館　講座室	沖縄県キャリアセンター職員研修
		19	日	美術館　講座室	アトラスワールド事業説明会
		22	水	美術館　講座室	盛和塾「沖縄」７月定例会議
		23	木	博物館　講座室	九州各県職業能力及び労政主管課長会議
		24	金	博物館　講座室	九州各県職業能力及び労政主管課長会議
		25	土	県民アトリエ	アートキャンプ2001実行委員会ワークショップ 「顔･顔･顔～いろんなもので描いてみよう～」
		25	土	子どもアトリエ	
		26	日	博物館　講座室	小屋敷琢己　シンポジウム「琉大事件とは何だったのか？」

	日　付		曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
2009		26	日	美術館　講座室	沖縄県美術家連盟
		31	金	博物館　講座室	玉野コンサルタント駐留軍跡地利用推進課長会議
	8	1	土	博物館　講座室	雇用開発機構　進路指導担当者向けセミナー
		2	日	共有　講堂	琉球大学医学部市民公開講座
		5	水	美術館　講座室	那覇地区中学校医社会科教育研究会
		6	木	美術館　講座室	沖縄県中小企業労働福祉協会社員研修
		6	木	共有　講堂	文化振興課しまくとぅば講座
		7	金	美術館　講座室	琉球大学教員免許状更新講習「沖縄美術工芸の鑑賞教育講座」
		8	土	博物館　講座室	琉球大学病院耳鼻科市民公開講座「鼻の日」講演会
		8	土	美術館　講座室	「元気が一番」塾　夏期セミナーin　沖縄
		8	土	共有　講堂	日本耳鼻咽喉科学会　耳鼻科市民公開講座「鼻の日」講演会
		12	水	博物館　実習室	ｅ－ラーニング
		13	木	共有　講堂	文化振興課しまくとぅば講座
		18	火	博物館　講座室	琉球銀行　第７回琉銀キッズスクール
		18	火	中庭	沖縄県特別支援学校中学部文化連盟
	8	18	火	県民･子供アトリエ	フロム沖縄推進機構 ＩＴジュニア育成ワークショップＣＡＭＰクリケットワークショップ
		19	水	博物館　講座室	琉球銀行　第７回琉銀キッズスクール
		19	水	美術館　講座室	地理歴史科公民科教育研究会　第３２回総会･研修会
		19	水	県民･子供アトリエ	フロム沖縄推進機構 ＩＴジュニア育成ワークショップＣＡＭＰクリケットワークショップ
		19	水	美術館　講座室	盛和塾「沖縄」８月定例会議
		20	木	博物館　講座室	琉球銀行　第７回琉銀キッズスクール
		20	木	共有　講堂	文化振興課しまくとぅば講座
2008	8	21	金	美術館　講座室	求人おきなわ　平成２１年県立高等学校就業体験（インターンシップ）　教員向け受入事業所対応講習会
		22	土	県民･子供アトリエ	ｈａｐｐ「子どもエコポップワークショップ」
		23	日	スタジオ	ｅ－ラーニング研究所
		25	火	共有　講堂	沖縄広告㈱　サイエンスショー
		26	水	博物館　講座室	全管協沖縄支部　支部定例会
		26	水	共有　講堂	全管協沖縄支部　講演会･パネルディスカッション
		27	木	共有　講堂	文化振興課しまくとぅば講座
		30	日	共有	琉球大学　障害者歯科治療を考える市民公開講座
	9	5	土	共有　講堂	沖縄工芸産業協働センター　沖縄工芸ＮＥＴ構築シンポジウム
		8	火	美術館　講座室	仲田経営セミナー　美容サロン経営講演会「美容室のプラスαが増収増益を生む」
		9	水	美術館　講座室	ｅ－ラーニング研修会
	9/9～9/20		水	博物館　特別展示室	㈱琉藍　藤村玲子紅型作品展
		10	木	博物館　講座室	沖縄情報通信懇談会　沖縄通信懇談会ＪＧＮ２Ｐｌｕｓ利用連絡会
		6	日	共有　講堂	文化振興課しまくとぅば講座
		10	木	共有　講堂	文化振興課しまくとぅば講座
		13	日	博物館　講座室	
		13	日	共有　講堂	
		12	土	共有　講堂	盛和塾「沖縄」　講演会
		13	日	エントランスホール	千代田ブライダル　新城聡ご夫妻　結婚式
		13	日	３階　回廊	
		17	木	博物館　実習室	日本セーラ健康セミナー
		17	木	博物館　講座室	沖縄総合通信懇談会　地域情報化担当者会議
		17	木	共有　講堂	昭和薬科大学付属中学校「しまくとぅばも戦世も語れない」芝居上演会
		18	金	美術館　講座室	大城マネジメント研究所「人事賃金制度セミナー」
		21	月	共有　講堂	日本グラフィック　浅葉克己デザイン講演会
		24	木	美術館　講座室	竹筴会　試作竹筴による織布展－蘇らせるぞ･竹筴－
		25	金	美術館　講座室	
		26	土	美術館　講座室	
		27	日	美術館　講座室	
		25	金	博物館　講座室	七田チャイルドアカデミー　食育講演会
		25	金	共有　講堂	琉球大学国際沖縄研究所　公開講座シリーズ
		26	土	博物館　講座室	家庭便利の会沖縄中央　役職者研修
		26	土	博物館　講座室	いしかわ文明堂　三Ｓ活動キックオフ

	日　付		曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
2008		29	火	博物館　講座室	アトラスワールド　八田はじめ教授の講演会京都女子大学
	10	1	木	博物館　講座室	豊見城市雇用創造協議会　第２回講座説明会＆就活応援カフェ
		2	金	博物館　講座室	サンワコムシス　安全大会
		3	土	博物館　講座室	家庭倫理の会　沖縄中央　役職者研修会
		3	土	スタジオ	札幌大学　考古学と先史学研究会
		4	日	共有　講堂	こくら文化･スポーツクラブ　生きる力パートⅡ
		8	木	博物館　実習室	㈱ペリドット　健康相談会
		9	金	美術館　講座室	ヒートポンプ蓄熱センター 平成２１年度　総務省電力負荷平準化対策推進事業セミナー
		9	金	共有　講堂	沖縄県精神障害者福祉連合会　沖縄県精神保健促進講演会
		10	土	博物館　実習室	10.10空襲を風化させない市民の集い　６５周年忌を悼む
		10	土	共有　講堂	
		10	土	スタジオ	那覇情報システム専門学校　デジタルクリエイター科作品展
		11	日	共有　講堂	エーザイ㈱　骨と関節の日　　運動器の１０年世界運動　市民セミナー（整形外科医会）
		12	月	博物館　講座室	㈱G･ＰＬＡＮＴ　アンチエイジング説明会
		14	水	美術館　講座室	ｅ－ラーニング勉強会
2009	10	16	金	博物館　実習室	エマエンタープライズ　合同企業説明会
		16	金	博物館　講座室	
		16	金	美術館　講座室	
		17	土	博物館　実習室	
		17	土	博物館　講座室	
		17	土	美術館　講座室	
		17	土	共有　講堂	博物館友の会　沖縄博物館友の会創立３０周年記念シンポジウム　「いまどきの沖縄そば、これからの沖縄そば」
		18	日	美術館　講座室	ピーアールプロモーション沖縄　県芸術祭（舞台部門）
		18	日	共有　講堂	
		18	日	博物館　実習室	㈱サンエージェンシー　アルソア化粧品ユーザーインタビュー
		18	日	共有　講堂	ヒューマンバリューヘルスクラブ　シンポジウム
	10	21	水	美術館　講座室	ユネスコ･アジア文化センター　ＡＣＣＵ国際教育交流事業
		22	木	共有　講堂	沖縄県高等学校総合文化祭（文芸･図書部門）
		22	木	スタジオ	沖縄ＤＦＳ会議
		23	金	博物館　実習室	
		23	金	中庭	インターナショナルデザインアカデミー 卒業作品展
		23	金	県民アトリエ	
		23	金	スタジオ	
		24	土	スタジオ	
		24	土	県民アトリエ	
		25	日	スタジオ	
		25	日	県民アトリエ	
		23	金	共有　講堂	インターナショナルデザインアカデミー　卒業制作　プレゼンテーション
		24	土	博物館　講座室	外務省国際機関人事センター　キャリア相談会～国家公務員になるには～
		24	土	共有　講堂	琉球大学国際沖縄研究所　公開講座シリーズ
		25	日	共有　講堂	越境の会　シンポジウム「谷川雁と沖縄」
		29	木	博物館　講座室	豊見城市地域雇用推進協議会　豊見城市仕事応援セミナー受講生募集説明会
		30	金	スタジオ	副田宗鷹
		31	土	美術館　講座室	もの研究会
	11	1	日	博物館　講座室	㈱G･ＰＬＡＮＴ　アンチエイジングセミナー
		1	日	美術館　講座室	写真企画ふるた　子供モデル応募者への面接と説明会
		6	金	博物館　講座室	㈲ウェルネス沖縄　ウェルネス沖縄
		6	金	共有　講堂	南部地区個人住民税徴収対策協議会　平成２１年度自主財源確保対策研修会
		7	土	共有　講堂	七織の会　文化講座第３弾
		8	日	博物館　講座室	㈱トリムフーズ社員総会
		8	日	美術館　講座室	沖縄税理士会　守之会移動研修会
		8	日	美術館　講座室	家庭倫理の会沖縄中央　班長研修
		8	日	共有　講堂	琉球大学皮膚科　皮膚の日公開講座
		10	火	博物館　講座室	ＯＫＩＮＡＷＡ型産業振興プロジェクト推進ネットワーク 健康に関するセミナー
		11	水	博物館　講座室	雇用開発推進機構　業界研究Ｊｏｂチャンネル

	日　付		曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
2009		11	水	美術館　講座室	大城マネジメント研究所　人事考課セミナー
		12	木	美術館　講座室	㈱みたのクリエイト　会社決算報告会議
		13	金	博物館　講座室	㈱インテリジェンス･アンリミテット　コーチングリーダーシップ
		13	金	共有　講堂	福田直樹ピアノコンサート「学校訪問コンサート１００回突破記念」
		14	土	博物館　実習室	子育てひろば全国連絡協議会　平成２１年度地域子育て支援拠点研修事業
		14	土	博物館　講座室	
		14	土	美術館　講座室	
		14	土	共有　講堂	
		15	日	博物館　講座室	文教楽器　音楽検定
		15	日	美術館　講座室	
		17	火	博物館　講座室	社会保険労務士法人パーソナル･マネージメント･サポート 朗堂基準法改正セミナー
		17	火	美術館　講座室	ｅ－ラーニング勉強会
		17	火	共有　講堂	ビルメンテナンス協会　ビルメンテナンスフェア09ｉｎ沖縄
		18	水	美術館　講座室	大城マネジメント研究所　人事賃金制度セミナー
		20	金	博物館　講座室	㈱アソウ･ヒューマニーセンター　ポジティブアクティブ研修
		21	土	博物館　講座室	食育クラブ　予防医学情報研究所　　所長砂川兼行先生の栄養学講演会
		21	土	共有　講堂	アース･トリップ「女性が美しく変わる時」
		22	日	博物館　講座室	㈱G･ＰＬＡＮＴ　アンチエイジングセミナー
		22	日	美術館　講座室	ヤキモノチカラ実行委委員会　ＴＯＵＧＥＩＯＫＩＮＡＷＡ全体会議
		25	水	美術館　講座室	アシスト　ＪＰ1/ＤｅｓｋｔｏｐＮａｖｉｇａｔｉｏｎ紹介セミナー
		27	金	博物館　講座室	沖縄タイムス社「アジアの中の日本　沖縄　薩摩侵攻から４００年を考える
		27	金	共有　講堂	
		27	金	美術館　講座室	ＦＣ琉球会議
		27	金	共有　講堂	オーシャン２１　藤村正弘売上アップセミナー
		28	土	美術館　講座室	ＦＣ琉球会議
		28	土	共有　講堂	ウィメンズメンタルクリニック 信田さよ子　ＩＮ　沖縄「母が重くてたまらない」講演会
		28	土	共有　講堂	日本サインデザイン協会　沖縄地区設立にむけての記念シンポジウム
	12	1	火	美術館　講座室	都市科学政策研究所　那覇市大名市営住宅再生団地計画調査検討委員会
		4	金	美術館　講座室	サンワコムシスエンジニアリング　サンコム安全大会
		5	土	美術館　講座室	女性塾沖縄支部　女性塾の勉強会
		5	土	美術館　講座室	ワーカーズコープ　沖縄合同所長会議
		5	土	共有　講堂	沖縄県国保･健康増進課　平成２１年度タバコ対策研修会
		6	日	共有　講堂	森ピアノアカデミー　第１８回森ピアノアカデミー発表会
		4	金	スタジオ	ジャパン･コンテポラリーネットワーク　ミュージアムダンスプロジェクト
		5	土	スタジオ	
		6	日	スタジオ	
		6	日	エントランスホール	
		8	火	美術館　講座室	アークシステム勉強会
		10	木	博物館　講座室	アジア人材資金構想の企業向けセミナー
		10	木	共有　講堂	沖縄総合通信懇談会　沖縄デジタル映像祭２００９
	12	11	金	博物館　講座室	沖縄倫理の会中央沖縄　役職者テキスト研修
		12	土	博物館　実習室	ＦＣ琉球会議
		12	土	博物館　講座室	琉球ジャスコ（※キャンセル）
		12	土	博物館　講座室	㈱オーパーツ事業者説明会
		11	金	共有　講堂	鹿児島大学シンポジウム「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成」
		12	土	共有　講堂	
		13	日	共有　講堂	ライリッシュオカリナ連盟　おとだまコンサート
		12	土	美術館　講座室	日本ベジタブル＆フルーツマイスター協会　マイスター講座
		13	日	美術館　講座室	
		15	火	博物館　実習室	ｅ－ラーニング勉強会
		15	火	美術館　講座室	ｅ－ラーニング人生悠々クラブセミナー
		15	火	美術館　講座室	アークシステム
		16	水	美術館　講座室	アークシステム
		16	水	博物館　講座室	沖縄ＤＦＳ　社内研修
		17	木	博物館　実習室	
		17	木	博物館　実習室	
		17	木	美術館　講座室	㈱G･ＰＬＡＮＴ　アンチエイジングセミナー

	日	付	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
2009		17	木	美術館　講座室	家庭倫理の会中央おきなわ　役職者研修
		19	土	博物館　実習室	琉球大学生活課教育研究
		20	日	博物館　講座室	快適環境創造倶楽部　健康講演会
		19	土	県民アトリエ	創元会沖縄支部　創元会沖縄支部実技研修会
		19	土	子どもアトリエ	
		20	日	県民アトリエ	
		20	日	子どもアトリエ	
		23	水	美術館　講座室	沖縄県美術家連盟
		23	水	共有　講堂	文教楽器　文教楽器ミュージックサロンクリスマスコンサート
		24	木	博物館　講座室	アートコミュニケーション　沖縄慰霊文学祭オープニングセレモニー
		25	金	博物館　講座室	
		26	土	共有　講堂	島袋本流紫の会　経歩の魅力
		27	日	共有　講堂	マッセターニＳＡＹＵＲＩピアノ教室　ピアノの発表会
2010	1	5	火	美術館　講座室	ワーカーズコープ沖縄　　訪問介護養成研修
		6	水	美術館　講座室	
		7	木	美術館　講座室	
		8	金	美術館　講座室	
		13	水	美術館　講座室	
		14	木	美術館　講座室	
		15	金	美術館　講座室	
		19	火	美術館　講座室	
		20	水	美術館　講座室	
		21	木	美術館　講座室	
		22	金	美術館　講座室	
		27	水	美術館　講座室	
		28	木	美術館　講座室	
		8	金	共有　講堂	石川洋先生に学ぶ会「石川洋先生新春講演会」
		8	金	共有　講堂	リジョイス１７周年ピアノコンサート
		17	日	共有　講堂	
		9	土	博物館　講座室	琉球大学「美術の先生は何をおしえているのか」
		10	日	博物館　講座室	
		9	土	美術館　講座室	アートキャンプ２００１　顔展関連企画講演会
		14	木	博物館　講座室	雇用開発機構　沖縄県キャリアセンタージョブチャンネル
		14	木	美術館　講座室	盛和塾「沖縄」勉強会
		21	木	美術館　講座室	盛和塾「沖縄」キックオフ会
		15	金	博物館　実習室	ユニバーサルコンパス　無料体験会
		15	金	スタジオ	副田　宗鷹
		17	日	美術館　講座室	㈱G・ＰＬＡＮＴ　アンチエイジングセミナー
		19	火	博物館　講座室	㈱ラジカル沖縄　むすびタウン沖縄、特別セミナー
		19	火	共有　講堂	韓日経済文化交流会
		19	火	博物館　実習室	ＮＰＯ法人生きる意味研究所　シリーズ第一弾「豊かな時代が本質を失くす！」
		21	木	博物館　講座室	全国賃貸管理ビジネス協会沖縄支部　新々商品セミナー
		22	金	博物館　講座室	うむい　予防医学情報研究所　所長砂川兼行先生の栄養学講演会
		22	金	博物館　講座室	ドリームバンク㈱９ＤａｙｓＤｒｅａｍ沖縄会場
		22	金	共有　講堂	那覇市役所人事課　那覇市職員メンタルヘルス研修会
		23	土	県民アトリエ	創元会沖縄支部　創元会沖縄支部実技研修会
		23	土	子どもアトリエ	エッテン友の会　版画教室サークル
		23	土	共有　講堂	琉球大学国際沖縄研究所「紀九社会の沖縄を探る」公開講座シリーズ第７回
		27	水	博物館　　講座室	フロム沖縄推進機構　情報セキュリティーセミナー
		27	水	共有　講堂	
		27	水	美術館　講座室	㈱モンタナレジェンドジャパン「食と文化についての講演会」
		29	金	スタジオ	普天間高校　第２１回沖縄県高等学校書道展
		30	土	スタジオ	
		29	金	共有　講堂	那覇市職員研究所　那覇市幹事職社員研修
	1	30	土	美術館　講座室	琉球リハビリステーション学院　言語聴覚科 平成２２年度臨床実習指導者会議
		30	土	共有　講堂	沖縄大学　公開セミナー「環境・人・観光～アフリカから沖縄を考える」
		30	土	共有講堂	㈱ＹＵＭＥグローバルネット「ヤードクカオ健康法　シンポジウム」
		30	土	博物館　講座室	札幌大学 琉球列島史・原史時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究
		31	日	博物館　講座室	

	日	付	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
2010		31	日	美術館　講座室	ヘルスカウンセリング学会沖縄支部勉強会
		31	日	共有　講堂	沖縄ラオス国口唇口蓋裂患者支援センター　口腔ケアー市民公開講座
		31	日	共有　講堂	普天間高校　第２１回沖縄県高等学校書道展
	2	2	火	博物館　講座室	家庭倫理の会沖縄中央役職研修
		2	火	屋外展示場	ワーカーズコープ沖縄　控え室
		2	火	県民アトリエ	
		3	水	県民アトリエ	
		4	木	県民アトリエ	
		2	火	美術館　講座室	ワーカーズコープ沖縄　訪問介護養成研修
		3	水	美術館　講座室	
		4	木	美術館　講座室	
		5	金	美術館　講座室	
		11	木	美術館　講座室	那覇市立銘苅小学校 組踊「銘苅子」子ども教室実行委員会
		2	火	共有　講堂	
		11	木	共有　講堂	
		3	火	スタジオ	副田　宗鷹
		4	木	共有　講堂	内閣府総合事務局金融監督課　地域密着型金融に関するシンポジウム
		5	金	美術館　講座室	㈲Ｍコーポレーション　沖縄県工芸公募展
		6	土	博物館　実習室	ユニバーサル･コンパス　禅カウンセリング初級コース
		7	日	博物館　実習室	
		6	土	美術館　講座室	「立て直そう日本･女性塾」
		7	日	博物館　講座室	特定非営利活動法人「育て上げ」ネット マネーコネクション講師養成講座
		9	火	博物館　講座室	ヒートポンプ蓄熱センター 平成２１年度経済産業省電力負荷平準化対策推進事業
		9	火	美術館　講座室	琉球ジャスコ　取締役会･制作発表会
		9	火	共有　講堂	
		9	火	美術館　講座室	㈱ベルシステム２４　面接会
		10	水	博物館　講座室	都市科学政策研究所　那覇市大名市営住宅再生団地計画調査検討委員会
		10	水	美術館　講座室	アークシステム　次世代の通信事業の説明会
		11	木	博物館　実習室	エマエンタープライズ
		11	木	博物館　講座室	まちなか研究所わくわく「みらいファンド沖縄」キックオフフォーラム
		12	金	博物館　実習室	リケンオキナワ　新都心通り会会議
		12	金	美術館　講座室	盛和塾「沖縄」勉強会
		13	土	美術館　講座室	㈱Ｇ･ＰＬＡＮＴ　アンチエイジングセミナー
		15	月	スタジオ	琉球大学美術教育専修卒業終了展
		16	火	スタジオ	
	2	19	金	スタジオ	琉球大学美術教育専修卒業終了展
		20	土	スタジオ	
		21	日	スタジオ	
		16	火	美術館　講座室	アークシステムセミナー
		17	水	美術館　講座室	㈱大城マネジメント研究所　人事･賃金セミナー
		19	金	博物館　実習室	雇用開発推進機構　沖縄キャリアセンター求職者向け講演会
		19	金	博物館　講座室	
		19	金	美術館　講座室	ＮＰＯ法人生きる意味研究所　第二弾「幸せとは気づくもの」
		19	金	共有　講堂	ＮＰＯ法人調査隊おきなわ　ソウシャルビジネスセミナー
		20	土	県民アトリエ	ＦＣ琉球株主総会
		20	土	美術館　講座室	沖縄県労働福祉基金協会/就職支援センター研修会
		20	土	美術館　講座室	国場幸之助会議/勉強会
		21	日	共有　講堂	美術館支援会ｈａｐｐ　舞踊集団「花やから」公演
		24	水	スタジオ	ｅーラーニング勉強会
		24	水	美術館　講座室	
		24	水	美術館　講座室	㈱大城マネジメント研究所　人事賃金セミナー
		25	木	美術館　講座室	囲碁連盟会議
		26	金	博物館　講座室	ＰＬＡＮＮＩＮＧ　ＯＦＦＩＣＥ　Ｃｏｄ 台湾クリエイティブ･シティ構想に学ぶ沖縄芸術文化と未来
		27	土	博物館　講座室	三井生命保険㈱　住宅ローンセミナー
		27	土	共有　講堂	沖縄いのちの電話自殺予防講演会
		28	日	子どもアトリエ	エッテン友の会　版画教室
		28	日	共有　講堂	楽の会　ピアノ発表会

	日　付		曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
2010	3	9	火	博物館　実習室	パッセジャータ･ウォーキングレッスン
		18	木	博物館　実習室	
		30	火	博物館　実習室	
		9	火	博物館　講座室	看護大学　ケアリング･アイランド九州沖縄構想ＣＳＤ研修会
		9	火	共有　講堂	
		11	木	共有　講堂	アルティメイトクラブ文化講演会
	3	12	金	美術館　講座室	㈱らくと説明会
		13	土	美術館　講座室	
		12	金	共有　講堂	沖縄県地産地消推進シンポジウム２０１０
		13	土	博物館　実習室	渡嘉敷園子　経済セミナー
		14	日	美術館　講座室	㈱クインアッシュ事業説明会
		14	日	共有　講堂	読売新聞　第３１回読売学生書展沖縄展
		16	火	美術館　講座室	モッテコエージェンシー那覇事業説明会
		16	火	美術館　講座室	ナインフィールド･ジャパン㈱沖縄ブロック事業説明会
		16	火	共有　講堂	ＮＰＯ法人亜熱帯バイオマス利用研究センター ＯＫＩＮＡＷＡバイオマスタウンサミット
		16	火	子どもアトリエ	美術館班　瑞慶山
		16	火	博物館　講座室	フロム沖縄推進機構　googleアドセンスセミナー
		17	水	博物館　講座室	
		17	水	美術館　講座室	㈱アークシステム　世界の通信システムの未来。可能性
		17	水	共有　講堂	島の風　ソーシャルビジネスフォーラム
		17	水	ホワイエ	
		18	木	美術館　講座室	盛和塾「沖縄」講演会
		19	金	美術館　講座室	盛和塾「沖縄」講演会
		19	金	美術館　講座室	パシフィックコンサルタンツ㈱　沖縄南部風景街道パートナーシップ会議
		19	金	共有　講堂	ＮＰＯ法人ジャパン･フィルムコミッション 「沖縄映像産業振興ネットワーク設立記念シンポジウム」
		20	土	美術館　講座室	沖縄の教育を考える会　テレビ「生命の光」上映会
		20	土	共有　講堂	沖縄県立芸術大学 連続シンポジウム「御冠船踊りー近世琉球の自己表象ー」
		21	日	博物館　講座室	那覇市障害者福祉協議会　　那覇市障害者美術展
		22	月	スタジオ	
		23	火	スタジオ	
		21	日	美術館　講座室	㈱Ｇ･ＰＬＡＮＴ　アンチエイジングセミナー
		22	月	美術館　講座室	九州大学院比較社会文化研究所　肥後直美先生激励会
		24	水	博物館　講座室	音楽教室ラルゴ　ピアノ発表会
		25	木	美術館　講座室	アークシステム　次世代の通信事業の説明
		26	金	博物館　講座室	㈱インフォメーションバンク　ＰＲＢ総研ビジネスセミナー
		26	金	共有　講堂	沖縄建設弘済会
		27	土	共有　講堂	砂辺良朝　タップダンスショウ
		27	土	エントランスホール	Ｕｂｄｏｂｅ
		27	土	博物館　講座室	
		27	土	美術館　講座室	
		27	土	博物館　実習室	
		27	土	屋外展示場	
		27	土	子どもアトリエ	エッテン友の会　版画教室サークル
		28	日	博物館　講座室	東恩納吉一先生退職記念講演会実行委員会
		28	日	美術館　講座室	沖縄県美術家連盟

博物館

Ⅰ　調査研究等の活動
Ⅱ　展示活動
Ⅲ　教育普及活動
Ⅳ　資料収集・保存管理

Ⅰ．調査研究等の活動

１．調査研究の概要

博物館の機能は、調査研究、資料収集・保管、資料の展示、教育普及活動という四つの大きな柱によって構成されている。これらは互いに関連しているが、調査研究は他の機能の基礎となる重要な部分である。

当館における調査研究活動は、全学芸員が一地域を対象に実施する総合調査事業、他機関との共同研究事業、学芸員それぞれによる個別の調査研究事業がある。

総合調査事業では、各離島において自然、歴史、民俗、考古、美術工芸、建築の基礎資料の掘り起こしと収集を行ってきた。これまで、久米島（１９９３、１９９４年度）を皮切りに、波照間島（１９９６、１９９７年度)、西表島（１９９８～２０００年度)、小浜島（２００１～２００３年度)、与那国島（２００４～２００８年度）を経て、２００９年度は竹富島で調査を実施した。その成果をもとに２０１０年度に展示会を開催することを検討している。

共同研究事業としては、国立科学博物館、東京大学と共同で人類学分野の発掘調査を実施している。調査地は、南城市玉城のハナンダガマ遺跡（２００６、２００７年度)、南城市玉城おきなわワールド内の武芸洞（２００７～２００９年度）である。ハナンダガマからは大量のシカ化石とともに１１～１４世紀のものと推定される人骨を発見したが、その結果は２００９年３月に『ハナンダガマ遺跡発掘調査報告書』（沖縄県立博物館・美術館）として公表している。武芸洞については、２００８年度に縄文晩期の人骨を埋葬した石棺墓を発見したが、２００９年度はその下層からさらに2体の人骨を発見しており、この石棺墓が重層的な構造を持つことが明らかになった。

学芸員個別の調査研究事業は、学芸員自身がテーマを設定し自主的に実施しているものや外部から依頼を受けて行うもの等様々である。その成果は『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要』第３号やそれぞれの所属する学会誌等に論文の形で発表されるとともに、講演等の形でも生かされている。

以下、２００９年度の調査研究活動の状況を報告する。

（濱口　寿夫）

２．博物館総合調査　－竹富島総合調査－

【趣旨】

沖縄県は多くの島嶼から成り立ち、それぞれの島には独自の自然とそれを背景としたくらしがあり、その中から生み出された独自の文化がみられる。このような、島々の多様な自然やくらし・文化については個々の分野の断片的な報告が散見されるものの、まだまだ基礎的なデータは十分とはいえない。

近年、県内各地で森林伐採・道路建設・土地改良等の開発が活発におこなわれている上、移入された外来種による攪乱の結果、自然環境は大きく変貌しつつある。さらに、地域住民の生活や伝統行事の形態などの文化的側面も大きく変わりつつある。このままでは、島々の自然・文化・社会等に関する貴重な資料が失われてしまうことは想像に難くない。

そこで、本事業は県内各離島の自然・歴史・文化について調査・研究し、その成果を記録・報告するとともに、当館の展示会等をとおして島々の自然や文化の現状を伝えることによって、自然環境の保全や文化的資料の保存に対する理解を深めさせることを目的とする。２００９年度から３年計画で竹富島を対象とした調査を実施する。

【予算額】

８３２，０００円

【組織】

本調査組織は 2009 年度から２０１１年度に沖縄県立博物館に在籍した各分野の学芸員により構成される。

【調査方法】

分野ごとにテーマを設定し、調査は個別に実施した。２００９年度から２０１０年度までは現地調査を実施し、２０１１年度は報告書を刊行する。

【調査実績】

仲里　　健（２００９年１０月１２日～１５日）　崎原　恭子　（２０１０年　３月１８日～１９日）
田中　　聡（２０１０年　３月２６日～２８日）　岸本　弘人　（２００９年１０月１２日～１５日）
平川　信幸（２００９年１０月１２日～１５日）　岸本　　敬　（２００９年１０月１２日～１５日）
與那嶺一子（２０１０年　３月１８日～１９日）　羽方　　誠　（２００９年　３月１６日～１７日）

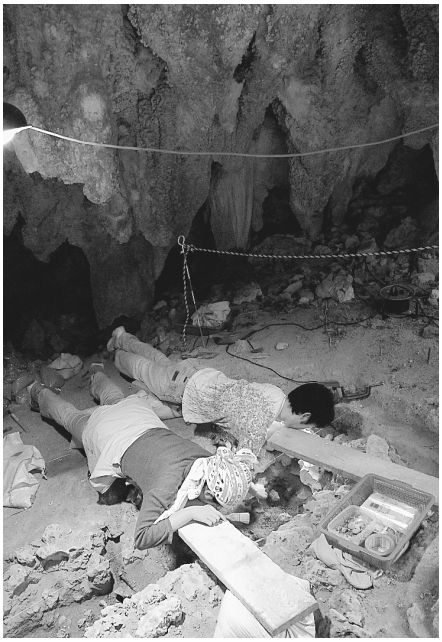
（田中　聡）

３．博物館共同研究事業

【趣旨】

東アジア地域や日本列島へ新人が到達したのは、５万～３万年前ごろと考えられている。日本列島の人類史を解明するためにはこの時代の人類化石が不可欠であるが、発見例はきわめて少ない。沖縄県からは、３万２千～１万年前と推測される複数の人類化石が発見されており、とりわけ、八重瀬町港川フィッシャー遺跡からは、１万８千年前とされる成人４体の人骨化石（港川人）が発見されている。しかし、同遺跡からは生活の痕跡は発見されず、多くの謎が残されている。

そこで、本事業では、沖縄県立博物館・美術館、国立科学博物館、東京大学等との共同研究として、港川人をはじめとした沖縄出土の更新世人類化石の研究を推進するとともに、新たな人類化石や生活の痕跡の発見を目指した発掘を推進している。



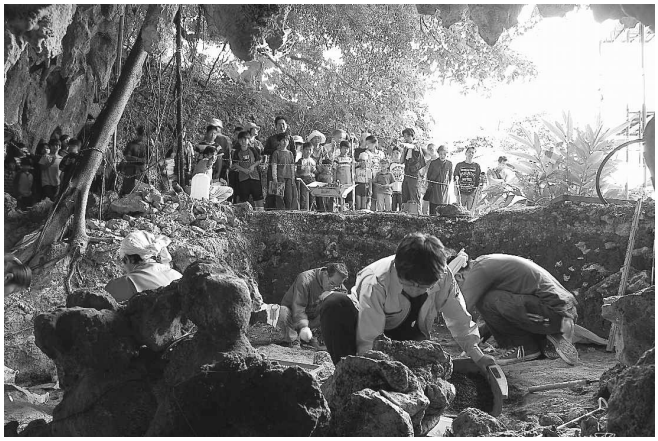
武芸洞内の石棺墓の発掘作業風景

【組織】

本事業に関わる研究組織は、沖縄県立博物館・美術館の専門員、東京大学および国立科学博物館の研究者、沖縄県内の研究者により構成される。

【事業概要】

沖縄県南城市の武芸洞遺跡およびサキタリ洞において発掘調査を行った。武芸洞遺跡からは、縄文時代前期の土器、石器、獣骨などの遺物が数多く発見されたほか、前年度に発見していた縄文時代晩期の石棺墓が二層構造であることが明らかになり、下層から少なくとも２体の部分骨格が発見された。階層構造をもった石棺墓は、最近、徳之島のトマチン遺跡で発見されている。先史時代は土器文化や貝製品など、沖縄と奄美・徳之島で共通する要素があることは知られていたが、今回の発見は埋葬の文化でも共通する様式が広がっていた可能性を示唆するもので重要な発見となった。



小中学生対象に開催された発掘現場見学会の様子

発掘調査期間中の２００８年１１月２９、３０日には県内小中学生を対象に現場見学会を開催し、４２０名の参加者があった。また、武芸洞遺跡における２００７～２００９年の発掘成果をまとめた、発掘調査概報を出版したほか、日本人類学会および日本考古学協会において４演題の発掘関連発表を行った。

（藤田　祐樹・山崎　真治）

４．調査・研究等

濱口　寿夫（博物館班班長）

○名　　称：博物館常設展示観覧者の動向調査
　期　　間：２００９年6月２２日～7月３日、8月１７日～２７日
○名　　称：コウダカカラマツ（貝類）予備調査
　期　　間：２００９年2月～3月

田中　聡（主任学芸員　自然史・生物）

○名　　称：沖縄島北部におけるカエル類の音声モニタリング
　期　　間：２００９年4月１日～２０１０年3月３１日
○名　　称：沖縄島中部における両生類の生態ならびに、保全に関する研究
　期　　間：２００９年4月１日～２０１０年3月３１日
○名　　称：外来種シロアゴガエルの生態ならびに防除に関する研究
　期　　間：２００９年4月１日～２０１０年3月３１日
○名　　称：企画展「造礁サンゴ」に係る資料借用（石垣市・竹富町）
　期　　間：２００９年6月２０日～２４日
○名　　称：企画展「造礁サンゴ」に係る資料借用（本部町）
　期　　間：２００９年7月２９日
○名　　称：企画展「造礁サンゴ」に係る資料返却（石垣市・竹富町）
　期　　間：２０１０年3月２５日～２６日
○名　　称：竹富島総合調査
　期　　間：２０１０年3月２６日～２８日

仲里　健（主任学芸員　自然史・地学）

○名　　称：竹富島総合調査
　期　　間：２００９年１０月１２日～１５日
○名　　称：ガンガラーの谷地質層序基礎調査
　期　　間：２０１０年1月２３日～２４日
　依頼期間：琉球列島ジオサイト研究会

羽方　誠（主任　考古）

○名　　称：竹富島総合調査
　期　　間：２０１０年3月１６日～１７日

崎原　恭子（主任　歴史・古琉球／近世）

○名　　称：２００９年度 博物館特別展「琉球使節、江戸へ行く！」にかかる資料調査及び事務調整
　　（東京都）
　期　　間：２００９年8月２５日～２６日
○名　　称：２００９年度 博物館特別展「琉球使節、江戸へ行く！」にかかる展示資料借用作業の立ち会い
　　（広島県）
　期　　間：２００９年9月８日～１０日
○名　　称：２００９年度 博物館特別展「琉球使節、江戸へ行く！」にかかる展示資料借用作業の立ち会い
　　（栃木県、静岡県、愛知県）
　期　　間：２００９年9月１７日～２１日
○名　　称：２００９年度 博物館特別展「琉球使節、江戸へ行く！」にかかる展示資料返却作業の立ち会い
　　（東京都、栃木県、静岡県、愛知県）
　期　　間：２００９年１２月６日～１０日
○名　　称：２００９年度 博物館特別展「琉球使節、江戸へ行く！」にかかる展示資料返却作業の立ち会い
　　（鹿児島県、広島県）
　期　　間：２００９年１２月１４日～１７日
○名　　称：２００９年度 海と船の博物館ネットワーク研修会への参加（東京都）

期　　間：２０１０年3月５日～７日
依頼期間：船の科学館（海と船の博物館ネットワーク事務局）
○名　　称：２００９年度　竹富島総合調査（石垣市、竹富島）
期　　間：２０１０年3月１８日～１９日

岸本　弘人（主任学芸員　歴史・近現代）
○名　　称：２００９年度　博物館特別展「琉球使節、江戸へ行く！」にかかる展示資料借用作業立ち会い（那覇市）
期　　間：２００９年１０月１日
○名　　称：竹富島総合調査（竹富町）
期　　間：２００９年１０月１２日～１５日
○名　　称：２００９年度　博物館特別展「琉球使節、江戸へ行く！」にかかる展示資料返却作業の立ち会い（那覇市・南風原町）
期　　間：２００９年１２月８日～９日

與那嶺　一子（主任学芸員　美術工芸・染織／書跡／彫刻）
○名　　称：竹富島総合調査
期　　間：２０１０年3月１８日（木）～１９日（金）
○名　　称：無形文化財（工芸技術）「読谷山花織」に関する調査
期　　日：２０１０年3月１２日（金）・3月１５日（月）
依頼機関：文化庁文化財部伝統文化課

平川　信幸（主任　美術工芸・絵画／陶器／漆器）
○名　　称：保存担当学芸員研修（東京都）
期　　間：２００９年6月１５日～１９日
○名　　称：２００９年特別展　琉球使節江戸へ行く展　資料借用（愛知県）
期　　間：２００９年9月１４日～１６日
○名　　称：２００９年特別展　琉球使節江戸へ行く展　資料借用（鹿児島）
期　　間：２００９年9月２４日～２６日
○名　　称：２００９年沖縄県博物館協会　秋の研修会（石垣島）
期　　間：２００９年１０月１２日～１５日
○名　　称：２００９年特別展　琉球使節江戸へ行く展　資料返却（愛知県）
期　　間：２００９年１２月１６日～１８日

岸本　敬（主任学芸員　民俗）
○名　　称：竹富島総合調査（竹富町）
期　　間：２００９年１０月１２日～１５日

藤田　祐樹（専門員　人類）
○名　　称：宮古島市内出土古人骨調査（宮古島市）
期　　間：２００９年6月１７日～6月１８日
依頼機関：琉球大学医学部
○名　　称：沖縄貝塚時代早期土器の総合的研究に係る調査（沖永良部島）
期　　間：２００９年8月２９日～8月３０日
依頼機関：個人研究
○名　　称：タウワインミアブ化石産出状況調査（伊良部島）
期　　間：２００９年１１月2日～１１月４日
依頼機関：個人研究
○名　　称：共同研究事業にかかる発掘調査（南城市武芸洞）
期　　間：２００９年１１月１６日～１１月３０日
○名　　称：石垣市野底近世墓調査（石垣市）
期　　間：２００９年1月１９日～２０日

依頼機関：琉球大学医学部
○名　　称：石垣島新空港建設予定地内洞穴調査（石垣市）
期　　間：２０１０年1月２６日～２７日
依頼機関：沖縄県立埋蔵文化財センター
○名　　称：石垣島新空港建設予定地内洞穴調査（石垣市）
期　　間：２０１０年3月９日～１１日
依頼機関：沖縄県立埋蔵文化財センター
○名　　称：面縄貝塚石棺墓調査（鹿児島県伊仙町）
期　　間：２０１０年3月１５日～１７日
依頼機関：伊仙町教育委員会
○名　　称：鳥類骨格標本データベース研究（東京・千葉）
期　　間：２０１０年3月２３日～２５日

山崎　真治（専門員　人類）
○名　　称： 石垣島新空港建設予定地内洞穴調査（石垣市）
期　　間：２００９年7月６日～８日
依頼機関：新石垣空港建設課
○名　　称： 沖縄貝塚時代早期土器の総合的研究に係る調査（沖永良部島）
期　　間：２００９年8月２９日～8月３０日
依頼機関：個人研究
○名　　称： 共同研究事業にかかる発掘調査（南城市武芸洞）
期　　間：２００９年１１月１６日～１１月３０日
○名　　称： 石垣島新空港建設予定地内洞穴調査（石垣市）
期　　間：２００９年１２月２１日～２２日
依頼機関：沖縄県立埋蔵文化財センター
○名　　称： 石垣島新空港建設予定地内洞穴調査（石垣市）
期　　間：２０１０年1月２６日～２７日
依頼機関：沖縄県立埋蔵文化財センター
○名　　称： 石垣島新空港建設予定地内洞穴調査（石垣市）
期　　間：２０１０年3月９日～１１日
依頼機関：沖縄県立埋蔵文化財センター
○名　　称： 共同研究事業にかかる関連遺跡調査（宮古島市）
期　　間：２０１０年3月２３日～２４日

上原　成美（主任学芸員　教育普及）
○名　　称：２００９年度 海と船の博物館ネットワーク研修会への参加（東京都）
期　　間：２０１０年3月５日～７日
依頼機関：船の科学館（海と船の博物館ネットワーク事務局）

５．講演等

濱口　寿夫（博物館班班長）
○名　　称：浦西中学校校内研修「博物館活動について」
期　　間：２００９年7月２９日
依頼機関：浦添市立浦西中学校
○名　　称：学芸員講座「沖縄の天然記念物―その現状と課題」
期　　間：２００９年１１月７日
○名　　称：岐阜女子大学デジタル・アーキビスト講習会「沖縄県立博物館・美術館について」
期　　間：２００９年１１月２１日
依頼機関：岐阜女子大学
○名　　称：琉球大学教育学部生活科実習「博物館活動について」

期　　間：２００９年１２月１５日
依頼機関：琉球大学教育学部
○名　　称：国立民族学博物館国籍とパスポート研究会「沖縄県立博物館・美術館について」
期　　間：２０１０年2月１４日
依頼機関：国立民族学博物館国籍とパスポート研究会

田中　聡（主任学芸員　自然史・生物）
○名　　称：新沖縄県史編集専門部会　第２回動物班会議（沖縄県公文書館）
期　　日：２００９年8月１１日
依頼機関：（財）沖縄県文化振興会
○名　　称：天然記念物緊急調査（キシノウエトカゲ）調査嘱託員委嘱状交付式、
第一回調査会（沖縄県立博物館・美術館）
期　　日：２００９年9月８日
依頼機関：沖縄県教育委員会
○名　　称：学芸員講座「ここだけのカエルのはなし」
期　　日：２００９年１０月３日
○名　　称：学習会：末吉公園をみんなで考えてみよう「両生類・爬虫類からみた末吉公園」
（那覇市立森の家みんみん）
期　　日：２００９年１０月１２日
依頼機関：沖縄自然環境ファンクラブ
○名　　称：「沖縄諸島と奄美諸島の間でのイボイモリ（両生綱、イモリ科）の遺伝的分化」
（本多ほかと共同発表）
期　　日：２００９年１１月７日～８日
依頼機関：日本爬虫両棲類学会第 48 回大会、天理大学おやさと研究所
○名　　称：第二回西表島森林生態系保護地域設定委員会（自治会館）
期　　日：２０１０年3月４日
依頼機関：九州森林管理局
○名　　称：２００９年度沖縄県下の外来爬虫両生類対策専門家会議（ホテル日航那覇グランドキャッスル）
期　　日：２００９年3月５日
依頼機関：環境省那覇自然環境事務所

仲里　健（主任学芸員　自然史・地学）
○名　　称：「日食観察会」
期　　間：２００９年7月２２日
依頼機関：文化の杜共同企業体
○名　　称：「琉球石灰岩の堆積史と沖縄の文化」
期　　間：２００９年8月１４日
依頼機関：沖縄県立総合教育センター、琉球大学
○名　　称：学芸員講座「岩石の魅力－石が秘める過去の記憶」
期　　間：２０１０年3月１３日

羽方　誠（主任　考古）
○名　　称：学芸員講座「首里城周辺発掘」
期　　間：２００９年6月６日
○名　　称：那覇地区社会科研究会総会での講演「首里城発掘」
期　　間：２００９年8月５日
依頼機関：那覇地区社会科研究会
○名　　称：南城市立大里中学校での出前授業「骨の芸術―蝶形骨器をデザインしよう―」
期　　間：２００９年１１月９・１０・１３・１６・１７・２０日
依頼機関：文化の杜共同企業体
○名　　称：那覇市立上山中学校での出前授業「石板の表現～博物館にある線刻石板からイメージを広げよう～」
期　　日：２０１０年2月３日～５日
依頼機関：那覇市立上山中学校

崎原　恭子（主任　歴史・古琉球／近世）

○名　　称：学芸員講座「琉球使節たちの足あとを求めて～九州から関東まで～」
　期　　日：２００９年４月１１日
○名　　称：２００９年度　沖縄博物館友の会　県外研修旅行（鹿児島）の講師
　期　　日：２０１０年2月２６日～２８日
　依頼機関：沖縄博物館友の会

岸本　弘人（主任学芸員　歴史・近現代）

○名　　称：学芸員講座「八重山の歴史」
　期　　日：２０１０年2月６日

與那嶺　一子（主任学芸員　美術工芸・染織／書跡／彫刻）

○名　　称：学芸員講座「貢納布のはなし」
　期　　間：２００９年7月１８日
○名　　称：ものづくり体験プログラム　出前授業「骨の芸術　蝶形骨製品をデザインしよう」
　期　　間：２００９年１０月９日～２１日
　依頼機関：文化の杜共同企業体
○名　　称：アジア博物館研究集会（第４部）
　期　　間：２００９年１０月３１日
　依頼機関：文化庁・独立行政法人国立文化財機構
○名　　称：ものづくり体験プログラム　出前授業「わら算をつくってみよう」
　期　　間：２０１０年1月１９日
　依頼機関：文化の杜共同企業体
○名　　称：ギャラリートーク「與那嶺貞さんと作品」
　期　　日：２０１０年1月２３日
　依頼機関：浦添市美術館

平川　信幸（主任　美術工芸・絵画／陶器／漆器）

○名　　称：沖縄博物館友の会　海外研修（台湾）の講師
　期　　日：２００９年１１月６日～９日
○名　　称：学芸員講座「新発見資料＜孔子像＞を読み解く」
　期　　日：２００９年１２月５日

岸本　敬（主任学芸員　民俗）

○名　　称：２００９年度おきなわ県民カレッジ美ら島沖縄学講座「洗骨習俗と厨子甕（ジーシカーミ）」
　期　　間：２０１０年1月２３日
　依頼機関：沖縄県教育庁生涯学習振興課　生涯学習推進センター

藤田　祐樹（主任　人類）

○名　　称：「沖縄県南城市武芸洞より出土した人骨について」
　期　　日：２００９年１０月４日
　学 会 名：第６３回日本人類学会大会．
○名　　称：「港川人下肢骨と縄文人下肢骨の形態比較」
　期　　日：２００９年6月２７～２８日
　学 会 名：第７回日本旧石器学会
○名　　称：「港川フィッシャー遺跡出土の後期更新世人類の下顎骨について」
　期　　日：２００９年6月２７～２８日
　学 会 名：第７回日本旧石器学会
○名　　称：学芸員講座「形から分かる骨の研究」
　期　　日：２０１０年1月９日

山崎　真治（主任　人類）

○名　　称：学芸員講座「港川人の時代を掘る」
　期　　間：２００９年５月２日
○名　　称：「沖縄県南城市ハナンダー洞穴の発掘」
　期　　間：２００９年５月３１日
　学 会 名：日本考古学協会第７５回総会
○名　　称：「沖縄県糸満市真栄平における新発見の更新世化石産出地とその動物化石群集」（藤田祐樹、菅原広史、江田真毅と連名）
　期　　間：２００９年１０月４日
　学 会 名：第６３回日本人類学会大会
○名　　称：「沖縄県南城市武芸洞遺跡における石棺墓の新例と沖縄先史時代の葬墓制」（大城逸朗、藤田祐樹、西秋良宏、松浦秀治、近藤恵、海部陽介、坂上和弘、尾崎麦野、溝口優司、諏訪元、馬場悠男と連名）
　期　　間：２００９年１０月４日
　学 会 名：第６３回日本人類学会大会
○名　　称：「沖縄の更新世化石と武芸洞遺跡の発掘」
　期　　間：２００９年１２月１８日
　学 会 名：沖縄考古学会（１２月定例会）

６．著作論文等

濱口　寿夫（博物館班班長）
○「博物館常設展示おける入場者の観覧行動」『沖縄県博物館・美術館　博物館紀要』第３号
　２０１０年3月３１日

田中　聡（主任学芸員　自然史・生物）
○「サンゴの骨格とヒトの骨格」「標本を集め残すことの意味」『２００９年度　博物館企画展　造礁サンゴー楽園をつくった偉大な建築家ー』２０１０年2月５日

崎原　恭子（主任　歴史・古琉球／近世）
○「展示概観　琉球使節、江戸へ行く！～琉球慶賀使・謝恩使一行２，０００キロの旅絵巻～」
『平成２１年度　沖縄県立博物館・美術館　博物館特別展　琉球使節、江戸へ行く！～琉球慶賀使・謝恩使一行２，０００キロの旅絵巻～』２００９年１０月６日

與那嶺　一子（主任学芸員　美術工芸・染織／書跡／彫刻）
○『沖縄染織王国へ』新潮社　２００９年５月２５日
○「資料紹介　染織資料Ⅳ　－御絵図－」『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要』第３号
　２０１０年3月３１日

平川　信幸（主任　美術工芸・絵画／陶器／漆器）
○「殷元良「雪景山水図」に見られる技法の伝承について」
『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要』第３号　２０１０年3月３１日
○「御後絵をとりまく研究史」『首里城研究』No.１２　首里城公園友の会　２０１０年3月３１日
○「研究ノート　琉球絵画の形－孔子像のイコノロジーー」
『琉球絵画展～琉球王朝から近代までの絵画～』図録　沖縄文化の杜　２００９年

岸本　敬（主任学芸員　民俗）
○「当博物館所蔵の厨子甕の編年について」『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要』第３号
　２０１０年3月３１日

藤田　祐樹（主任　人類）
○「Pleistocene human remains from Shiraho-Saonetabaru Cave on Ishigaki Island, Okinawa, Japan, and their radiocarbon dating. 」『Anthropological Science.』 印刷中　（中川ほかと共著）

○「Mortality profiles of Late Pleistocene deer remains of Okinawa Island; evidence from the Hananda-Gama Cave and Yamashita-cho Cave I sites.」『Anthloporogical Science.』 印刷中 （久保ほかと共著）
○「石垣島にて採取したウシ骨に見られる特徴的な損傷について」『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要第３号』２０１０年３月
○「なぜなぜ科学： ハトとスズメでなぜ歩き方が違うの？」子供の科学９月号．平成２１年８月発行， 誠文堂新光社，東京．

山崎　真治（主任　人類）
○「佐賀県佐賀市大門・金立遺跡の縄文土器」『縄文時代』第２０号　２００９年５月
○「第６群土器」『愛媛県上黒岩遺跡の研究』国立歴史民俗博物館研究報告　第１５４集 ２００９年１０月
○「南城市武芸洞遺跡における石棺墓の発見」『南島考古だより』２００９年１２月（藤田祐樹と共著）
○「ガンガラーの谷と武芸洞遺跡の発掘」『ケービングジャーナル』 ２００９年１２月
○「沖縄貝塚時代早期土器に関する総合的研究」『高梨学術奨励基金年報』２００８年度　２００９年
○「南城市ウフニクガマ採集の遺物について」『南島考古』２０１０年３月（横尾昌樹、大城秀子と共著）
○「南四国における縄文時代石器群の特質」『考古学の源流』木村剛朗さん追悼論集　２００９年８月
○「佐賀平野の縄文遺跡－縄文時代における地域集団の諸相２－」『古文化談叢』第６２集　２００９年６月
○「当博物館所蔵の斧について」『沖縄県博物館・美術館　博物館紀要』第３号　２０１０年３月
○「左鎮、八仙洞と大坌坑」『沖縄県博物館・美術館　博物館紀要』第３号　２０１０年３月
○「東京大学総合研究博物館人類先史部門所蔵大森貝塚出土標本　第１部解説・写真図版」『東京大学総合研究博物館標本資料報告』第７９号　２００９年５月（初鹿野博之、佐宗亜衣子、諏訪元と連名）
○『武芸洞遺跡発掘調査概要報告書』沖縄県立博物館・美術館　２０１０年３月
○『西日本縄文文化の基礎的研究』東京大学大学院人文社会系研究科　博士学位論文　２０１０年２月

上原　久（嘱託員　学芸）
○「“イマジネージア”クラスルームについて」『沖縄県博物館・美術館　博物館紀要』第３号　２０１０年３月

宮平　真由美（嘱託員　教育普及）
○「博物館における体験的展示室の運営と課題」『沖縄県博物館・美術館　博物館紀要』第３号　２０１０年３月

７．職員研修

博物館法第４条の４は「学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」と規定しており、学芸員は学問的専門性を要求されている。最先端の知識と技術を修得し、生涯学習時代における新しい博物館の展望を持てるよう、学芸員は適宜研修を受講している。

【九州博物館協議会】
○総会・講演会
日　時：平成２１年５月２８日（木）13:30 ～ 16:30
場　所：沖縄県立博物館・美術館
参加者：開催館のため全員参加
○現地研修
日　時：２００９年５月２９日（金） 9:00 ～ 14:50
場　所：大里城跡、斎場御嶽、ガンガラーの谷
参加者：牧野浩隆、千木良芳範、翁長直樹、濱口寿夫、仲里健、與那嶺一子、岸本弘人、平川信幸、羽方誠、藤田祐樹、山崎真治、新里義和

【沖縄県博物館協会研修会】
○総会・春の研修会・現地研修
日　時：２００９年６月１８日（木）13:30 ～ 17:10（総会・春の研修会）
１９日（金） 9:30 ～ 12:00（現地研修）
場　所：沖縄県立博物館・美術館（総会・春の研修会）銘苅古基群（現地研修）
参加者：開催館のため全員参加

○秋の研修会

日　時：２００９年１０月１２日（月）14:00 ～ 17:00（研修）

１３日（火）９:00 ～ 12:00（竹富島種子取祭）

場　所：石垣市健康福祉センター

参加者：牧野浩隆、濱口寿夫、仲里健、岸本敬、岸本弘人、平川信幸

【２００９年度 海と船の博物館ネットワーク研修会】

研修者：崎原恭子（博物館班主任）、上原成美（博物館班主任学芸員）

期　間：２００９年3月５日～７日

研修地：船の科学館（東京都）

概　要：当研修は、海と船の博物館ネットワークの事務局である船の科学館が主催した「博学連携ワークショップ」と「海と船の企画展支援事業（日本財団助成）」にかかる研修会であった。

第１日目の研修のテーマは「博学連携」であり、５１館５３名の博物館関係職員、８名の学校関係者（教員）、６名の企業関係者（博物館等に関係あり）が参加した。東京国立博物館、神奈川県立生命の星・地球博物館、国立歴史民俗博物館における博学連携の実践例の紹介のあと、班別で船の科学館の展示や活動を利用して、学校関係者に来館を呼びかけるチラシ作成のワークショップを行った。班ごとに、遊びと学びを融合させるようなプログラムや視線を集めるチラシが作成された。呼びかける対象を絞り、博物館へいざなうようなチラシの作成プロセスを改めて学ぶ場となった。また、文科省の調査官より、学習指導要領の改定ポイントについての講演があった。「言語の表現と体験学習の充実」の改定ポイントと、学校現場と博物館を結ぶ提案等がなされた。

第２日目は、日本財団が主催し、船の科学館が事務局を担当している「海と船の企画展」への支援事業についての研修会であった。当支援事業始まって以来の研修会ということであったが、４６館４８名の博物館関係職員の参加があった。萩博物館（山口県）、神奈川県立歴史博物館における支援事業の実施例の紹介のあと、班別で「海と船の企画展」にかかる質問・問題点・要望（夢）の意見交換と発表が行われた。支援事業を進めていくためにも、各館の連携を促し融合に発展させる取り組みが必要であることが提唱された。書類手続きの簡素化や支援対象組織の拡大なども検討事項としてあがった。最後に、マリンワールド海の中道（福岡県）の高田浩二館長より、海と船の博物館ネットワークのあるべき姿と題した講演が行われ、「人・モノ・情報」の共有化を進め博物館の相互連携を進めるネットワークづくりの推進が提唱された。

博学連携および海と船の企画展にかかる支援事業に関する研修会であったが、全国から、博物館の現場にかかる職員が集まっていたため、それぞれの方との顔の見える交流機会を持てたことも大きな収穫であった。

ボランティアスタッフ（元船長）が船の科学館の展示解説を行っている。

博学連携のワークショップ
（テーマについての意見を各自付箋に記入し、ボードに貼り出し）

Ⅱ．展示活動

１．展示活動概要

年間の展示活動としては、常設展示を中心に、特別展１本、企画展２本、大嶺薫コレクション展及び新収蔵品展を開催することを基本としている。また、旧博物館において実施してきた「移動博物館」については、「移動展」として２００８年度からは美術館と共同で開催している。

海洋性、島嶼性の地理的要因により、沖縄県には豊かな自然環境が形成されるとともに、海を介して日本本土や中国をはじめとするアジア諸国と交流しながら独自の個性豊かな歴史、文化を創り上げてきた。常設展示では「海と島に生きる―豊かさ、美しさ、平和を求めて」をテーマとし、沖縄の自然・歴史・文化に係る総合的かつ体系的な展示を行っている。

２００９年度は薩摩藩の琉球侵攻４００年にちなみ特別展「琉球使節、江戸へゆく！」を開催したほか、企画展としては「造礁サンゴ」、「ものづくり今昔」を実施した。

（濱口　寿夫）

２．常設展

【総合展示】

常設展は、総合展示と専門分野ごとの部門展示からなり、沖縄の自然・歴史・文化を、「海洋性」と「島嶼性」という二つの側面から読み解いている。古来より、沖縄の島々は海によってたがいに隔てられると同時に、海によってアジア、太平洋地域と深く結びつけられてきた。島には固有の自然があり、人々の営みがあり、その一つひとつが沖縄県の特徴ある自然・歴史・文化を形作っている。島に息づく豊かな自然と、島をとりまく海を媒介とした人々の営みを紹介するとともに、トー（唐：中国）とヤマト（日本）との間で花開いた琉球王朝文化、そして目まぐるしい世替わりを体験してきた沖縄の近代史と戦中、戦後史を射程に入れ、常設展のメインテーマを「海と島に生きるー豊かさ、美しさ、平和を求めてー」とした。

常設展へのアプローチでは、イノー（ラグーン）に広がるサンゴ礁を足元に見ながら、あたかも島に上陸するような感覚を体験することができる。また、展示室中央に設けられた「シマの自然とくらし」のコーナーには、鹿児島から台湾まで東西１，０００キロ、南北４００キロの海域に散在する琉球列島の大小の島々を壮観できる大型ジオラマを配置し、島々の特徴ある自然・歴史・文化を情報端末機を用いて紹介している。また、人工衛星によって撮影された画像を用いて、島々を観察することができる。

○海で結ばれた人々～サークルホールの展示～

「化石の宝庫・沖縄」から発見された、さまざまな化石を展示している。クジラやアンモナイトなど、原始の海にくらした生き物をはじめ、日本人のルーツと目される１万８，０００年前の「港川人」や、その頃に生きていたリュウキュウジカ、ヤンバルクイナなどの化石が、ステージ上に展開する。また、正面のスクリーンでは、古生代から現在に至るまでの琉球列島の地史を映像で概観し、沖縄の自然・歴史・文化の旅へと誘う。

○貝塚のムラから琉球王国　へ

グスク時代になり、それぞれの地域に有力者が登場するようになると、防御などを目的とした、さまざまなグスクがつくられていく。また、有力者たちは中国への朝貢を通して文化の移入や交易に努め、富が築かれていった。各地の勢力は、やがて北山、中山、南山の３つに収斂し、激しい抗争を繰り広げる。これらの３つの勢力は、１５世紀はじめまでに尚巴志によって統一され、琉球王国が築かれた。ここからおよそ５００年の長きにわたり、首里を拠点とする王国の歴史がはじまる。

○王国の繁栄

琉球王国は独自の国家として成立したが、国内権力基盤の不安定さによって、第一尚氏から第二尚氏へ王統の交代が起こった。この時代、中国との冊封・朝貢貿易を確立していた琉球は、中国・日本・東南アジアをつなぐ中継貿易を行った。東アジアの大海原の架け橋として船を操り、国際色豊かな産物が国中にあふれるさまを謳った旧首里城正殿鐘の銘文は、往時を偲ぶ貴重な資料である。ここでは、東アジア有数の貿易国家として繁栄したあと、より強固な国家体制がつくられた琉球王国の時代を紹介する。

○薩摩の琉球支配と王国

１６０９年、薩摩島津氏の侵攻によって琉球は江戸幕府の影響下に置かれたが、中国との関係は引き続き維持された。羽地朝秀、蔡温など政治家の強力なリーダシップによって、王国の経営が行われ、近世文化が創造されていく。またこの時代、貝摺奉行所などによって優秀な工芸品が多くつくられるとともに、「中山世鑑」、「球陽」などの歴史資料が数多く著された。

○王国の衰亡

中国・日本という両大国との関係を維持しながら、王国を維持してきた琉球だが、１９世紀に入ると矛盾が深まる。農村の疲弊や首里王府の財政難などが原因で、王国の経営は行き詰まりが顕著となった。さらに、アジア進出を目指す欧米諸国の外圧が琉球に押し寄せ、王国は危機的な状況に陥った。

○沖縄の近代

１８７９年、明治政府による琉球処分が行われ、最終的に王国は消滅し、近代国家の一部として沖縄県が誕生した。しかし、しばらく旧慣温存の措置がなされ、社会の安定が図られる。その結果、土地整理による土地所有権の確立や国勢参加は大きく遅れ、資本主義の経済体制や教育制度も大正時代に入ってようやく整った。一方、日本による太平洋戦争の進捗とともに、沖縄も戦争体制に組み込まれていく。１９４５年、沖縄では住民を巻き込んだ日米両軍による地上戦が行われ、２３万余りの尊い人命が失われた。焦土と化した沖縄では、多くの貴重な文化財も焼失し、破壊された。

○戦後の沖縄

沖縄戦によって大きな戦禍をこうむった沖縄。住民たちの生活はゼロからの出発であった。沖縄の施政権は日本からアメリカに移り、２７年間のアメリカ統治に入る。米国民政府は東アジアの戦略基地として沖縄を重要視する一方、沖縄の産業や福祉、教育文化の振興に努めた。基地の機能強化が進められるなか、住民への被害も続出したため、日本への復帰運動が起こった。その結果、１９７２年に沖縄の施政権は日本へ返還されたが、多くの基地が残されるなど、未解決の問題が山積したままである。こういった状況を抱えながらも、現在の沖縄では平和を求め、「沖縄らしさ」を活かした活動が行われている。

○沖縄の今、そして未来へ

復帰後、沖縄の自然はさまざまな開発によって大きく姿を変えた。めざましい社会の変化によって沖縄が大きく変貌をとげる中、２０００年には各国首脳がこの地に集い、九州・沖縄サミットが開催された。同じ年には「琉球王国のグスク及び関連遺産群」が世界遺産に登録されるなど、今日では沖縄文化の優位性は世界に認知されるようになっている。これに伴って、沖縄を訪れる観光客や沖縄への移住者は大幅に増加し、沖縄は新たな時代をむかえようとしている。

エピローグ「沖縄の現代生活」は、県民に応募いただいた作品で構成された、まさに「現代沖縄の生活」のドキュメント資料である。

【部門展示】

総合展示室の周囲には、自然史、考古、美術工芸、歴史、民俗の５つの部門展示室を設け、収蔵資料を活用しながら、総合展示やそれぞれのテーマをより深め、特化した形での展示と位置づけている。部門展示では、取り扱うテーマに可変性を持たせ、展示替えの頻度を高める工夫を行っている。

○自然史部門展示　「生物が語る沖縄２億年」

琉球列島の成り立ちや、島の環境に適応して独自の進化をとげた生き物の世界を展示するとともに、沖縄が世界に誇る化石人類である港川人の最新の研究成果を紹介している。またジオラマ展示では、ヤンバル（沖縄島北部）、宮古島、西表島、マングローブについて自然の成り立ちを重視した展示を行っている。

○考古部門展示　「沖縄考古学の世界」

発掘調査によって出土した実物資料を用いて、人々の暮らしぶりや地域的な特徴、時代の変化などをわかりやすく紹介している。

○歴史部門展示　「モノから読む歴史」

沖縄は、独立した国家であった琉球王国の歴史に加え、近代以降、日本やアメリカなど国際社会の動向の中で、何度も世替わりを体験した。ここでは年に数回のテーマ展示を通して、沖縄をはじめ各地の様々なモノから歴史をひもとき、歴史の醍醐味や楽しさを紹介している。

○美術工芸部門展示　「琉球の美」

島々に生きた先人たちは、自分たちの生活・文化に海外との交流によってもたらされた「モノ」や「文化」を取り入れることによって、琉球の美術工芸品を生み出した。ここでは王国時代の人々の美意識を伝えながら、現代に生きる私たちにとって、より親しみやすいかたちで、１年に数回テーマを決めて展示替えを行いながら、琉球の美を紹介する。

○民俗部門展示　「沖縄の伝統とくらし」

沖縄の島々に伝わる生活文化について紹介している。村落の成り立ち、信仰と祭り、人の一生、農耕と漁労、衣食住、職人の技、変容する民俗などのテーマを設けて、「観る」、「聴く」、「触る」、「調べる」といった体験的な要素を加えた展示を行っている。

（濱口　寿夫）

３．部門展示替え

【歴史部門】

歴史部門展示室では、様々な資料から歴史をひも解いていく展示を志し、「モノから読む歴史」という大テーマを設定している。ここでは、様々なテーマに沿って年に数回の展示替えやトピック的な展示を行うなど、柔軟な展示を行う機能を備えている。

歴史部門展示室は、「那覇港～往来する人とモノ～」というテーマを通年で展示している。２００９年度は、「琉球王国の証－琉球の辞令書－」、「刻まれた歴史－石碑・拓本－」、「坂口總一郎が見た沖縄－大正～昭和初期－」の展示を部分的に行った。

以下に、それぞれの概要を紹介する。

○「那覇港～往来する人とモノ～」

主　　旨：琉球王国から国内外への玄関口として機能し、様々な人やモノが行き交った那覇港の歴史のなかでも、１７～１９世紀を中心に取り上げ、３つのテーマに分けて紹介する。「１、王国の港・那覇港」では、琉球王国の王都であり政治の中心地であった「首里」と、海上交通の要所であった「那覇」の強い結びつきを示し、「２、往来する人・モノ」では、王国の玄関口である那覇港から行き来した様々な人やモノを紹介する。「３、那覇のマチ」では、歴史読史地図を手がかりとして、「那覇四町」とよばれる地域に隣接する久米村や辻・渡地・仲島という遊郭地区、女性によるマチ（市場）のようすなど、港をとりまく人々のすがたを示す。

展　　示：通年展示

展示資料：首里那覇港図屏風（複製）、琉球国惣絵図（間切集成図）（真和志間切他）（複製）、「琉球国全図」（琉球列島並三十六島之図）　他

○「琉球王国の証－琉球の辞令書－」

主　　旨：辞令書とは、役職の任命などが記された文書のことであり、ある特定の組織や団体の内部で出される公文書を指す。約５００年続いた琉球王国では、政治や祭祀を司る国王のもと職務を持った多くの役人や神女たちが働き、国王の名で役職等を与える証明の辞令書が発給された。ここでは、国王を中心とした琉球王国の組織体制や運営等を伝える琉球の辞令書を紹介し、王国体制の証（あかし）を示す。

展　　示：２００９年７月１４日（火）～２０１０年２月７日（日）

展示資料：【重要文化財】田名家文書（第１号）（複製）、【有形文化財】宮古島下地の首里大屋子への辞令書、渡嘉敷間切の阿波連里主所安堵辞令書　　他

○「刻まれた歴史－石碑・拓本－」（「土木工事を伝える碑」）

主　　旨：琉球王国時代の沖縄では、記念碑、墓碑、国王の業績を讃える碑、伝来や由来記、名所碑など、石を素材とした多くの記念碑がつくられた。それらに刻まれた文字からは、王国時代の歴史や人々の考え方、書の文化など様々なことを知ることができる。しかし沖縄戦によって、数多くの石碑が破壊・亡失してしまった。それらは刻まれた文字や模様を写し取った拓本で補完し、石碑に刻まれた琉球・沖縄の歴史を紹介する。２００９年度は、琉球王国時代における土木工事を伝える石碑の拓本を展示した。

展　　示：２００９年２月９日（火）～２００９年５月２３日（日）

展示資料：真珠湊碑文（拓本）、比謝橋碑文（拓本）、重修天女橋碑記（拓本）

○「坂口總一郎が見た沖縄－大正～昭和初期－」

主　　旨：坂口總一郎氏（１８８７～１９６５年、和歌山県生）は、１９２０年から１９２５年まで沖縄県立第一中学校に赴任し、沖縄の動植物を研究した。また、持参したガラス乾板写真機では沖縄の風物や生物などを撮影し、その成果の一部は『沖縄写真帖』第一・二輯（１９２５年刊）に掲載された。

２００５年、坂口氏の四男・總之輔氏より、ガラス乾板写真機や戦前の沖縄を写したガラス乾板１９２枚をはじめ、沖縄で採集した植物標本、戦前の新聞、書籍等が沖縄県に寄贈された。今回の展示では、未公開のガラス乾板写真十数点を含め、坂口氏が残した戦前の沖縄の息吹を紹介した。

展　　示：２００９年３月２日（火）～２０１０年６月６日（日）

展示資料：ガラス乾板写真機、写真乾板、戦前の写真、『沖縄写真帖第壱輯』、植物標本と新聞紙、未公開ガラス乾板　他

拓本の展示風景

坂口写真等の展示風景

【美術工芸部門】

○「琉球の美」

主　　旨：琉球、沖縄は湿潤な亜熱帯地方にあり、中国、朝鮮半島、日本、東南アジアの中継地点に位置し、独立した王国を営んでいました。強い日差しは艶やかな色彩引き立て、湿った気候は生活の知恵として様々な造形を生み出しました。　また、島を取り巻く海は海上の道として文化を運んできました。こうした厳しくも豊かな自然環境と５００年の長きにわたる王朝の歴史は南海の花、琉球の美を育みました。

　美術工芸展示室では県指定文化財円覚寺関連の彫刻をはじめ沖縄県立博物館・美術館が所蔵する名品を展示公開しました。

期　　間：２００９年7月２５日（金）～２０１０年１２月３１日（日）

展示資料：紅型や読谷山花織などの染織コレクションの中から約９点、国指定重要文化財の「おもろそうし」、田名家文書、漆器作品「黒漆山水楼閣人物螺鈿机」、陶器作品「菊花皿」

○「くらしと美」

主　　旨：日々のくらしの中で琉球の人々は工芸品を使い込むことで知恵を盛り込み、豊かなかたちやもようを生み出しました。また、人々は唐旅や大和旅なかで、美しい風景を漢詩や和歌で詠み、その書にその感動をこめました。また、人々を描いた絵画には、当時のくらしとともに琉球の人々の育て上げた美意識を感じ取ることができます。

期　　間：２０１０年1月３日（日）～２０１０年5月９日（日）

展示資料：琉球王国時代の人々の姿を描いた「琉球風俗図」、「琉球風俗画帖」、季節の移ろいを示す「芭蕉経縞に経絣模様着物」、「木綿紺地経縞に経絣模様袷」などの染織資料。生活を彩った「緑釉流湯庫」、「白化粧雲文マカイ」などの漆器や陶器が展示されました。

○博物館美術工芸室企画展示　「首里円覚寺と近世仏教文化」

主　　旨：近世琉球に国王の庇護の下に繁栄した琉球の仏教も、沖縄戦でその多くが失われました。しかし、仏像などの一部の御宝物は寺院関係者や地域の人々の思いによって、あるものは戦火をくぐり抜け、あるものは瓦礫の中から大切に集められ今日まで至っています。

　企画展示では県内各地の寺院に残された御宝物とともに、当館の収蔵品を合わせて展示し、近世琉球期の仏教文化の世界を美術工芸室に再現します。

　なお、これまで、沖縄の各寺院の御所蔵する御宝物が一堂に会したことはなく、今回の企画展示が初めてのものとなります。

協　　力：龍福寺　安国寺　万松院　慈眼院　蓮華院　祥雲寺　桃林寺

企画協力：南日本新聞社　九州国立博物館

会　　期：第一期　２０１０年3月９日（火）～3月２８日（日）県内寺院御所蔵御宝物

　第二期　２０１０年3月３０日（火）～5月９日（日）館内資料

「琉球の美」の展示風景

「琉球の美」の展示風景

糸満市　蓮華院　御宝物
「観音菩薩立像　田名宗経作」

「伝田名宗経作　龍頭観音像」

（平川　信幸）

【民俗部門】

○「諸職のワザ　塩づくり」

主　　旨：沖縄の伝統的な手仕事の文化は、その自然環境や歴史の中で生まれ、時代の移り変わりとともに発展してきた貴重な文化遺産である。しかし、戦後の高度経済成長の中で、これらの伝統技術や工芸品は、新しい技術や素材に置き換えられ、生活の急激な変化とともに失われようとしている。沖縄の伝統的な製塩法もその代表例であるが、人々の生活に絶対に欠かすことのできない「塩」を得るために先人たちが生み出してきたその技術や知恵を紹介する。

期　　間：２０１０年３月２４日（火）～

展示資料：「ユシ（砂集め具）」、「ゾーリン（砂集め具）」、「サシ（砂撒き具）」「クルバシー（砂掻き具）」、「タ－ク（水桶）」、「バーキ」、「オーダー」、「塩漬け壺」

４．企画展『新収蔵品展―平成 20 年度収蔵資料―』

２００８年度に寄贈・購入・収集された諸資料を自然、歴史、美工、民俗、考古、地学の各分野に分類し、博物館３階企画展示室で展示・公開した。

初日の開会式では、牧野浩隆館長より寄贈者の皆様２０名へ感謝状が贈呈され、これに続いて、寄贈者４名と牧野浩隆館長によるテープカットが行われた。式典終了後、参観者は会場内を観覧し、８６点の展示品を興味深く鑑賞する姿が見られた。

会　　期：２００９年５月２６日（火）～６月２８日（日）
会　　場：沖縄県立博物館・美術館　企画展示室
関連催事：展示解説会
観 覧 料：大人２００円、高校・大学生１５０円、小・中学生１００円
観覧者数：１，０６１人
予 算 額：１７５，０５６円

【開催趣旨】

「新収蔵品展」は、博物館が過年度に寄贈・購入・移管等で受け入れた資料を一堂に展示・公開するとともに、今後の博物館活動の充実と発展をめざして開催するものである。

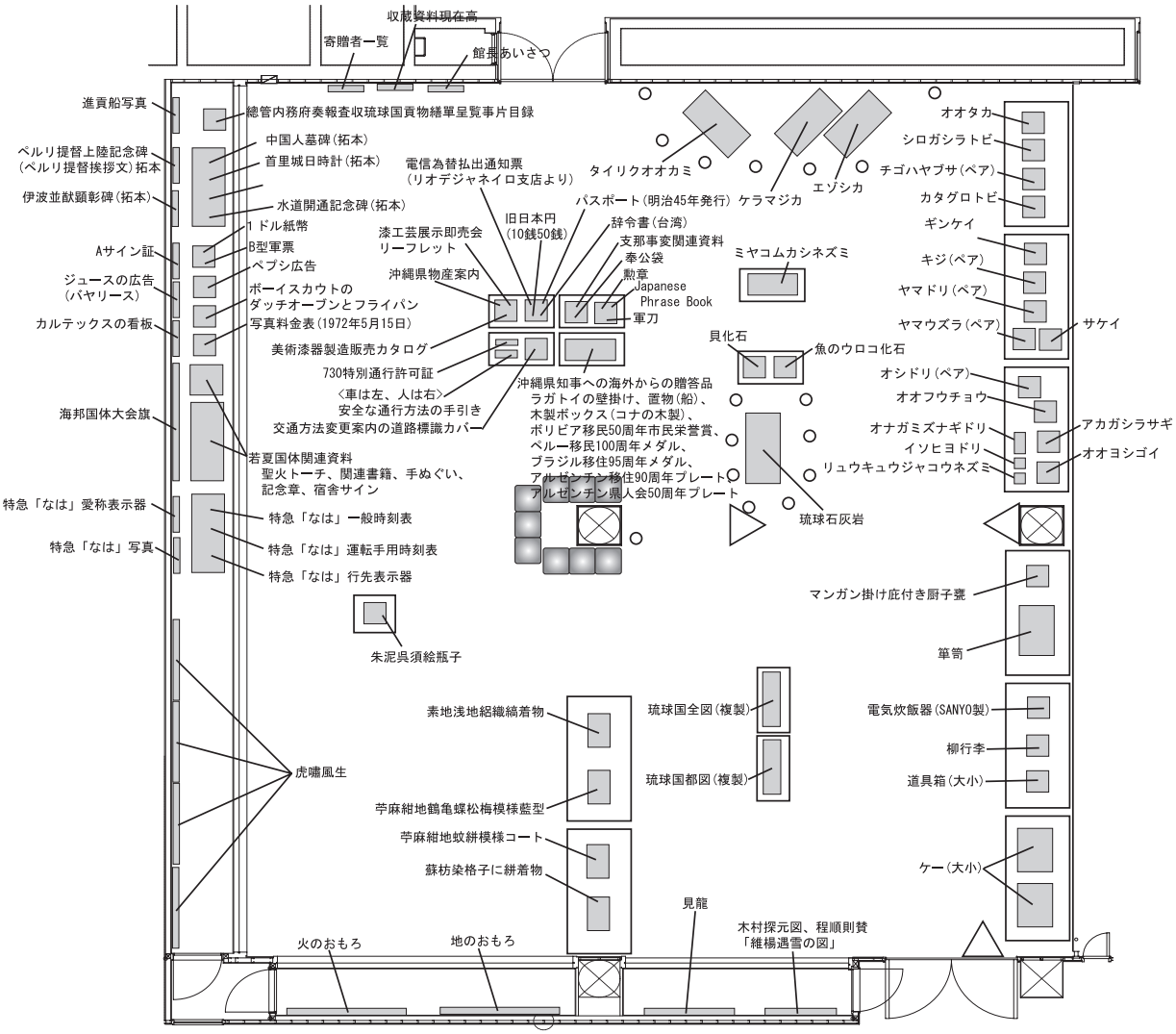
【展示内容】

２００９年度は、国内の個人や機関等から多数の貴重な資料をご寄贈いただき、収集、購入したものも合わせて１，１７６点の資料を収蔵した。

主だったものとしては､自然史分野では､ニューギニア周辺に分布する大型の極楽鳥（オオフウチョウ）の剥製、県内ではまれな冬鳥としてみられるアカガシラサギの剥製、沖縄県で発見され新種と認定された化石魚のウロコ化石、歴史分野では、１９６８年から２００８年まで関西と九州を結んだ特急列車｢なは」の愛称表示器、中村家住宅修理記など１６１件の拓本類、アメリカ統治下の沖縄で給油所に掲げられたカルテックスの看板があげられる。民俗分野では、マンガン掛け庇つき厨子甕、美術工芸分野では、琉球国全図と琉球国都図の複製や、木村探元図・程順則賛｢維楊遇雪の図」などを収蔵した。

（藤田　祐樹）

【展示平面図】



博物館企画展「新収蔵品展－平成20年度収蔵資料－」展示配置図

５．特別展「薩摩の琉球侵攻 400 年
琉球使節、江戸へ行く！～琉球慶賀使・謝恩使一行2,000キロの旅絵巻～」

会　　期：２００９年１０月６日（火）～１１月２９日（日）
会　　場：博物館企画展示室、特別展示室１・２
観 覧 料：一般９００円　高校・大学生５００円　小・中学生３００円
観覧者数：６，６８０人
予 算 額：１７，８７６，３１２円
（内、３，７７９，１４０円は日本財団「海と船の博物館企画展支援事業」の支援金）

【開催形式】

主催：沖縄県立博物館・美術館
後援：（財）海洋博覧会記念公園管理財団、（財）国立劇場おきなわ運営財団、沖縄タイムス社、琉球新報社、ＮＨＫ沖縄放送局、沖縄テレビ放送、琉球朝日放送、琉球放送、ラジオ沖縄、エフエム沖縄、タイフーンｆｍ、エフエムレキオ
協力：海と船の博物館ネットワーク、日光東照宮宝物館、日光山輪王寺宝物殿、東京都教育委員会、名古屋市鶴舞中央図書館、瑞泉寺、清見寺、一宮市尾西歴史民俗資料館、豊橋市二川宿本陣資料館、彦根城博物館、福山市鞆の浦歴史民俗資料館、広島県立歴史博物館、呉市、呉市教育委員会、満舟寺、鹿児島県立図書館、鹿児島県歴史資料センター黎明館、鹿児島市立美術館、鹿児島大学附属図書館、尚古集成館、沖縄県公文書館、沖縄県立図書館、那覇市歴史博物館、琉球大学附属図書館、金武町教育委員会、屋嘉公民館

【開催趣旨】

琉球は、１６０９年の薩摩による琉球侵攻後、徳川将軍や国王の代替わりに際して、江戸へ赴く琉球使節の派遣を行っていた。片道約２，０００㎞におよぶ旅をした琉球使節は、ルート上に位置する各地や目的地の江戸で様々な交際関係を築いていた。

本展示会では、琉球使節の旅模様を中心に、薩摩の支配という逆境を受容しながら、限定されたなかで自立を模索した琉球王国における外交戦略を示しつつ､琉球使節の果たした役割を浮かび上がらせることを目的とする。

【展示内容】

本展示会では、江戸へ派遣された琉球使節を主役とし、琉球から江戸に至る使節たちの旅を写真や地図、情報コンテンツ等を用いて情景豊かに紹介するとともに、琉球と各地との広く深いつながりを資料とともに具体的に示す。加えて、江戸へ琉球使節を派遣した意義を外交上の視点からとらえた上で、自らの状況とそれに対する戦略の解説を随所に配置する。

また、展示会をより立体的にするため、江戸への琉球使節をテーマとしたシンポジウムや文化講座を行う。さらに、契機となった薩摩による琉球侵攻をテーマとしたシンポジウムをプレイベントとして５月に実施する。

展示構成では琉球使節の旅と大和との出会いを主軸とする。薩摩の支配下に至る経緯や幕府の思惑、琉球と中国との関係、近世期の琉球の特徴はトピックとして据えた。

（展示構成）

プロローグ　琉球使節のすがた～ガイドブックに描かれた使節たち

展示の主役として登場する琉球から江戸へ派遣された琉球使節が、どのようなすがただったのか、大和で出版されたガイドブックに描かれた使節たちの絵をコラージュしたパネルを設置し、具体的なイメージが湧くような導入とした。

第一章　琉球使節の旅

１６０９年の薩摩による琉球侵攻以降、薩摩の支配下に置かれた琉球は、薩摩藩主に伴われて徳川将軍への使節派遣を行った。これは、徳川将軍や琉球国王の代替わりに対するあいさつを行うことが目的であった。琉球から約２，０００㎞にわたる江戸への長旅では、宿や馬の提供や見物人など使節を迎える様々な人々がいる一方、旅中に亡くなる者もいた。ここでは、琉球使節たちの旅をたどり、それに関わる各地のすがたを示した。

１．出発～２，０００㎞の旅へ
・トピック１：薩摩による琉球侵攻
２．鹿児島～瀬戸内海へ
３．大坂～東海道、江戸
・トピック２：冊封体制下の琉球と薩摩による琉球支配

第二章　琉球使節、将軍と会う

江戸に到着した後、琉球使節たちは旅の最大の目的である徳川将軍への謁見に臨んだ。江戸城には演奏隊による路次楽を奏でながら行列を組んで登城し、将軍へあいさつをする儀礼を行っていた。また、江戸での滞在中、初期には日光東照宮、のちに上野東照宮への参拝を行っていたことを示した。

１．将軍へのごあいさつ

・トピック３：薩摩からの自立と依存～政治・外交・経済

２．東照宮への参拝

第三章　琉球使節へのまなざし

約１年にわたる琉球使節たちの旅では、琉球から将軍や大和の各地に贈答品を贈り、文化的な交流や情報交換を行ながら、「異国」「文化的に優れた」琉球の存在をアピールしていた。一方、大和の各地では琉球使節たちへの関心が高く、使節に関する様々な書物の出版、知識人たちの琉球や中国の情報収集などに如実に現れている。ここでは、琉球使節の江戸参府をめぐる琉球側と大和側の視点を示した。

１．御取合（ウトゥイエー）～琉球からの視点

２．「琉球」への関心～大和からの視点

第四章　小国家・琉球王国の戦略～自立を模索して～

江戸へ派遣した琉球使節を送り出した琉球王国は、薩摩や幕府および中国との関係を保ちつつ、自らの立場の維持を図る一方、大和や中国の文化情報を受容しながら、独自の琉球文化を形成した。ここでは、大国に挟まれながらも、政治的・文化的な戦略から自国の生き残りを図った琉球を紹介する。

１．江戸への琉球使節派遣の変遷と琉球の思惑

２．琉球文化の発展と成熟

・トピック４：琉球使節と幕末

開会式（テープカット）

展示風景

【関連催事】

①プレイベント

名　　称：第３８４回博物館文化講座　博物館特別展プレイベント
シンポジウム「薩摩の琉球侵攻４００年を考える」

講 師 等：上原兼善（岡山大学特任教授）、紙屋敦之（早稲田大学文学学術院教授）、弓削政己（奄美郷土研究会会員）、真栄平房昭（神戸女学院大学教授）、高良倉吉（琉球大学教授）、豊見山和行（琉球大学教授）

開催日時：２００９年５月９日（土）13:30 ～ 18:30

開催場所：沖縄県立博物館・美術館　３階講堂、１階博物館講座室、美術館講座室、博物館実習室

開催形式：主催　沖縄県立博物館・美術館
共催　榕樹書林、株式会社メディア・エクスプレス

内　　容：琉球・沖縄は三山統一、薩摩による支配、明治政府による琉球処分、沖縄戦、日本への施政権の返還という大きな節目を経てきた。２００９年はそのひとつ、薩摩藩の島津氏による琉球侵攻から４００年を迎えることとなった。この事件が持つ意味についてはしばしば取り上げられてきたが、情緒的に語られる傾向が無きにしもあらずで、必ずしも学術的に整理され議論されてきたと

は言いがたい。
琉球史研究の第一人者である上原兼善氏の講演を基調とし、琉球使節の江戸参府をテーマとした博物館特別展のプレイベントと位置づけ、多方向からこの出来事を照射した視点を交えて、その実像を浮かび上がらせることを目的とする。合わせて、現代に生きる私たちにとってどのような意味を持つのかということも考える機会とする。

参加者数：５４０名

②文化講座

名　　称：第３８９回博物館文化講座
「琉球使節像の変遷と対日本関係－屈辱・偏見から「御取り合い」へ－」

講　　師：豊見山和行（琉球大学教授）

開催日時：２００９年１０月１７日（土）14:00 ～ 16:00

開催場所：沖縄県立博物館・美術館　3 階講堂

開催形式：主催　沖縄県立博物館・美術館

内　　容：特別展「琉球使節、江戸へ行く！」展関連講座として、江戸幕府に派遣された琉球使節の見方をめぐる戦前以来の言説（中国装束を強制されたなど）の誤解・誤読の考え方に対して、文書や絵巻物などの丹念な研究から引き出された新たな琉球使節像に迫る。

参加者数：１６０名

③シンポジウム（対談）

名　　称：第３９０回博物館文化講座　対談「琉球使節のすがたを求めて」

講　　師：横山　學（ノートルダム清心女子大学　生活文化研究所　所長・教授）
深澤秋人（沖縄国際大学、琉球大学、沖縄キリスト教短期大学非常勤講師）

開催日時：２００９年１１月２１日（土）14:00 ～ 17:00

開催場所：沖縄県立博物館・美術館　３階講堂

開催形式：主催　沖縄県立博物館・美術館

内　　容：特別展「琉球使節、江戸へ行く！」展関連講座として、江戸へ派遣されることに対する琉球使節の意識と各地との交流や、使節に向けられた大和の民衆・知識人のまなざし、江戸時代末期の使節に対する意識から明治維新以降の維新慶賀使を示した上で、琉球使節の果たした役割とその背景を探り、その具体的なすがたを浮かび上がらせる。

参加者数：１８０名

④特別展示解説会

名　　称：特別展示解説会「琉球楽器を語る」

講　　師：上江洲安亨（（財）海洋博覧会記念公園管理財団　首里城公園管理センター　事業課調査展示係長）

開催日時：２００９年１０月９日（金）18:00 ～ 19:00

開催場所：沖縄県立博物館・美術館　３階博物館企画・特別展示室１・２

開催形式：主催　沖縄県立博物館・美術館

内　　容：特別展「琉球使節、江戸へ行く！」展関連催事として、江戸への琉球使節が江戸城や薩摩屋敷などで披露した御座楽で使用した琉球楽器について、尾張徳川家伝来の琉球楽器（徳川美術館蔵）の調査及び復元制作に携わった立場から、講師に琉球楽器について解説を行っていただく。

参加者数：約３０名

⑤展示解説会

名　　称：展示解説会「琉球使節、江戸へ行く！」

講　　師：崎原恭子（沖縄県立博物館・美術館）

開催日時：２００９年１０月１０日（土）、１７日（土）、１１月１４日（土）、２８日（土）11:00 ～ 12:00
※１７日のみ 17:00 ～ 18:00

開催場所：沖縄県立博物館・美術館　３階博物館企画・特別展示室１・２

開催形式：主催　沖縄県立博物館・美術館

内　　容：特別展「琉球使節、江戸へ行く！」展関連催事として、展示内容を来館者に紹介する。

参加者数：延べ約９０名

⑥博物館体験学習教室

名　　称：博物館体験学習教室「行列図の巻物をつくろう」
講　　師：當間巧（表具師）
開催日時：２００９年１０月１１日（日）、１１月８日（日）9:00 ～ 12:00
開催場所：沖縄県立博物館・美術館　１階博物館実習室
開催形式：主催　沖縄県立博物館・美術館
内　　容：特別展「琉球使節、江戸へ行く！」展関連催事として、琉球使節の行列図を巻物に仕立てる体験学習を行う。
参加者数：２０名

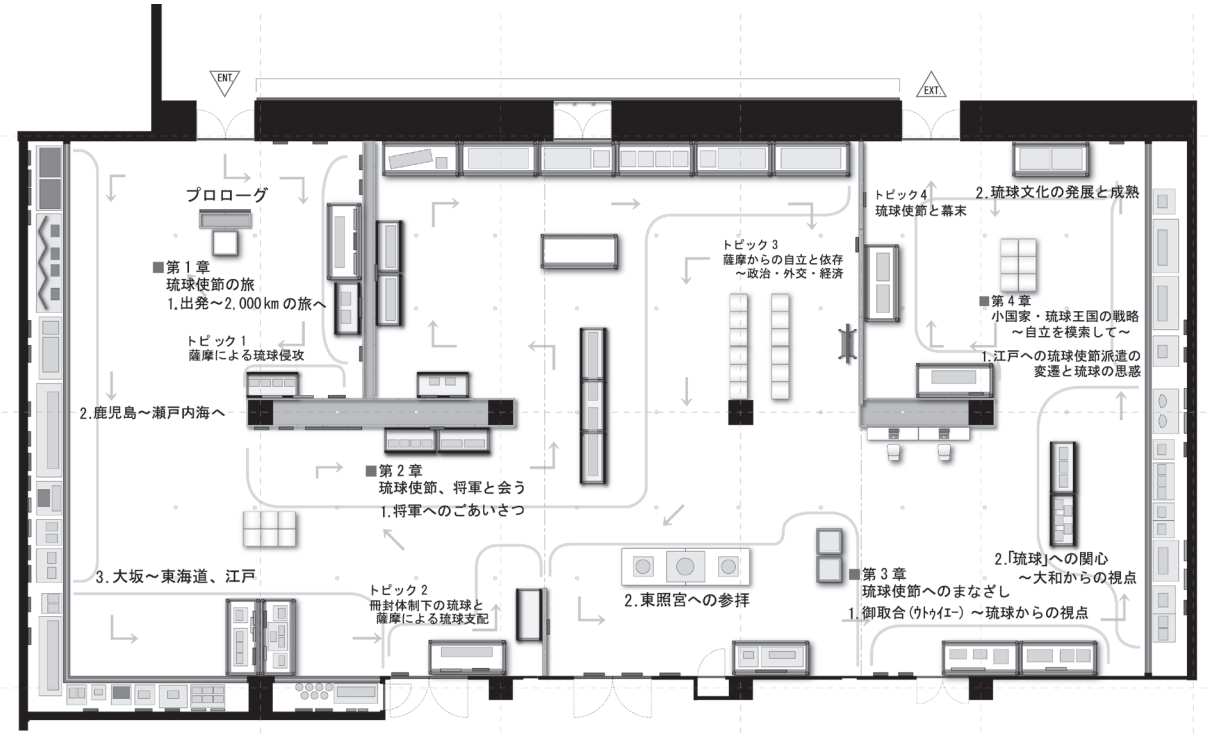
⑦路次楽の楽器体験

名　　称：路次楽の楽器を体験しよう！
開催日時：２００９年１１月１０日（火）～２９日（日）9:00 ～ 18:00
開催場所：沖縄県立博物館・美術館　１階博物館ふれあい体験室
開催形式：主催　沖縄県立博物館・美術館
　　協力　（財）海洋博覧会記念公園管理財団　首里城公園管理センター
内　　容：特別展「琉球使節、江戸へ行く！」展関連として、首里城公園管理センターにて復元された琉球使節の行列で奏でられた路次楽の楽器に触れる。

プレイベントシンポジウム（討論）

特別展示解説会

【展示平面図】



（崎原　恭子）

６．企画展 「大嶺薫コレクション－初代館長　大嶺薫の宝もの－」

会　期：２００９年１２月２２日（火）～２０１０年1月１１日（月）
会　場：沖縄県立博物館・美術館　博物館企画展示室

【開催趣旨】

１９８５（昭和６０）年3月に、沖縄県立博物館へ寄贈された大嶺薫美術館が収蔵していた大嶺薫（１９０５～１９７０）氏が収集したコレクションの概要を紹介する。

【展示内容】

大嶺薫コレクションは、故大嶺薫（１９０５～１９７０）氏が戦前・戦後をとおして収集した資料である。氏の没後、その遺志をひきついだ遺族によって、１９７１（昭和４６）年、大嶺薫美術館が設立され、沖縄の美術工芸文化に貢献してきたが、１９８５（昭和６０）年3月の美術館の閉館にともない、その3，５５０点の美術工芸資料が沖縄県立博物館へ寄贈された。

コレクションは美術工芸、歴史、考古、民俗の各分野にわたり、その収集範囲も沖縄を中心に、日本や中国、南方諸国はもとより、ヨーロッパやアメリカまでおよんでいる。

戦後､沖縄の多くの遺産が焼失あるいは海外へ散逸している。大嶺氏はその文化財の流失を憂慮し､収集しており、その業績は高く評価されるものである。展示会では氏の業績を顕彰するとともに、大嶺氏が求めた美の概要を紹介した。

【展示資料リスト】

絵　画
1　沖縄：長嶺華国「農神之図」
2　作者不詳「虎の図」
3　鄭嘉訓「文人図」
3　日本：狩野常信筆「下龍之図」
4　「寿老人之図」
5　「昇竜之図」
6　狩野尚信筆「恵比寿図」
7　「寿老人図」
8　「大黒之図」
9　狩野貞信筆「辨財天麗姿」
10　中国：沈南蘋「美女の図」（№9359）
11　胡公寿「古梅老藤図」（№9379）
12　鄭燮「蘭の図」
13　王鑑「山水図」
14　薫其昌「山水図」

書　跡
1　程順則書

陶　器
1　白釉家文入嘉瓶（№9792）
2　緑釉流角瓶（№9847）
3　緑釉流抱瓶（№9638）
4　灰釉からから（№9731）
5　灰釉瓶子（№9874）
6　飴釉飛鉋渡名喜瓶（№9640）
7　灰釉徳利（№9786）
8　シャム南蛮甕（№10156）
9　支那南蛮甕（№10147）
10　素焼徳利（№9858）

漆　器
1　朱漆沈金山水湯庫（№9489）
2　堆朱龍山水食籠（№9482）
3　黒漆内朱蓬莱模様箔絵角東道盆（№9485）
4　螺鈿唐人模様花台（№9486）

玉　器
1　白玉鎮圭
2　白紅黒玉璃龍壁
3　褐色玉山文圭
4　灰色大觿
5　青黒玉小觿
6　白玉蠕龍小穀璧
7　青玉幾何学文佩璜
8　白玉磬
9　緑玉磬
10　白玉琮

貨　幣
1　琉球無文銭
2　大世通宝
3　金円通宝
4　世高通宝
5　琉球通宝
6　琉球通宝

展示総件数：４７件
（平川　信幸）

７．企画展『造礁サンゴ－楽園をつくった偉大な建築家』

会　　期：２０１０年2月５日（金）～3月１４日（日）
会　　場：沖縄県立博物館・美術館　企画展示室
観 覧 料：大人３００円、高校・大学生２００円、小・中学生１００円
観覧者数：３，７２７人
予 算 額：７，８８９，０００円

【開催趣旨】

美しいサンゴ礁の海は本県にとって重要な観光資源であり、近海漁業にとってもサンゴ礁の存在は不可欠である。また、沖縄県のさまざまな文化はサンゴ礁から影響を受けており、近年までのくらしの中でも、サンゴおよびサンゴ由来のものがさまざまな形で利用されてきた。このように、私たちはサンゴ礁からの有形・無形のサービスを受けて生きているといえる。

ところが近年、埋め立て等の開発、オニヒトデによる捕食、白化や病気などにより、本県のサンゴ礁は危機的状況に陥っており、その機能が失われてしまうことが懸念されている。生物多様性の保全はいまや世界的にきわめて重要な課題の一つであり、海域でもっとも生物多様性の高いサンゴ礁とそれをつくりあげている造礁サンゴ類の保全は、生物多様性条約締約国としての義務であるだけでなく、私たちの存在基盤を維持する上でも見過ごすことのできない課題である。

本企画展は、褐虫藻との共生によって造礁サンゴがどのようにサンゴ礁をつくりあげるのかを軸に、造礁サンゴ類の興味深い自然誌を標本・模型・グラフィックパネル等で展示するとともに、関連催事の実施をとおして、造礁サンゴやサンゴ礁からもたらされてきた恩恵を再確認し、危機的状況にあるサンゴ礁をより健全な形で残すことの重要性を伝えることを趣旨とする。

【開催形式】

主　　催：沖縄県立博物館・美術館、沖縄県教育委員会
共　　催：NPO 法人日本ウミガメ協議会附属黒島研究所
協　　賛：沖電開発株式会社
協力機関：海と船の博物館ネットワーク、琉球大学資料館、国際サンゴ礁研究モニタリングセンター、
本部町教育委員会、恩納村教育委員会、恩納村漁業協同組合、ＮＰＯ法人ミュージアム研究会、
首里琉染、琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底実験所、（財）海洋博覧会記念公園管理財団、
琉球大学理学部海洋自然科学科、（株）キーエンス
後　　援：沖縄県サンゴ礁保全推進協議会、沖縄県高等学校理科教育研究協議会、沖縄生物教育研究会、
沖縄県理科教育協会、ＮＨＫ沖縄放送局、沖縄テレビ放送、琉球放送、琉球朝日放送、
沖縄ケーブルネットワーク、沖縄タイムス社、琉球新報社、ラジオ沖縄、エフエム沖縄、
ＦＭレキオ、タイフーン fm、（財）沖縄観光コンベンションビューロー

【展示監修委員】

西平守孝（財団法人海洋博覧会記念公園管理財団参与・東北大学名誉教授）
日高道雄（琉球大学理学部海洋自然科学科教授）

【展示内容】

プロローグ「生きものに満ちあふれた楽園－美しく、多様なサンゴ礁の世界－」
沖縄島南部のサンゴ礁を俯瞰する航空写真や魚類が群泳する水中写真のパネルを展示した。

第１章「造礁サンゴの正体は？」

造礁サンゴがふくまれる刺胞動物について、解説パネル、骨格標本やアクアリウムによる生体展示によって、その特徴と多様性を伝えた。

第２章「サンゴ礁はどのようにしてできるのか」

サンゴ礁が、造礁サンゴをはじめ、硬組織をつくる生きものの営みによって造られることや、琉球石灰岩を作り上げた生物の化石、ノッチ模型などを展示し、サンゴ礁が生物のすみ場所として重要であることを伝えた。また、沖縄のサンゴ礁地形やそこで暮らす生きものを俯瞰できる裾礁模型を展示した。

第３章「サンゴ礁はどこにあるーサンゴ礁の地理的分布ー」
緯度、海流（暖流・寒流）、大きな河川の存在、沿岸域の長さなどが、世界的にみたサンゴ礁の発達にどのように影響しているのかが一目でわかるようなグラフィックパネルを展示した。

第４章「藻類とのコラボレーションー褐虫藻との共生ー」
栄養の少ない、透明度の高いサンゴ礁海域で、サンゴ礁を発達させる上で、造礁サンゴと藻類との共生関係が重要であることを示し、さらに、藻類から得た栄養の大半を粘液という形で排出することによって、栄養的に多くの生物を支えていることをパネルで示した。また、造礁サンゴ以外の共生藻をもつ動物についても、骨格標本や生体（シャコガイ類・サカサクラゲ・有孔虫）展示により紹介した。

第５章「造礁サンゴの成長・繁殖」
造礁サンゴの多様な生殖の方法、褐虫藻を取り込む方法、褐虫藻から得たエネルギーによって、堅固な骨格をつくるしくみなどを骨格標本とパネルで伝えた。

第６章「生き残るためのさまざまな戦略」
さまざまな状況のなかで、造礁サンゴが生き残るために示すさまざまな適応戦略を紹介した。また、多様性コーナーに設置したアクアリウムでは、生きたアザミサンゴがほかのサンゴを攻撃する時に使うスウィーパー触手の動きも見せることができた。

第７章「サンゴ礁における造礁サンゴの役割」
サンゴヤドリガニの「カニこぶ」をもつ骨格標本、さまざまな生物が穿孔した後の穴のある骨格標本、パネル類により、造礁サンゴがつくる構造が、ほかのさまざまな生物に生活場所を提供していることを示した。

第８章「琉球列島の造礁サンゴの多様性」
琉球列島に分布する造礁サンゴ類の骨格標本、タイプの異なるサンゴの生体、造作壁一面に貼り付けたすべての属の写真パネルにより、琉球列島の造礁サンゴ類の多様さを伝えた。

第９章「沖縄ゆかりのサンゴたち」
沖縄の地名や人名にちなむ造礁サンゴを写真パネルで紹介した。

第１０章「サンゴ礁と人びとのくらし」
サンゴを素材として造られた生活の道具として、猪垣、ムジシリイシ、厨子甕、石臼などの資料を展示し、古来人びとの生活のなかでサンゴやサンゴに由来する琉球石灰岩が素材としていかに重宝されてきたかを伝えた。

第１１章「造礁サンゴにみられる造形」
造礁サンゴ類の骨格やポリプのさまざまな形を写真パネルで示し、視覚的に造礁サンゴの造形の面白さを伝えた。また、素材として活用されている実例として「サンゴ染」を紹介した。

第１２章「沖縄のサンゴ礁の現状と保全活動」
普及啓発活動やサンゴの養殖・移植など、サンゴ礁の保全を目指したさまざまな取り組み事例を紹介した。

エピローグ「美しいサンゴ礁を未来へ」
魚の群れる健全なサンゴ礁と死滅したサンゴ礁の水中景観の写真パネルを示し、「あなたはどちらを選びますか？」という問いかけで展示を結んだ。

体験コーナー
資料などを手に取りながらサンゴやサンゴ礁の生きものを学べるコーナーで、NPO 法人ミュージアム研究会の全面的な協力により設置することができた。

【関連催事】

１）博物館文化講座「サンゴ礁の保全と活用」

講　師：西平守孝（財団法人海洋博覧会記念公園管理財団参与・東北大学名誉教授）

期　日：２０１０年２月２０日（土）　14:00 ～ 16:00

場　所：沖縄県立博物館・美術館　講堂

２）シンポジウム「パネル座談会　サンゴ礁保全って何？」

主　催：沖縄県サンゴ礁保全推進協議会、沖縄県立博物館・美術館

期　日：２０１０年２月２７日（土）　14:00 ～ 17:00

場　所：沖縄県立博物館・美術館　講堂

３）学芸員による展示解説会

期　日：２０１０年２月１３日（土）・３月６日（土）　14:00 ～ 15:00

場　所：博物館企画展示室

４）ワークショップ　「サンゴ染め体験教室」

日　時：２０１０年３月７日（日）・３月２４日（日）　13:00 ～ 17:00

場　所：沖縄県立博物館・美術館　正面玄関外側スペース

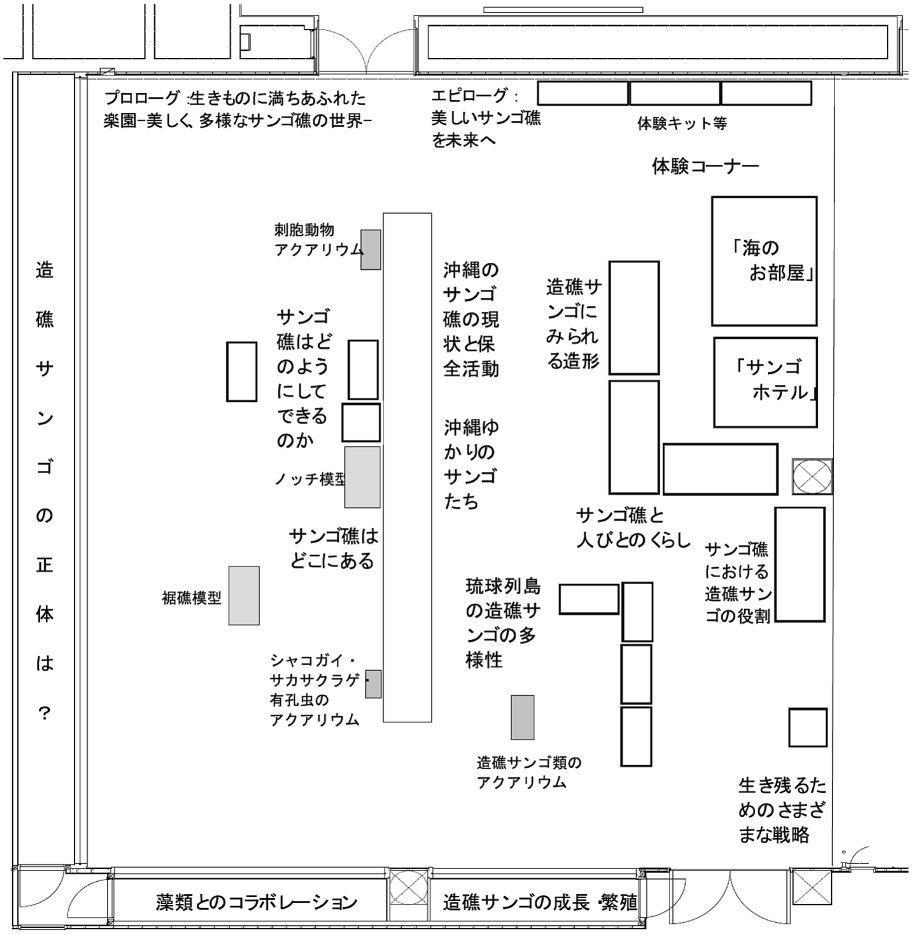
主　催：文化の杜共同企業体

協　力：首里琉染

展示会の様子

展示解説会

【展示平面図】



（田中　聡）

８．企画展「ものづくり今昔　－自然の恵みを活かす－」

会　　期：２０１０年２月１６日（火）～３月２８日（日）
会　　場：博物館特別展示室Ⅰ・Ⅱ（４５４㎡）
観 覧 料：大人３００円　高校・大学生２００円　小・中学生１００円
観覧者数：２，９０２名
予 算 額：１，９３６，０００円

【開催趣旨】

琉球列島の湿潤な亜熱帯の風土は、特異な地質、植物、動物を育み、そこにくらす人々に生きる恵みを提供してくれた。

琉球石灰岩、貝や動物の骨、シュロ、アダン、クバ、藁、竹、カヤ、バショウなどの植物…。これらの自然素材を、人々はくらしのなかでさまざまなかたちに利用してきた。古くは貝や石による斧、貝やジュゴンの骨による装飾品がつくられてきた。衣食住や生業にかかわる民具や美術工芸品は、素材の性質や形の特質が活かされ、人の知恵を盛り込み、使い込むごとに改良されてきた。沖縄の民具や美術工芸品には、くらしと共にある美があり、そこには沖縄の美意識や造形感覚が色濃く滲んでいる。

この展覧会では、自然素材にスポットをあて、沖縄の人々がくらしのなかで、それをどのように活かしてきたのか、そしてこれから、どう活かしてゆくのかを縦軸に、様々なものづくりの知恵とその美を探る機会とする。

【開催形式】

主　催：沖縄県立博物館・美術館
共　催：文化の杜共同企業体
後　援：沖縄タイムス社　琉球新報社　ＮＨＫ沖縄放送局　沖縄テレビ放送　琉球朝日放送　琉球放送　ラジオ沖縄　エフエム沖縄　タイフーン fm　エフエムレキオ
協　力：沖縄県（観光商工部工芸振興課　工芸技術支援センター）・㈱技建・沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館

【展示内容】

Ⅰ　ものづくりのはじまり

まず、人のくらした痕跡として、貝や石による斧などがあらわれる。そして、骨や貝などの装飾品が作られようになる。その形や施された装飾から、当時の人々の想いと美意識を探る。

Ⅱ　ものづくりの知恵

素材の形や性質を活かし、さまざまに加工しながら、生活のあらゆる場面で使ってきた先人の知恵を紹介する。

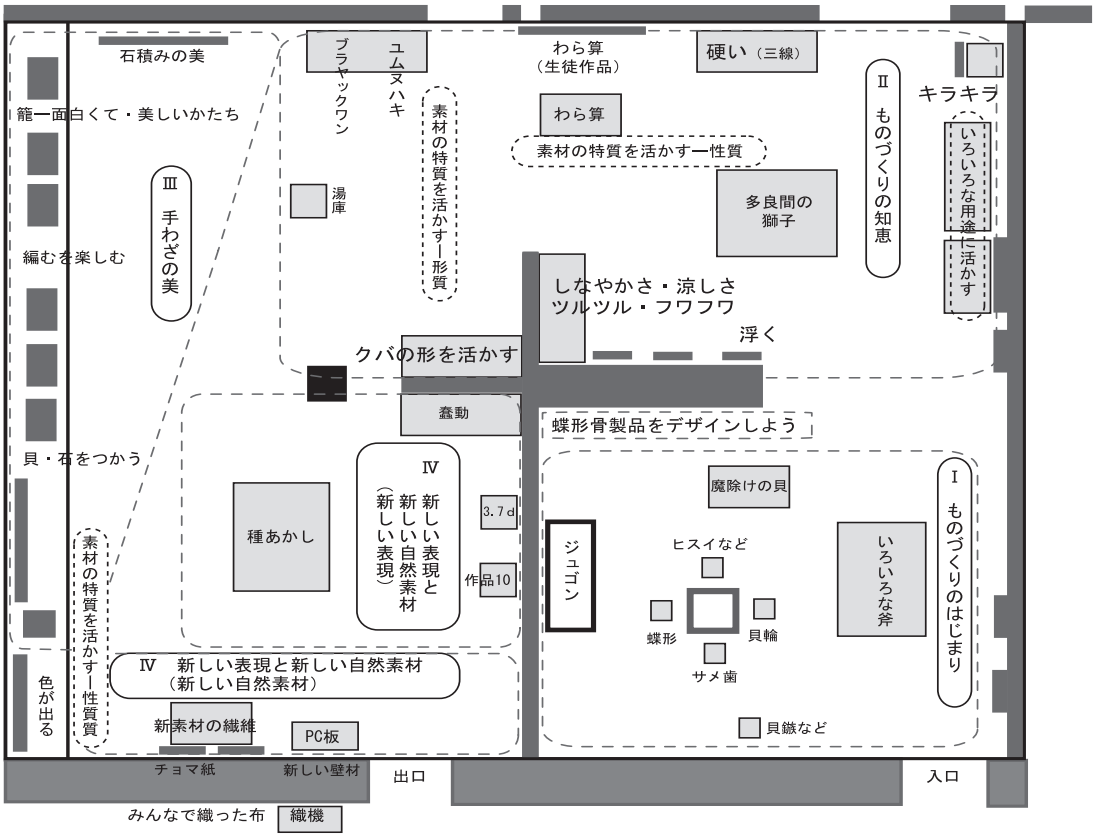
Ⅲ　手わざの美

先人たちが使ってきた、さまざまな道具や工芸品には、用いることで生まれた機能美がある。その美しさを石材、植物、貝・石などの素材別に見ていく。

Ⅳ　新しい自然素材と新しい表現

自然素材を活かしたものづくりが、今後、どのように展開してゆくのかを、自然素材の新しい活かし方や表現、また、新しく開発された沖縄の自然素材から、考える。

【展示平面図】



開会式でのテープカットの様子

展示解説会（３月６日）

（與那嶺　一子）

Ⅲ．教育普及活動

１．博物館教育普及活動の概要

博物館は資料をわかりやすく展示し、多くの人々に観覧していただくことを大きな使命としている。同時に、来館者の知的文化的な好奇心を充足させる、地域の中軸施設であることが求められている。とりわけ最近の動向として、博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者はそれぞれが様々な目的を持って来館する。このような来館者の要求により多くこたえていくため、当館では今年度も多くの教育普及事業を実施してきた。
博物館の教育普及活動では、首里の博物館時代から取組んできた活動を発展させながら、新館ならではの事業に取り組むことの２本柱で推進してきた。学校連携事業では、学校団体受入を充実した態勢を図るため、「沖縄博物館友の会」ボランティア部との連携を進めてきた。

また、２００９年度の『ウチナー探検　博物館学習ノート - 小学生版 - 』につづき、高校生版を作成した。さらに、文化講座及び展示会関連講座は「薩摩の琉球侵攻４００年を考える」を皮切りに１１回実施し、県民の皆様に多くの参加をいただき好評を得ることが出来た。その他にも、体験学習教室では、「アダン葉サバをつくろう」をはじめ５回の教室を開催し、学芸員講座を１２回、常設展展示解説会を２０回、バックヤードツアーを１１回と、特別展・企画展の展示解説会を７回とそれぞれ開催した。

中でも、「薩摩の琉球侵攻４００年を考える」のシンポジウムにおいては、当館の講座対応スペースを全て活用しても入りきれない聴講者のご参加があった。

運営面では、指定管理者制度導入にともない、事業の計画を県職員が立案し事業の実施を指定管理者が行っており、博物館が行う事業の中でも、県と指定管理者双方の連携が求められる分野の一つとなっている。博物館教育普及事業の実施に際しては、指定管理者と定期的に連絡会議を持ちながら、運営の方法を協議し、事業を推進してきた。

予　算：２００９年度の教育普及事業予算総額　　２，４３７，０００円
参加者：総数　４６，５１３名（学校団体は、学習プログラムに基づく受入れ人数）

（上原　成美）

２．学校連携事業

学校連携事業は、大きく二つの事業を実施した。一つは、各学校の計画による「団体観覧の支援」で、教育課程の一環として博物館を利用する際に、館から提供できる内容の調整を行った。学校の規模や授業の進度、生徒の実態等を含めた学校からの要望と博物館の施設・職員・ボランティアの支援体制を考慮して、学校と博物館が連携していく学習プログラムを作成した。
もう一つは、児童生徒が、展示資料を通して、調べ学習を行う際に、興味を引き出す素材としての『博物館学習ノート』の作成である。資料の観察を通して、見えないところまで興味関心を広げられるノートとなっている。２００９年度は、高校生向けを作成し小・中・高校へ配布し、多くの方が利用できるように当館のホームページにも掲載している。

【学校団体受入れ】
博物館を利用した学校団体

	小・中学校	高校・大学	特別支援	その他	小合計	合　計
県　内	206(15,350)	37(2,852)	4(88)	89(3,544)	336(2,1834)	
県　外	31(3,274)	78(8,587)	2(33)	1(42)	112(11,936)	
国　外	5(508)	3(71)	0	1(15)	9(594)	457(34,364)

※（　）内は人数。

県内学校団体の博物館見学の学習目的（学習プログラム有・自由見学など）

学習目的	小学校	中学校	高　校	大　学	特別支援	合　計
社会見学	11	4	0	0	0	15
教科	70	7	21	3	2	103
民具体験	29	0	0	0	0	29
総合的な学習の時間	19	9	5	0	1	34
施設見学	0	0	0	0	0	0
旅行的行事	61	1	0	0	0	62
その他（自由見学含む）	18	5	4	2	1	30
合計	208	26	30	5	4	273

※学習目的は重複あり

学習プログラム作成校（学習目的：重複あり）

学習目的	小学校	中学校	高　校	大　学	特別支援	県外（小中高）	合　計
プログラム作成校数	3（3601）	3（263）	0	0	0	3（44）	44(3908)
社会見学	1	0	0	0	0	0	1
教科	32	1	0	0	0	0	33
民具体験	27	0	0	0	0	0	27
総合的な学習の時間	4	2	0	0	0	0	6
旅行的行事	0	0	0	0			0
その他	5	0	0	0	0	3	8
合計	69	3	0	0	0	3	75

※（　）内は人数。

民具体験　（水の運搬）

民具講習

ボランティアによる館内ガイド説明

【『博物館学習ノート』作成】

①方針

・３年計画で、小・中・高の校種別の『博物館学習ノート』（以下「ワークシート」という。）を作成する。
・ワークシートは、２００７年度（中学生）、２００８年度（小学生）、２００９年度（高校生）の計画で作成を進める。
・これまで博物館で作成されてきた『学習ノート』の課題を考慮し、モノ（博物館資料）から出発してモノの観察をとおして、見えないところまで興味関心を広げられるようなワークシートを作成する。
・博物館において１９８９～９１年にかけて作成されたワークシートと１９９３年の『博物館においでよ』を参考に新版として作成する。
・新館の展示や体験資料の中から、児童・生徒が、観察・体感することによって、自ら学ぶように導くワークシートを作成する。
・県内の学校等より、総括１名、分野別に１名～２名（３分野）の合計５名の委員を委嘱して、博物館職員を含めた作成委員会を発足させる。

②作成委員

	氏　名	所属名	教　科
1	前　田　真　之	西原町立西原小学校	元校長
2	富　田　志　恒	沖縄県読谷高等学校	歴　史
3	仲　田　邦　彦	沖縄県立南風原高等学校	社　会
4	大　城　　勝	沖縄県立首里高等学校	生　物
5	瀬　長　英　太	沖縄県立大平特別支援学校	美　術

③役割分担

	作成委員	博物館職員
総合歴史班	前田、富田	崎原、羽方、藤田、山崎、平川、岸本（弘）
自然史班	大城	田中、仲里、濱口
民　俗　班	仲田、瀬長	岸本（敬）、与那嶺

	博物館	作成委員
テーマの選定	○	○
資料情報の提供	○	
設問作成	○	○
試案の検討		○
モニタリング	○	○
最終原稿	○	

④会議及びモニタリング

委嘱状交付及び第１回会議

目　的：委員への委嘱状を交付し、今後の会議の運営や作成に係る方針・連携のあり方について確認する。

日　時：２００９年７月３０日 15：00 ～ 17：00

場　所：博物館講座室

第２回会議『博物館学習ノート』作成委員全体会議

目　的：モニタリングにおいて収集した資料をもとに、作成委員会全体で検討し、確認する必要のある事項を協議し、内容の進化を図る。

日　時：２００９年１１月１７日 16：00 ～ 17：00

場　所：博物館講座室

モニタリング校：沖縄県立首里高等学校（９月１７日　自然史）
沖縄県立読谷高等学校（１０月２６日　総合歴史）
沖縄県立南風原高等学校（１１月２日　民俗）

３．博物館体験学習教室

沖縄の自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先人の知恵等を学ぶ機会としている。博物館の各分野（自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗）の展示と関連する体験を実施し、総合博物館としての豊かな学びの場を提供している。総参加者数は、１４７名だった。

○第１回　「アダン葉サバをつくろう」

日　時：２００９年４月２１日（日）・５月１０日（日）・６月１４日（日）
9：00 ～ 12：00

講　師：上運天研成（おもちゃの会ピノキオ会長）

場　所：博物館実習室

内　容：沖縄の民具の一つであるアダン葉でつくる草履作りを体験した。参加者は、下ごしらえ、編み込み、仕上げと博物館ボランティアのサポートも受けながら３日間かけて仕上げていった。

参加者：１６名

○第２回　「植物標本をつくろう」

日　時：２００９年７月２６日（日）・８月１６日（日）　9：00 ～ 12：00

講　師：新城　和治（元琉球大学教授）
日越　國昭（恩納村立博物館館長）

場　所：博物館実習室

内　容：浦添大公園内に自生する植物の観察・採集から標本作りまでを予定したが、採集日は集合の時点から大雨が降り、急きょ博物館実習室に移動。標本作りの説明の後、雨上がりに博物館近隣の公園での観察と押し葉の方法を学んだ。採集、押し葉は各自で行い２日目は、標本の作製方法を学習した。

参加者：４０名（親子２０組）

○第３回　「印をつくろうⅡ」

日　時：２００９年８月９日（日）・９月１３日（日）9：00 ～ 12：00
講　師：前田　賢二(書道家)
場　所：博物館実習室
内　容：博物館収蔵資料の文字から印を作ることで、資料に興味をもたせる内容とした。宜湾朝保の「福禄壽」の資料から、2.5㎝程の大きさの印材に一字を転写して彫り進めた。２日目に先生からアドバイスを受け、修正を加えて仕上げていった。
参加者：１５名

○第４回　「教師のための博物館利用講座」
日　時：２００９年８月１３日（木）・１４日（金）　9：15 ～ 15：30
講　師：上原　成美(博物館主任学芸員)
場　所：博物館講座室・博物館常設展示室
内　容：博物館を多くの児童生徒に利用してもらうため、校種別に分けて、教師向けの博物館利用講座を実施した。講座では、博物館について説明し、博物館を利用する際の学習計画やワークシートを作成した。各校種とも１日研修を行った。
参加者：４１名

○第５回　「行列図絵巻をつくろう」
日　時：２００９年１０月１１日（日）・１１月８日　9：00 ～ 12：30
講　師：當間　巧(表具師)
場　所：博物館実習室
内　容：特別展「琉球使節、江戸へ行く！」の関連イベントとして、「行列図絵巻」を作成体験した。絵巻物の基礎を学び、博物館収蔵の「江戸上り行列図」を基に巻物作りを体験した。
参加者：２０名

○第６回　「手びねりでつくる焼物」
日　時：２００９年１２月１３日（日）・２０１０年1月１０日　9：00 ～ 12：30
講　師：本田　伸明(沖縄クチャ　陶芸パートナー)
場　所：博物館実習室
内　容：博物館の陶器資料を参考にしながら、面シーサー作りを体験した。一日目に面シーサーを作り、２日目に素焼きをしたものにアクリル絵の具で彩色をした。作り手により個性がそれぞれ出て良い作品に仕上がっていた。
参加者：１５名

（上原　成美）

４．博物館文化講座

博物館文化講座は、博物館の展示内容と関連する自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野について分かりやすい内容で楽しく学習が出来ることを目的に１９７４年から始まった事業である。講演、展示解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施している。総受講者数は、1，４８４名だった。

○３８４回　シンポジウム「薩摩の琉球侵攻４００年を考える」
日　時：２００９年５月９日（土）　13:30 ～ 18:30
講　師：上原兼善(岡山大学特任教授)、紙屋敦之(早稲田大学学術院教授)、弓削政巳(奄美歴史研究会)
　　真栄平房昭(神戸女学院大学教授)、高良倉吉(琉球大学教授)、豊見山和行(琉球大学教授：司会)
場　所：沖縄県立博物館・美術館　講堂、博物館講座室、美術館講座室、博物館実習室
内　容：薩摩による琉球侵攻という出来ごとについて、様々な立場から講演が行われ、パネルディスカッションでは、より詳細な研究によった議論の必要性や、「小国」琉球の生き方をヒントに現在の沖縄を捉える可能性など、活発な意見が交わされた。
受講者：５４０名

○３８５回 「三線と沖縄の人たち」
日　時：２００９年６月２０日（土） 14:00 ～ 16:00
講　師：大城　學(財：国立劇場おきなわ調査養成課課長)
場　所：沖縄県立博物館・美術館　講堂
内　容：三線の伝来や、単に楽器としてだけでなく沖縄の人たちの心の支え、信仰的な存在としての三線についてなど興味深い事例が紹介された。
受講者：１０５名

○３８６回 「古琉球期の仏教の変遷」
日　時：２００９年７月１１日（土） 14:00 ～ 16:00
講　師：知名　定寛(神戸女子大学教授)
場　所：沖縄県立博物館・美術館　講堂
内　容：古琉球期の琉球では、寺の多くは首里那覇に集中して建立されており、庶民にはほとんど布教されていなかったことや、仏教の研究家が少なくまだ分かっていない事も多いなどの解説があった。
受講者：１９５名

○３８７回 「南極の人と自然」
日　時：２００９年８月２２日（土）14:00 ～ 16:00
講　師：渡辺興亜(国立極地研究所名誉教授、南極ＯＧ会副会長)、奥平文雄(元南極地域観測隊隊員)
場　所：沖縄県立博物館・美術館　講堂
内　容：日本の南極観測が始まって５０年余。隊員として南極観測に参加された両氏からは、南極観測の歴史、調査の成果として極地に関して分かってきた様々な事柄について、資料やスライドを使用しながら報告があった。
受講者：６６名

○３８８回 「港川人を訪ねてⅡ」
日　時：２００９年９月１２日(土) 13：00 ～ 17：00
講　師：新里尚美(八重瀬町教育委員会)、高橋　巧(ガンガラーの谷担当)
場　所：八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館、ガンガラーの谷、港川フィッシャー遺跡
内　容：沖縄島南部の港川フィッシャー遺跡や周辺の化石出土地等を巡検し、見学及び解説を行った。
受講者：４０名(定員制)

○３８９回 「琉球使節の変遷と対日本関係－屈辱・偏見から「御取り合い(ウトゥイエー)へー」
日　時：２００９年１０月１７日(土) 14:00 ～ 16:00
講　師：豊見山和行(琉球大学教授)
場　所：沖縄県立博物館・美術館　講堂
内　容：特別展「琉球使節、江戸へ行く！」の関連講座として行われ、従来の「江戸上り」は、王国時代の公的表現では「江戸立」といい、琉球と江戸幕府、琉球と薩摩藩島津氏との関係は区別すべきであるという解説がなされた。
受講者：１６０名

○３９０回 「琉球使節のすがたをもとめて」
日　時：２００９年１１月２１日（土） 14:00 ～ 17:00
講　師：横山學(ノートルダム清心女子大学教授)
　　深澤秋人(沖縄国際大学・琉球大学・沖縄キリスト教短期大学非常勤講師)
場　所：沖縄県立博物館・美術館　講堂
内　容：特別展「琉球使節、江戸へ行く！」の関連講座として二部構成で行われ、第一部では横山氏が「琉球使節へのまなざし～大和からの視点～」、深澤氏からは「琉球使節と幕末維新」についての講話がなされた。二部は会場からのアンケートに答える形式で行われた。
受講者：１８０名

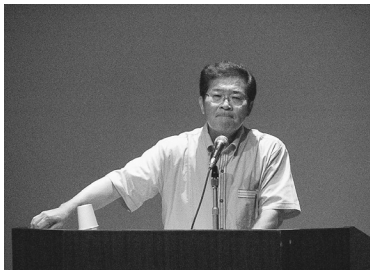
○３９１回 「身近な自然～石を観よう～」
日　時：２００９年１２月１９日（土） 14：00 ～ 16：00

講　師：加藤　祐三(琉球大学名誉教授)
場　所：沖縄県立博物館周辺
内　容：博物館屋外展示場で石製の展示資料を観察・解説後に、館を出発して近隣の建物に使用されている建築材としての岩石を観察した。
受講者：２２名

○３９２回　「殷元良の山水画～東アジアの絵画の視点から～」
日　時：２０１０年１月６日（土）　14：00 ～ 16：00
講　師：湊　信幸(東京国立博物館名誉館員・客員研究員)
場　所：沖縄県立博物館・美術館　講堂
内　容：１８世紀に活躍した琉球絵画の画家として知られている殷元良について、その歩みや作品、また、中国絵画と琉球絵画との関係、絵画の見方などの解説があった。
受講者：６６名

○３９３回　「サンゴ礁の保全と活用」
日　時：２０１０年２月２０日（土）　13：00 ～ 16：00
講　師：西平　守孝(海洋博公園管理財団参与・東北大学名誉教授)
場　所：沖縄県立博物館・美術館　講堂
内　容：講座では、サンゴ礁の多様性が維持される上での「棲み込み連鎖」の重要性や、サンゴの移植のモニタリングの成果などの報告があった。また、サンゴの保全には分布や生息状況などの早急な調査の必要性があると示唆した。
受講者：７０名

○３９４回　「グスク巡り」
日　時：２０１０年３月２０日（土）　14:00 ～ 17:00
講　師：當眞　嗣一(沖縄考古学会副会長)
場　所：沖縄県立博物館・美術館　講堂
内　容：世界遺産に指定されている沖縄島中部の中城城跡(中城村)、勝連城跡(うるま市)を巡検した。講師からは、各城跡の築城についてや琉球の歴史の中での位置づけなどの解説があった。
受講者：４０名(定員制)


「三線と沖縄の人たち」大城學氏

「身近な自然～石を観よう～」

「サンゴ礁の保全と活用」

（上原　成美）

５．学芸員講座

学芸員講座は、本館の学芸員が研究成果や収蔵品の調査成果等を報告すると共に、館を訪れる人々に博物館内部の紹介をする良い機会となっている。各分野の充実した講話は博物館をより身近に捉え、参観者の層を拡大する大切な役割を果たしている。総受講者数は、５８３名だった。

○第６回　「琉球使節たちの足あとを求めて～九州から関東まで～」
講　師：崎原恭子(歴史)　　日　時：２００９年４月１１日(土)　14:00 ～ 16:00
場　所：博物館講座室　　受講者：４５名
内　容：10 月に行われる特別展に先駆けて、琉球使節たちの足あとを実際に辿り、実際に見聞きしたものを映像資料をとおして解説した。

○第７回 「港川人の時代を掘る」
講　師：山崎真治(人類)　　日　時：２００９年５月２日(土)　14:00 ～ 16:00
場　所：博物館講座室　　受講者：３７名
内　容：港川人についての分かりやすい説明のあと、南城市ハナンダガマ、糸満市与座岳、真栄平の貴重な発掘資料について丁寧に解説した。

○第８回 「首里城周辺発掘」
講　師：羽方誠(考古)　　日　時：２００９年６月６日(土)　14:00 ～ 16:00
場　所：博物館講座室　　受講者：４３名
内　容：首里城周辺では、発掘調査が進められ新たな成果が次々に得られており、その調査の様子、成果としての発掘品等の説明をした。

○第９回 「貢納布のはなし」
講　師：與那嶺一子(美術工芸)　　日　時：２００９年７月１８日(土)　14:00 ～ 16:00
場　所：沖縄県立博物館・美術館　講堂　受講者：１０６名
内　容：近世の貢納布の制度が１６０９年の島津氏の侵攻後強化された経緯と、布の種類、課税対象者と減免者について分かりやすく説明した。

○第１０回 「先祖の残したタイムカプセル＜ジーシガーミ＞」
講　師：岸本敬(民俗)　　日　時：２００９年９月５日(土)　14:00 ～ 16:00
場　所：博物館講座室　　受講者：５０名
内　容：沖縄固有の習俗であり貴重な文化遺産である厨子甕について、写真や図を使いながら分かりやすく解説し、博物館に収蔵されている代表的な資料を紹介した。
○第１１回 「ここだけのカエルのはなし」
講　師：田中聡(自然史)　　日　時：２００９年１０月３日(土)　14:00 ～ 16:00
場　所：博物館講座室　　受講者：５４名
内　容：カエルという動物の性質、世界のなかでみた琉球列島のカエル相や分布の特徴、また近年の研究成果について紹介した。

○第１２回 「沖縄の天然記念物　その現状と課題」
講　師：濱口寿夫(班長：自然史)　　日　時：２００９年１１月７日(土)　14:00 ～ 16:00
場　所：博物館講座室　　受講者：２６名
内　容: 沖縄の天然記念物の紹介、天然記念物を保護するための文化財保護法について分かりやすく説明した。

○第１３回 「新発見資料＜孔子像＞を読み解く」
講　師：平川信幸(美術工芸)　　日　時：２００９年１２月５日(土)　14:00 ～ 16:00
場　所：博物館講座室　　受講者：４０名
内　容：２００６年に尚家の貴重な新資料４点が発見され、そのうちの１点、約８０年ぶりに確認された「孔子像及び四聖配像」について解説と説明をした。

○第１４回 「形から分かる骨の研究」
講　師：藤田祐樹(人類)　　日　時：２０１０年１月９日(土)　14:00 ～ 16:00
場　所：博物館講座室　　受講者：６６名
内　容：生物の骨の研究にこれまで携わってきたなかで気付いたことや、面白さ、骨の見方などを分かりやすく解説した。後半は、グループに分かれて実際に参加者が実物や標本を資料や図鑑を見ながら組み立てていった。

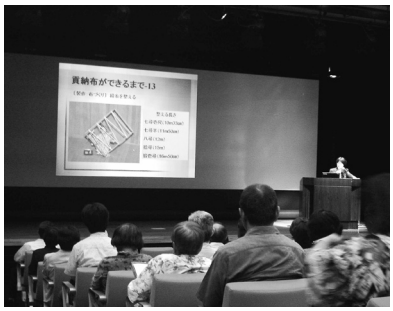
○第１５回 「八重山の歴史」
講　師：岸本弘人(歴史)　　日　時：２０１０年２月６日(土)　14:00 ～ 16:00
場　所：博物館講座室　　受講者：７４名
内　容：八重山の名前の由来やアカハチの乱、西表炭鉱での過酷な労務など八重山の歴史について、詳しいく解説した。

○第１６回 「岩石の魅力～石が秘める過去の記憶」

講　師：仲里健(自然史)　　日　時：２０１０年3月１３日(土)

場　所：博物館講座室　　受講者：４２名

内　容：身近にある通常我々が「石」と呼んでいる「岩石」について、成分や形成に至るまでのそれぞれの特徴の分かりやすい説明をした。最後に偏光顕微鏡で見た岩石の観察会を行った。



「貢納のはなし」

「形からわかる骨の研究」

「岩石の魅力～石が秘める過去の記憶」

６．展示解説会

当館では今年度、学芸員による常設展示解説会を２０回、特別展・企画展示解説会を９回行った。いずれも、展示室での解説の声の届く範囲、スムーズに移動が出来る人数として、定員を１５名とした。

常設展示解説会では、各学芸員から全体的な説明やテーマに沿った解説などがあり、参加者は興味深げに聞いていた。特別展、企画展解説会は、より詳しい展示解説と文章パネルを補う内容の話を聞けるなど、大変有意義なものとなっている。総参加人数は、４４４名であった。

常設展解説会

分　野	開　催　日	担当学芸員	参加人数(回数)
自　然　史	2009/6/11、9/10、12/10、2010/3/11	田中聡・仲里健	４４名(４回)
人　　類	2009/5/14、9/25、11/26、2010/2/25	藤田祐樹・山崎真治	５１名(４回)
考　　古	2009/7/23、2010/1/14	羽方誠	２７名(２回)
歴　　史	2009/4/23、8/27、11/12、2010/3/25	崎原恭子・岸本弘人	４４名(４回)
民　　俗	2009/6/25、12/24	岸本敬	２１名(２回)
美 術 工 芸	2009/4/9、8/6、10/8、2010/2/18	與那嶺一子・平川信幸	２１名(４回)
		合　　計	２４４名(２０回)

自然史(地質)展示解説

人類展示解説

特別展・企画展示解説会

展　覧　会　名	開　催　日	担当学芸員	参加人数(回)
特別展「琉球使節、江戸へ行く！」	2009/10/9、10/10、10/17、11/14、11/28	上江洲安亨(首里城公園管理センター学芸員)・崎原恭子	１２４名(５回)
企画展「造礁サンゴ」	2010/2/13、3/6	田中　聡	５１名(２回)
企画展「ものづくり今昔」	2010/3/6、3/26	與那嶺一子、岸本敬、山崎真治、平川信幸	２５名(２回)
		合　　計	２００名(９回)

７．バックヤードツアー

バックヤードツアーは、２名の学芸員が月に一回来館者への博物館案内も兼ねて行っており、学芸員研究室、トラックヤード、収蔵庫など普段の博物館見学では見ることの出来ない博物館の裏側を見学して巡っている。このツアーでは博物館の裏の仕事や、博物館機能を垣間見ることが出来、展示だけではない博物館の役割の多様性を体感することができる。本年度は１１回開催し、総参加人数は１４７名であった。

トラックヤード見学

８．夏休み子ども相談週間

博物館の学芸員が、夏季休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究等について、可能な限り博物館の情報を提供し、郷土への興味・関心を高めることを目的に行っている。

夏休みに入る前に学校を中心に広報を行った。夏休み期間中ということもあり小中学生の参加が多く、自然史分野での希望者が多くみられた。会場の情報センターでは、学芸員から展示資料や図書を活用した調べ方、まとめ方を聞く子ども達の一生懸命な姿が見られた。延べ参加人数４５名であった。

各分野にかたよりがあるため、今後は開催方法や広報の仕方などの工夫検討が必要であると思われる。

日　時：２００９年８月４日～６日　13:00 ～ 17:00（受付 12:00 ～）
対　象：小学生・中学生
定　員：各分野１０名（募集）
場　所：情報センター・博物館実習室

相談の様子（歴史）

相談の様子（自然史）

情報センターでの様子

９．博物館ボランティア活動

当館では、県民の自己啓発や学習の発表の場の提供、また、博物館支援活動を目的として「博物館ボランティア」を導入している。この活動は、多様化する来館者のニーズに対して、よりきめ細かなサービスへの寄与と自己学習の場となることを目指しています。

今年度は、２００９年５月１３日に認証状交式が行われ、継続の博物館ボランティア１０３名が正式登録となった。ボランティア活動の内容は、特に支援の必要となる学校団体の受入れと体験学習教室、ふれあい体験室での来館者対応を行っている。

また、新規の博物館ボランティアとして４０名程の募集に対し２３名の応募があり、５月から８月にかけて養成講座とボランティア活動の現場実習を行った。９月の新規ボランティア認証式には、２０名の方が登録し博物館友の会からのボランティア活動参加者を含めると１２６名という大規模な活動へと発展している。

１０月のボランティア専門講座では、「ふれあい体験室」「展示解説」「『博物館学習ノート』解説」を行い、より詳しく実践に繋げられる講座を開催した。

運営面では、博物館友の会のボランティア部や指定管理者（文化の杜共同企業体）との関係など、旧館とは大きく違う体制のもと、ボランティア活動をどのように計画・実施するか試行錯誤を繰り返しているところである。

本年度の博物館ボランティアの総活動人数は約１，４００人だった。

（上原　成美）

民具体験サポート

展示ガイドサポート

体験教室サポート

１０．ふれあい体験室

ふれあい体験室は、新館建設の柱の１つとして設置された施設である。博物館の入り口に位置するこの展示室では、感覚を働かせた「ふれあう」体験を通して総合展示室や部門展示室の資料に興味・関心をもってもらう窓口となっている。このような体験学習を、常設展示の１つとして設置したのは県内では初めてである。

この展示室には、体験キットと呼ばれる道具が２７種類準備されている。体験キットとは、この部屋のテーマである「自然のしくみ」や「先人の知恵」を知る目的を達成するために、組み立てや、作業を行うための道具のことで、博物館のそれぞれの分野の展示資料と、補完関係に合うように意図されたものとなっている。来館者は、資料とのふれあいや、親子、スタッフの交流といった「ふれあい」を「体験」をすることで、この部屋のテーマとなっている「自然のしくみ」「先人の知恵」にふれることができる。

当体験室には、指定管理者から交流員として４名が配属され、常時１名が来館者の対応にあたっている。また、博物館ボランティアも３交代で活動し、交流員と共にふれあい体験室の運営の大きな役割を果たしている。次年度も継続して博物館のふれあいの拠点として、運営体制の安定した枠組みを作りあげて行く必要がある。

３月には、ふれあい体験室に展示されている自然素材を使ったおもちゃ作りとして、「春休み　博物館　体験教室～お手玉とバッタづくり～」を開催した。利用者総数は、３８，４００名であった。

【春休み　博物館　体験教室】
「お手玉とバッタづくり」
日　　時：２０１０年3月２７日(土)　13:00 ～ 16:00
場　　所：博物館屋外展示　民家
参 加 費：１００円(材料費)
参加人数：４０名

すごろくで遊ぶ

着衣体験

バッタづくり

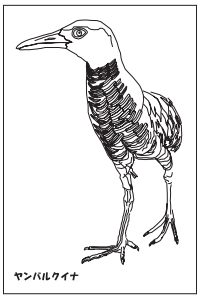
（宮平　真由美）

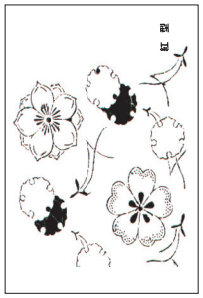
１１．フリーパス

当館では、博物館新館の開館に合わせて、県内の各小中学校を対象に「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」を作成した。①博物館・美術館を知ってもらう②施設を身近に感じてもらう③常設展は無料で入館、ということを確認してもらうために作成しており、印刷・作成は各学校にて行う。

「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」は、表面に沖縄の自然、歴史、文化に関する図柄が基本になるが、自らデザインした図柄でもよく、裏面のマス目には来館の度にスタンプを押してもらう。利用の対象は、県内の小中学生で、学校での授業の一環、または個人での来館の際に持参して利用できる。遠隔地や離島の学校生徒にはスタンプを調整するなどして配慮をし、スタンプがいっぱいになった児童、生徒には、プレゼントを用意している。

開館後、さまざまな場で紹介をしているが、学校関係者や県民の方々への周知がまだまだ徹底されていないため、今後もアピールしていく必要があると思われる。





１２．職場研修受入

学校の校内研修をはじめとする職場の研修を、博物館の教育普及との関連のある団体を受け入れ、学芸員のミニ講座と学校受け入れの概要説明等を行った。学校連携事業の中での学校団体観覧について、博物館を利用して学ぶ、学習プログラムを組み立てる、学習プログラムの流れを説明した。また、フリーパスやIPMなどの博物館が取り組んでいる内容の週知を図った。

【実施団体】
①名護市立稲田小学校(学校職員研修)　８月２６日　10：00～12：00　ミニ講座「港川人の時代を掘る」山崎真治
②那覇市地区社会科研究会(研修)　８月　４日　10：30～12：30　ミニ講座「首里城発掘」羽方誠

１３．職場体験受入

当館では、学校現場からの要請により２００３年度から学校が計画する就業体験学習を受け入れている。２００６、２００７年度は新館移転のため受け入れを中断したが、開館に伴い受け入れ態勢が整った事から２００８年度より再び受け入れている。内容や実施期間などについては、学校からの希望と博物館の状況を調整し行っているが、場合によっては指定管理者である文化の杜共同企業体にて就業体験を実施することもある。

【実施校】
①那覇市立鏡原中学校３名　２００９年９月８日～９月１０日
内容：教育普及事業、資料整理、総合案内補助等

（上原　成美）

１４．普及資料の貸出

２００９年度は「豆腐づくり道具」や「唐箕」などの貸出があった。

	団　体　名	事　業　名	貸出期間	貸出資料
1	平安病院	デイケアプログラム	２００９／７／１６	クバガサ、ガンシナ、バーキ
2	安謝保育園	地域交流の日	２００９／９／１０～１１	豆腐づくり道具 （石臼、アジマー、豆腐箱他）
3	沖縄市立高原小学校	とうふを作ろう	２００９／９／１８～３０	豆腐づくり道具 （石臼、アジマー、豆腐箱他）
4	浦添市立浦西中学校	脱穀の選別	２００９／１／２８～２／２６	唐箕
5	ＮＨＫ沖縄放送局	「うちなーであそぼ」	２００９／３／３～３／８	アダン葉サバ

唐　箕

豆腐ウーキと石臼

豆腐箱

（上原　成美）

Ⅳ. 資料収集・保存管理

1．収蔵資料現在高

２０１０年3月３１日現在

分類		購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質	611	26,479	3,048	1	30,139	55,848
	動物	1,506	18,629	512	141	20,788	
	植物	202	4,716	0	0	4,918	
	菌類	3	0	0	0	3	
人類		40	19	6	0	65	65
美術工芸	絵画	97	548	2	4	651	10,160
	書跡	180	451	49	6	682	
	彫刻	6	115	136	7	264	
	陶磁器	431	3,361	465	538	4,795	
	漆器	231	233	195	19	678	
	染織	1,289	1,704	51	27	3,071	
	その他	13	2	0	0	15	
歴史		2,839	7,865	344	126	11,174	11,174
考古		297	3,548	2,821	0	6,666	6,666
民俗		623	4,329	1,072	137	6,161	6,161
総計		8,368	71,999	8,701	1,006	90,074	90,074

2．２００９（平成２１）年度新収蔵資料高

２０１０年3月３１日現在

分類		購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質	0	5	0	0	5	6
	動物	1	0	0	0	1	
	植物	0	0	0	0	0	
	菌類	0	0	0	0	0	
人類		0	0	0	0	0	0
美術工芸	絵画	1	0	0	0	1	225
	書跡	0	4	0	0	4	
	彫刻	0	0	0	0	0	
	陶磁器	0	20	0	0	20	
	漆器	0	4	0	0	4	
	染織	192	3	0	0	195	
	その他	0	1	0	0	1	
歴史		5	35	3	0	43	43
考古		1	0	0	0	1	1
民俗		9	85	0	0	94	94
総計		209	157	3	0	369	369

３．２００９（平成２１）年度新収蔵資料目録

【購入】　　２００９年４月１日～２０１０年３月３１日

分類		資料名	数量	資料提供・購入先	
自然史	生物	サンゴ礁模型	1		
考古		貝製品（複製：浦底遺跡）	1	宮古島市教育委員会	宮古島市
歴史		復帰前の車両ナンバープレート	1		
		『漂客談記』（写本）	1	（有）榕樹書林	宜野湾市
		『沖縄対話』（上下巻）	2	（有）榕樹書林	宜野湾市
		『沖縄女性史』	1	（有）榕樹書林	宜野湾市
美術工芸	染織	白地桐板経緯絣着物	1		
		白地桐板経緯絣着物	1		
		浅地桐板経緯絣着物	1		
		白地桐板格子に緯絣着物	1		
		水色地木綿経緯絣着物	1		
		芭蕉バンジョウ経緯絣着物	1		
		芭蕉桐板経緯絣着物	1		
		芭蕉桐板経緯格子模様着物	1		
		絹芭蕉経縞緯絣着物	1		
		白地苧麻経緯絣着物	1		
		白地苧麻経緯絣着物	1		
		白地桐板格子に緯絣着物	1		
		桐板白地経緯絣着物	1		
		芭蕉経緯絣着物	1		
		木綿藍型着物	1		
		苧麻紅型着物	1		
		ラミー白地絵絣着物	1		
		木綿経緯絵絣着物	1		
		ラミー藍型着物	1		
		絹格子に絣着物	1		
		絹ヤシラミ花織着物	1		
		木綿格子に緯絣着物	1		
		久米島紬着物	1		
		白地苧麻経緯絣反物（八重山上布）	1		
		久米島紬（絹格子に緯絣）	1		
		久米島紬（絹格子）	1		
		久米島紬（絹経緯絣　）	1		
		木綿経縞に格子に絣	1		
		本場琉球絣（経緯絣　モメンコージャー）	1		
		本場琉球絣（白地絹経緯絣反物）	3		
		芭蕉ヤシラミ格子	1		
		芭蕉経緯絣	1		
		芭蕉経縞	1		
		芭蕉白地	1		
		芭蕉白地	1		
		紫地絹経縞に経緯絣着物	1		
		紺地木綿経緯絣裂（袖部分）	1		
		紺地木綿縦緯絣裂（袖部分）	1		

美　術 工　芸	染　織	紺地木綿経緯絣裂①（袵部分）	1		
		紺地木綿経緯絣裂②（袵部分）	1		
		紺地木綿経緯絣裂③（衿部分）	1		
		芭蕉・桐板経絣裂	3		
		白地絹・芭蕉経絣着物	1		
		紺地芭蕉・苧麻緯絣上着	1		
		焦茶地絹格子縞に緯絣着物	1		
		紺地木綿経緯絣着物	1		
		芭蕉経縞着物	1		
		芭蕉経縞着物	1		
		茶地絹浮織宝蔵	1		
		黄地木綿宝蔵	1		
		橙色地絹浮織宝蔵	1		
		灰色地桐板緯絣着物	1		
		紺地木綿経縞裂	3		
		芭蕉　ワンピース	1		
		紺地木綿経縞に経絣着物	1		
		芭蕉　ワンピース　ベルト付き	1		
		紫地絹経縞に経緯絣着物	1		
		橙色地紬経緯絣裂	9		
		紺地木綿経緯絣裂	9		
		茶地絹格子縞羽織	1		
		紺地木綿経緯絣着物	1		
		灰色地絹緯絣着物	1		
		紺地木綿格子縞に経緯絣着物	1		
		浅地絹花織着物	1		
		半襦袢	1		
		藤色地木綿松葉と梅楓貝藻文様帯	1		
		赤地麻葵唐草ﾃｰﾌﾞﾙｾﾝﾀｰ　他	4		
		浅地木綿麻菊ススキ蝶紋様裂	1		
		紺地木綿経縞裂	1		
		紺地木綿経縞裂	1		
		芭蕉縞入りﾃｰﾌﾞﾙｾﾝﾀｰ	1		
		芭蕉格子に緯絣ﾃｰﾌﾞﾙｾﾝﾀｰ	1		
		芭蕉経縞裂	1		
		芭蕉経縞反物	1		
		紺地絹経緯絣裂	1		
		焦げ茶地紬経緯絣裂	1		
		紺地木綿経縞に経緯絣子供着	1		
		紺地木綿緯縞裂　他	30		
		紺地木綿格子着物	1		
		紺地木綿格子着物	1		
		芭蕉経縞着物	1		
		芭蕉経縞着物	1		
		紺地苧麻経縞着物	1		
		紺地絹経縞着物	1		
		紺地木綿格子縞着物	1		
		灰色木綿型染着物	1		

美術工芸	染織	白地木綿斜縞鱗文様着物	1		
		白地木綿縞紋様着物	1		
		白地絹霞に松桜文様羽織	1		
		灰色地桐板裂	6		
		紺地木綿経縞緯絣裂	4		
		紺地木綿経緯絣裂	1		
		白地桐板緯絣裂	7		
		紺地芭蕉三ツ巴紋散らし文様帯	1		
		紺地木綿経緯絣着物	1		
		紺地木綿格子縞に経緯絣着物	1		
		紺地木綿格子縞に経緯絣着物	1		
		芭蕉緯縞緯絣袖無しﾌﾞﾗｳｽ	1		
		芭蕉格子縞裂	1		
		黄色地紬手縞裂	1		
		紺地木綿経縞に経緯絣着物	1		
		紺地木綿経緯絣着物	1		
		紺地木綿格子縞に経緯絣	1		
		紺地木綿苧麻経緯絣着物	1		
		紺地絹経緯絣袷着物	1		
		黄色地麻熨斗菖蒲文様風呂敷	1		
		紺地麻松竹梅文様風呂敷	1		
		紺地麻牡丹文様風呂敷	1		
		芭蕉経縞に経絣	1		
		桐板芭蕉経緯絣着物	1		
		白地木綿経縞に経緯絣着物	1		
		紺地木綿緯縞反物	1		
		茶地絹格子縞着物	1		
		茶地絹格子縞羽織	1		
		茶地絹格子縞着物	1		
		白地木綿格子着物	1		
		木綿紺地経緯絣羽織	1		
		紺地木綿経緯絣着物	1		
		紺地木綿型染着物	1		
		紺地芭蕉経緯縞着物	1		
		紺地木綿経縞に緯絣着物	1		
		白地絹経緯絣着物	1		
		白地苧麻経緯絣着物	1		
		焦茶地絹経緯絣着物	1		
	絵画	殷元良筆山水画	1	圓井雅選堂	大阪府
民俗		キセル一括	105		
		ダシチャグサン（シマミサオノ木で作った杖）	1	※	
		ダシカクディ（シマミサオノ木で作った釘）	1	※	
		ヒル（にんにくの魔除け）	1	※	
		ゲーン（すすき）	1	※	
		サン（すすき）	1	※	
		アザカ（リュウキュウアオキ）	1	※	
		ウニヌマタ（ムーチーの日の魔除け）	1	※	
		コーダティ（法事用の紙製飾り）	1	※	

【寄贈】　　２００９年4月1日～２０１０年3月３１日

分類		資料名	数量	寄贈者	
自然史	地質	タイワンサルボウガイ	1	宮城宏之	沖縄市
		シカ化石	4	（財）日本ボーイスカウト沖縄県連盟　理事長　宮里博史	那覇市
歴史		旅券（パスポート）	3	大城英一	沖縄市
		簪	2	永山千代	浦添市
		キセル	1	永山千代	浦添市
		万年筆	1	永山千代	浦添市
		B型軍票（10銭）	1	永山千代	浦添市
		賞状	2	永山千代	浦添市
		任命書	2	永山千代	浦添市
		叙位証書	2	永山千代	浦添市
		若夏国体大会役員用ブレザー	1	比嘉敏雄	名護市
		海邦国体大会役員用ネクタイ	1	比嘉敏雄	名護市
		若夏国体ネクタイピン	1	比嘉敏雄	名護市
		若夏国体ワッペン	1	比嘉敏雄	名護市
		若夏国体ピンバッジ	1	比嘉敏雄	名護市
		『廉姓家譜』	1	伊覇政行	うるま市
		徐葆光書「松月有餘鑒」（拓本）	1	當間　巧	うるま市
		エア・アメリカチケット半券	2	世利保彦	福岡県
		数次旅券	1	世利保彦	福岡県
		一次旅券	1	世利保彦	福岡県
		海邦国体成年男子バスケットボール競技スタッフキャップ	1	宮平真由美	西原町
		海邦国体成年男子バスケットボール競技スタッフハット	1	宮平真由美	西原町
		海邦国体スタッフ用ポロシャツ	1	宮平真由美	西原町
		海邦国体競技補助員用記念章	1	宮平真由美	西原町
		海邦国体公式記念バッジ	1	宮平真由美	西原町
		東京オリンピック記念メダル（大）	1	大城光代	那覇市
		東京オリンピック記念メダル（小）	1	大城光代	那覇市
		東京オリンピック競技観戦用座布団	1	大城光代	那覇市
		東京オリンピックロゴ入り風呂敷	1	大城光代	那覇市
		東京オリンピックロゴ入りゴミ用ビニルシート	1	大城光代	那覇市
美術工芸	書跡	甲骨文字資料竜骨四十六	1	大城立裕	那覇市
		梁嘉彬の書（梁嘉彬）	1	前里宗和	那覇市
		「敬仰國士」（蔡謙）	1	前里宗和	那覇市
		中山楽童子の書（短冊）	1	稲嶺惠一	那覇市
	陶器	線描茶碗	1	普天間キヨ子	南城市
		線描茶碗	1	普天間キヨ子	南城市
		線描茶碗	1	普天間キヨ子	南城市
		緑釉線彫り釉碗	1	普天間キヨ子	南城市
		白釉巴紋カラカラ	1	普天間キヨ子	南城市
		灰釉象嵌皿	1	普天間キヨ子	南城市
		白釉碗	1	普天間キヨ子	南城市
		宮古式土器	1	普天間キヨ子	南城市
		白釉碗	1	普天間キヨ子	南城市
		白磁呉須唐草模様皿	1	普天間キヨ子	南城市

美術工芸	陶器	白釉網目模様カラカラ	1	普天間キヨ子	南城市
		白磁海老文急須	1	普天間キヨ子	南城市
		杯	1	普天間キヨ子	南城市
		壺	1	普天間キヨ子	南城市
		緑釉茶壺	1	普天間キヨ子	南城市
		白磁酒器	1	普天間キヨ子	南城市
		ナマコ釉花瓶	1	普天間キヨ子	南城市
		タワカサー	1	普天間キヨ子	南城市
		焼締花瓶	1	普天間キヨ子	南城市
		面取り酒器	1	普天間キヨ子	南城市
	漆器	黒漆六角人物螺鈿中央卓	1	アイリス・デマーロ	北中城村
		黒漆樹下人物輪花形卓	1	アイリス・デマーロ	北中城村
		黒漆楼閣人物螺鈿平卓	1	アイリス・デマーロ	北中城村
		漆絵螺鈿丸盆	1	アイリス・デマーロ	北中城村
	染織	絹紺地経縞振袖	1	金城孝子	那覇市
		絹白地流水に鳥松菊模様着物	1	渡部淳子	京都府
		木綿紺地経縞に経緯絣着物	1	玉那覇好子	那覇市
	その他	脇差（伝　兼吉）	1	大城光代	那覇市
民俗		荷馬車の車輪	1	城間　幸子	宜野湾市
		八重山古典民謡全集	1	山城　芳枝	浦添市
		りゅうきゅう舞踊曲全集	1	山城　芳枝	浦添市
		琉球古典音楽野村流全集	1	山城　芳枝	浦添市
		絵旗・字旗	4	南城市大里大城区	南城市
		コバルト掛け厨子甕	2	儀間　敏哲	南風原町
		龕一式	1	与那国町祖納区	与那国町
		印鑑	3	宮城　春子	那覇市
		芝居用ジュラルミン製刀	1	山城　和保	那覇市
		シジチ	1	豊平　朝茂	那覇市
		ヤカン	2	豊平　朝茂	那覇市
		民具資料一括	65	越戸　康子	浦添市
		木簪（キージーファー）	2	城間　　早苗	静岡県

【寄贈】　　２００９年４月１日～２０１０年３月３１日

分類	資料名	数量	収集先	
歴史	旧首里厚生園表札	1	沖縄県福祉保健部	那覇市
	天女橋要石	1	沖縄県教育庁文化課	那覇市
	復帰 20 周年記念切手帳	1		

４．所蔵指定文化財

【国指定文化財（重要文化財)】　　２０１０年３月３１日　現在

種　別	名　　称	員　数	指定年月日	所在の場所	所有者
典　　籍	おもろさうし	22 冊	昭 48．6．6	沖縄県立博物館・美術館	沖縄県
〃	混効験集	2 冊	〃	〃	〃
工 芸 品	銅鐘（旧首里城正殿鐘）	1 口	昭 53．6．15	〃	〃
〃	梵鐘（旧円覚寺殿前鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧円覚寺殿中鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧円覚寺楼鐘）	〃	〃	〃	〃
歴史資料	明孝宗勅諭 琉球国中山王尚真宛	1 巻	平 11．6．7	〃	〃

【県指定文化財（有形文化財)】　　２０１０年３月３１日　現在

種　別	名　　称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
絵　　画	絹本着色花鳥図（殷元良筆）	1 幅	昭 54．4．9	沖縄県立博物館・美術館	沖縄県
〃	紙本着色雪中雉子の図（殷元良筆）	〃	〃	〃	〃
〃	紙本墨画竹の図（殷元良筆）	〃	昭 57．3．4	〃	〃
〃	紙本着色奉使琉球図（朱雀年筆）	1 巻	〃	〃	〃
〃	紙本着色冊封使行列図	〃	平 15．7．11	〃	〃
彫　　刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書木札	1 躯 1 枚	昭 31．12．14	〃	〃
〃	世持橋勾欄羽目	1 括	〃	〃	〃
〃	旧円覚寺関係木彫資料	35 点	平 15．7．11	〃	〃
工 芸 品	三線江戸与那	1 丁	昭 31．12．14	〃	〃
〃	聞得大君御殿雲龍黄金簪	1 本	〃	〃	〃
〃	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1 合	〃	〃	〃
〃	黒塗堆錦山水絵大文庫	〃	〃	〃	〃
〃	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	1 口	〃	〃	〃
〃	枝梅竹文赤絵碗	〃	昭 54．9．3	〃	〃
〃	線彫染付魚文皿	〃	〃	〃	〃
〃	色象嵌粟絵菊花皿	〃	〃	〃	〃
〃	象嵌色差面取砲瓶	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧霊応寺鐘）	〃	昭 60．6．18	〃	〃
〃	梵鐘（旧普門禅寺鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧天竜精舎鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	銅鐘（旧天尊殿鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	銅鐘（旧天妃宮鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	銅鐘（旧一品権現鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧大安禅寺鐘）	〃	昭 63．4．12	〃	〃
〃	黒漆薔薇堆錦軸盆	1 枚	平 2．2．6	〃	〃
〃	黒漆山水楼閣人物螺鈿机	1 基	〃	〃	〃
〃	朱漆山水楼閣人物箔絵丸型東道盆	1 具	〃	〃	〃
〃	朱漆巴紋牡丹沈金大御供飯	〃	〃	〃	〃
〃	白密陀山水楼閣人物漆絵箔絵角盆	1 枚	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧永福寺鐘）	1 口	〃	〃	〃
〃	三線盛嶋開鐘附胴	1 丁	平 6．3．15	〃	〃
書　　跡	程順則の書	1 巻	昭 42．4．11	〃	〃
〃	扁額「徳高」 鄭元偉書	1 面	平元．9．29	〃	〃
〃	扁額「凌雲」 林麟焻書	1 面	〃	〃	〃
古 文 書	宮古島下地の首里大屋子への辞令書	1 幅	昭 31．12．14	〃	〃
〃	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	1 通	昭 53．4．1	〃	〃
〃	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1 幅	昭 56．3．20	〃	〃
典　　籍	評定所格護定本　中山世鑑	6 冊	昭 31．12．14	〃	〃
〃	評定所格護定本　中山世譜	19 冊	〃	〃	〃
歴史資料	銅鐘残欠（旧波上宮朝鮮鐘）	1 口	昭 60．6．18	〃	〃
〃	安国山樹花木記碑	1 基	平元．9．29	〃	〃

５．修理事業

博物館資料は貴重な資料であり、その多くは同じ物を二度と収集することができないものばかりである。収集した資料を博物館では温湿度を管理し万全の処置を講じているが中には不幸にも収集した時点で破損してしまっていたり、長い時間の経過に耐えきれず劣化してしまっているものもある。

本事業はこうした資料の状態を改善し、永く県民の重要な財産として継承し、将来的に展示の質の向上を図ることを目的とする。

【事業内容】

１．資料名：廉姓世系図　　冊子　１冊
　　李白観瀑図　　軸装　１幅

２．修理内容

廉姓世系図　冊子１冊

①修繕前に写真撮影を行い状態を調査
②汚れやセロハンテープの除去
③裏打ちを行い、資料の状態を強化し法量を調整。
④糊は化学糊を一切使用しない。
　料紙は伝統的な方法で制作された漉紙のみを使用する。
⑤修復の際は必ず科学分析を行う。

李白観瀑図　　軸装　１幅

①修繕前に写真撮影を行い状態を調査
②汚れを除去
③表具装解体
④裏打ちを行い、資料の状態を強化し法量を調整。
⑤糊は化学糊を一切使用しない。
　料紙は伝統的な方法で制作された漉紙のみを使用する。
⑥太巻添軸ならびに印籠箱を新調する。
⑦修復の際は必ず科学分析を行う。

３．修理業者：石川堂
（代表：当間　博、沖縄県うるま市石川 2738-11- 2F）

４．予算執行額：￥７，８５６，０００

修復後の李白観瀑図

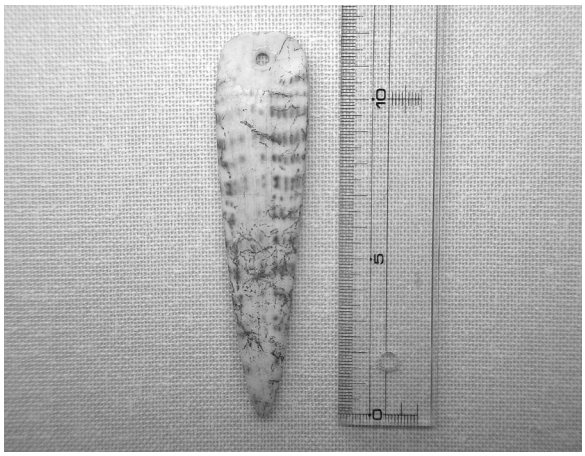
（平川　信幸）

６．レプリカ等製作事業

本事業は、当館常設展示室の展示および今後開催する様々な企画展・特別展に対応するため、レプリカ・剥製・模型等を製作することを目的としている。

２００９年度は、浦底遺跡出土のイモガイ製垂飾品（宮古島市教育委員会所蔵）の複製品１点を委託製作した。

（羽方　誠）



イモガイ製垂飾品

７．化石資料受入事業

現在群馬県立自然史博物館館長の長谷川善和氏より、１９９５年、沖縄県立博物館に沖縄県産動物化石が寄贈された。その数は３万点を超える膨大な資料であったため、１９９５年から資料の整理と、研究、活用、収蔵資料の充実を目的とし、現在まで資料整理事業が行われてきた。

【経過】

１９９４年に資料の受け入れ後、リュウキュウジカとリュウキュウムカシキョンの分類と調査研究がおこなわれた。また、１９９６年にはミヤコノロジカの骨格複製（レプリカ）を作成した。

２００４年には、これまで整理作業が終了しているものについて「長谷川コレクション　琉球列島産化石資料一覧」を作成し、発行している。

２００８年には、宮古島ピンザアブ洞穴産のケナガネズミ化石が研究の結果新種のネズミであることが報告され、２００９年に「ミヤコムカシネズミ」と命名された。

【これまでの事業内容と実績】

○受入資料の整理作業
　収蔵資料の台帳整理
　未登録資料の分類・整理作業
　岩石・鉱物資料の同定、分類
　登録後の資料の計測とナンバリング

○受入準備
　整理容器等の購入・発送

○データベースの整理作業

【２００９年度の実績】

博物館・美術館収蔵事業整備事業が行われ、前期・後期合わせて４名の職員を配置することができた。それにより、未整理であった琉球列島産出化石の①化石の分類、②ナンバリング、③資料計測、④写真撮影、⑤コンテナへの整理、⑥整理棚への振り分け、⑦子台帳の作成はおおよそ終了した。その結果をCDにまとめ、群馬県立自然史博物館館長の長谷川善和氏へ報告を行った。おおよその内訳を下記に記す。

宮古島ピンザアブ洞穴産シカ化石…… 約２，８９０点
宮古島ピンザアブ洞穴産ハタネズミ化石…… ７１８点
宮古島ピンザアブ洞穴産ミヤコムカシネズミ化石…… 約２，９５０点
伊江島ゴヘズ洞穴産シカ化石…… 約５５，５７０点（内破片等２１，５１２点）
港川フィッシャー産トリ化石…… ６１点
知念村ジープ洞シカ化石…… ３，０１５点
下地原洞穴産シカ化石…… ５５２点
南大東島産アホウドリ化石…… ２１９点
その他…… 約３５０点
合　計…… 約６６，３００点

上記に示した点数は、整理が済んでいるものだけで、まだ未分類のものや破片などの分類ができない資料については、現時点で記載していない。また、今後も長谷川氏からの寄贈が期待されるため、この事業の継続的な実施を行う必要がある。

写真１　棚の様子

写真２　コンテナ内部

写真３　コンテナ内部

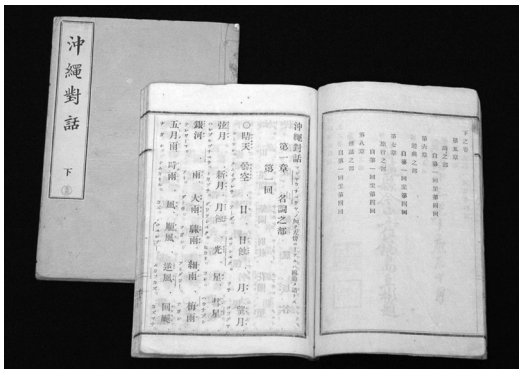
写真４　瓶による保管

（仲里　健）

８．資料収集事業　－資料収集－

資料収集事業は、文化財の収集活動によって沖縄の遺産を保存管理し、調査研究を踏まえた展示を通して、本県の教育文化の振興・向上をめざした事業である。常設展示において魅力ある展示を構成する上では、欠落している部分があるので、資料収集事業は不可欠である。本事業では、沖縄における文化及び自然史的価値の高い資料を計画的に収集し、展示や研究を深め、教育文化の振興や向上に資する事業を行っている。

平成２１年度は、民俗資料及び歴史資料を購入した。民俗資料はキセル一括である。いずれも沖縄で製作されたものであり、石製、陶製（荒焼・上焼）が含まれる。キセルは旧住宅や墓所、蔵骨器などに残されている場合があるが、まとまってでてくることはほとんどない。沖縄の風俗史・工芸史上貴重な資料である。歴史資料では、１９世紀から近現代にかけての資料を購入した。『漂客談記』（写本）（１８５４年写）は、江戸時代（１９世紀半ば)、漂流のすえに渡米し学問を修めて帰国した土佐藩出身の中浜万次郎（ジョン万次郎）を幕府や藩が取調べた記録の写しである。『沖縄対話』（上下巻）（１８８３年再刊）は、明治政府による琉球処分（１８７９年）後の１８８０年、沖縄県学務課によって共通語と方言を併記して作成された最初の教科書である。『沖縄女性史』（初版本）は、伊波普猷編著で１９１９年に小沢書店（那覇）から発行された書籍である。表紙には沖縄出身の画家･彫刻家として活躍した山田真山の描いた女性の絵が使用されている。「復帰前の車両ナンバープレート」は、アメリカ統治下におかれた戦後から１９７２年までに米軍車両や沖縄の民間車両に取り付けられていたナンバープレートである。なかでも、「RYUKYU ISLANDS」の文字が示されているナンバープレートは博物館の資料でも欠けていたため、収集すべき必要性を備えていた。



『沖縄対話』（上下巻）

復帰前の車両ナンバープレート

（崎原　恭子）

９．資料収集事業　－基金－

沖縄県立博物館・美術館の収蔵資料は、沖縄の歴史・文化史を語るため後世に伝えるべき資料である。中でも先の大戦で戦火を潜り抜けてきた琉球王国時代の資料は文化的価値の高いものであり、当館ではこのような資料を収集し常設展や企画展を活性化させることにより、県民の資質の向上と先人の知恵を学ぶ場を提供し、豊かな沖縄の創造を目指している。

また､資料購入活動の一つである､沖縄県美術品等取得基金（以下「基金」という）は貴重な琉球資料を購入し、流失させないことを目的の一つとしている。

沖縄県立博物館・美術館では、沖縄の歴史文化の高さと豊かさをあらわす琉球資料を、今後も基金により収集を継続し、展示会等の活動を活性化させていく。

【進捗状況】

２００８．１１．６　第３回沖縄県立博：物館美術品等収集委員会開催
１２．１０　第３回沖縄県立博：物館美術品等収集委員会開催の審議結果
美術品等取得計画書の作成依頼
１．１５　美術品等取得計画書の作成依頼
２．２６　備品購入（教育長決裁）
３．３１　契約業者より、収集美術品を納品

２００９．８．１２　第４回沖縄県立博：物館美術品等収集委員会開催
１０．２２　第４回沖縄県立博：物館美術品等収集委員会開催の審議結果
１２．２２　美術品等取得計画書の作成依頼

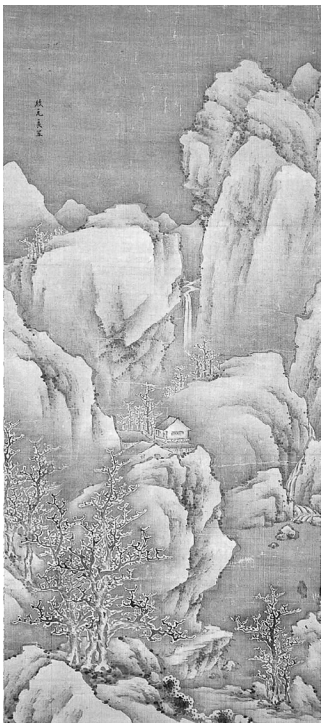
【購入資料調書】

番号１　殷元良筆山水画

県立博物館・美術館には花鳥画はあるが、殷元良作品の山水画は収蔵しておらず、コレクションを考える上でも本作品は重要である。　殷元良は中国絵画を学びながらも、山水のみならず花鳥、人物などの分野においても、独自の表現を求め、非常に多様な画風を確立したと思われるが、本作品の樹木や雪景にみられる筆墨法は、他の殷元良の作品に共通する独特のものであり興味深い。

本作品は殷元良および琉球絵画の研究の上で重要な資料といえ、公的な博物館において保存し、研究と展示に供されることが望まれる。

さらに、本作品は殷元良が中国の華北系山水画の様式を学んだことを示す新資料として注目すべきものがある。


殷元良筆山水画

番号２　琉球の染織資料（桐板等織物資料）

桐板とは、琉球の織物に使われた繊維素材の一つで中国から入手していたものである。王国時代の上流階級の衣料に見られるが、昭和初期まで、高級品として扱われていた。戦後、中国との窓口が途絶えたこともあり、幻の繊維として、さらに高値で取引されている。

件１４点の染織資料の内、８件は琉装あるいは和装に仕立てられており、琉装は伝統的な琉縫いであり、和流折衷の仕立てからは和裁への変遷をたどることができる。絣模様からは当時の技術の高さが一見することができ、美術品としての鑑賞価値も高い。

番号３　琉球の染織資料（絣等織物資料）

収集予定の資料（５５件５８点）は、琉球の絣模様を中心にまとめられており、木綿、芭蕉、苧麻（上布）、紬等多岐に渡っている。藍や茶色を中心に、ムルドゥッチリ（総絣）と呼ばれる絣構成、ずびっしりと隙間なく絣を配した構成など、さまざまな絣の展開がみられ、絣研究を進めるうえで貴重な作品群である。

番号４　琉球の染織資料（型染・筒描き等染色資料）

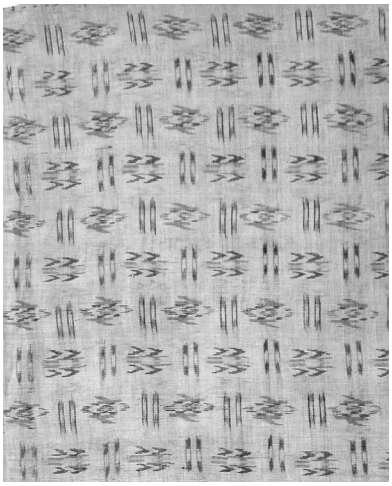
収集予定の１１件１４点の内訳は、王国末期～昭和初期の藍型（着物）、和装用の帯に仕立てた紅型布、芹沢銈介（１８９５～１９８４／１９５６年重要無形文化財の保持者に認定）作の型染帯、城間栄喜（１９０８～１９９２／１９７３年沖縄県指定無形文化財の保持者に認定）の筒描きの風呂敷などである。

番号５　琉球の染織資料（明治ー戦後復興期の染織品）

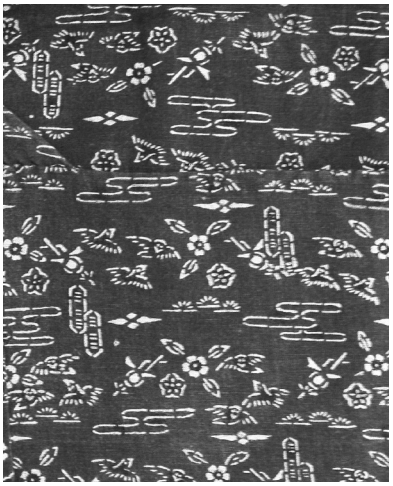
収集予定資料の内容は､琉球王国末期ー戦後の染織と装飾品の４５件（８１点）である。沖縄県無形文化財（八重山上布・本場首里の織物）の保持者や重要無形文化財保持者、戦前から戦後復興期に活躍した人物の作品が含まれており、その多くが物故者であり、今後作品の入手が困難となるものばかりである。また、その他の絣や縞織物は沖縄の衣生活を知る良い資料であり、常に展示替えを必要とする美術工芸分野においては、このようにまとめて多くの染織品を収集するのは稀である。

※資料の一部は所有者のご厚意で寄贈された。

（平川　信幸）



桐板紅地経緯絣着物



木綿藍型着物

１０．博物館・美術館収蔵資料等整理事業（２００９年度沖縄県緊急雇用創出事業）

博物館・美術館には博物館・美術館関連の約４万冊の図書資料が収蔵されているが、ほとんどがデータベース化されていないため、利活用に支障をきたしている。本事業では、博物館利用者や一般県民へのサービス向上に資するため、これら図書の基本情報をパソコン上でデータベース化し、整理基準に基づいて配架作業を行うとともに、博物館がこれまで収集した写真・画像資料、および新館移転後に新規に収蔵された資料の整理作業を実施した。

２００９年度は図書資料、地学資料、写真･画像資料、歴史資料、生物資料、美術工芸資料について整理を実施し、図書８９４１件ほかの整理を完了した。

分　野	資料件数（件）	整　理　作　業　員　氏　名	
		前　期	後　期
図　書	40,000	城間五百子　山城多恵子 上原　宙児	伊東　剛希　桃原さおり
写　真	4,500	大浜宏之　饒平名艶子　謝花　瞳	前泊　美保　田川いづみ
植　物	10,800	喜瀬一郎	高江洲　君子
歴史・民俗	2,500	伊舎堂良子　宮城啓子　与儀忠勝	新垣　汎子　池間　陽子 宮城　健栄
美術工芸	2,335	大城愛加　河野由理乃	玉城　慧子　森河　貴子
化　石	76,000	儀間志麻子　具志憲人 座間味睦美　道土井芙美子	喜納　恵美　仙波　詩織 當山留里子　渡口　賢治

（山崎　真治）

１１．資料貸出

事 業 名：２００９年度　第１０回特別企画展「イクサユーヌワラビー～戦時下の教育と子どもたち～」
主　　催：沖縄県平和祈念資料館
会　　場：沖縄県平和祈念資料館１階企画展示室
貸出期間：２００９年９月１８日（金）～２００９年１２月２１日（月）
貸出資料：戦前の教科書等　２６点

事 業 名：離島フェア２００９
主　　催：離島フェア開催実行委員会
会　　場：沖縄コンベンションセンター
貸出期間：２００９年１１月２５日～１１月３０日
貸出資料：生物関係写真パネル　３２点

美術館

Ⅰ　調査研究等の活動
Ⅱ　展示活動
Ⅲ　教育普及活動
Ⅳ　資料収集・保存管理

Ⅰ．調査研究等の活動

１．調査研究の概要

調査研究は美術館活動の、重要な柱の一つである。これまで本美術館では、収集作品調査及び、企画展開催に伴う調査研究に重点的に取り組んできた。２００９年度は、本美術館活動のさらなる充実を目指し、各学芸員が調査研究に取り組んだ。調査研究の内容は、県内外の作家及び作品に関する調査研究、作品の保存修復に関する調査研究等で、成果については２００９年度刊行の美術館研究紀要第１号に掲載している。
以下、２００９年度（平成２１年度）に当館及び学芸員が行った調査研究活動の状況を報告する。

【調査研究内容】
① 美術品の収集に関する調査研究
② 美術品の保存科学に関する調査研究
③ 美術品の修復に関する調査研究
④ 展示技術に関する調査研究
⑤ 教育普及に関する調査研究
⑥ 美術情報提供システムの活用に関する調査研究
⑦ ボランティア育成支援に関する調査研究
⑧ 美術館の振興に関する調査研究

【調査研究体制】
調査研究活動は学芸員及び嘱託員で実施し、画像を含む調査によって得られたデータは研究用データベースに保存され、展示企画及び各研究に活用されている。

（瑞慶山　昇）

２．調査・研究等

瑞慶山　昇（主任学芸員）
○名　称：企画展「安谷屋正義展」に関する作品調査
　期　間：２０１０年1月９日
○名　称：画家「大城皓也」作品調査
　期　間：２０１０年2月２３日
○名　称：県内美術品コレクター作品調査
　期　間：２０１０年2月２６日～３月５日

新里義和（主任学芸員）
○名　称：「石川直樹展」調査、「比嘉康雄展」巡回展調整（北海道・東川町）
　期　間：２００９年７月３０日～８月３日
○名　称：「石川直樹展」展覧会調整（東京）
　期　間：２０１０年３月１８日～３月２０日

豊見山　愛（主任学芸員）
○名　　称：名渡山愛順展のための聞き取り調査（全 26 回）　名渡山 愛擴（名渡山愛順遺族）
　期　　間：２００９年４月１０日～９月３日
○名　　称：名渡山愛順展のための調査（候補作品調査）
　期　　間：２００９年６月４日～６日　東京（東京藝術大学、作品所蔵者宅、東京国立文化財研究所、
　　浅尾佛雲堂＜画材店＞）
○名　　称：名渡山愛順巡回展（移動博）のための調査
　期　　間：２０１０年３月２９日～３０日　石垣市民会館（宮良殿内、石垣市博物館、桃林寺権現堂）

大城　仁美（主任学芸員）
○名　　称：タカエズトシコ展のための調査　全米日系人博物館（米国カリフォルニア州ロサンゼルス）
　　比嘉カレン氏（元全米日系人博物館タカエズトシコ展覧会担当学芸員）
　期　　間：２００９年４月１６日～４月１８日
○名　　称：タカエズトシコ展のための作品調査　タカエズトシコ氏（米国ニュージャージー州）

期　　間：２００９年４月２０日～４月２１日
○名　　称：タカエズトシコ展のための調査・作品最終調整・作品輸送
　　タカエズトシコ氏（米国ニュージャージー州）
期　　間：２００９年９月１３日～９月１５日
○名　　称：タカエズトシコ展のための作品輸送調査・調整　アトリエ４（美術品専門輸送業者）
　　（米国ニューヨーク州）
期　　間：２００９年９月１６日
○名　　称：沖縄ルーツ・シリーズのための調査　内間安寿・洋子夫妻（内間安瑆氏ご子息夫妻）
　　（米国ニューヨーク州）
期　　間：２０１０年３月３０日
○名　　称：沖縄ルーツ・シリーズのための調査　　The Contemporary Museum Honolulu, Hawaii State Art Museum,Honolulu Academy of Art, University of Hawaii Art Gallery, ハワイ在住沖縄移民系作家（Charles Higa,Ryan Higa,Lori Uyahara 他４名）
期　　間：２０１０年４月１日・３日
○名　　称：沖縄ルーツ・シリーズのための調査　塚原　操氏（ストライプハウスギャラリー）（東京）
　　※内間安瑆氏関係者
期　　間：２０１０年４月６日

３．講演等

豊見山　愛（主任学芸員）
○名　　称：校内研修会講師「豊かに学びを創る子の育成」――美術館活動と表現を高める関わらせ方―
期　　日：２００９年７月３０日（木）
依頼機関：沖縄市立越来小学校
○名　　称：第１６２回シマ研究会発表――美術家たちの「南洋群島」展を終えて
期　　日：２００８年１１月７日（金）
依頼機関：沖縄国際大学南島文化研究所

新里義和（主任学芸員）
○名　　称：文化の杜フォーラム「写真を学ぶ　写真で学ぶ」
期　　間：２００９年４月２４日
依頼機関：文化の杜共同企業体
○名　　称：那覇高校城岳講座「見るということ・伝えるということ」
期　　間：２００９年１０月１５日
依頼機関：那覇高校
○名　　称：21COCEF「いろんな場所で生まれる美術」シンポジウム
期　　間：２０１０年１月１０日
依頼機関：琉球大学・２１世紀おきなわ子ども教育フォーラム

４．著作論文等

豊見山　愛（主任学芸員）
○「名渡山愛順が愛した沖縄―　女性像にみる郷土の姿」『名渡山愛順展』沖縄県立博物館・美術館
　２００９年１０月３０日

新里義和（主任学芸員）
○「未来を写した中平卓馬」　沖縄タイムス　２００９年５月１４日
○『美術の先生は何を考えているのか。』報告集　21COCEF「２１世紀おきなわ子ども教育フォーラム」
　２０１０年１月３０日

大城　仁美（主任学芸員）
○「生まれでるものと創ることの間で―本質的な価値をもとめて―」『タカエズトシコ展』沖縄県立博物館・美術館　２０１０年１月１日

Ⅱ．展示活動

１．展示活動概要

美術館の展覧会活動は、「企画し成長する美術館」を実践するよう努めている。本年度においても、コレクション展示、企画展示ともに、沖縄やアジアの地域性を考慮にいれた、魅力的かつ独自性にあふれた展示内容となった。コレクション展では、沖縄の戦後美術を系統的に示していくコレクションギャラリー３「沖縄美術の愉しみ」の充実に加えて、現代美術の動向を反映させた「貴方を愛するときと憎むとき展」など、幅広い展示活動を行った。企画展示では、沖縄美術研究の核となる「沖縄の美術シリーズ」がスタート、その初回をかざる名渡山愛順展では、戦後復興期に活躍した人物伝を絡めながら、美術ファンだけではない、オール・オーヴァー的なアプローチを試みた。次に、「沖縄のルーツシリーズ　タカエズトシコ」展では、作家の半生と沖縄移民の実情を紹介しつつも、たんなる沖縄出身作家の個展としてではなく、国際的なレヴェルを充たした作品を堪能した。双方とも、本美術館の核となるコレクションであり、その調査研究に基づき美術分野の枠を越えた展示づくりを目指した。

（豊見山　愛）

２．コレクション展（常設展）

【コレクションギャラリー１】

○タイトル：岡本太郎・東松照明写真展「まなざしの向こう側」

会　期：前期　２００９年５月２３日（土）～２００９年６月２８日（日）
　　後期　２００９年７月１１日（土）～２００９年８月３０日（日）

担　当：大城　仁美

内　容：本展では、当館の所蔵する岡本太郎、東松照明の作品の中から、それぞれ３６点を、前期《本島・久高島編》後期《離島編》に分けて紹介。岡本太郎は、著書『沖縄文化論』を軸に、東松照明は、前期を写真集『OKINAWA 沖縄 OKINAWA』、後期を写真集『太陽の鉛筆』を中心に構成した。
沖縄がどのようにまなざされ、捉えられたか。それぞれの視点の向かう先に、何を見たのか。本展を岡本の言う「沖縄をながめかえす鏡」とし、沖縄の過去と現在、未来を考える機会として企画した。

○タイトル：「版画にみる多様性～技法と表現～」

会　期：２００９年９月１１日（金）～１２月６日（日）

担　当：仲村　美奈子

内　容：木版画、銅版画、リトグラフ、石膏版画、シルクスクリーンなど、様々な技法の版画作品を展示することによって、版画における表現の多様性の魅力と、沖縄の歴史、文化的風土が版というフィルターを通して表現された作品を紹介した。

出品作家：神山泰治、知花均、長嶺斉、新垣安之助、普天間敏　版画作品２８点。

○タイトル：「水島源晃写真展「昭和～時代の肖像～」」

会　期：２００９年１２月１９日（土）～２０１０年４月１８日（日）

担　当：仲村　美奈子

内　容：写真家水島源晃の作品７０点を展示。今は亡き沖縄の政治家、財界の重鎮、実業家をはじめ、美術家、芸能・舞踏家、町村の人びとや子どもらなど、この時代に生きる人々の生活や表情が写し出され、昭和という時代が記録された写真作品を紹介した。

【コレクションギャラリー２】

○タイトル：「貴方を愛するときと憎むとき展」

会　期：２００９年１２月１９日（土）～２０１０年４月１８日

担　当：新里義和

内　容：戦後まもない沖縄でシュールレアリスムの先駆的な活動を行った、山元恵一（１９１３-１９７７）の代表作「貴方を愛するときと憎むとき」（１９５１年油彩）の作品を理解する方法として、タイトルに焦点をあてた展示構成を行った。
「貴方を愛するときと憎むとき」のタイトルで浮かび上がる人間的な感情や他者との関係性は、時代を超えて人間を描く際の重要なテーマの一つであり、ジャンルを超えた様々な作品に見られる。これらの作品を同一の空間に展示することで、山元が表現しようとしたものは何なのかに迫る意図がある。

また、山城知佳子、鷹野隆大、両名の現代作家を加えることで、新たな切り口で本テーマをとらえ直し、現代的な解釈を示した。

出品作家：山元恵一　城間喜宏　大城皓也　稲嶺成祚　真喜志勉　喜久村徳男　ファン・リジュン　シマブクロ・カズミ・アデマール　石川真生　野村恵子　山城知佳子　鷹野隆大

【コレクションギャラリー３】

○タイトル：「沖縄美術の愉しみ」

会　期：２００９年５月２３日（土）～２０１０年４月１８日（日）

担　当：瑞慶山　昇

内　容：本展では、沖縄美術における近代から現代までの潮流を概観する。「沖縄美術の愉しみ」をテーマに、当美術館収蔵作品の中から厳選し時代順に展示構成を行った。年代順に表現の変遷をたどることで、沖縄の絵画史を理解できるよう工夫した。また、県内及び県ゆかりの彫刻作品の展示も行った。

１．沖縄を描く
２．共同体と変革者たち
３．前衛の時代
４．表現の多様化
５．沖縄の形

３．企画展　沖縄の美術シリーズ１『名渡山愛順展　―名渡山愛順が愛した沖縄』

会　　期：２００９年１０月３０日（金）～１２月２０日（日）（４５日間）
会　　場：美術館企画ギャラリー１・２
観 覧 料：大人１，０００円、高校・大学生７００円、小・中学生３００円
予 算 額：８，６４８，３５３円

【開催趣旨】

戦前・戦後を通じて、沖縄の美術界に多大なる影響を与えた画家・名渡山愛順（などやま・あいじゅん１９０６－１９７０）。大嶺政寛らとともに、戦後沖縄の美術復興に寄与し、焦土の首里にニシムイ美術村を設立した第一人者として知られているが、画中に登場する紅型衣裳やヤチムンなど、古き良き沖縄の美を称揚せんとする画家のひたむきさが伺え、見るものの心は揺さぶられる。本展覧会では沖縄戦後美術の源流を探る〈沖縄の美術〉シリーズを始めるにあたり、「名渡山愛順が愛した沖縄」と題して、戦争ですべて失った画家が、郷土をどのように再現していったかを検証した。ご遺族の名渡山愛擴氏をはじめとする、山中貞則氏ご遺族の山中瞳様、関係諸氏のご協力により、東京美術学校（現在の東京藝術大学）卒業制作から絶筆まで、生涯にわたる作品がほぼ一堂に会する回顧展となった。

【開催形式】

主　　催：沖縄県立博物館・美術館／沖縄県教育委員会
共　　催：沖縄タイムス社
後　　援：ＦＭ沖縄／琉球朝日放送／ＮＨＫ沖縄放送局／琉球放送／沖縄テレビ放送／
　　社団法人沖縄県美術家連盟／沖縄女流美術家協会／那覇市文化協会／新生美術協会／白梅同窓会
協　　賛：琉球物流株式会社
協　　力：株式会社りゅうせき、オリオンビール株式会社

【展示監修助言者】五十音順表記

亀浜 勇吉（パレット会代表）
國吉 保武（イーゼル会代表）
久場 とよ（画家）
谷口 正人（新生美術協会）
中山 きく（白梅同窓会）
名渡山愛擴（画家・遺族代表）
星 雅彦（美術評論家）
山元 文子（画家）

【展示内容】

第１部　消失した沖縄―民政府時代とニシムイ美術村
「遺作」「戦前の名渡山愛順」「戦争と疎開」「アメリカへの旅」
第２部　モチーフの変遷―古き良き沖縄
「琉球の富」
第３部　人体の表現―裸婦・琉装の女性たち
「画家とモデル」「琉舞と紅型」

【関連催事】＊詳細は教育普及事業にて紹介

今回の特別展の関連催事として以下の事業を行った。

○記念公演「名渡山が愛した琉球舞踊」観賞会
○模写イベント「愛順先生になりきろう！」
○キュレータートーク
○観賞ツアー
○キッズ・キュレーター
○高校鑑賞授業

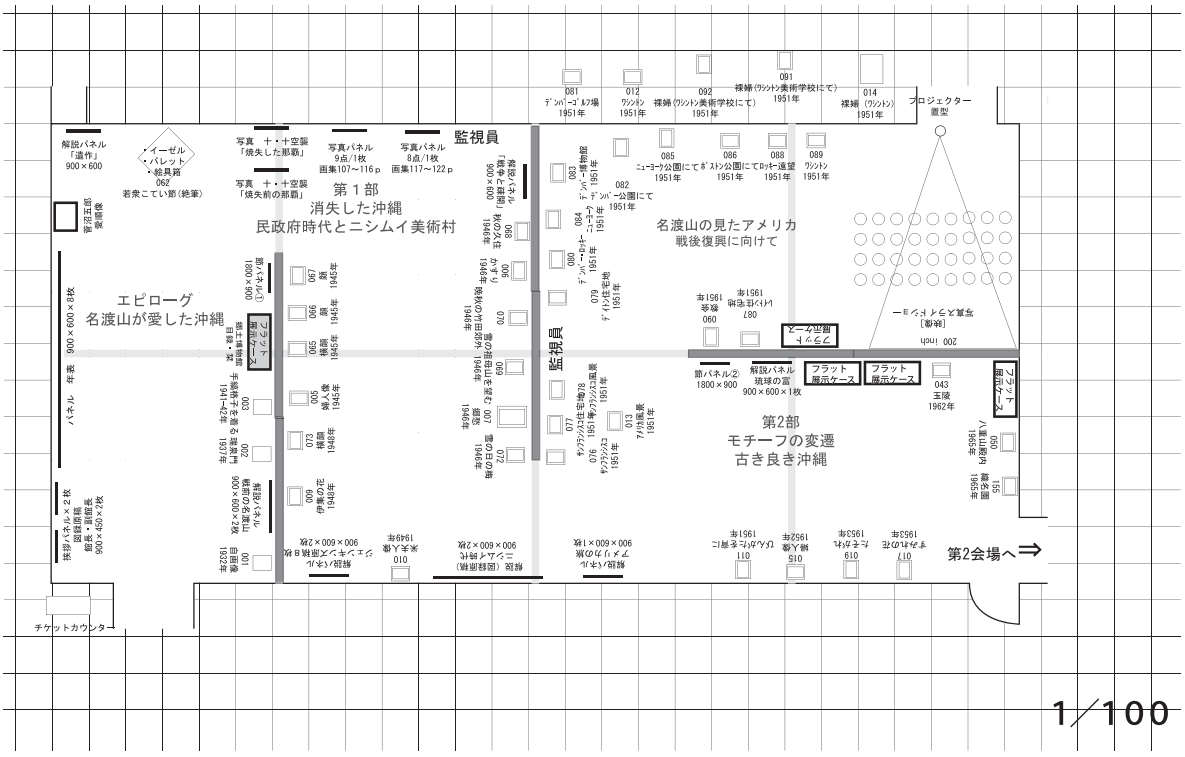
（豊見山　愛）

テープカットの様子

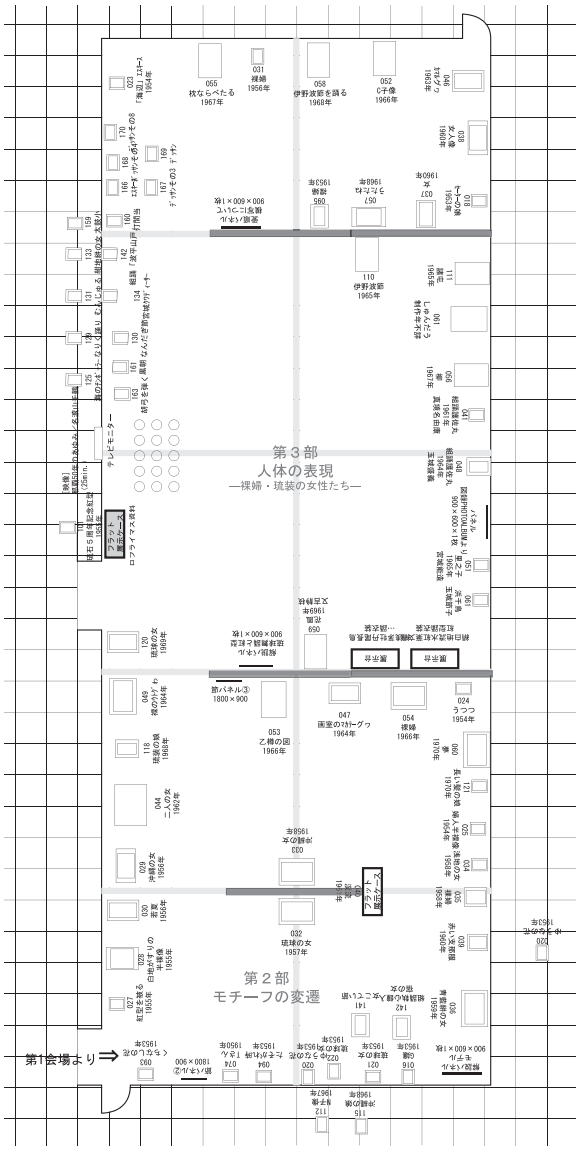
絶筆とモデル（玉城千枝先生）

【展示平面図】

美「名渡山愛順が愛した沖縄」 レイアウト図 （Part １）



「名渡山愛順が愛した沖縄」 レイアウト図 （Part 2）



４．企画展　沖縄ルーツシリーズ１『タカエズトシコ展―両親に捧ぐ―』

会　期：２０１０年1月1日（金）～3月１４日（日）（６２日間）
会　場：美術館企画ギャラリー１・２
観覧料：一般1,０００［８００］円　大高生７００［５６０］円　中小生３００［２４０］円
　　＊［　］内は２０名以上の団体料金及び前売料金
予算額：２７,０３２,９７８円

【開催趣旨】

沖縄県は、日本の中でも移民の多い県として知られ、戦前戦後を通して多くの移民を南北米やハワイ、南洋諸島などに送り出している。沖縄移民は移民先である異境の地で、幾多の苦難を乗り越え、異文化と融合しながら独自の文化を築いていった。その文化は、世代を重ね、拡散しながら今なお変容し続けている。沖縄の今日の文化形成は、このような、世界に拡散した多様なウチナーンチュ文化に大きな影響を受けていると言えるだろう。沖縄ルーツシリーズは、これらの文化の中から生まれた芸術表現を紹介する展覧会である。

タカエズトシコは、沖縄県具志川（現うるま市）からハワイへ渡った沖縄系移民の二世としてハワイで生を受けた作家である。アメリカでは、第二次世界大戦後の現代陶芸界において、最も重要な作家の一人であり、１９８７年にハワイで人間国宝賞を授与された。

今回、沖縄ルーツシリーズの第１回として、タカエズトシコ展を開催するにあたり、タカエズトシコ氏から沖縄県への多数の寄贈が寄せられた。作陶初期から近年までの、代表作や未公開作品を含むこの作品群は、世界でも有数のコレクションになることは間違いない。本展覧会は、その作品群を初めて公開するものである。

【開催形式】

主　　催：沖縄県立博物館・美術館／沖縄県教育委員会

後　　援：在沖米国総領事館、沖縄ハワイ協会、沖縄県文化協会、沖縄県美術家連盟
うるま市、那覇市壺屋焼物博物館、NHK 沖縄放送局、沖縄テレビ放送（株）
琉球放送（株）、琉球朝日放送（株）、沖縄タイムス社、琉球新報社
（株）FM 沖縄、（株）ラジオ沖縄、タイフーン fm

協　　力：キャンプタルガニー

【情報提供及び監修者】

松原龍一（京都国立近代美術館）
比嘉良治（アーティスト）
大田和人（コレクター）
Karin Higa（元全米日系人博物館）
Miriam Kiyoko, TAKAEZU（タカエズトシコ親族）

【展示内容】

Ⅰ『土と師との出会い』
タカエズの陶芸人生最大の転機といえる師とのエピソードや、当時（タカエズが抽象的な表現を模索し始めた最も初期）の作品を紹介。

Ⅱ『Closed Form の誕生 ― 新しい価値の獲得 ―』
タカエズの一貫したスタイルとして、彼女の代名詞となっている「Closed Form」誕生の背景と共に、タカエズが重要と語る作品の内側について紹介。小型～中型の作品を中心に展示。

Ⅲ『沖縄へと還る旅』
「Togan（冬瓜）」という本展唯一の彫刻作品（ブロンズ製）を、本展覧会の大テーマである「沖縄ルーツ」の象徴として紹介。

Ⅳ『Closed Form の展開』
大型の作品や、複数体によるインスタレーション作品を含む、タカエズの多彩な作品を紹介。企画ギャラリー２の構造を生かし、自然光を取り入れた明るく開放的な展示空間を構成。

Ⅴ『自然体に生きる』
本展覧会の目玉である「Cherry Blossom（桜）」（1996 年）を、タカエズの生き方を象徴する言葉と共に紹介。空間を圧倒する大作から、タカエズの世界観を感じていただきたい。

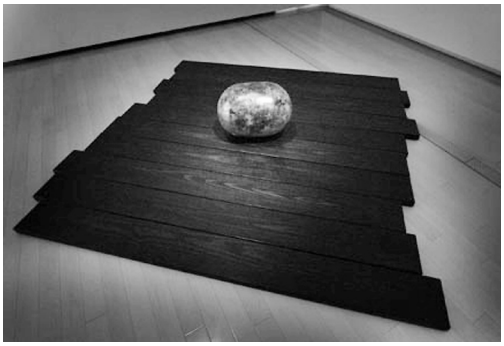
資料展示：作家年表、ハワイ移民史（作家の両親の記述含む）
作家関連写真、新聞・雑誌等の掲載記事、
映像放映（インタビュー、過去のテレビ番組など）等

【関連事業】

○特別感謝状贈呈式　２０１０年１月１０日（日）　14:00 ～ 14:20
特別観覧　　〃　　14:20 ～ 15:00
レセプションパーティー　　〃　　15:00 ～ 17:00

【関連催事】＊詳細は教育普及事業にて紹介

○講演会・パネルディスカッション「移民と芸術」
○講演会「タカエズトシコとアメリカの現代陶芸」
シンポジウム「現代陶芸の視点から―タカエズトシコの表現」
○キュレータートーク
○観賞ツアー
○ワークショップ親子陶芸教室



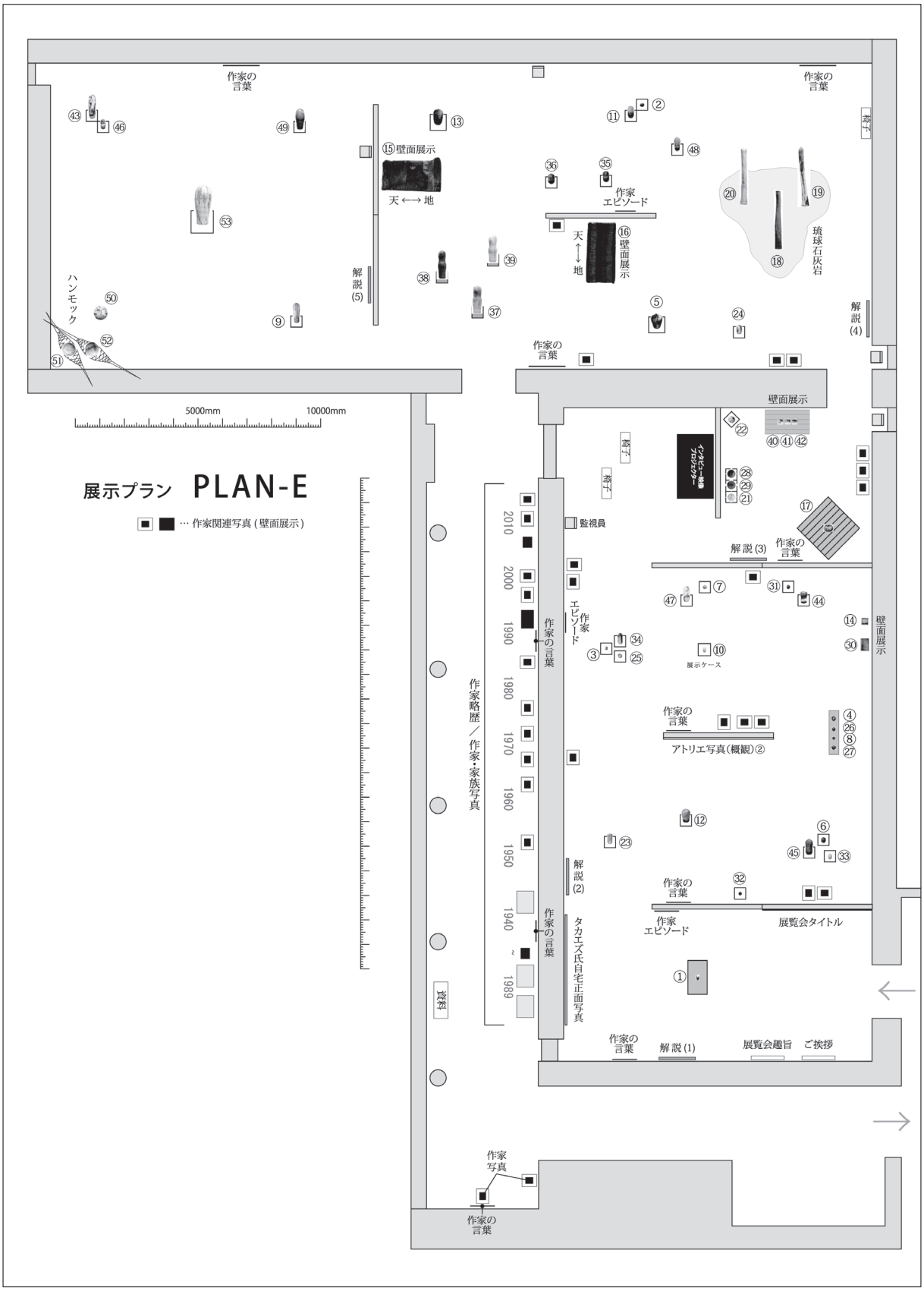
Ⅳ　企画ギャラリー２会場風景

Ⅴ「Cherry Blossom」（中央）

【展示作品リスト】　　寸法は、高さ・幅・奥行き 又は 高さ・直径の順に記した。 ｄ．は直径。

No.	作　品　名	寸　法(cm)	No.	作　品　名	寸　法(cm)
1	Two Spouted Bottle	20.0×22.5×14.0	28	Black and Cranberry Pink	6.5×d.32.8
2	Yellow & Black Bottom	15.0×d.15.5	29	Cobalt Blue and Black Glaze	3.2×d.34.8
3	Anagama-Shigaraki	15.7×d.10.5	30	Wall Plaque	5.5×50.7×34.0
4	Cobalt Brush	19.5×15.0×14.0	31	Dark Night	15.5×d.12.5
5	Salt Fire with Cobalt Brush	61.5×d.45.5	32	Earth Color	15.5×d.18.0
6	Matt Black with Shadow White	22.0×17.0×16.0	33	Matt White	20.0×d.14.5
7	Gray with Copper	15.0×d.16.5	34	White with Copper Brush	45.5×d.20.0
8	Yellow Orange	12.5×d.12.0	35	Murasaki Shikibu	46.5×d.28.0
9	Water fall	82.0×d.27.0	36	Lady Murasaki	42.0×d.26.5
10	Egg White	19.0×d.10.5	37	Three Graces -Faith-	114.3×d.38.5
11	Lemonade	50.0×d.23.5	38	Three Graces -Hope-	116.5×d.34.5
12	Earth Brown	57.0×d.31.0	39	Three Graces -Charity-	111.5×d.35.0
13	Seaweed -Konbu-	65.5×40.5×32.0	40	Three Plaque	1.0×22.8×22.8
14	Ocean Edge	2.0×27.5×27.5	41	Three Plaque	1.0×22.7×23.0
15	Seascape	247.0×115.0×3.0	42	Three Plaque	1.0×22.7×23.0
16	Haleakala	247.0×115.0×3.0	43	Untitled	98.0×d.23.0
17	Togan	28.0×41.0×28.0	44	Untitled	49.0×d.30.0
18	Forest -Black-	237.8×d.27.0	45	Untitled	54.0×d.25.0
19	Forest -Glay-	242.2×d.32.0	46	Untitled	40.0×d.25.0
20	Forest -Yellow-	234.0×d.34.0	47	Untitled	54.0×d.23.0
21	Copper Brush	8.8×d.31.5	48	Untitled	55.0×d.24.0
22	Semi Matt with Copper	27.5×d.25.0	49	Untitled	85.0×d.35.0
23	Anagama Porcelain	43.0×d.21.0	50	Untitled	56.0×d.56.0
24	Anagama with Copper	37.0×d.21.0	51	Untitled	54.0×d.54.0
25	Anagama Closed Form	18.0×d.16.5	52	Untitled	55.0×d.55.0
26	Matt black	13.0×d.12.0	53	Cherry Blossom	161.0×d.76.0
27	Anagama	17.0 × d.18.0			

【展示平面図】



※各作品のタイトルは作品リストを参照。（平面図と作品リストの番号が一致する。）

（大城　仁美）

Ⅲ．教育普及活動

１．美術館教育普及活動の概要

美術館の教育普及活動は、「鑑賞活動の支援プログラム」「実技体験の支援プログラム」「発表活動の支援プログラム」という３つの柱に沿って展開している。

鑑賞活動のプログラムでは、展示解説ボランティアによる「対話式鑑賞法」の推進を図った。また作品理解をすすめるために、定期的に学芸員によるキュレーター・トーク、作品制作者やその関係者によるアーティスト・トークなどを展示室で実施するとともに、美術講座なども実施した。

実技体験の支援プログラムでは、県民アトリエ・こどもアトリエを活用し、各種実技講座を開催した。また、造形だけでなく身体表現ワークショップを開催した。

教育普及活動は、館内だけのプログラムではなく、県立という施設に鑑み、アウトリーチ活動の充実を目指し、出前美術館・出前ワークショップなどを実施した。

２．鑑賞活動支援

開館記念展より継続で、作品の鑑賞をより深めるために各展示担当によるキュレーター・トークや、作品の制作を行った作家や関係者を招き、アーティスト・トーク、ギャラリー・トークを行った。また来館者に対して鑑賞ボランティアによる「鑑賞ツアー」を、展示室内で作品を観ながら行った。

【キュレーター・トーク】

ボランティアの方々や一般の方に対し、各展示会担当がその展示作品や作家、また展示内容について解説を行うことで、展示に対し関心や理解を深めるために講義を行った。

展示会タイトル	講師名	日　　時	場　　所	参加者
石川文洋写真展「戦争と人間」	新里　義和	2009年４月25日14:00～15：00	コレクションギャラリー１	12人
沖縄美術の愉しみ	瑞慶山　昇	2009年５月30日14:00～15：00	コレクションギャラリー３	14人
風土と自我～水が創り出す心象～	國吉　亮子	2009年６月20日14:00～15：00	コレクションギャラリー２	10人
岡本太郎・東松照明写真展「まなざしの向こう側」	大城　仁美	2009年７月18日14:00～15：00	コレクションギャラリー１	８人
版画にみる多様性	仲村美奈子	2009年９月19日14:00～15：00	コレクションギャラリー１	12人
沖縄の美術の流れ	翁長　直樹	2009年10月17日14:00～15：00	コレクションギャラリー３	７人
名渡山愛順展①	豊見山　愛	2009年11月21日14:00～15：00	企画展示室１・２	14人
名渡山愛順展②	豊見山　愛	2009年12月19日14:00～15：00	企画展示室１・２	12人
「貴方を愛する時と憎むとき」	新里　義和	2010年１月16日14:00～15：00	コレクションギャラリー２	16人
タカエズトシコ展①	大城　仁美	2010年１月16日15:00～16：00	企画展示室１・２	14人
タカエズトシコ展②	大城　仁美	2010年１月30日15:00～16：00	企画展示室１・２	10人
タカエズトシコ展③	大城　仁美	2010年２月６日15:00～16：00	企画展示室１・２	14人
水島源晃写真展	仲村美奈子	2010年２月20日14:00～15：00	コレクションギャラリー１	15人
タカエズトシコ展④	大城　仁美	2010年２月27日15:00～16：00	企画展示室１・２	11人
タカエズトシコ展⑤	大城　仁美	2010年３月６日15:00～16：00	企画展示室１・２	14人
タカエズトシコ展⑥	大城　仁美	2010年３月13日15:00～16：00	企画展示室１・２	18人
タカエズトシコ展⑦	大城　仁美	2010年３月14日15:00～16：00	企画展示室１・２	24人

キュレーター・トークの様子

【アーティスト・トーク、ギャラリー・トーク】

ボランティアの方々及び一般の方に向けて、常設展示室（コレクションギャラリー）や企画展示室の展示作品の理解を深めるための講座を開催、展覧会に合わせ作家やその関係者が、講義や制作過程を実演、画像を使い誰でも受講しやすい内容の形で講座を行った。

講　座　名	講　　師	日　　時	場　　所	参加者
現代美術講座Ⅰ	前田比呂也（美術家）	2009年４月18日18:30～20：00	美術講座室	26 人
現代美術講座Ⅱ	前田比呂也（美術家）	2009年５月30日18:30～20：00	美術館講座室	16 人
作品解説 （水彩の技法含）	具志堅誓謹（美術家・水彩画家）	2009年７月20日18:30～20：00	コレクションギャラリー２	12 人
沖縄と私の写真	勇崎哲史（写真家）	2009年７月18日18:30～20：00	美術館講座室	36 人
作品解説 （版画の技法含）	知花　均（芸大准教授・美術家）	2009年９月19日18:30～20：00	コレクションギャラリー３ 美術館講座室	6 人
作品解説	西村貞雄（元琉大教授・彫刻家）	2009年10月17日18:30～20：00	コレクションギャラリー３	13 人
作品解説 （エアブラシ実技含）	与久田健一 （読谷村立美術館館長・美術家）	2009年11月21日18:30～20：00	コレクションギャラリー３ 美術館講座室	8 人
作品解説	石川真生・鷹野隆大（写真家）	2010年１月17日14:00～16：00	コレクションギャラリー２	48 人
作家水島源晃について	新嘉喜祐司・金城棟永（写真家）	2010年２月20日16:00～17：00	コレクションギャラリー１	10 人

勇崎先生によるトーク風景

知花先生によるトーク風景

西村先生によるトーク風景

【鑑賞ツアー】

鑑賞ボランティアが来館者に対し行う展示作品の鑑賞活動。案内役を中心に「対話式鑑賞法」による鑑賞の形をとり、作品に対する思いや感想などを伝え合い、共感する中で作品の理解や関心を深めていった。

日　　時	場　　所	案内役（鑑賞ボランティア）	参加者
2009年４月18日16:00～17：00	コレクションギャラリー２	宮島　さおり	８人
2009年５月30日16:00～	コレクションギャラリー１・３	下地慶子・新本京子	12人
2009年６月20日16:00～	コレクションギャラリー３	渡具知　武清	８人
2009年７月18日16:00～	コレクションギャラリー３	与儀　美奈子	７人
2009年９月19日16:00～	コレクションギャラリー１	与儀美奈子・鈴木美智子	７人
2009年10月17日16:00～	コレクションギャラリー３	湯野川　恭子	12人
2009年11月21日16:00～	「名渡山愛順展」会場	渡具知　武清	12人

鑑賞ツアーの様子

３．バックヤード・ツアー

今年度より月１回の定期に収蔵庫や修復室、工作室といった通常一般開放していない部分を案内する事業を始めた。参加者は、普段目にすることのない部屋やその役割等の説明を受ける中で、学芸員の仕事について知る機会にもなっている。

	実施日時	担　　当	参加者
1	2009年　6月　27日　11:00～11:30	新里　義和	７人
2	2009年　7月　25日　11:00～11:30	新里　義和・吉田祥子	６人
3	2009年　8月　22日　11:00～11:30	新里　義和・仲村美奈子	７人
4	2009年　9月　26日　11:00～11:30	新里　義和・吉田祥子	９人
5	2009年　11月　28日　11:00～11:30	新里　義和・仲村美奈子	１人
6	2010年　12月　27日　11:00～11:30	新里　義和・國吉亮子	４人
7	2009年　1月　30日　11:00～11:30	新里　義和・仲村美奈子	6人
8	2009年　2月　27日　11:00～11:30	新里　義和・吉田祥子	16人
9	2009年　3月　27日　11:00～11:30	新里　義和・國吉亮子	11人

バックヤード・ツアーの様子

４．実技体験支援

美術館では、従来の美術の枠を超えて、コンテンポラリーダンスなど身体に拠る表現を紹介した。今年度は、新たに映像を取り込み映像と身体の関わりを実際に体験するワークショップを開催した。

（1）クリエーション・ワークショプ　１

日　時：２００９年７月１４日～２０日　19:00 ～ 21:30（土日祝 13:00 ～ 18:00）
場　所：県民子供アトリエ
内　容：映像を使ったダンスパフォームのワークショップ。身体表現に映像を取り入れた形の表現について知り、参加者がそれぞれのテーマで自身の作品を制作する。
参加者：１１人

（2）ワークショップ・ショーイング

日　時：２００９年７月２０日　15:00 ～ 17:00
場　所：県民子供アトリエ
内　容：ワークショップで制作した作品の講評会を行う。
参加者：２０人

（3）クリエーション・ワークショプ　２

日　時：２００９年１１月２８日～１２月５日
19:00 ～ 21:30（土日祝 13:00 ～ 18:00）
場　所：県民子供アトリエ
内　容：映像を使ったダンスパフォームのワークショップ。
参加者全員で作品を１つ作り上げる。
１２月６日「踊りに行くぜ！」にて作品発表。

（4）「ここだけの踊りのはなし」

日　時：２００９年１２月５日　15:00 ～ 17:00
場　所：美術館講座室
内　容：１２月６日に開催する「踊りに行くぜ！」に出演する参加アーティストによる作品解説。
参加者：３８人

５．講演会及び上映会

今年度、美術館の展示に関連した内容と共にいくつかの講演会を実施した。造形作家であり批評家でもある岡崎乾二郎氏と詩人のぱく・きょんみ氏を迎えた美術講演会や、那覇市文化財調査審議員である崎間麗進氏に沖縄の文化の１つである「辻文化」についての講義や上映会、美術評論家の松井みどり氏を迎えて現代美術の表現についての講演などを行った。

○詩は絵の如く、絵は詩の如く　言葉と絵画～芸術の時間と空間　［芸術をわかるとは何か］

講　師：岡崎　乾二郎（造形作家・批評家）、ぱく・きょんみ（詩人）
日　時：２００９年８月２３日（日）14:00 ～ 16：30
場　所：講堂
内　容：美術と音楽との関係や、言葉（歌詞、詩）と絵画表現の関連性より美術作品への造詣を深める。
参加者：８９人

○美術館文化講座　文化として考える「辻」　全４回

（１）文化講座　「辻について」　２回

講　師：崎間　麗進　（那覇市文化財調査審議員）
日　時：２００９年１１月１４日（土）・２１日（土）　10:00 ～ 11：30
場　所：博物館講座室
内　容：１回目・辻における文化の紹介とその発展の経緯
　　２回目・辻文化の熟成と吉屋チルー
参加者：２０人（１４日）・６２人（２１日）

（２）フィールド・ワーク（辻拝所めぐり）

案　内：國吉　亮子（美術館教育普及担当）
日　時：２００９年１２月１２日（土）　14:00 ～ 16:00
場　所：辻周辺
内　容：現存し確認できる辻の拝所（廿日正月に廻る場所）を巡り、辻の信仰やその場所の意味等について理解を深める。
参加者：１８人

（３）映画上映とトークショウ

日　時：２００９年１２月２０日（日）14:00 ～ 16：30
場　所：講堂
内　容：①上映会：「吉田チルー物語」（１９６２年／９７分／監督・脚本・製作：金城哲夫）
　　②トークショウ　題目：「都市としての『辻』」
講　師：翁長直樹（美術館副館長）、親泊仲真氏（桜坂市民大学講師）
参加者：１４２人

○美術館コレクションギャラリー展　関連事業特別講演会

「モダンを超えて―１９８０～２０００年代の現代美術の展開」
日　時：２０１０年３月３１日（水）18：30 ～ 20：30
場　所：美術館講座室
講　師：松井みどり（美術評論家）
内　容：現代美術の表現について作品画像を交えて講演を行った。
参加者：４３人

6．ワークショップ

今年度は、コレクションギャラリーの展示内容に関連した講座と共に、県内高校生を対象としたワークショップを開催した。また、音楽と絵画を融合させたライブイベントも実施した。

ワークショップ名	日　　時	講　　師	対象	内　　容	参加者
堆紅	2009年5月10・17・24日 14:00～16：00	前田比呂也 （美術家）	一　般	「漆絵」に関連し漆を使用した茶卓を制作	7人
水彩・絵具で遊ぼう	2009年6月7・14・21日 14:00～16：00	池原優子 （画家）	一　般	水彩の技法のみならず、コラージュ作品を制作	14人
エッチング講座	2009年9月26・10月3・17日 10:00～16：00	瑞慶山昇 （美術館学芸員）	一　般	エッチングの技法を学び作品を制作	13人
音に合わせて絵を描こう	2009年6月21日（日） 10：00～12：00	Iora （アーティスト）	親　子	Ioraの音楽に合わせ皆で一枚の紙に絵を描く	親子 10組 13人
ライブパフォーマンス	2009年6月21日（日） 18：00～19：30	Iora+ 神田サオリ （舞絵師）	一　般	ライブに合わせてライブペイティングを行った	174人
東松先生写真のこと教えて下さい！	2009年7月19日（日） 14：00～15：30	東松照明 （写真家）	高校生	高校生を対象に写真家に対する質問会を開催	48人
石川先生写真のこと教えて下さい！	2010年3月26日（金） 10：00～12：00	石川直樹 （写真家）	高校生	高校生を対象に写真家に対する質問会を開催	22人

7．教員向け講座

県内の図工科及び美術科の教員対象に、鑑賞授業についての指導向上や美術館を利用した鑑賞授業の方法などを紹介し、学校現場での教育普及に役立ててもらうことを目的として開催した。

日　程：８月１２日（水）１３日（木）１４日（金）9：00 ～ 16：30
場　所：美術館講座室

○１２日
・施設見学　（國吉亮子）
・常設展示室について　（豊見山愛）
・美術品の保存や管理について　（仲村美奈子）
・新指導要領（小・中）と美術館との関わり方　（瑞慶山昇）
・美術館における教育普及活動の経験①　キュレータートーク　（新里義和）
・美術館における教育普及活動の経験②　対話式鑑賞法の実践　（美術館支援ボランティア）
・意見交換　アンケート

○１３日
・県企画展「名渡山愛順展」について　（豊見山愛）
・県企画展「タカエズトシコ展」について　（大城仁美）
・ティーチャーズキットを使用した鑑賞授業の紹介　（國吉亮子）
・展覧会のワークシート制作
・意見交換　アンケート

○１４日
・ティーチャーズキットを使用した鑑賞授業の紹介　（國吉亮子）
・県立美術館ができるまで　（翁長直樹）
・美術作品の鑑賞法について　（奥村高明／文科省教育課程調査官）
・奥村氏によるギャラリートーク
・意見交換　アンケート

８．写真を学ぶ高校生のための支援プログラム

これまで一般対象に単独で行われていた美術館講座を、学校と連携しながら鑑賞と学習の機会を作り、写真を学ぶ高校生を対象に国内外で活躍する写真家と生徒の交流の場を提供することで、若手写真家の担い手を育成し、芸術文化活動の活性化を図ることを目的に開催した。

○写真を学ぶ高校生のための支援プログラム１
「東松照明先生に質問！・写真って何？」
講　師：東松照明（写真家）
期　日：２００９年７月１９日（日）10:00 ～ 11:30
場　所：沖縄県立博物館・美術館　美術館２階ホワイエ

○写真を学ぶ高校生のための支援プログラム２
「石川直樹先生に質問！・写真って何？」
講　師：石川直樹（写真家）
日　時：２０１０年３月２６日（金）10:00 ～ 12:00
場　所：県立真和志高校　視聴覚教室
定　員：先着 120 名
参加費：無料

９．展覧会関連催事

企画展「名渡山愛順展」「タカエズトシコ展」に関連した催事を開催した。関係者を招いての講演会や学校連携事業など多角的な取組みを試みた。

○名渡山愛順展
（１）名渡山が愛した琉球舞踊観賞会「名渡山ホール、ふたたび。」
日　時：２００９年１１月７日（土）13：30 ～ 14：45
場　所：講堂
トークゲスト：久場とよ
踊り手：玉城節子（玉城流翔節会家元・国指定重要無形文化財「琉球舞踊」保持者）
又吉靜枝（玉城流いずみ会家元・国指定重要無形文化財「琉球舞踊」保持者）、他
内　容：名渡山愛順の作品にある演目を、一線におられる琉球舞踊家に踊っていただいた。
参加者：２０８人
（２）美術館プログラム模写「愛順先生になりきろう」
日　時：展覧会会期中　毎週金曜日　18：00 ～ 20：00
場　所：企画展示室内
内　容：名渡山愛順展、展示作品の模写
参加者：延べ４５人
（３）名渡山愛順展キッズキュレーター
日　時：２００９年１２月１９日（土）15：00 ～ 15：30
場　所：企画展展示室内
キッズキュレーター：金城百香さん（越来小学校 4 年）
内　容：キッズキュレーターとして名渡山の作品を同じ小学校の生徒に解説してもらった。
参加者：１４人

○タカエズトシコ展
（１）「移民と芸術」シンポジウム
日　程：２０１０年２月６日（土）　14:00 ～ 17:00
場　所：講堂
内　容：■基調講演　演題：「移民と芸術」英国ブラックアーティストのしごと
講　師：萩原弘子氏（大阪府立大学　人間社会学部 / 人間社会学研究科学部長・研究科長）

■パネルディスカッション
ファシリテータ：勇崎哲史（光画文化研究所代表、写真家）
パネリスト：萩原弘子、新垣　誠（沖縄キリスト教学院大学准教授）、
翁長直樹（沖縄県立博物館・美術館　美術館副館長）

参加者：６４人

（2）「タカエズトシコとアメリカ現代陶芸」シンポジウム

日　時：2月１３日（土）14：00 ～ 17：00
場　所：講堂
内　容：■基調講演「タカエズトシコとアメリカ現代陶芸」
講　師：松原龍一（京都国立近代美術館　主任研究員）
■シンポジウム「現代陶芸の視点から―タカエズトシコの表現」
ファシリテータ：大城仁美（沖縄県立博物館・美術館 / 展覧会担当学芸員）
パネリスト：松原龍一、奥原崇仁（陶芸家）、山田真萬（陶芸家）

参加者：９８人

（3）ワークショップ

日　時：２０１０年2月１３日（土）２０日（土）13：00 ～ 15：00【２日連続講座】
場　所：博物館実習室
講　師：金城由美子（陶芸家）
内　容：親子で陶芸作品（植木鉢）を制作。
参加者：親子１９組

Ⅳ. 作品収集・保存管理

1．収蔵作品現在高

２０１０年３月３１日現在

分　類	購　入	寄　贈	移　管	寄　託	総　計
平　面	625	2,004	9	191	2,829
立　体	25	80	0	6	111
映　像	17	3	0	0	20
その他	14	6	0	32	52
総　計	681	2,093	9	229	3,012

2．２００９（平成２１）年度新収蔵作品高

２０１０年３月３１日現在

分　類	購　入	寄　贈	移　管	寄　託	総　計
平　面	39	56	1	95	191
立　体	0	38	0	5	43
映　像	1	0	0	0	1
その他	1	2	0	32	35
総　計	41	96	1	132	270

3．２００９（平成２１）年度　新収蔵作品目録

【購入】　　２００９年４月１日～２０１０年３月３１日

	分　類	作家名	作　品　名	制　作　年	素　材・技　法	数量
平　面	絵　画	山田　真山	加賀之千代女	1946年	紙本着彩	1
		〃	恩納風景	1946年	紙本着彩	1
		大嶺　政寛	泉崎橋風景	1946年4月	板、油彩	1
		〃	風景	1973年	キャンバス、油彩	1
		大嶺　信一	アトリエのメルヘン	1974年	紙、油彩、コラージュ	1
		中島　イソ子	落日	2002年	キャンバスに油彩	1
	水彩画、素描	山元　恵一	収容所風景	1945年	紙、コンテ	1
		〃	東恩納博物館裏	不明	紙、水彩	1
		〃	山道と馬車のある風景	1946年	紙、水彩	1
		〃	クリスマスカード１/18	1945-1950年代	紙、水彩	1
		〃	クリスマスカード２/18	1945-1950年代	紙、水彩	1
		安谷屋　正義	クリスマスカード３/18	1945-1950年代	紙、水彩	1
		〃	クリスマスカード４/18	1945-1950年代	紙、水彩	1
		蘇	クリスマスカード５/18	1945-1950年代	紙、水彩	1
		〃	クリスマスカード６/18	1945-1950年代	紙、水彩	1
		〃	クリスマスカード７/18	1945-1950年代	紙、水彩	1
		〃	クリスマスカード８/18	1945-1950年代	紙、水彩	1
		〃	クリスマスカード９/18	1945-1950年代	紙、水彩	1
		不明	クリスマスカード 10/18	1945-1950年代	紙、水彩	1
		〃	クリスマスカード 11/18	1945-1950年代	紙、水彩	1
		〃	クリスマスカード 12/18	1945-1950年代	紙、水彩	1
		〃	クリスマスカード 13/18	1945-1950年代	紙、水彩	1
		〃	クリスマスカード 14/18	1945-1950年代	紙、水彩	1
		〃	クリスマスカード 15/18	1945-1950年代	紙、水彩	1
		〃	クリスマスカード 16/18	1945-1950年代	紙、水彩	1
		〃	クリスマスカード 17/18	1945-1950年代	紙、水彩	1

平　面	水彩画、素描	不明	クリスマスカード 18/18	1945-1950年代	紙、水彩	1
	版　画	普天間　敏	恵みの壷	1973年	石膏版画	1
	ミクストメディア	宮良　瑛子	レクイエム沖縄	1995年	麻､キャンバス､アクリル､顔彩､布	1
	その他	謝敷　宏	City Scape 07 City Night	2008年	キャンバスに顔料プリント､樹脂コーティング	1
		〃	City Scape 08 Night Croud	2008年	キャンバスに顔料プリント､樹脂コーティング	1
		〃	City Scape 09 Untitled 01	2008年	キャンバスに顔料プリント､樹脂コーティング	1
		〃	City Scape 10 Ruby Plaid	2008年	キャンバスに顔料プリント､樹脂コーティング	1
		〃	City Scape 11 Snow Day	2008年	キャンバスに顔料プリント､樹脂コーティング	1
		〃	City Scape 12 Times Square, Night Time	2008年	キャンバスに顔料プリント､樹脂コーティング	1
		〃	City Scape 13 Times Square, Day time	2008年	キャンバスに顔料プリント､樹脂コーティング	1
		〃	City Scape 14 Midtown Croud	2008年	キャンバスに顔料プリント､樹脂コーティング	1
		〃	City Scape 15 New York Ikat	2008年	キャンバスに顔料プリント､樹脂コーティング	1
		〃	City Scape 16 Autumn	2008年	キャンバスに顔料プリント､樹脂コーティング	1
映　像	動　画	吉野　二郎	執念の毒蛇	1931年	16mm フィルム	1
その他	その他	柳　幸典	バンザイ・コーナー	1991年	プラスティック・トイ、鏡	1

【寄贈】　　２００９年４月１日～２０１０年３月３１日

	分　類	作 家 名	作　品名	制作年	素 材・技 法	数量	寄　贈　者
平　面	絵　画	金城　南海	牡丹に雀	1940 年頃	紙 / 彩色（水墨画）	1	金城　唯喜
		大嶺　政寛	不明	不明	木製の板に油彩	1	稲嶺　恵一
		安仁屋　政栄	糸満風景	1946 年 5 月	板、油彩	1	喜舎場　静夫
		〃	風景	1946 年	板、油彩	1	喜舎場　静夫
		山田　真山	渓流釣り	1946 年	紙本着彩	1	喜舎場　静夫
		糸数　晴甫	鶴と亀	1946 年	布、着彩	1	喜舎場　静夫
		大嶺　信一	卵のある静物	1972 年	キャンバス、油彩	1	大城　節子
		〃	女と荒野（仮題）	1973 年	キャンバス、油彩	1	大城　節子
		〃	OFF LIMITS	1973 年	キャンバス、油彩	1	大城　節子
		〃	虚像	1973 年	キャンバス、油彩	1	大城　節子
		〃	出口無し	1974 年	キャンバス、油彩	1	大城　節子
		〃	虚飾の部屋	1974 年	キャンバス、油彩	1	大城　節子
		〃	ポエム・イン・スケール	1975 年	キャンバス、油彩	1	大城　節子
		〃	真夏の挽歌	1975 年	キャンバス、油彩	1	大城　節子
		〃	妖夢	1976 年	キャンバス、油彩	1	大城　節子
		〃	若者のいる風景	不明	キャンバス、油彩、コラージュ	1	大城　節子
		宮良　瑛子	女たち	1975 年	キャンバス、油彩	1	宮良　瑛子
		〃	いのち	1982 年	キャンバス、油彩	1	宮良　瑛子
		〃	埋め立て	2005 年	キャンバス、油彩	1	宮良　瑛子
		〃	白保	2005 年	キャンバス、油彩	1	宮良　瑛子
	ミクストメディア	〃	黙認耕作地	2006 年	ミクストメディア	1	宮良　瑛子
	絵　画	染木　煦	昼食（仮題）	1935 年頃	油彩、キャンバス	1	染木　策人
		布施　信太郎	南洋の絵　ヤップ島	1936 年	木版、紙	1	塩谷　善夫
		普天間　敏	墓	1967 年	油彩	1	普天間　キヨ子
		〃	港	1971 年	石膏版画	1	普天間　キヨ子
		〃	琉舞	1971 年	石膏版画	1	普天間　キヨ子
		〃	恵みの壷	1973 年	石膏版画	1	普天間　キヨ子
		〃	島の詩	1975 年	石膏版画	1	普天間　キヨ子
		〃	島の詩	1975 年	石膏版画	1	普天間　キヨ子
		〃	北風	1979 年	油彩	1	普天間　キヨ子
		〃	舞	1980 年	石膏版画	1	普天間　キヨ子
		〃	花風	1980 年	石膏版画	1	普天間　キヨ子
		〃	琉舞	1980 年	石膏版画	1	普天間　キヨ子
		〃	民家	1982 年	石膏版画	1	普天間　キヨ子

平　面	版　画	〃	港	1983年	石膏版画	1	普天間　キヨ子
		〃	黒い太陽	1984年	石膏版画	1	普天間　キヨ子
		〃	花	1986年	石膏版画	1	普天間　キヨ子
	水彩画、素描	〃	黒い太陽	1982年	紙、水彩	1	普天間　キヨ子
		〃	朝の景	1982年	紙、水彩	1	普天間　キヨ子
		〃	巫女	1981年	紙、水彩	1	普天間　キヨ子
	絵　画	小谷　節也	work #8214	不明	キャンバス、アクリル	1	普天間　キヨ子
	水彩画、素描	〃	ヌードデッサン	1983年7月	紙、鉛筆	1	普天間　キヨ子
		屋宜　盛功	婦人像	不明	紙、チャコール	1	屋宜　シズ子
	絵　画	〃	ブエノス郊外風景	1952－53年	メソナイト、油彩	1	屋宜　シズ子
		〃	無題1	不明	キャンバス、油彩	1	屋宜　シズ子
		〃	無題2	1975年	キャンバス、油彩	1	屋宜　シズ子
		〃	無題3	不明	キャンバス、油彩	1	屋宜　シズ子
		〃	無題4	不明	キャンバス、油彩	1	屋宜　シズ子
		〃	無題5	不明	キャンバス、油彩	1	屋宜　シズ子
		〃	無題6	1957年	キャンバス、油彩	1	屋宜　シズ子
		〃	無題7	不明	キャンバス、油彩	1	屋宜　シズ子
	その他	金城　安太郎	芸能絵巻下絵	不明	トレーシングペーパー、鉛筆、筆	1	金城　一夫
		謝敷　宏	City Scape Winter Day	2008年	キャンバスに顔料プリント、樹脂コーティング	1	ギャラリーアトス
		〃	City Scape Pink Plaid	2008年	キャンバスに顔料プリント、樹脂コーティング	1	ギャラリーアトス
	ミクストメディア	ナカソネ，エリカ	MI SISTEMA DE DEFENSA 私の護身術	2008年	木、キャンバス、アクリル	1	ナカソネ，エリカ
	絵　画	リン	マイ・チュー	不明	漆絵	1	伊藤　豊吉 伊藤多美子
立体	その他	タカエズ，トシコ	双首の壺	1952年	ストーンウェア	1	タカエズ，トシコ
		〃	黄と黒	1970年代	磁器	1	タカエズ，トシコ
		〃	コバルト釉　壺	1970年代	ストーンウェア	1	タカエズ，トシコ
		〃	穴窯　信楽	1970年代	ストーンウェア	1	タカエズ，トシコ
		〃	塩釉とコバルト釉	1970年代	ストーンウェア	1	タカエズ，トシコ
		〃	イエロー・オレンジ	1980年代	磁器	1	タカエズ，トシコ
		〃	エッグ・ホワイト	1980年代	磁器	1	タカエズ，トシコ
		〃	灰地に銅釉	1980年代	ストーンウェア	1	タカエズ，トシコ
		〃	黒地に白影	1980年代	磁器	1	タカエズ，トシコ
		〃	滝	1980年代	ストーンウェア	1	タカエズ，トシコ
		〃	レモネード	1980年代	ストーンウェア	1	タカエズ，トシコ
		〃	昆布	1980年代	ストーンウェア	1	タカエズ，トシコ
		〃	大地の色	1980年代	磁器	1	タカエズ，トシコ
		〃	冬瓜	1980年代	ブロンズ	1	タカエズ，トシコ
		〃	海洋のへり	1980年代	ストーンウェア	1	タカエズ，トシコ
		〃	銅釉　閉じたフォルム	1988年	ストーンウェア	1	タカエズ，トシコ
		〃	闇夜	1990年代	ストーンウェア	1	タカエズ，トシコ
		〃	穴窯	1990年代	ストーンウェア	1	タカエズ，トシコ
		〃	大地の彩	1990年代	磁器	1	タカエズ，トシコ
		〃	マット・ブラック	1990年代	ストーンウェア	1	タカエズ，トシコ
		〃	穴窯　閉じたフォルム	1990年代	磁器	1	タカエズ，トシコ
		〃	穴窯　銅釉	1990年代	ストーンウェア	1	タカエズ，トシコ
		〃	穴窯　磁器	1990年代	磁器	1	タカエズ，トシコ
		〃	マット・ホワイト	1990年代	磁器	1	タカエズ，トシコ
		〃	白地に銅釉	1990年代	ストーンウェア	1	タカエズ，トシコ
		〃	銅釉　皿	1990年代	磁器	1	タカエズ，トシコ
		〃	ブラック・アンド・クランベリー・ピンク	1990年代	磁器	1	タカエズ，トシコ
		〃	コバルト地に黒釉	1990年代	磁器	1	タカエズ，トシコ

立体	その他	〃	飾り皿	1990年代	ストーンウェア	1	タカエズ，トシコ
		〃	桜	1996年	ストーンウェア	1	タカエズ，トシコ
		〃	三美神（慈悲）	2002年	磁器	1	タカエズ，トシコ
		〃	三美神（希望）	2002年	磁器	1	タカエズ，トシコ
		〃	三美神（信仰）	2002年	磁器	1	タカエズ，トシコ
		〃	紫式部	2004年	磁器	1	タカエズ，トシコ
		〃	レディ・ムラサキ	2004年	磁器	1	タカエズ，トシコ
		〃	３つの飾り皿	2006年	ストーンウェア	1	タカエズ，トシコ
		〃	３つの飾り皿	2006年	ストーンウェア	1	タカエズ，トシコ
		〃	３つの飾り皿	2006年	ストーンウェア	1	タカエズ，トシコ
その他		〃	海景	1960年代	毛、絹、綿、麻	1	タカエズ，トシコ
		〃	ハレアカラ	1970年代	毛、絹、綿、麻	1	タカエズ，トシコ

【寄託】　　２００９年４月１日～２０１０年３月３１日

分類		作家名	作品名	制作年	素材・技法	数量	寄託者
その他	その他	Chim ↑ Pom	SUPER RAT	2006年	剥製（渋谷センター街で捕獲したネズミ）、DVD	1	佐藤　辰美
平面	絵画	マムチョ		不明	木製パネル、油彩	1	佐藤　辰美
		池谷　保	無題	2006年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	無題	2007年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		石井　友人	イメージ１（川）	不明	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	信号　1-2（川）	不明	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	信号　5-1（道）	不明	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	イメージ５（道）	不明	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	信号６（人）	2006年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		榎本　耕一	不明	不明	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	不明	不明	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		大竹　竜太	hex	不明	キャンバス、アクリル	1	佐藤　辰美
		〃	Care	不明	パネル、アクリル絵具	1	佐藤　辰美
		〃	7	不明	キャンバス、アクリル	1	佐藤　辰美
		雄川　愛	Untitled	2006年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		樫木　知子	中庭	2008年	木製パネル、綿布、アクリル	1	佐藤　辰美
その他	その他	金氏　徹平	white discharge(hoop)	2004年	バスケットゴール、石膏	1	佐藤　辰美
		〃	白地図（部分）	2005年	ミクストメディア	1	佐藤　辰美
平面	絵画	苅谷　昌江	Space Oddity	2007-2008年	パネル、油彩	1	佐藤　辰美
		川上　雅史	静物	2007年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
	写真	〃	自画像（アメデオ・モジリアニの「青い背景の娘（1918）」に習って）	2007年	ラムダプリント、マットラミネート、パネル	1	佐藤　辰美
	絵画	河崎　まゆ子	Line and island	2008年	綿布、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	Melting line	2008年	綿布、油彩	1	佐藤　辰美
		鬼頭　健吾	コズミックダスト	不明	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
	写真	〃	micro cosmos（edition 5）	不明	写真　ガラス〈額〉	1	佐藤　辰美
その他	その他	〃	不明	不明	糸	1	佐藤　辰美
平面	写真	〃	quasar	2004年	Ｃタイププリント	1	佐藤　辰美
	絵画	栗田　咲子	愛ちろりん	2004年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	干しぶとん	2005年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	まん咲く	2005年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	桃のへっつい	2007年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	徒られ然られ草	2008年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
その他	その他	小林　健二	不明	不明	ミクスト・メディア	1	佐藤　辰美
		〃	不明	不明	ミクスト・メディア	1	佐藤　辰美

平面	絵画	佐々木　憲介	無題	2008年	廃キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
平面	絵画	〃	無題	2008年	廃キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	無題	2008年	廃キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	無題	2008年	廃キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	無題	2008年	廃キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	無題	2008年	廃キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	無題	2008年	廃キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	無題	2008年	廃キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	無題	2008年	廃キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	無題	2008年	廃キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	無題	2008年	廃キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
その他	その他	笹口　数	sphere (12 constellations)	2006年	ガラスに彫刻、金色のフレーム	1	佐藤　辰美
		〃	sphere (4 pieces of constellations)	2006年	アクリル樹脂板、キャンバス	1	佐藤　辰美
		〃	your birthday=my birthday	2006年	ガラス、白色のフレーム	1	佐藤　辰美
		塩田　千春	とおい記憶	2003年	電話、木、毛糸、糸、音	1	佐藤　辰美
平面	絵画	杉戸　洋	connecting man 6-10	2004年	キャンバス、アクリル	1	佐藤　辰美
		〃	the wall	2007年	キャンバス、アクリル絵具、顔料、グリッター、パステル	1	佐藤　辰美
		杉山　知子	不明	不明	紙、アクリル絵具	1	佐藤　辰美
その他	その他	鈴木　啓太	Untitled (a fridge)	2006年	インスタレーション（3ドア冷蔵庫、無光沢ペンキ、蛍光灯、他）	1	佐藤　辰美
平面	絵画	曽根　裕	無題	不明	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	1993年秋、水戸、恐竜公園にて	1993年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	UFOのペインティング1995年、谷中、台東区	1995年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	10 Jun. '97 Munster	1997年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
その他	その他	竹岡　雄二	Ohne title（無題）	1987年	木にペイント、ブロンズ	1	佐藤　辰美
		〃	浮いた台座	1992年	真鍮、ガラス	1	佐藤　辰美
		竹川　宣彰	セミ	2006年	FRP、スピーカー、アンプ、CD他	1	佐藤　辰美
平面	絵画	〃	ベール ＃1	2007年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
その他	その他	〃	身のまわり品のセイリングチャート	不明	脱穀乾燥機	1	佐藤　辰美
		〃	身のまわり品のセイリングチャート	不明	オルガン	1	
		〃	身のまわり品のセイリングチャート	不明	お面、コード付き部品	1	
		〃	身のまわり品のセイリングチャート	不明	毬（2個）	1	
		〃	身のまわり品のセイリングチャート地図のドローイング：日本	不明	ミクストメディア	1	
		〃	身のまわり品のセイリングチャート地図のドローイング：台湾島	不明	ミクストメディア	1	
		〃	身のまわり品のセイリングチャート地図のドローイング：マレー半島	不明	ミクストメディア	1	
		〃	身のまわり品のセイリングチャート地図のドローイング：セイロン島	不明	ミクストメディア	1	
		〃	身のまわり品のセイリングチャート地図のドローイング：インド	不明	ミクストメディア	1	
		〃	身のまわり品のセイリングチャート地図のドローイング：アジア沿岸	不明	ミクストメディア	1	
		〃	身のまわり品のセイリングチャート地図のドローイング：アラビア半島	不明	ミクストメディア	1	
その他	ミクストメディア	田中　功起	From my work desk (Next project-first of all)	2003年	ミクストメディア	1	佐藤　辰美

平面	絵画	津村　陽子	ループ	2002年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	きみのもり	2003年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	みずいろはねた	2004年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	ボクサー	2005年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	ｔａ－ｖｉ	2005年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
その他	その他	照屋　勇賢	For the World to Come	2004年	ピザの箱、印刷済段ボール	1	佐藤　辰美
平面	絵画	徳山　拓一	森と記憶と感覚の複雑系	2008年	キャンバス、アクリル	1	佐藤　辰美
		〃	My Private Nirvana	2008年	キャンバス、アクリル	1	佐藤　辰美
その他	その他	内藤　礼	無題（通路）	2007年	鏡、鉄、皿、光	1	佐藤　辰美
平面	絵画	中川トラヲ	nous	2006年	パネル、油彩	1	佐藤　辰美
		中村　一美	テンペストⅢ	不明	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
その他	その他	八谷　和彦	メーヴェ　１／４	2003年	模型用エンジン､FRP､バルサ、発泡材など	1	佐藤　辰美
平面	絵画	法貴　信也	庭	不明	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	庭	不明	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		政田　武史	無題	不明	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	Untitled (Horse)	2001年	綿布、アクリル絵具	1	佐藤　辰美
		〃	Untitled (Bungee)	2003年	綿布、アクリル絵具	1	佐藤　辰美
		〃	Untitled(Motocross)	2003年	綿布、アクリル絵具	1	佐藤　辰美
		〃	果ての窓口	2006年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		増田　佳江	nest	2007年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
	写真	松江　泰治	Gazetteer	2005年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	佐藤　辰美
	絵画	松田　啓佑	挟まれて生きて幸せ	2008年	パネル、油彩	1	佐藤　辰美
		水田　寛	くさむら	2008年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
その他	その他	宮本　隆司	ピンホールの家　国分寺・東恋ヶ窪・東京	不明	カラー･ダイレクト･ペーパー（アクリル）	1	佐藤　辰美
		〃	ピンホールの家　世田谷、多摩川、東京	2004年 ４月10日	カラー･ダイレクト･ペーパー（アクリル）	1	佐藤　辰美
平面	写真	本山　周平	不明	不明	ゼラチンシルバープリント	1	佐藤　辰美
		〃	不明	不明	ゼラチンシルバープリント	1	佐藤　辰美
		〃	不明	不明	ゼラチンシルバープリント	1	佐藤　辰美
		〃	不明	不明	ゼラチンシルバープリント	1	佐藤　辰美
		〃	不明	不明	ゼラチンシルバープリント	1	佐藤　辰美
		〃	不明	不明	ゼラチンシルバープリント	1	佐藤　辰美
		〃	不明	不明	ゼラチンシルバープリント	1	佐藤　辰美
	絵画	森　千裕	ヘクトパスカル（台風の目）	2004年	木製パネル、アクリル	1	佐藤　辰美
		〃	不眠症のニオイ（透けた街）	2006年	パネル、油絵具紙、水彩、鉛筆、木製パネルにマウント	1	佐藤　辰美
	写真	森山　大道	新宿	不明	B/W プリント	1	佐藤　辰美
		〃	新宿	不明	B/W プリント	1	佐藤　辰美
		〃	不明	不明	B/W プリント	1	佐藤　辰美
		〃	不明	不明	B/W プリント	1	佐藤　辰美
		〃	不明	不明	B/W プリント	1	佐藤　辰美
		〃	不明	不明	B/W プリント	1	佐藤　辰美
	絵画	山本　理恵子	テーブルカメ・ガールズトーク	2007年	キャンバス、アクリル、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	テーブルカメ・追悼の儀	2007年	キャンバス、アクリル、油彩	1	佐藤　辰美
		横内　賢太郎	BOOK-CHRI Duqu	2006年	キャンバス、アクリル、油彩	1	佐藤　辰美
その他	その他	アンドレアス・スロミンスキー	Untitled	1996-1997年	子供用自転車、ボトルネック他	1	佐藤　辰美
		〃	Cat Trap	2001年	木、金属	1	佐藤　辰美
		アントン・ヘニング	Quadrinom No.4	2005年	ペインティング４点（キャンバス、油絵具)、木、金属、照明器具	1	佐藤　辰美

平面	絵画	〃	Interieur No.318	2005年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	Stilleben mit Fruchten No. 41	2006年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
		〃	Interieur No.337	2006年	キャンバス、油彩	1	佐藤　辰美
その他	その他	エリック・スネル	untitled	1988年	紙、燃やした木3本、木炭	1	佐藤　辰美
		エルムグリーン&ドラグセット	The Incidental Self	2006年	カラープリント、皮製フレーム、棚	1	佐藤　辰美
		クリスト	Untitled	2004年	ガラス、アルミニウム、ペンキ	1	佐藤　辰美
その他	その他	ダニエル・ロート	Five trips before sunrise (no.3)	2006年	紙、鉛筆、Cタイププリント、額、発泡スチロール、ファイバーグラス	1	佐藤　辰美
立体		トーマス・シュッテ	Urns #141098/151098	1998年	陶器	1	佐藤　辰美
		〃	Urns　#270399/260399	1999年	陶器	1	佐藤　辰美
		〃	Urns #300698/211198	1999年	陶器	1	佐藤　辰美
		〃	Urns #230399/220399	1999年	陶器	1	佐藤　辰美
		〃	Urns　#020199/010199	1999年	陶器	1	佐藤　辰美
平面	絵画	フェデリコ・エレーロ	landscape	2004年	カンヴァス、油絵具、アクリル絵具、スプレー	1	佐藤　辰美
その他	その他	フランツ・ヴェスト	Untitled	2001年	ミクストメディア	1	佐藤　辰美
		マイク・ケリー	Thanks/Coming Float. Theme: Ritual of the Savage	1996年	木材、砂袋、アクリル絵具	1	佐藤　辰美
		ミコライ・ポリンスキー	The Mechanics of Heaven	2003年	カンヴァス、鉛筆、油絵具(14点組)・インスタレーション	1	佐藤　辰美
		リサ・ラピンスキー	Sketch for 'Mimpy Mimp #3: Greene and Green Night Stand (Shaker)	2005年	段ボール、カラーコピー、糊、テープ、塗料、籐、粘土、写真、羽毛、プラスティック、クルミ、ベニア板、インク、木材、ウッド ステイン、拾ったイルカのチャーム付ネックレス	1	佐藤　辰美
平面	絵画	孫　本長	黄土高原33	不明	絹本、墨彩色	1	五洋製作所㈱伊藤多美子
		タイン・チュオン	不明	不明	キャンバス、油彩	1	サンリース㈱伊藤多美子
		BUINGOC TU	The Girl and Fish	不明	漆絵	1	伊藤豊吉、多美子
		CHAROON BOONSUAN	不明	不明	キャンバス、油彩	1	伊藤豊吉、多美子
		TU DYEN	不明	不明	絹本着色	1	サンリース㈱伊藤多美子

【移管】　　２００９年４月１日～２０１０年３月３１日

分類		作家名	作品名	制作年	素材・技法	数量	移管先
平面	絵画	大嶺　政寛	八重山風景		キャンバス、油彩	1	沖縄県東京宿泊所「若夏荘」

４．作品収集事業

本美術館は、県民に多様な芸術鑑賞の機会や創造性を高める場を提供し、地域の芸術文化の拠点となると同時に、芸術文化活動を通じて、アジア地域や沖縄の発展に貢献する国際化の拠点となることを目的としている。収集事業は、本県独自で個性あるコレクションを形成するために不可欠な事業である。

２００９年度は２回の収集委員会を開催し、コレクションの核となる県内作家の作品や、アメリカを代表する陶芸作家の一人である、県系二世のタカエズ・トシコ氏の作品、国内外の現代作家５８人の１２７点の作品、アジアの現代美術の作品など、２９０点（購入３９点、寄贈１１９点、寄託１３２点）を収集した。いずれも、充実した展示活動を行う上で重要な作品である。

（瑞慶山　昇）

5．保存管理業務

① 保存環境の整備

年に２回の全館燻蒸、部分燻蒸を行い、毎月保存環境調査（IPM モニタリング）を実施し、また毎週一度、展示室内、収蔵庫内の温度湿度管理を行っている。

② 収蔵作品の保存修復

○大野麦風『識名園』 1934 年／紙本着色二曲一隻／表具寸法：186.2 × 186.4 ㎝
処置者：文化財修復　石川堂　當間　巧

・修復前の状況～本紙には糊浮きが生じ、全体的に染み、汚れ、また絵具の剥落、亀裂、破損が見られた。また、オゼ折れ曲がり部分が切れ、欠損、破損も見られた。そのため、このまま放置しておくと、本紙及びオゼ部分の亀裂破損の進行を及ぼし、本紙絵具の剥落の拡大を招き、絵画性を損なう事となり、また屏風としての展示や開閉の妨げにもなる状態であった。
・修復処置概要～剥落止め、汚れの除去、本紙の亀裂、破損部分の補修、本紙の裏打ち、木縁の新調

○南風原朝光『サモアールのある静物』1948 年／キャンバス、油彩／外寸法：137.5 × 111.5 × 8.7 ㎝
処置者：絵画保存修復　眞鍋千絵

・修復前の状況～絵画層に浮上りがあり、剥落へと進行する恐れがあった。また、使用済みのキャンバス（古キャンバス）を使用した可能性があり、絵画層の固着力の脆弱性が推測された。また、作品裏面が露出しており、額縁に衝撃や埃に対する保護機能がない状態であった。
・修復処置概要～絵画層浮上りの固定、キャンバスの裏面の埃と異物除去、表面洗浄、絵画層欠損への充填絵画層欠損の補彩、額縁の改良と額装

○大村徳江「母子像」 1956 年／板（メゾナイト）、油彩／外寸法：51.5 × 41.0 × 5.3 ㎝
処置者：絵画保存修復　眞鍋千絵

・修復前の状況～絵画層には、支持体までの小欠損が多数見られ、画面全体に汚れ、白いカビ状の付着物があり、画面四辺縁の絵画層の摩耗と汚れが著しく見られた。また、作品と入れ子が額内に固定されていない状態であった。
・修復処置概要～絵画層浮上りの固定、キャンバスの裏面の埃と異物除去、キャンバスの変形の平面化、表面洗浄、絵画層欠損への充填、絵画層欠損の補彩、額縁の改良と額装

③ 展覧会出品作品の修復

美術館企画展「名渡山愛順展」（会期：平成２１年１０月３０日～１２月２０日）の展示作品、油絵５４点の画面洗浄作業（製清水を使用）を行った。

④ 収蔵作品の状態調査

修復を要する作品については、下記の修復専門家に状態調査を依頼した。
絵画保存修復　中井久代　２０１０年2月１６日―3月１日
＊保存状態総合評価（◎良好○要観察●要保存修復処置）

点数	作家名	作品名	状態	処置提案
1	安谷屋　正義	仮像	●	絵具層の浮き上がり接着、裏面清掃
2	安谷屋　正義	1 時 5 分前	○	絵具層の浮き上がり接着、裏面清掃
3	安谷屋　正義	厨子甕（白）	●	絵具層の浮き上がり接着、裏面清掃
4	安谷屋　正義	起重機	●	絵具層の浮き上がり接着、裏面清掃
5	安谷屋　正義	柵	●	絵具層の浮き上がり接着、画面クリーニング（カビの除去)、裏面清掃
6	安谷屋　正義	新世紀	●	絵具層の浮き上がり接着、裏面清掃、欠損部の充填、補彩
7	安谷屋　正義	城門	◎	裏面　絵具層の浮き上がり接着、裏面清掃
8	安谷屋　正義	帰り途	◎	裏面清掃、欠損部の充填、補彩
9	安谷屋　正義	野火	○	剥落箇所周辺の剥落止め、裏面清掃、画面クリーニング、ワニスの除去、補彩
10	安谷屋　正義	爆音	●	絵具層の浮き上がり接着、裏面清掃
11	安谷屋　正義	中城より西原望む	○	画面クリーニング、付着物の除去、裏面清掃
12	石嶺　傳郎	古墟の一隅	●	修復処置方法についての、更なる調査研究が必要
13	石嶺　傳郎	虚壁（1）	●	絵具層の浮き上がり接着、画面クリーニング（カビの除去)、裏面清掃
14	石嶺　傳郎	虚壁（2）	●	絵具層の浮き上がり接着、裏面清掃
15	石嶺　傳郎	虚	●	絵具層の浮き上がり接着、裏面清掃
16	石嶺　傳郎	寂	●	絵具層の浮き上がり接着
17	石嶺　傳郎	処	◎	キャンバスの変形修正、裏面清掃

18	石嶺　傳郎	閑	●	キャンバスの変形修正、絵具層の浮き上がり接着、画面クリーニング、裏面清掃
19	石嶺　傳郎	室	●	絵具層の浮き上がり接着、画面クリーニング（カビの除去）、裏面清掃
20	石嶺　傳郎	展	◎	絵具層の浮き上がり接着、裏面清掃
21	石嶺　傳郎	直	◎	裏面清掃
22	石嶺　傳郎	観（2）	◎	裏面清掃
23	石嶺　傳郎	憶	◎	裏面清掃
24	大城　皓也	窓辺	○	画面クリーニング（カビの除去）、裏面清掃
25	大城　皓也	石垣		作品を額から出してから処置内容を検討
26	大城　皓也	風土（仮題・３）	○	錆びたタックスの交換、裏面清掃
27	大城　皓也	五月の花	◎	裏面清掃
28	大城　皓也	戦前の沖縄	◎	裏面清掃
29	大城　皓也	月	◎	画面クリーニング（カビの除去）、裏面清掃
30	大城　皓也	風土（仮題・２）	◎	錆びたタックスの交換、裏面清掃
31	大城　皓也	風土（仮題・４）	◎	裏面清掃
32	大城　皓也	首里風景	◎	画面クリーニング、裏面清掃
33	大城　皓也	沖縄の花	●	画面クリーニング（カビの除去）、裏面清掃
34	大城　皓也	首里風景	●	絵具層の浮き上がり接着、剥落止め、画面クリーニング（カビの除去）、欠損部の充填、補彩、裏面清掃
35	大嶺　政寛	龍潭池畔	●	絵具層の浮き上がり、剥落箇所周辺の接着、キャンバスの変形修正、ストリップ・ライニング、木枠の交換、新しい木枠への貼り替え、画面クリーニング、ワニスの除去、欠損部の充填・整形、補彩、新しいワニスの塗布、裏面清掃
36	儀間　比呂志	石の歴史	●	欠損箇所の充填、補彩
37	儀間　比呂志	群像	●	裂けた部分の補修、キャンバスの変形修正、ストリップ・ライニング、木枠の交換、新しい木枠への貼り替え、画面クリーニング、欠損部の充填、補彩、裏面清掃
38	山元　恵一	食習慣の消長について	●	絵具層の浮き上がり接着、裏面清掃
39	山元　恵一	回帰	●	絵具層の浮き上がり接着、画面クリーニング（カビの除去）、裏面清掃
40	治谷　文夫	黒い風景 1	●	絵具層の浮き上がり接着、裏面清掃
41	治谷　文夫	黒い風景 2	●	絵具層の浮き上がり接着、裏面清掃
42	喜久村　宏	海中道路	●	剥落箇所周辺の剥落止め、画面クリーニング（カビの除去）、裏面清掃
43	喜久村　宏	解放地	●	剥落箇所周辺の剥落止め、画面クリーニング、裏面清掃
44	大浜　英治	風景の中で	●	コラージュされた紙の浮上り、捲れの接着

館内コレクションギャラリーでの展示ならびに貸出の際の作品の状態調査を行い、またマウントのない作品のマットおよび額を新調した。

点数	作家名	作品名	制作年	技法素材	サイズ（ｃｍ）	
1	知花　均	境界域 02-1-S	2002 年	スクリーンプリントの吹付け、紙	67.4 × 54.3	額縁新調
2	知花　均	境界域 02-10-S	2002 年	スクリーンプリントの吹付け、紙	67.5 × 54.3	額縁新調
3	知花　均	境界域 02-11-S	2002 年	AF ケント紙、油性インク、シルクスクリーン吹付	68.5 × 54.9	額縁新調
4	知花　均	境界域 02-12-S	2002 年	スクリーンプリントの吹付け、紙	68.6 × 54.8	額縁新調
5	知花　均	Projection-map1945 OKINAWA- 相思樹	2005 年	エッチング、紙	36.7 × 27.3	額縁新調
6	知花　均	Projection-map 1945 YONTANZAN	2005 年	エッチング、紙、ベラランアルシュ	36.2 × 27.4	額縁新調
7	新垣 安之輔	版画シリーズ１	1970 年	木版、紙	36.7 × 26.0	マウント、額縁新調
8	新垣 安之輔	版画シリーズ２	1970 年	木版、紙	36.7 × 26.0	マウント、額縁新調
9	新垣 安之輔	版画シリーズ３	1970 年	木版、紙	36.7 × 25.5	マウント、額縁新調
10	新垣 安之輔	版画シリーズ４	1970 年	木版、紙	36.6 × 51.5	マウント、額縁新調
11	新垣 安之輔	版画シリーズ５	1970 年	木版、紙	51.5 × 36.6	マウント、額縁新調
12	新垣 安之輔	版画シリーズ６	1970 年	木版、紙	36.5 × 51.6	マウント、額縁新調
13	新垣 安之輔	版画シリーズ７	1970 年	木版、紙	51.5 × 36.6	マウント、額縁新調
14	新垣 安之輔	版画シリーズ８	1970 年	木版、紙	51.5 × 36.6	マウント、額縁新調
15	新垣 安之輔	版画シリーズ９	1970 年	木版、紙	36.5 × 51.6	マウント、額縁新調
16	新垣 安之輔	版画シリーズ 10	1970 年	木版、紙	36.5 × 51.6	マウント、額縁新調

６．作品貸出

平成２１年度は、下記のとおり３件４点の作品を他館での展示のために貸出した。

展覧会名：国立国際美術館新築移転５周年記念　絵画の庭―ゼロ年代日本の地平から
会　　場：国立新美術館（大阪）
借用期間：２００９．１２．２５－２０１０．４．２７

作家名	作　品　名	制作年	技　法　素材	サイズ(cm)	ジャンル
栗田　咲子	愛ちろりん	2004年	油彩、キャンバス	62.0×162.0	絵画
森　千裕	不眠症のニオイ（透けた街）	2006年	水彩、鉛筆、紙、木製パネル	135.0×180.4	絵画

＊寄託作品（大和コレクション）

展覧会名：六本木クロッシング
会　　場：森美術館（東京）
借用期間：２０１０．３．５－７．３１

作家名	作　品　名	制作年	技　法　素材	サイズ(cm)	ジャンル
照屋　勇賢	来るべき世界に/For the World to Come 2004	2004年	ミクスト・メディア・インスタレーション	500.0×500.0	その他

＊寄託作品（大和コレクション）

展覧会名：レゾナンス共鳴　人と響き合うアート
会　　場：サントリーミュージアム（大阪）
借用期間：２０１０．３．２５－６．３０

作家名	作　品　名	制作年	技　法　素材	サイズ(cm)	ジャンル
アンドレアス・スロミンスキー	無題	1996/97年	子供用自転車、ボトルのネック他	130.0×110.0×50.0	その他

＊寄託作品（大和コレクション）

文化の杜共同企業体
（指定管理者）

Ⅰ　文化の杜共同企業体概要
Ⅱ　運営方針
Ⅲ　組織
Ⅳ　文化の杜共同企業体・美術館
　　企画アドバイザー会議
Ⅴ　展示活動
Ⅵ　教育・イベント活動
Ⅶ　広報・交流事業
Ⅷ　調査・研究等の活動
Ⅸ　その他

Ⅰ．文化の杜共同企業体概要

沖縄県立博物館・美術館の管理・運営には、開館した２００７年（平成１９年）１１月１日から指定管理者の文化の杜共同企業体（代表・平良知二、通称「文化の杜」）があたっている。

文化の杜共同企業体は、（株）沖縄文化の杜（代表取締役社長・平良知二）、（株）沖縄タイムス社（代表取締役社長・岸本正男）、（株）国際ビル産業（代表取締役社長・井上宏）の３社で構成。出資比率は代表者の（株）沖縄文化の杜が８割、（株）沖縄タイムス社と（株）国際ビル産業がそれぞれ１割となっている。（株）沖縄文化の杜は文化事業等を企画・展開し、シンクタンク的な役割も兼ねる会社として２００７年１月に（株）沖縄タイムス社の１００％出資で設立した。（株）沖縄タイムス社は新聞社として１９４８年７月の創立、常に県民の立場に立って沖縄の言論界をリードしつつ戦後沖縄の文化振興の一翼を担ってきた。（株）国際ビル産業は１９６６年に設立され、県内の文化施設やホテル、病院等の管理を行い、衛生・設備管理や警備などで実績がある。

この３社が連携して立ち上げた文化の杜共同企業体は、それぞれの得意分野を生かし、沖縄県立博物館・美術館の管理・運営にあたっている。開館からの指定管理者の期限は２０１１年３月３１日まで。

Ⅱ．運営方針

館の管理・運営にあたっては沖縄県立博物館・美術館の設置目的および基本方針、管理規則等に基づき、博物館・美術館という複合施設としての利点を生かし、県民はもとより国内外からの来館者が満足していただくよう、公正・公平で開かれた館運営に努めている。

日本博物館協会は２１世紀にふさわしい博物館の新しい理念として「対話と連携」を提唱し、これを管理運営の中心に据えることが博物館の機能を向上させ、生涯学習時代の要請に応えていく道であるとしている。文化の杜においてもこのような精神に基づき、「県民主体」をモットーに、いつでも、誰でも気軽に利用できる施設を目指している。加えて、県民が愛着の持てる、県民による県民のための博物館・美術館を目指し、①沖縄の文化振興の拠点施設とする②「沖縄ルネサンス」を創出する人材育成の拠点化③アジア・海外との交流・連携の促進④沖縄ブランドの確立⑤県民ぐるみの取り組みの推進―の５つの管理運営方針を掲げてきた（下記参照）。

２００９年度は文化の杜共同企業体が一年を通して館を管理・運営する２回目の年度である。これまで以上に県の博物館班や美術館班と緊密に連携し、文化の杜共同企業体が美術館企画ギャラリーで主催する年４つの企画展と博物館班や美術館班が主催する企画展や特別展、沖縄県主催の沖縄県芸術文化祭等をスムーズに展開・運営する方針で臨み、成功を収めた。

沖縄の文化振興の拠点施設とする

沖縄県の芸術文化に関する最先端の情報が集積する場であり、かつその情報を離島地域を含めて、県内外に発信する拠点施設とする。

「沖縄ルネサンス」を創出する人材育成の拠点化

県民が沖縄・琉球の歴史文化を学び知識と愛着を育み、それらを生かして「沖縄ルネサンス」を創出する人材を育てる場とする。常に県内外の博物館・美術館と交流し、県内の類似施設とも連携を強化してお互いの役割を最大限発揮できるように取り組む。活動のプロセスそのものを人材育成にも結びつける。

アジア地域との交流・連携の促進

かつて交易国家として繁栄し、近代には多くの海外移住者を輩出した本県の歴史を踏まえ、アジア近隣地域や中南米など海外のウチナーンチュとの交流･連携を積極的に進める。「アジアの中の沖縄」の観点に立ち、東京経由ではない独自のネットワークを構築し、地元企業の強みを生かして「沖縄の個性」を発揮することに努める。

沖縄ブランドの確立

各種企画や事業、教育普及活動を通して、沖縄ブランドを育成、発展させる拠点とする。観光立県沖縄の魅力ある観光資源としての役割を担い、最新情報の発信により沖縄の魅力を広く内外にＰＲする。

県民ぐるみの取り組み推進

「県民主役」を基本とし、県民による新しい文化創造を目指す。「県民の視点」を基本に「県民ぐるみ」の取り組みで、環境対策にも積極的に対応するほか地域との連携、県民参加のあり方を工夫し教育普及活動を積極的に推進する。

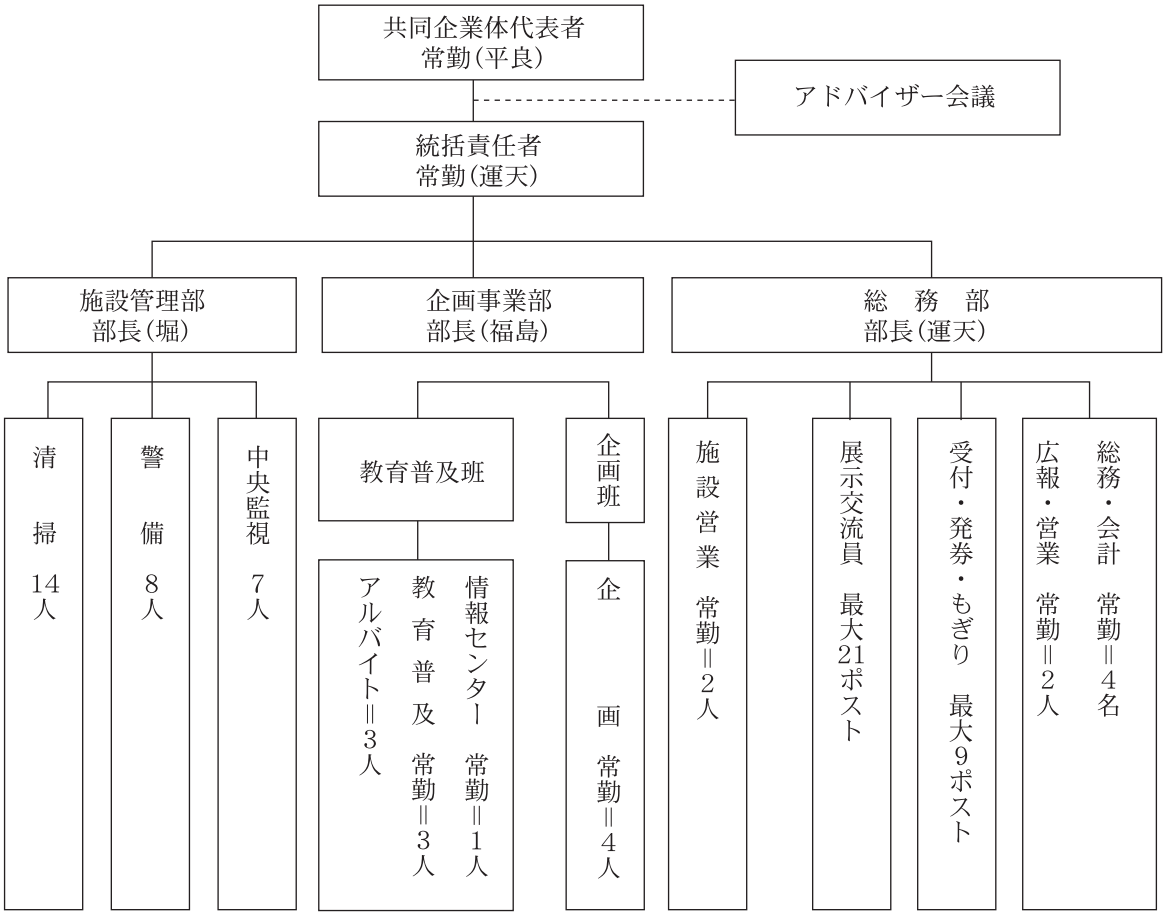
日本博物館協会は２１世紀にふさわしい博物館の新しい理念として「対話と連携」を提唱し、これを管理運営

の中心に据えることが博物館の機能を向上させ、生涯学習時代の要請に応えていく道であるとしている。文化の杜においてもこの精神に基づき、「県民主体」をモットーとして、いつでも、誰でも気軽に利用できる施設を目指し、県民に開かれた公正・公平な運営を指針としている。

Ⅲ．組織

文化の杜共同企業体は、平良知二代表の下、運天寛栄統括責任者を現場責任者に、総務部（部長は統括責任者が兼任）、企画事業部（企画、教育普及の２班で構成、部長は福島輝一）、施設管理部（警備、設備・技術、美装班の３班で構成、部長は堀末治）の３部制で県立博物館・美術館を管理・運営している。

また、外部有識者の助言機関として指定管理者に決まった２００７年秋から、企画展実施等について助言・指導していただくアドバイザー会議を設置している。



※他にミュージアムショップ「ゆいむい」のスタッフ
※他にカフェのスタッフ(業務委託)

【職員構成】　　２０１０年４月１日現在

班	氏　名	担　当　業　務
代　　表	平良知二	共同企業体を統括
統　　括	運天寛栄	指定管理業務の統括、総務全般、県や博物館・美術館との現場調整に関すること。
総　務　班	赤嶺政信	発券システム管理、月報・年度報告。沖縄文化の杜経理に関すること。
	平良亜希子	共同企業体予算管理、人事管理（発券、総合案内、展示交流員等）に関すること。
	仲程香野	総務全般、企画・受注事業等に関すること。広報に関すること。
	島袋百恵	総務補助、クーポン券やその他総務全般に関すること。
	金城正仁	営業、広報補助に関すること。
	喜納春樹	企画、施設貸出に関すること。
	與那嶺研規	施設管理、県民ギャラリーに関すること。
教育普及	福島輝一	教育普及の総括に関すること。
	中村　愛	教育普及（博物館担当）に関すること。
	町田恵美	教育普及（美術館担当）に関すること。
	玉城淳子	情報センターの管理・運営に関すること。
	渡部貴子	ふれあい体験室に関すること。
企画事業班	福島輝一（兼任）	企画班の統括に関すること。
	謝花佐和子	企画、自主事業（しまくとぅばプロジェクト、おもろ夜会等）に関すること。
	金城美奈子	企画、自主事業（しまくとぅばプロジェクト、おもろ夜会等）に関すること。
	仲里なぎさ	企画、自主事業（しまくとぅばプロジェクト、おもろ夜会等）に関すること。
	國吉貴奈	企画、自主事業（しまくとぅばプロジェクト、おもろ夜会等）に関すること。
施設管理班	堀　末治	施設管理全般の統括に関すること。
	友知政行	警備の統括に関すること。
	上地克己	設備の統括に関すること。
	與那嶺裕哉	清掃の統括に関すること。
総合案内・発券・もぎり		来館者に対する諸対応、発券業務、観覧券のもぎりに関すること。
展　示　交　流　員		展示室における監視、誘導、解説等に関すること。

【人事異動】　　２０１０年３月３１日現在

部　　署	氏　　名	適　　用
転出		
施設管理	神谷幸男	国際ビル本社（２００９年７月　７日）
	上原　寿	国際ビル本社（２００９年４月　１日）
	大城徳貢	国際ビル本社（２０１０年２月１５日）
転入		
代表	平良知二	常勤（２００９年６月２５日）
総務部	島袋百恵	採用（２００９年４月　１日）
	金城正仁	採用（２００９年４月１３日）
施設営業	喜納春樹	採用（２００９年４月１０日）
	宮里宗彦	採用（２００９年５月２０日）
施設管理	宮里朝彰	国際ビル産業（２００９年４月　１日）
	平川孝盛	国際ビル産業（２０１０年４月１５日）
	宜保　暁	国際ビル産業（２００９年７月　７日）
警備班	石川　毅	国際ビル産業（２００９年９月　１日）
退職		
施設営業	屋良朝秀	２００９年３月３１日付
	與那嶺研規	２００９年５月３１日付

Ⅳ. 文化の杜共同企業体・美術館企画アドバイザー会議

指定管理者が行う４本の企画と関連事業について助言や指導していただく外部有識者のアドバイザーを２１年度は５人から１人増やして６人にした。２００７年１０月の発足時から継続してもらっているメンバー５人に、安里進沖縄県立芸術大学教授を加えた。さらに前年度からオブザーバーで参加していた美術館副館長は人事異動で４月から翁長直樹副館長に代わった。同会議は、毎月一回実施。

２００９年の委員は次の通り。

文化の杜共同企業体・美術館企画アドバイザー名簿　　（２００９年4月１日～２０１０年3月３１日）

氏　名		所　属	職　名
学識経験者	西村貞雄	琉球大学	名誉教授
	安里進	沖縄県立芸術大学	教授
市民グループ	宮城潤	前島アートセンター	理事
批評家	仲里効	雑誌「EDGE」	編集長
実作者	喜久村徳男	芸術家	画家
美術館運営者	佐喜眞道夫	佐喜眞美術館	館長
オブザーバー	翁長直樹	沖縄県立博物館・美術館	副館長兼班長

第２１回アドバイザー会議

日　時：４月２１日（火）　17:30 ～ 19:30

場　所：特別会議室

出席者：西村貞雄、喜久村徳男、佐喜眞道夫、安里進、宮城潤、翁長直樹副館長

内　容：「豊潤の美を求めて」「琉球絵画」「王昭展」の進捗状況の報告。「アトミックサンシャイン」展など本年度計画している企画展を説明した。

第２２回アドバイザー会議

日　時：５月２２日（金）　17:30 ～ 19:30

場　所：特別会議室

出席者：西村貞雄、喜久村徳男、佐喜眞道夫、安里進、宮城潤、仲里効、牧野浩隆館長、翁長直樹副館長

内　容：６人のアドバイザーに終了した「アトミックサンシャイン」展の状況、次回開催の「豊潤の美を求めて」展の準備状況を報告した。また、今年募集予定の「県民キューレーター展」の募集要項について意見を求めた。「館長と意見交換したい」というアドバイザー要請に応じ、牧野浩隆館長も出席し懇談した。

第２３回アドバイザー会議

日　時：６月２２日（月）17:30 ～ 19:00

場　所：特別会議室

出席者：西村貞雄、喜久村徳男、安里進、宮城潤、仲里効、翁長直樹副館長

内　容：「豊潤の美を求めて」展、「王昭展」の開催状況、および「琉球絵画展」の進捗状況を報告した。

第２４回アドバイザー会議

日　時：７月１４日（火）17:30 ～ 19:00

場　所：特別会議室

出席者：西村貞雄、喜久村徳男、安里進、宮城潤、仲里効、翁長直樹副館長

内　容：「琉球絵画展」の開催状況、および「オキナワデザインの現在」展の進捗状況を報告した。

第２５回アドバイザー会議

日　時：８月１３日（木）17:30 ～ 19:00

場　所：特別会議室

出席者：西村貞雄、喜久村徳男、佐喜眞道夫、安里進、宮城潤、仲里効、翁長直樹副館長

内　容：開催中の「琉球絵画展」の状況報告、９月からの「オキナワデザインの現在」展の進捗状況を報告。展示方法について助言を得た。また、来年開催予定の「沖縄マンガ展」についての意見も受けた。

第２６回アドバイザー会議

日　時：９月１０日（木）17:30 ～ 19:20
場　所：特別会議室
出席者：西村貞雄、喜久村徳男、佐喜眞道夫、宮城潤、仲里効
内　容:終了した「琉球絵画展」の事業報告､反省点等について意見交換。開催中の「オキナワデザインの現在」展の中間報告。次年度の企画案「いわさきちひろ展」｢沖縄マンガ展」｢遠き道」展「県民キューレーター公募展」について意見や助言を受けた。

第２７回アドバイザー会議

日　時：１０月８日（木）17:30 ～ 19:00
場　所：特別会議室
出席者：西村貞雄、喜久村徳男、佐喜眞道夫、安里進、宮城潤、仲里効
内　容：｢オキナワデザインの現在」展の実績報告。反省点等について意見交換。次年度の企画について助言を受けた。

第２８回アドバイザー会議

日　時：１１月１９日（木）17:30 ～ 19:30
場　所：特別会議室
出席者：西村貞雄、喜久村徳男、佐喜眞道夫、安里進、宮城潤、仲里効
内　容：次年度予定の「沖縄マンガ展」の内容について意見交換。助言を受ける。「いわさきちひろ展」の進捗状況を報告。「県民キューレーター公募展」の募集、応募状況、１２月１２日に二次審査があることを報告。次期指定管理者公募へ意見を伺う。

第２９回アドバイザー会議

日　時：１２月２５日（金）17:30 ～ 19:20
場　所：特別会議室
出席者：西村貞雄、喜久村徳男、佐喜眞道夫、安里進、宮城潤、仲里効、翁長直樹副館長
内　容：｢県民キューレーター公募展」の選考結果を報告。開催へ助言をもらう。来年度の「沖縄マンガ展」の進捗状況を報告。出品作品、展示方法についてアドバイスを受ける。次期指定管理者の企画案について助言を受けた。

第３０回アドバイザー会議

日　時：１月２１日（木）17:30 ～ 20:00
場　所：特別会議室
出席者：西村貞雄、喜久村徳男、佐喜眞道夫、安里進、宮城潤、仲里効
内　容：４月からの｢いわさきちひろ展」や５月からの｢遠き道」展、７月からの｢沖縄マンガ展」、９月の｢県民キューレーター公募展」の準備・進捗状況を説明し､展示や展開などの助言を受けた。また､企画会社からの持込み企画についてのアドバイスを受けた。安里氏が｢沖縄人はどこから来たか？」と講話。

第３１回アドバイザー会議

日　時：２月１８日（木）17:30 ～ 19:00
場　所：特別会議室
出席者：西村貞雄、喜久村徳男、安里進、宮城潤、仲里効、翁長直樹副館長
内　容：４月からの｢いわさきちひろ展」、５月の｢遠き道」展、７月の｢沖縄マンガ展」、９月の｢県民キューレーター公募展」の準備･進捗状況を説明。それぞれ､展示方法や展開の仕方などの助言を受けた。｢遠き道」展については石川県立美術館での視察報告をした。

第３２回アドバイザー会議

日　時：３月２５日（木）17:30 ～ 19:00
場　所：特別会議室
出席者：西村貞雄、喜久村徳男、佐喜眞道夫、宮城潤、仲里効、翁長直樹副館長
内　容：４月３日からの「いわさきちひろ展」や５月からの「遠き道」展、７月からの「沖縄マンガ展」、９月の「県民キューレーター公募展」の準備・進捗状況を説明。それぞれ、展示方法や展開の仕方などの助言を受けた。

Ⅴ．展示活動

１．展示活動概要（美術館企画展）

文化の杜共同企業体は、美術館企画展を年４回実施することになっており、２００９年（平成２１年）は４月からの「アトミックサンシャインの中へ in 沖縄－日本国平和憲法第九条下における戦後美術」展を皮切りに、5・６月は「豊潤の美を求めて－金城安太郎と高畠華宵展」、７・８月は「琉球絵画展」、９・１０月は「オキナワデザインの現在」展の４つの展覧会を開催した。

２００９年は、沖縄にとって薩摩侵攻から４００年、廃藩置県（琉球処分）から１３０年の節目の年にあたるため、４展の共通テーマを「アイデンティティー、帰属」などのキーワードに求めて企画展を展開した。

４展の入場者は１５，０２８人。開催の予算総額は２，９６３万８５０６円となった。

（１）「アトミックサンシャインの中へ in 沖縄－日本国平和憲法第九条下における戦後美術」

会　　期：２００９年４月１１日（土）～5月１７日（日）（３２日間）
場　　所：美術館企画ギャラリー１、２
観 覧 料：一般８００円、高校生・大学生５００円、小学生・中学生３００円
観覧者数：３，６７７人
予 算 額：１０，５２６，２８６円

【開催趣旨】

ニューヨークと東京で開催された「アトミックサンシャインの中へ－日本国平和憲法第九条下における戦後美術」展に、沖縄で表現してきた作家を加えて「in 沖縄」として、開催する。沖縄県立博物館・美術館において初めて外部キューレーターと共同で行う企画展で、ニューヨーク等で活躍してきたインディペンデントキューレーター渡辺真也氏による、日本国憲法第九条下における戦後美術をテーマに構成された展覧会。

世界的にはあまり知られていない日本国憲法第九条をテーマやモチーフに、国内外の著名なアーティストが様々な表現方法で創りあげた作品で構成。憲法をテーマとしていることから、沖縄と日本の立ち位置の違いも考えさせる企画とする。憲法を通して近現代そして・未来の沖縄を考える契機ともなる展覧会として位置づけた。

【開催形式】

主　催：文化の杜共同企業体／沖縄県立博物館・美術館
協　力：「アトミック・サンシャイン・９条と日本」実行委員会、佐喜眞美術館、ギャラリーラファイエット
機材協力：SANYO、アメリカンデポ

【開会式】

日　時：４月１０日（金）15:00 ～ 17:30
場　所：美術館　企画ギャラリー前
参加者：渡辺真也氏（インディペンデントキューレーター）、柳幸典氏（アーティスト）、真喜志勉氏（アーティスト）、牧野浩隆沖縄県立博物館・美術館館長、平良知二文化の杜共同企業体代表（以上テープカット者）他３０人

【展示内容】

ニューヨークや東京で開催された展覧会に、新たに沖縄の作家を加え再構成した。オノヨーコ、森村泰昌、柳幸典など日本の現代アートを代表する作家と、沖縄の作家のコラボレーションにより、沖縄という地場にで構成され、表現された作品との対比を意識した構成とした。作品数は６８点。

【関連催事】

１）キューレータートーク（キューレーター渡辺真也氏による展覧会の作品紹介）
　実施日：４月１１日（土）11:00 ～ 12:00
　場　所：企画ギャラリー内
　参加者：３０人（観覧料で入室）
２）アーティストトーク
　①出品作家（石川真生、照屋勇賢、真喜志勉、比嘉豊光、柳幸典の５氏）による作品紹介

実施日：４月１１日（土）13:30 ～ 15:00
場　所：企画ギャラリー内
参加者：３０人（観覧料で入室）

②出品作家（新垣安雄、仲里安広、山城知佳子の３氏）による作品紹介
実施日：２００９年４月１２日（日）13:30 ～ 15:00
場　所：企画ギャラリー内
参加者：２０人（観覧料で入室）

3）シンポジウム
「沖縄における憲法第九条と『戦後美術』とは何か」と題し「アトミックサンシャインの中へ in 沖縄」の展覧会趣旨や出品作家による作品の制作背景等についてのクロストーク
実施日：４月１１日（土）14:30 ～ 21:00
場　所：講堂
登壇者：コーディネーター・渡辺真也氏
　　パネリスト・石川真生、照屋勇賢、真喜志勉、比嘉豊光、柳幸典の５氏
参加者：６０人（観覧料で入室）

4）朗読会「北島角子『しまくとぅば』で朗読する『憲法第九条』」
憲法記念日と重ねあわせた催しとして､「北島角子『しまくとぅば』で朗読する『憲法第九条』」を開催した。戦前・戦中・戦後を生きてきた女優・北島角子氏がしまくとぅばで憲法第九条を表現し、憲法第九条への思いを語った。日本語朗読は親川志奈子氏
実施日：５月３日（水）14:00 ～ 14:30
場　所：講堂
参加者：３０人（観覧料で入室）

5）シンポジウム「お国は？」「沖縄ですが、何か？」
「５・１５復帰の日」と重ねあわせた展覧会のクロージングシンポジウムとして、理論・表現・生活といった諸相から見える「復帰」の意味を改めて沖縄で考える趣旨で、コーディネーターである前嵩西一馬氏の企画によるシンポジウム。
実施日：５月１５日（水）19:00 ～ 21:30
場　所：講堂
登壇者：コーディネーター・前嵩西一馬氏、パネリスト・萱野稔人、知念ウシ、渡辺真也の３氏
　　特別出演・小波津正光といさお名ゴ支部（ＦＥＣ）
参加者：１５０人（観覧料で入室）

6）映画：クリスマルケル監督「Level Five(レベルファイブ)」上映会
実施日：５月１６日（土）14:00 ～ 16:00
場　所：講堂
参加者：８０人（観覧料で入室）

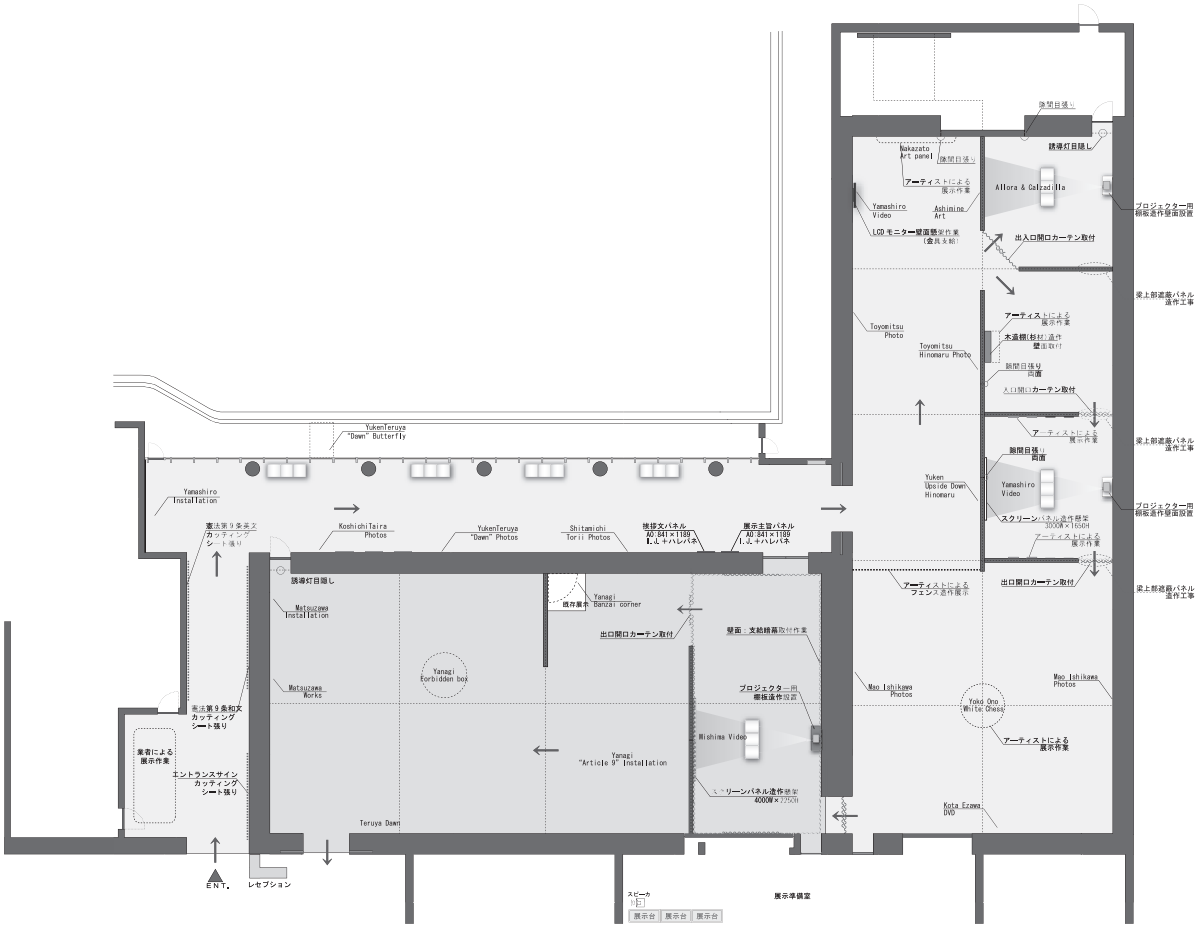
7）英語によるキューレータートーク（キューレーター渡辺真也氏が英語で展覧会解説）
実施日：５月１７日（土）14:00 ～ 16:00
場　所：美術館企画ギャラリー内
参加者：２０人（観覧料で入室）

（謝花佐和子）

開会式（4 月 10 日）

内覧会（4 月 10 日）

【展示平面図】



（2）「豊潤の美を求めて－金城安太郎と高畠華宵展」

会　　期：２００９年5月２８日（木）～6月２８日（日）（２８日）
場　　所：美術館企画ギャラリー１、２
観 覧 料：一般８００円、高校・大学生５００円、小・中学生３００円
観覧者数：３，２０７人
予 算 額：７，３４８，４２２円

【開催趣旨】

戦前、沖縄で初めての挿絵画家として登場し、戦後まで活躍した金城安太郎（きんじょうやすたろう）（１９１１～１９９９）と、大正から昭和初期にかけて挿絵画家として全国的に一世を風靡した高畠華宵（たかばたけかしょう）（１８８８～１９６６）の作品を展示する。

金城安太郎と高畠華宵はともに挿絵画家として活躍したことから、これまで美術史の上で語られる機会に恵まれなかった。しかし、彼らの存在を美術史の流れに位置づけることは、当時の文化状況や美術を、別の角度から捉えなおす一つの試みにもなる。今回の企画では近代美術の枠組みの外にいた二人の画家を通じて、近代化の過程で日本や沖縄の美術から抜け落ちていった大衆性の一端を捉えなおすとともに、金城安太郎の画家としての再評価を試みる。

【開催形式】

主　催：文化の杜共同企業体／沖縄県立博物館・美術館
協　力：弥生美術館／高畠華宵大正ロマン館
協　賛：ザ・テラスホテルズ㈱／㈱お菓子のポルシェ　御菓子御殿
後　援：沖縄タイムス／琉球新報／琉球放送／琉球朝日放送／ＮＨＫ沖縄放送局／沖縄テレビ

【開会式および内覧会】

実施日：５月２７日（水）17:00 ～ 18:30
場　所：美術館企画ギャラリー前
参加者：金城一夫氏（金城安太郎ご子息）、高畠澄江氏（高畠華宵大正ロマン館館長）
安慶名雅則氏（出品協力者代表）、牧野浩隆　沖縄県立博物館・美術館館長
平良知二　文化の杜共同企業体代表（以上テープカット者）ほか３０人
内覧会：星雅彦氏（美術評論家）、高畠麻子氏（高畠華宵大正ロマン館主任学芸員）

【展示内容】

沖縄近代の挿絵の前史として日本の近代挿絵の流れを高畠華宵作品で紹介。時代的に後続する金城安太郎は１９３３年「熱帯魚」（山里永吉作、「琉球新報」）で挿絵画家としてデビューした後、地元沖縄の新聞を舞台に活躍した。本展覧会では戦後の挿絵原画や精力的に描いた日本画、水墨画など、幅広い創作活動や画業がわかるよう展示・紹介した。金城安太郎の作品は２９６点。関係資料１８４点を展示する。高畠華宵の作品５３点、関係資料８２点を展示し、近現代の美術史に残した二人の足跡・功績が比較、確認できるようにした。

【関連催事】

１）ギャラリートーク
星雅彦氏（美術評論家）と高畠麻子氏（高畠華宵大正ロマン館主任学芸員）が作品解説した。
実施日：５月２８日（木）14:00 ～ 19:00
場　所：美術館企画ギャラリー内
参加者：約２０人（観覧料で入室）

２）ワークショップ「安太郎挿絵の再現に挑戦！！」
神山泰治氏（沖展会員）を講師に、水墨画初心者でも受講しやすいよう基本練習からはじめた。安太郎の挿絵原画（複写）を基に水墨画を描いた。また、講師と受講者が一対一で新聞小説「守礼の国」挿絵版木を摺る実習も行い、挿絵への理解を深めてもらった。
実施日：６月７日（日）　14:00 ～ 16:00
場　所：博物館実習室
参加者：１０人（材料費１０００円）
講　師：神山泰治氏（沖展会員）

３）シンポジウム「画人・金城安太郎」
挿絵、日本画、舞台美術、彫刻、旗頭、獅子など幅広い制作活動を行った金城安太郎の画業を、沖縄の近現代絵画史の状況をふまえ、作品や創作姿勢など多角的な視点で功績を検証した。
実施日：６月１４日（日）14:00 ～ 16:00
場　所：講堂
登壇者：コーディネーター・大城亘武氏（沖縄キリスト教学院大学教授）、星雅彦氏（美術評論家）
パネリスト・波照間達夫氏（画家・安太郎弟子）、新里堅進氏（漫画家）
参加者：７０人

４）旗頭演舞
那覇市垣花の旗頭「砂糖車」は、１９７１年に那覇大綱挽復活の際、金城安太郎によって制作された。本展ではその実物を展示中のため、演舞では安太郎作のトゥールを模した旗頭を用い、観衆に披露。展示会を通行人やドライバーにアピールした。
実施日：６月２１日（日）第１部　14:00 ～ 14:15、第２部 15:30 ～ 15:45
場　所：沖縄県立博物館・美術館・駐車場東側の多目的広場
出　演：那覇大綱挽垣花実行委員会のメンバー５０人
見学者：１部２部とも各約１００人（無料）

（岡本美奈子、仲里なぎさ）

テープカットの様子（５月２７日）

内覧会の様子（５月２７日）

【展示平面図】

（3）「琉球絵画展」

会　　期：２００９年7月１８日（土）～8月３０日（日）（３８日間）
場　　所：美術館企画ギャラリー１、２
観 覧 料：一般９００円、高校・大学生５００円、小・中学生３００円
観覧者数：５，６９３人
予 算 額：８，００４，５６６円

【開催趣旨】

琉球が日本の国家体制に組み込まれて以後、琉球王朝時代から続いた絵師たちの系譜は途絶え、沖縄の絵画における独自性はほとんど見られなくなった。薩摩侵攻から４００年、琉球処分から１３０年という節目の年にあたり、本展覧会では琉球王国解体後、絵画の伝統が途切れてしまった近代の空白を埋めていく試みとして、王国時代の王府絵師から、伝統絵画の系譜を受け継ぎ明治期に活動した画家、そして彼らにつながる画家―ある意味で近代以降の洋画家の系譜とは異なる沖縄の絵描きたちの画業に光を当てる。また、琉球・沖縄の画家たちが描いた「琉球絵画」を絵画史的に位置づける提言をする。

【開催形式】

主　催：文化の杜共同企業体／沖縄県立博物館・美術館
協　力：石垣市立八重山博物館／沖縄県公文書館／沖縄県立芸術大学／沖縄県立図書館／
沖縄平和祈念堂／（財）海洋博覧会記念公園管理財団／名護市嘉陽区／名護博物館／那覇市／
那覇市博物館／南城市大里字大城区（五十音順）
協　賛：ザ・テラスホテルズ㈱／㈱お菓子のポルシェ　御菓子御殿／㈱国際ビル産業／㈱国建／金秀建設㈱／
光文堂印刷㈱
後　援：沖縄タイムス社／琉球新報社／琉球放送／琉球朝日放送／ＮＨＫ沖縄放送局／沖縄テレビ／
ＦＭ沖縄／那覇市教育委員会／名護市教育委員会／南城市教育委員会

【開会式】

実施日：７月１７日（金） 17:00 ～ 17:30

場　所：美術館企画ギャラリー前

参加者：冨田祐次氏（財団法人海洋博覧会記念公園管理財団理事長、＊代理：安泉善夫氏）
翁長雄志氏（那覇市長、＊代理：我謝幸男氏）、西村貞雄氏（琉球大学名誉教授）
牧野浩隆沖縄県立博物館・美術館館長、平良知二氏文化の杜共同企業体代表
（以上テープカット者）ほか５６人

内覧会：西村貞雄氏によるギャラリートーク 「琉球絵画の流れ」

【展示内容】

王府時代から近現代までの琉球・沖縄の絵画史を、王府絵師の名作を中心にひもといた。中国画や日本画の影響を受けながら「琉球画」が誕生した背景を踏まえ、国内外でも評価の高い王府絵師城間清豊（自了）、座間味庸昌（殷元良）らの作品のほか、近世から近現代にかけて八重山で活躍した絵師の作品も紹介した。

また、王府解体後も近代まで活躍した仲宗根真補（査丕烈）、長嶺宗恭（華国）やその後に展開する山田真山らの絵画を、伝統が途切れてしまった近代の空白を埋めていく試みとして展示紹介。近代以降の洋画家の系譜とは異なる沖縄の絵描きたちの画業に光を当てた。展示作品は絵画１２８点に資料２２点。

【関連催事】

１）ギャラリートーク「琉球絵画の流れ」

西村貞雄氏（琉球大学名誉教授）が展示作品を解説しながら、琉球王府の絵画史の流れをわかりやすく説明した。

実施日：７月１８日（土） 14:00 ～ 15:00

場　所：企画ギャラリー内

参加者：４２人（観覧料で入室）

２）夏休み親子アートツアー「おやこ美術館あるき」

同展担当の岡本美奈子が親子に展示解説した。

実施日：７月２６日（日） 11:00 ～ 11:50

場　所：企画ギャラリー内

参加者：３組９人（観覧料で入室）

３）ナイトツアー「展示作品解説～首里城公園管理センター所蔵作品を中心に」

上江洲安亨氏（首里城公園管理センター調査展示係長）が、本展覧会に展示している作品のうち、首里城公園管理センター所蔵の作品について解説した。

実施日：７月３１日（金） 18:30 ～ 19:20

場　所：企画ギャラリー内

参加者：３７人（観覧料で入室）

４）夏休み親子ワークショップ「紅型コースターづくり」

王府の絵師が携わった紅型のデザインについて、染めを通してふれてもらおうと企画。コースターの型染めを親子で体験してもらった。知念紅型研究所が協力し指導した。

実施日：８月２日（日）午前の部　10:00 ～ 12:00、午後の部　14:00 ～ 16:00

場　所：県民アトリエ

参加者：計４１人、午前２２人、午後１９人（参加費は親子で１０００円）

５）ナイトツアー「展示作品解説～沖縄県立博物館・美術館所蔵作品を中心に」

金曜日の遅い時間を利用し、平川信幸沖縄県立博物館・美術館学芸員が、本展覧会に展示している館所蔵の作品について解説した。

実施日：８月７日（金） 18:30 ～ 19:20

場　所：企画ギャラリー内

参加者数：３４人（観覧料で入室）

６）「水墨画」ワークショップ

波照間達夫氏（書家・水墨画家・全九州水墨画会理事・木筆会理事）が水墨画を指導した。波照間氏は金城安太郎の弟子で、「琉球絵画」の系譜では山田真山の孫弟子に当たる。

実施日：８月８日（土） 14:00 ～ 16:00

場　所：県民アトリエ

参加者：１４人（参加費５００円）

7）展示作品解説会「絵画からみる琉球の風俗」

本展覧会としまくとぅばプロジェクトの共催で、宮里朝光氏（沖縄語普及協議会会長）が展示会場絵画をヒントに、琉球の風俗について首里ことばで解説した。

実施日：８月１５日（土） 14:00 ～ 14:40 分

場　所：企画ギャラリー内

参加者：４０人（観覧料で入室）

8）シンポジウム「琉球絵画の世界～王朝時代から近代までの絵画」

琉球の絵師たちの役割と画業について美術史的な観点から論じた。

実施日：２００９年８月２８日（金） 18：00 ～ 20：00

場　所：講堂

参加者：宮城篤正氏（沖縄県立芸術大学学長）、西村貞雄氏（琉球大学名誉教授）
翁長直樹沖縄県立博物館・美術館副館長、平川信幸沖縄県立博物館・美術館学芸員、
岡本美奈子（文化の杜共同企業体）

参加者：８１人（観覧料で入室）

9）旗頭演舞

琉球王府の絵師の系譜につながる山田真山が描いた南城市大城区の旗頭が、本展覧会に展示されていることをアピールするため、大城区民が新調した旗頭で演舞した。展示作品は展示終了後、本館に寄贈された。

実施日：８月３０日（日）１回目　16:00 ～ 16:20、２回目　17:00 ～ 17:20

場　所：美術館屋外展示場

出　演：南城市大城区の区民

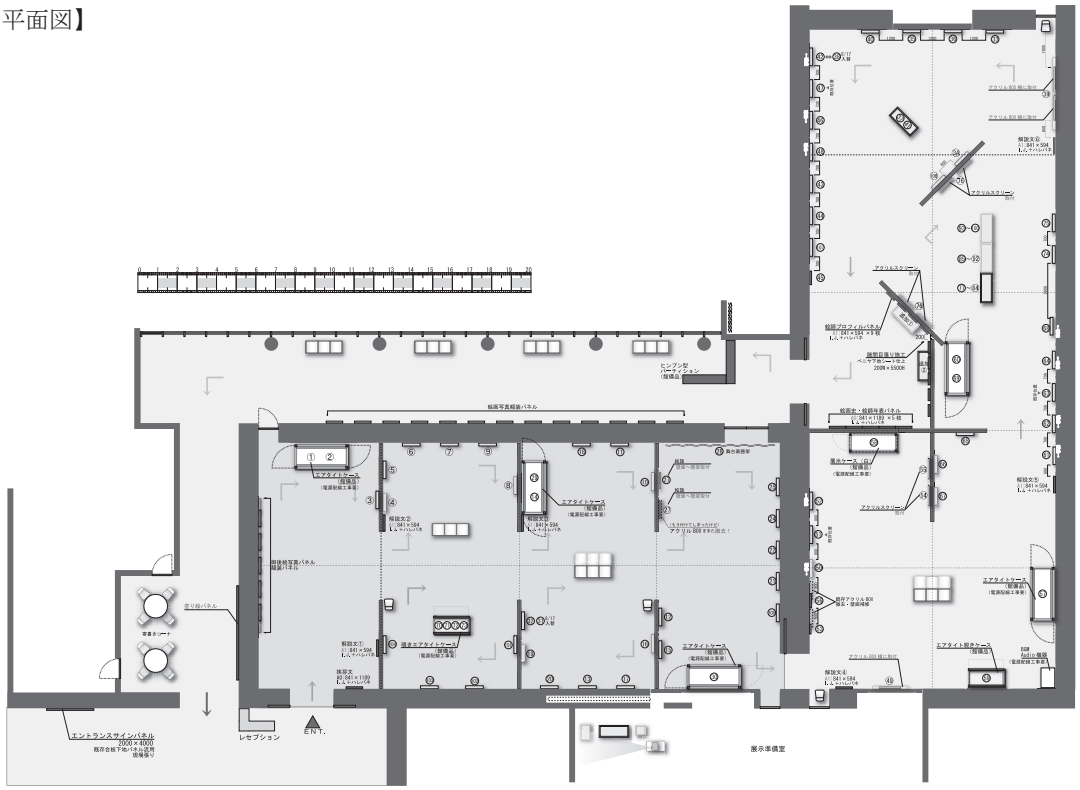
参加者：計約２７０人（１回目約１１０人／２回目約１６０人、いずれも無料）

（岡本美奈子、仲里なぎさ）

テープカットの様子（７月１７日）

作品解説会の様子（７月 17 日）

【展示平面図】



（4）「オキナワデザインの現在」

会　期：２００９年9月８日（火）～１０月４日（日）（２４日間）
場　所：美術館企画ギャラリー１、２
観覧料：一般７００円、高校・大学生４００円、小・中学生２００円
観覧者：２，４５１人
予算額：３，７５９，２３２円

【開催趣旨】

戦後沖縄の歴史的背景を踏まえ、現在までのデザインをテーマとする。沖縄の画家や沖縄の地で活躍するアーティストたちによる日常の身近な媒体を通して表現されたデザイン作品等で展示を構成する。

戦後沖縄の生活用品をはじめ、時代とともにデザイン性を求められてきた工業製品や、工芸品には独自性がある。色彩や文様などに現れたその独自性をポスターやパッケージなどで見、沖縄的なものを考えていきたい。

沖縄ならではの表現と社会事象、産業との関連性をデザインの視点から読み取り、提示することで沖縄のデザインの道筋がわかるような構成とした。さらに、産業との関係性、連携をさぐることを目的とし、デザイン性やブランド性を訴求することも目指した。

【開催形式】

主　催：文化の杜共同企業体／沖縄県立博物館・美術館
協　賛：ザ・テラスホテルズ㈱／㈱お菓子のポルシェ御菓子御殿／㈱国際ビル産業／㈱国建／金秀建設㈱／光文堂印刷㈱

【開会式】

実施日：９月８日（火）　9:10 ～ 9:30
場　所：美術館企画ギャラリー前
出席者：新城喜一氏（作家）、牧野浩隆沖縄県立博物館・美術館館長（代理・千木良芳範副館長）、平良知二文化の杜共同企業体代表（以上テープカット者）、宮城保武氏（出品作家）、中村卓矢氏（出品作家）、翁長直樹美術館副館長ほか２０人

【展示内容】

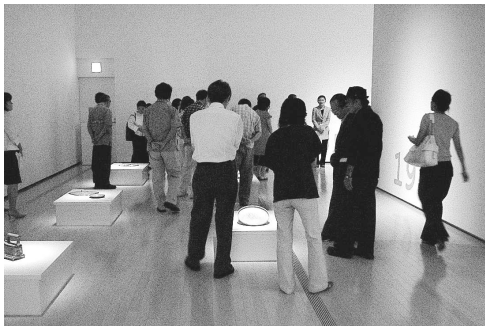
戦後沖縄の、日常の身近な媒体を通して表現されたデザイン作品等で構成した。グラフィックデザインを中心に身近に触れる機会が多かった琉球切手やポスター、そしてパッケージ等のデザインの多くが、苦難の時代を歩んできた沖縄の画家や作家による作品であることに気づいてもらえるような内容にした。戦後の復興期に製造されたジュラルミンの生活道具も機能性に加え装飾性があることを知ってもらうため、展示の導入部で象徴的な形で展示した。展示作品は約１６０点。

【関連催事】

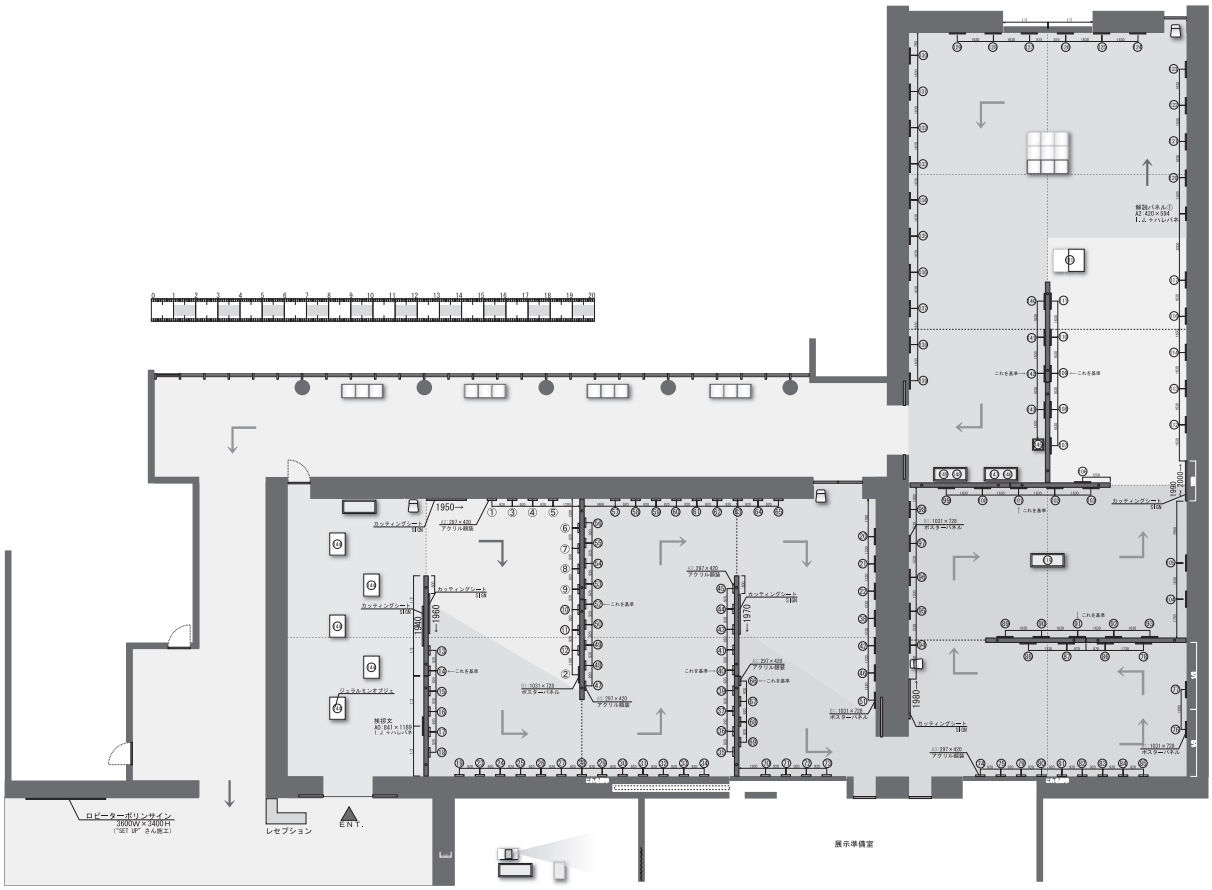
１）ワークショップ「Ｔシャツ→レジ袋（Ｔシャツからレジ袋を作ろう）」
出品作家中村卓矢氏が、着古したＴシャツを裁断･縫製してレジ袋に作り替えるワークショップを実施した。
実施日：９月２３日（水）　14:00 ～ 16:00
場　所：県民アトリエ
参加者：５人（参加費１，５００円）

（謝花佐和子）

開会式とテープカット


展示会場風景

【展示平面図】



２．展示活動概要（自主事業展覧会）

自主事業の展覧会として、博物館の展示室でアジアを見据えた絵画展「王昭展」を開催した。また、６月の慰霊の月には情報センターで写真展「定点慰霊の日」を開催した。

（１）王昭展

会　　期：２００９年５月２６日（火）～６月２８日（日）（３４日間）
会　　場：沖縄県立博物館・美術館　博物館特別展示室
観 覧 料：一般５００円、高校・大学生３００円、小・中学生１００円
観覧者数：１，７８９人
予 算 額：２，３７０，３７５円

【開催趣旨】
中国・清朝と金朝の末裔として生まれ育った画家・王昭氏（１９５０～）は伝統的な中国絵画の真髄を学び、日本に留学すると日本画壇の巨匠に接して日本絵画の本質を汲み、新たな東洋画の創造を目指して作画に精進している。中国や日本と歴史的・文化的なかかわりの深い沖縄で王昭氏の作品を紹介することは大きな意義があり、アジアのアート・文化を視野に置く当館の運営趣旨にも合致している。同氏は清朝最後の皇帝で満州国皇帝・愛新覚羅溥儀（宣統帝）の甥。
開催に奔走した高草茂氏は沖縄の歴史や文化研究に欠かすことのできない鎌倉芳太郎の「沖縄文化の遺宝」を編さん、集めた資料や鎌倉家に残る資料を沖縄県立芸術大学に寄付させた功労者で、その功に報いる意味もあって開催した。

【開催形式】
主　　催：文化の杜共同企業体

【展示内容】

展示会場前には、４ｍ×８ｍの巨大な「墨龍図」を掲げ、室内には王昭（雅号）の得意とする富士山のほか、菖蒲など花鳥を画材にした作品約５０点を展示・紹介する。画風は豪放で、中国宮廷画の魂がにじむ雄渾・高雅な画韻にあふれるが、内に人間味豊かなユーモアを感じさせる洒脱な風格を秘める作品が楽しめるよう、屏風などの大作も配置した。

また日本でも人気の高い書家・溥傑（王昭の伯父、溥儀の弟）の書２点のほか、中国水墨画の大家であった父・完顔愛蘭（金王朝世宗帝第二十七代）と中国宮廷画の優雅な画風を受け継いだ母・愛新覚羅溥韞娯（溥儀の妹）の合作３点も展示し、愛新覚羅家や清朝の宮廷画・書にふれてもらう。

【開会式】

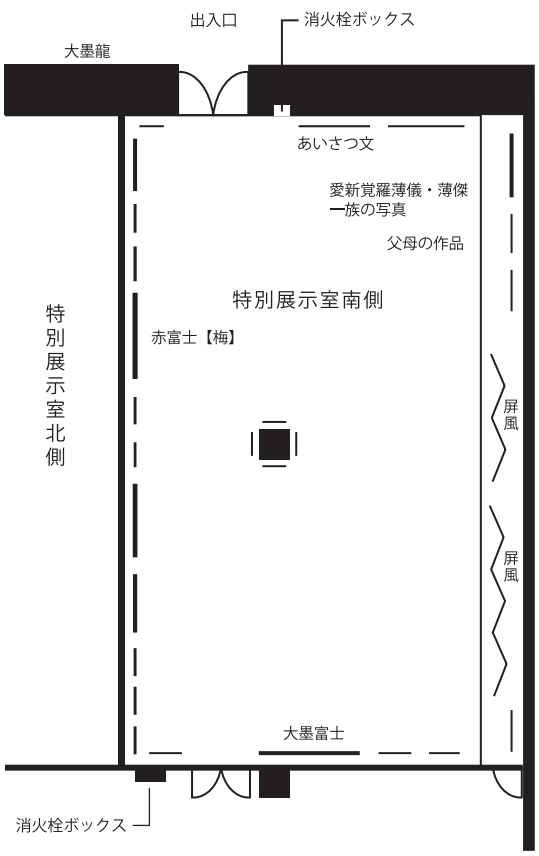
日　時：２００９年５月２６日（火）　9:10 ～ 9:30

場　所：博物館特別展示室前

参加者：王昭（画家）／高草茂氏（王昭氏世話人）／宮城篤正氏（沖縄県立芸術大学学長、代理・波照間永吉教授）／大城立裕氏（作家）／牧野浩隆　沖縄県立博物館・美術館館長／平良知二　文化の杜共同企業体代表（以上テープカット者）。ほか２５人。

（福島　輝一）

【展示会平面図】



テープカットする関係者（５月２６日）

展示会場風景

（2）「定点　慰霊の日」（写真展）

会　期：２００９年6月１６日（火）～6月２４日（水）（９日間）
会　場：沖縄県立博物館・美術館　情報センター
観覧料：無料
予　算：０円

【開催趣旨】
６月２３日の「慰霊の日」は､「平和とは何か」について考える日である。本館の建つ那覇市おもろまちには「慶良間チージ（日本軍呼称：五二高地、米軍呼称：シュガーローフ)」と呼ばれる場所があり、沖縄戦当時の日本軍司令部のあった首里への攻防戦で日米両軍が死闘を繰り広げた。
「慰霊の日」は復帰前の１９６１年に琉球政府立法院で制定され、７４年１０月に県条例で制定された。今年で４８年目となるが､「６・２３」のその日（定点）を写した写真をこの激戦の地で展示することにより､「慰霊の日」制定の意義、記憶の継承を考える契機となるような企画とする。昨年に続き２回目。

【開催形式】
主　　催：文化の杜共同企業体
協　　力：沖縄タイムス社

【内容】
沖縄タイムス社所蔵されている「慰霊の日（６月２３日)」に県内で撮影された１９６２年から２００８年までの写真の中から、その当時の社会問題や状況を読み取ることができるコマを１年に１点と厳選し、計４７点を情報センターに展示・紹介した。

（謝花　佐和子）

展示会場風景

３．県民ギャラリー

県民に広く発表の場を提供し、文化・芸術の振興を図るための場として一般への貸出を行った。
若手作家からベテランまで、個展やグループ展、２００９年度第１５回沖縄県特別支援学校中学部総合文化祭（８／８～８／２３)、日仏造形美術フェスティバル（１０／１４～１０／１８）などで活用された。また、夏休みこども科学展「空飛ぶ勇者たち」の関連イベントとして、「ゲッチョセンセおもしろ博物学挿絵原画展」「飛ぶタネ展」などを開催した（※教育普及活動で詳細報告)。
貸出状況としては､貸出件数は年間６１回､参加作家数は２，７３４人､稼働率はギャラリー１が８２．３％（年間２９９日内２４６日)､ギャラリー２が７６．３％（２２８日)､ギャラリー３は５７．５％（１７２日）だった。

Ⅵ. 教育・イベント活動（自主活動）

１．自主事業としての教育普及およびイベント活動に関する概要

教育普及事業は、博物館班と美術館班の教育普及担当者が作成したプログラムに基づいて文化の杜共同企業体が実施した事業と、文化の杜共同企業体が独自で企画し展開し事業に分けられる。そのうち、文化の杜共同企業体が自主企画した教育普及事業は下記に報告する通りである。博物館班と美術館班の事業を補完しながら、さらに多方面へ発展、連携する広がりのある事業を展開することを目標として実施した。ゴールデンウイークや夏休み・冬休み期間中は、特に親子で楽しめるようなプログラムを充実させた。夏休み期間に開催した夏休みこども科学展「空飛ぶ勇者たち」では展示会場からさらに発展させて、県民ギャラリーでの展示会や多彩なワークショップ、観察会など様々な広がりを持つイベントを開催した。楽しい学びの場、観察して考察する工夫の場を設けた。また、県民が親しみやすい文化交流・振興の場を創出する目的で「映画上映会」「おもろ夜会」「しまくとぅばプロジェクト」などを開催した。

２．講演会・シンポジウム

（1）写真フォーラム「写真を学ぶ　写真で学ぶ　写真世間の近未来」

講　師：勇崎哲史氏、金城幸彦氏、新里義和氏、仲本賢氏、平敷兼七氏（５氏ともに写真家）

日　時：４月２４日（金）　18:30 ～ 21:00

場　所：講堂

内　容：５月に開講する「写真作家入門」に先立ち、写真家を講師にした写真フォーラム。写真作家入門の講師・勇崎哲史氏が基調提言、シンポジウムでは金城幸彦氏、新里義和氏、仲本賢氏、平敷兼七氏が写真の役割や今後の活動について語った。

参加者：９７人（入場料一般５００円、大学生以下無料）

３．ワークショップ・観察会等

（1）ゴールデンウイークイベント「chri（チリ）でちぎり絵」

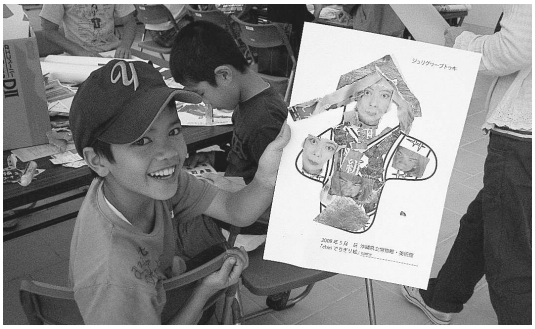
日　時：５月２日（土）・３日（日）・４日（月）いずれも 13:00 ～ 17:00

講　師：文化の杜スタッフ

場　所：館正面玄関そばの雨端

内　容：「ちぎり絵」を２日から３日間、実施した。ヤンバルクイナなどを描いた台紙に、チラシの紙切れをはる手法で家族連れに楽しんでもらった。

参加者：２６１人（参加費：１００円）



ちぎり絵を楽しむ参加者

（2）ゴールデンウイーク博物館体験教室「勾玉を作ろう」

日　時：①５月５日（火）　10:00 ～ 14:00　②６日（水）10:00 ～ 13:00

講　師：文化の杜スタッフ

場　所：館正面玄関そばの雨端

内　容：古代からの装身具・勾玉をつくる体験教室を実施した。

参加者：計１２０人（５日は５０人、６日は７０人、材料費５００円）

（3）「国際博物館の日」アピール事業「勾玉を作ろう」

日　時：５月２３日（土）　10:00 ～ 17:00

場　所：館正面玄関そば雨端

内　容：「国際博物館の日」をアピールする５月２３日のワークショップとして雨端で文化の杜スタッフが「勾玉づくり」を行った。

参加者：１２１人（材料費５００円）

（4）「竹ひごと輪ゴムでプロペラ飛行機をつくろう」

日　時：７月１８日（土）　10:00 ～ 12:00

講　師：知名宏師氏（知名オーディオ代表）

場　所：博物館実習室

内　容：竹ひごと輪ゴムを材料に博物館実習室で飛ぶプロペラ飛行機を作った。夏休みこども科学展「空飛ぶ勇者たち」の関連事業。

参加者：３０人（参加費３００円）

「竹ひごと輪ゴムでプロペラ飛行機をつくろう」の会場風景

（5）「バードウォッチングのすすめ―おもろまちの鳥を観察してみよう」

日　時：７月１９日（日）　10:00 ～ 12:00

講　師：岩崎哲也氏（琉球大学理学部研究生）

場　所：館周辺と新都心公園

内　容：バードウォッチング初心者向けの講座。
夏休みこども科学展「空飛ぶ勇者たちの関連事業。

参加者：２３人（参加費３００円）

（6）「ゲッチョ先生のお話を聞いてみよう！そして昆虫の絵を描いてみよう！」

日　時：７月２０日（月・祝日）　① 10:00 ～ 12:00　② 14:00 ～ 16:00

講　師：盛口満氏（沖縄大学准教授）

場　所：博物館実習室

内　容：昆虫の体の構造、飛ぶ仕組みについて学んだ後で、昆虫標本を見ながら昆虫を上手に描く。夏休みこども科学展「空飛ぶ勇者たち」の関連事業。

参加者：６５人（参加費３００円）

（7）日食観察会

日　時：７月２２日（水）　9:30 ～ 12:30

講　師：仲里健学芸員

場　所：正面玄関前、博物館屋外展示場付近

内　容：２２年ぶりに沖縄で観測される「日食」を楽しむ観察会。ビデオモニターや日食観察用メガネなどさまざまな器具を使い、世紀の天体ショーを楽しんだ。

参加者：約２００人（無料）

博物館屋外展示場付近で日食を楽しく観察する人々

（8）「アニメーションの原理『驚き盤』のワークショップ」

日　時：７月２２日（水）、２３日（木）、２６日（日）13:00 ～ 14:00

場　所：正面玄そば雨端

内　容：「ユーリ・ノルシュテイン作品集」上映会の一環。映画の原理を知り、映画にもっと親しんでもらおうとワークショップを実施した。

参加者：計２１人（22 日６人、２３日７人、２６日８人）（参加費２００円）

（9）「作って飛ばそう～タネから学ぶ飛ぶ仕組み」①

日　時：７月２５日（土）　10:00 ～ 12:00

講　師：石神安弘氏（N aturalBox 代表）

場　所：博物館実習室

内　容：世界中の珍しいタネを収集している石神安弘氏が、タネの形や仕組みの面白さは子孫を増やすために有利になるように変化してきたこと、タネが移動する仕組みをわかりやすくタネあかしした。アルソミトラとクロマツのタネの飛ぶ原理を学んだあと模型を作り、飛ばした。科学展「空飛ぶ勇者たち」の関連イベント。

参加者：３４人（参加費３００円）

(10)「作って飛ばそう～タネから学ぶ飛ぶ仕組み」②、③

日　時：８月１日（土）、２日（日）いずれも　14:00 ～ 16:00

講　師：石神安弘氏（N aturalBox 代表）

場　所：博物館実習室

内　容：植物が子孫を残すために獲得した様々な仕組みについてタネを通して解説した。科学展「空飛ぶ勇者たち」の関連イベント。

参加者：合計５０人（参加費３００円）

(11)「バードウォッチングのすすめ―おもろまちの鳥を観察してみよう」

日　時：８月２日（日）　10:00 ～ 12:00

講　師：岩崎哲也氏（琉球大学理学部研究生）

場　所：飛ぶ鳥のようすを観察するため、館隣接の新都心公園で野鳥の観察会を行った。
科学展「空飛ぶ勇者たち」の関連イベント。

参加者：３３人（参加費３００円）

(12) 堀尾さんのパフォーマンスとワークショップ「親子エコバック」

日　時：８月２日（日）　14:00 ～ 16:00「パフォーマンス」、16:00 ～ 17:00「ワークショップ」

講　師：堀尾貞治氏（アーティスト）

場　所：エントランスホール、美術館屋外展示場、博物館実習室

内　容：堀尾さんが中に入っている箱に百円玉を入れると、堀尾さんの作品が出てくる「百均絵画」（パフォーマンス）。美術館屋外展示場の通路のコンクリートに水をかけてできた水跡を大勢の参加者とともにチョークでなぞる「水形」（パフォーマンス）を展開した。その後、自由に絵を描きオリジナルの「親子エコバック」を作った。

参加者：親子４組１０人（親子エコバック作りは材料費込み１０００円）

(13)「鳥の複製を木で作ろう～カービングのプロに学ぶ」

日　時：８月８日（土）、２３日（日）　14:00 ～ 16:00

講　師：鈴木隆氏（バードカーバー）

場　所：博物館実習室

内　容：鳥をよく観察して木を彫って鳥の複製を作るカービングに挑戦した。
科学展「空飛ぶ勇者たち」の関連イベント。

参加者：計４４人（参加費２５００円）

(14) 飛び出す夏休みの思い出「 日記カードをつくろう」

日　時：８月１１日（火）２８人、１２日（水）１１人、１３日（木）１８人、
１８日（火）１９人、１９日（水）２０人、２０日（木）１１人

時　間：１回目午前 10:00、２回目 10:30、３回目 11:00 ～ 11:30
場　所：エントランスホール
内　容：夏休み企画。子供たちが楽しめるよう恐竜や蝶が飛び出すカードづくりを行った。
参加者：計１０７人（参加費２００円）

(15) 化石の発掘体験
日　時：８月１４日（金）、１５日（土）、１６日（日）、２２日（土）、２３日（日）
いずれも 10:00 ～ 12:00
場　所：館正面玄関そば雨端
内　容：自然史や考古学、博物館活動をより身近に感じてもらおうと実施。マダガスカル産のアンモナイトやモロッコ産のサメの歯を掘り出して楽しんでもらった。
参加者：計２１７人（１４日１６人、１５日３３人、１６日６３人、２２日６０人、２３日４５人）
（参加費３００円）

(16)「竹ひごと輪ゴムでプロペラ飛行機をつくろう」
日　時：８月２９日（土）10:00 ～ 12:00
講　師：知名宏師氏（知名オーディオ代表）
場　所：博物館実習室
内　容：竹ひごと輪ゴムを材料に博物館実習室で、飛ぶプロペラ飛行機を作った。子ども科学展「空飛ぶ勇者たち」の関連イベント。
参加者：３３人（参加費３００円）

(17) 化石の発掘体験
日　時：２２日（火）14:00 ～ 17:00
２３日（水）10:00 ～ 12:30、14:00 ～ 17:00
場　所：正面玄関そば雨端
内　容：自然史や考古学､博物館活動を身近に感じてもらおうと､マダガスカル産のアンモナイトとモロッコ産のサメの歯を探す発掘体験を楽しんでもらった。
参加者：計３３人（２２日１４人、２３日１９人。参加費３００円）

(18) 美術実技講座「水彩で楽しく描こう」５回連続講座①②③
日　時：１１月１１日（水）、１８日（水）、２５日（水）
いずれも 18:30 ～ 20:00
講　師：当山進氏（画家、沖展会員、旺玄会会長）
場　所：美術館アトリエ
内　容：絵の楽しさ水彩画の楽しさを広げるための講座。
受講生：１３人（５回講座で４０００円）

(19) 版画「エッチング（銅版画）でつくるクリスマスカード・年賀状」
日　時：１２月１３日（日） 10:00 ～ 17:00
講　師：長嶺斉氏（版画家）
場　所：県民・こどもアトリエ
内　容：エッチング（銅版画）でクリスマスカードや年賀状づくりのコツを学ぶ。
参加者：７人（２５００円）

(20) 美術実技講座「水彩で楽しく描こう」
日　時：１２月９日（水）、１６日（水）いずれも 18:30 ～ 20:00
講　師：当山進氏（沖展会員、旺玄会会長）
場　所：県民・こどもアトリエ
参加者：１３人

(21)「バードウォッチングのすすめ２　～おもろまちの鳥を観察してみよう！〔冬〕」
日　時：1 月 3 日（日）10:00 ～ 12:00、14:00 ～ 16:00（２回実施）

講　師：岩崎哲也氏（琉球大学研究生・当館情報センター所属）
場　所：沖縄県立博物館・美術館と周辺
内　容：初心者向けの野鳥観察会。バードウォッチングの心得や鳥の習性について解説した後、館周辺で鳥を観察しながら生態を説明した。
参加者：８人（参加費・保険料込２５０円）

(22) お正月工作教室「トコトコ歩く寅のおもちゃを作ろう！」
日　時：１月１１日（月祝）　４回実施（10:00 ～、11:00 ～、14:00 ～、15:00 ～ 15:30）
講　師：上運天研成氏（おもちゃの会ピノキオの会会長）と会員４人
場　所：館正面玄関そば雨端
内　容：親子を対象に干支にちなむ木製のおもちゃづくり。昨年に続いて２回目。
参加者：４４人（参加費５００円）

(23) ふれあい体験室ワークショップ「馬グヮーをつくる！」
日　時：１月２３日（土）　10:00 ～ 12:30
講　師：渡部貴子（ふれあい体験室担当）
場　所：エントランスホール
内　容：昔の玩具の「馬グヮー」を色画用紙で作る。今回から毎月第４土曜日に開催する。
参加者：５人（参加費１００円）

(24) ふれあい体験室ワークショップ「馬グヮーをつくる！」
日　時：２月２０日（土）10:00 ～ 12:30（３０分ずつ計４回）
講　師：渡部貴子（ふれあい体験室担当）
場　所：エントランスホール
内　容：ふれあい体験室の活性化とリピーターづくりを目指して昔の葉っぱ遊びを色画用紙で体験する手わざ遊び。第３土曜日に開催。
参加者：１８人（参加費１００円）

(25) いわさきちひろ展プレイベント事業「銘苅小学校への出前教室」
日　時：２月１８日（木）13:50 ～ 15:40
講　師：西村貞雄氏（琉球大学名誉教授）
場　所：那覇市立銘苅小学校体育館
内　容：４月の美術館企画展「いわさきちひろ展」の関連催事。ちひろ作品の特徴である水彩画の「たらしこみ」技法を体験してもらい、絵画への関心を高めてもらった。作品は同展会場で掲示した。
参加者：銘苅小学校５学年と特別支援学級の計１６５人（「いわさきちひろ展」の招待券を贈呈）

(26) ふれあい体験室ワークショップ「馬グヮーをつくる！」
日　時：３月２０日（土）10:00 ～ 12:00
場　所：エントランスホール
内　容：色画用紙で昔の葉っぱあそび「馬グヮー」をつくる。
参加者：１８人（材料費１００円）

(27) サンゴ染め体験教室 ①
日時：３月７日（日）13:00 ～ 17:00
講　師：首里琉染スタッフ２人、中村愛（文化の杜）
場　所：正面玄関雨端
内　容：企画展「造礁サンゴ」展内に展示されていた「サンゴ染め」の体験イベント。企画展を盛り上げ、サンゴとのかかわり方を考えてもらうことを目的とした。有料でサンゴを型に色鮮やかなオリジナルハンカチやＴシャツを作成した。
参加者：２６人

(28) サンゴ染め体験教室 ②
実施日：３月１４日（日）13:00 ～ 17:00
講　師：首里琉染スタッフ２人、中村愛（文化の杜）
場　所：正面玄関そば雨端
参加者：２３人

４．映画上映

（1）「いまここにある風景」（ミュージアム・サロン・シネマ①）
講　師：初日トーク勇崎哲史氏（写真家）
日　時：２００９年4月１４日（火）、１５日（水）、１６日（木）は 14:00 から上映
１７日（金）、１８日（土）は 19:00 から上映。１９日（日）は 18:30 から上映
場　所：講堂
内　容：当館にふさわしい質の高い映画を上映し、館活用の可能性を広げようと本年度からミュージアム・サロン・シネマを企画。「いまここにある風景」（ジェニファー・バイチウォル監督、上映時間８７分）は、環境や社会問題を取り扱ったドキュメンタリー映画。初日の１４日は上映終了後の午後３時過ぎから写真家の勇崎哲史氏を招いたトークイベントを開催した。
鑑賞者：計８２人（一般１６００円、館職員・スタッフは１０００円）

（2）「動物、動物たち」（ミュージアム・サロン・シネマ②）
日　時：５月１９日（火）～２４日（日）、６日間１日１回上映
トーク：田中聡学芸員
場　所：講堂
内　容：フランス国立自然史博物館の動物剥製の展示替えの様子を映像化した「動物、動物たち」（仏映画・５９分）を上映した。初日の１９日は上映後、当館の田中聡学芸員がトークイベントを開催。
参観者：計６６人（料金一般１６００円、館職員・スタッフ、年間パスポート会員は１０００円）

（3）「消えたフェルメールを探して」（ミュージアム・サロン・シネマ③）
日　時：６月２０日（土）、２３日（火）～２６日（金）の５日間、１日１回上映
場　所：講堂
トーク：大城彩美氏（浦添市美術館学芸員）
内　容：盗まれたフェルメールの作品「合奏」を探偵が追跡する。初日の２０日は上映後の 20:30 から大城彩美氏（浦添市美術館学芸員）がトークした。
鑑賞者：計８３人（一般１６００円、館職員・スタッフ・博物館友の会・happ 会員は１０００円）

（4）「ユーリ・ノルシュテイン作品集」（ミュージアム・サロン・シネマ④）
日　時：７月２２日（水）～２６日（日）。５日間とも５作品を１日１回上映
場　所：講堂
内　容：世界中のアニメーターやアーティストに影響を与え「映像の詩人」といわれるユーリ・ノルシュテインの短編切絵作品８作を上映。
参加者：計４７人（５日間、大人８００円、子供５００円）

（5）「≒（ニアイコール）森山大道」」上映会（ミュージアム・サロン・シネマ⑤）
実施日：９月１９日（土）～２３日（水）いずれも 19: 00 から。１日１回上映。
場　所：講堂
内　容：写真家・森山大道氏の作家活動を追ったドキュメンタリー映画（監督・撮影：藤井謙二郎／２００１年／日本／８４分）を上映。
鑑賞者：延べ３２人（４日間、シニア１１００円、一般１６００円、高校・大学１３００円、スタッフ１０００円）

（6）「甦る玉虫厨子」上映会（ミュージアム・サロン・シネマ⑥）
日　時：１０月２０日（火）～２２日（木）３日間いずれも 14:00 ～ 15:00
　　２３日（金）は 19:00 ～ 20:00（１日１回上映）
場　所：講堂
内　容：奈良県の法隆寺にある国宝「玉虫厨子」の復元を通して技術を後世に伝えることの大切さを訴えるドキュメンタリー映画（２００８年／日本／６４分／カラー／乾弘明監督）を上映。
参加者：計２８人（４日間、一般１６００円、スタッフ・博物館友の会１０００円）

（7）「with…若き女性美術作家の生涯」上映会（ミュージアム・サロン・シネマ⑦）
日　時：１１月１５日（日）13:30、15:00、16:30 の３回上映
トーク：榛葉健監督
場　所：講堂
内　容：映画「with…若き女性美術作家の生涯」（２００１年／日本／６０分／カラー／監督：榛葉健）を上映。阪神大震災を生きのび、大学卒業と同時にネパールの貧困地区で美術教師のボランティアを重ねてきた若い女性が、帰国直前に交通事故に遭い人生の幕を閉じてしまうドキュメンタリー映画。榛葉健監督が来県し、毎上映後にトークを行った。関連して、主人公の描いたスケッチの無料展示会を１１月１０日（火）から１５日（日）までエントランスホールで開催し、多くの来館者に観覧してもらった。
参観者：延べ１０９人（一般１０００円、小・中・高・大学生５００円、館関係者・スタッフは８００円）

（8）ものづくり体験プログラム上映会「島の色　静かな声」
日　時：３月１３日（土）13:30、15:30、17:30 の３回上映
場　所：講堂
参加者：計８０人（５００円）

５．講座等

（1）写真講座「写真作家入門」（全８回）①②
日　時：５月１４日（木）・２１日（木）昼の部 13:30 ～ 15:30、夜の部 18:30 ～ 20:30
講　師：勇崎哲史氏（写真家）
場　所：美術館講座室
内　容：写真撮影のノウハウを学ぶ実践講座（８回連続講座）
受講生：昼の部８人、夜の部１０人

（2）写真講座「写真作家入門」③④⑤
日　時：６月４日（木）・11 日（木）・25 日（木）昼の部 13:30 ～ 15:30、夜の部 18:30 ～ 20:30
講　師：勇崎哲史氏（写真家）
場　所：美術館講座室
受講生：昼の部８人、夜の部１０人

（3）写真講座「写真作家入門」⑥
日　時：７月３０日（木）昼の部 13:30 ～ 15:30、夜の部 18:30 ～ 20:30
講　師：勇崎哲史氏
場　所：美術館講座室
受講生：昼の部８人、夜の部１０人
　　※⑦⑧回は勇崎氏の光画文化研究所で個別指導

（4）写真講座「写真作家入門」①②
日　時：８月２０日（木）、２７日（木）昼の部 13:30 ～ 15:30、夜の部 18:30 ～ 20:30
講　師：勇崎哲史氏（写真家）
場　所：美術館講座室
内　容：「展覧会の作り方」をテーマに連続講座を開催。
受講生：昼の部５人、夜の部１４人

（5）写真講座「写真作家入門」

日　時：９月１０日（木）、１７日（木）昼の部 13:30 ～ 15:30、夜の部 18:30 ～ 20:30

講　師：勇崎哲史氏（写真家）

場　所：美術館講座室

受講生：昼の部５人、夜の部１４人

（6）写真講座「写真作家入門」

日　時：１０月８日（木）昼の部 13:30 ～ 15:30、夜の部 18:30 ～ 20:30

講　師：勇崎哲史（写真家）

場　所：美術館講座室

受講生：昼の部５人、夜の部１４人

（7）写真講座「写真作家入門」

日　時：１１月１９日（木）、２６日（木）昼の部 13:30 ～ 15:30、夜の部 18:30 ～ 20:30

講　師：勇崎哲史氏（写真家）

場　所：美術館講座室等

受講生：昼の部５人、夜の部１４人

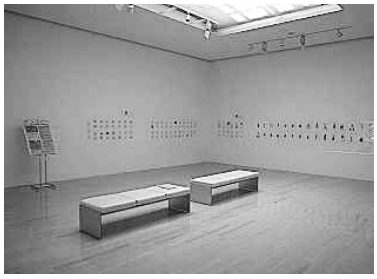
6．展示会

（1）「ゲッチョセンセの沖縄おもしろ博物学　挿絵原画展」

会　期：７月１６日（木）から８月２日（日）、開催１６日間

場　所：県民ギャラリー２

内　容：沖縄タイムス日曜こども版ワラビーで連載中の「ゲッチョセンセのおもしろ博物学」に掲載されたゲッチョセンセこと盛口満氏（沖縄大学准教授）の挿絵原画約３００点を展示。子ども科学展「空飛ぶ勇者たち」の関連催事。



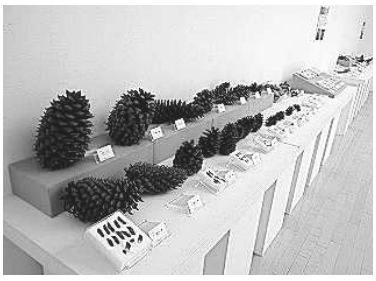
「ゲッチョセンセの沖縄おもしろ博物学　挿絵原画展」

（2）「飛ぶタネ展」

会　期：７月１６日（木）から８月２日（日）、開催１６日間

場　所：県民ギャラリー３

内　容：石神安弘氏（NaturalBox 代表）が世界各地の植物の種から、弾けるなど「飛ぶ」ことにかかわる種を展示紹介。子ども科学展「空飛ぶ勇者たち」の関連催事。



「飛ぶタネ展」の会場風景

（3）写真講座「写真作家入門」展示会「フラグメンツ　翼たちの断章」

会　期：１２月８日（火）～１１日（日）

場　所：県民ギャラリー１・２・３

内　容：「写真作家入門」の受講生の成果を発表する展示会。

参観者：約１０００人

7．文化庁・地域文化芸術振興プラン推進事業

沖縄地域の文化芸術活動の活性化と県民に供することを目的に伝統工芸の技術や芸能、現代芸術に触れてもらおうというプログラムを１０月から取り入れた。プログラムは「ものづくり体験」「地域芸術交流」「芸術鑑賞」の３つで構成。県の博物館班や美術館班の各学芸員の協力を得て展開した。参加費は補助事業のためいずれも無料。

（1）ものづくり体験①：布を織る「綜絖（そうこう）通し体験」と「筬（おさ）通し体験・機織り体験」

日　時：「綜絖通し体験」１０月１０日（土）14:00 ～ 16:00

「筬通し体験・機織り体験」１０月 11 日（日）10:00 ～ 16:00

講　師：柳悦州氏（沖縄県立芸術大学教授）

場　所：博物館屋外展示場の民家

内　容：民家展示場の機織を使って糸通しや機織を体験してもらう

参加者：１０日１６人、１１日４１人（無料）

博物館屋外展示場にある民家で機の綜絖に糸を通す講師ら

（2）地域芸術交流①：「映像作家・山城知佳子氏アーティストインレジデンス」

日　時：１０月２２日（木）～１０月２５日（日）

場　所：久米島および沖縄本島

内　容：アーティスト山城知佳子氏が、沖縄戦で起きた日本軍兵による住民虐殺を映像化する作業を行った。

（3）芸術鑑賞①：「琉球舞踊」

開館記念の１１月１日に沖縄古典音楽や琉球舞踊を披露してもらい、開館２周年を寿いだ。

日　時：１１月１日（日）9:00 と 12:00 の２回演奏（各３０分）

出　演：沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻学生有志

場　所：エントランスホール

聴　衆：約５０人

（4）ものづくり体験②：出前授業ｉｎ南城市立大里中学校「蝶形骨製品ってなんだろう」

日　時：１１月９日（月）、１０日（火）、１３日（金）、１６日（月）、１７日（火）、２０日（金）

いずれも大里中学校の授業時間割に沿って美術の授業で実施

講　師：羽方誠当館博物館専門員

場　所：南城市立大里中学校

参加者：１学年５クラス１５４人

（5）ものづくり体験③：糸をつくる「苧麻刈り取り」と「糸つくり」

日　時：「苧麻刈り取り」１１月２１日（土）14:00 ～ 16:00

「糸つくり」１１月２２日（日）１４：００～１６：００

講　師：下地正子氏（宮古苧麻績み保存会会員）、神里佐千子氏（宮古苧麻績み保存会会員）
場　所：博物館実習室
参加者：２１日９人、２２日８人（いずれも無料）

（6）地域芸術交流④：写真作家・鷹野隆大氏アーティストインレジデンス
日　時：「写真ワークショップ」１１月２１日（土）～２８日（土）13:00 ～ 17:00
「公開講評会」１１月２８日 15:00 ～ 17:00
場　所：県民スタジオ
参加者：計１６人（ワークショップ４人、講評会１２人）、いずれも無料

（7）ものづくり体験④：「布を織る」
講　師：與那嶺一子学芸員
日　程：１１月２８日（土）14:00 ～ 16:00
場　所：博物館屋外展示場の民家
参加者：６人（無料）

（8）ものづくり体験⑤：「布を織る」
日　時：１２月２７日（土）14:00 ～ 16:00
講　師：與那嶺一子学芸員
場　所：博物館屋外展示場・民家
参加者：７人（無料）

（9）芸術鑑賞②：「新春の舞（琉球舞踊）」
日　時：１月１日（金）２回公演
（12:00 ～ 12:30、14:00 ～ 14:30）
出　演：沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻学生有志
場　所：エントランスホール
鑑賞者：約１５０人（１回目約７０人、２回目約８０人、
いずれも無料）

（10）芸術鑑賞③：「獅子舞とエイサー演舞」
日　時：１月２日（土）14:00 ～ 15:00
出　演：鼓衆若群星
場　所：館東側交差点広場と館正面玄関前
鑑賞者：約１００人（無料）

（11）ものづくり体験⑥：「出前授業　わら算をつくってみよう」ｉｎ兼城中学校
日　時：１月１９日（火）10:50 ～ 12:40
講　師：佐々木健志氏（琉球大学風樹館学芸員）
場　所：糸満市立兼城中学校
参加者：１年２組３２人（無料）

（12）ものづくり体験⑦：「布を織る」
日　時：１月２３日（土）14:00 ～ 16:00
講　師：與那嶺一子学芸員
場　所：博物館屋外展示場の民家
参加者：１６人（無料）

（13）地域芸術交流③：「陶芸ワークショップ」
日　時：２月１３日（土）、２０日（土）13:00 ～ 15:00（２日間連続講座）
講　師：金城有美子氏（陶芸家）
会　場：博物館実習室
内　容：親子で一つの陶芸作品を作る
参加者：親子１９組（材料費５００円）

(14) ものづくり体験⑧:「綜絖（そうこう）・筬（さお）通し体験」

日　時：２月２０日（土）10:00 ～ 12:00
講　師：柳悦州氏（沖縄県立芸術大学教授）
場　所：博物館企画展示室前
内　容：機織で布を織る前段階として糸を通す作業を知る。
参加者：５人（無料）

(15) ものづくり体験⑨:「布をおる」「機織り体験」

日　時：２月２０日（土）、２７日（土）
　　いずれも 14:00 ～ 16:00
講　師：與那嶺一子学芸員
場　所：博物館屋外展示場民家
内　容：機織をする。
参加者：７人（２０日）、５人（２７日）

(16) ものづくり体験⑩:「糸をつくる」

日　時：２月２７日（土）14:00 ～ 16:00（苧麻の刈り取り）
　　２８日（日）14:00 ～ 16:00（糸つくり）
講　師：下地正子氏（宮古苧麻績み保存会会員）　神里佐千子氏（宮古苧麻績み保存会会員）
場　所：屋外展示場、博物館実習室
内　容：屋外展示場の一角に植えている苧麻を刈り取り、糸にする作業を体験する。
参加者：１７人（２７日）、１６人（２８日）

(17) ものづくり体験⑪:「紙を作ろう」

実施日：３月６日（土）13:00 ～ 16:00
　　３月７日（日）9:00 ～ 15:00
講　師：安慶名清氏（工芸作家）
場　所：博物館実習スペース及び民家
内　容：植物の繊維を使って昔ながらに紙を作る工程を学び体験する。
参加者：１３人（無料）

(18) ものづくり体験⑫:「ものづくりのはなし」

実施日：３月１３日（土）10:00 ～ 12:00
講　師：石垣昭子氏（染色家）
場　所：博物館屋外展示場民家
内　容：西表島での布づくり体験を聞く。
参加者：４８人（無料）

(19) ものづくり体験⑬:「布をおる」機織体験

実施日：３月１３日（日）、２０日（土）いずれも 14:00 ～ 16:00
講　師：與那嶺一子学芸員
場　所：博物館屋外展示場民家
　　（３月２４日（水）～２８日（日）は「ものづくり今昔」展会場に機織設置して実施）
内　容：機織体験をしてもらう。
参加者：計１５人（１３日９人、２０日６人、無料）

(20) ものづくり体験⑭:「そりを作って遊ぼう」

実施日：３月２１日（日）14:00 ～ 16:00
講　師：佐々木健志氏（琉球大学風樹館学芸員）ほか
場　所：博物館実習室、新都心公園
参加者：２０組３７人（無料）

８．おもろ夜会

（1）おもろ夜会 vol．６ 「昼下がりの夜会―オキナワジャズギルドオーケストラライブ」

実施日：１１月２９日（日）午後２時～３時／４時～５時

主　催：文化の杜共同企業体

会　場：美術館屋外展示場

出　演：オキナワジャズギルドオーケストラ（１９人）

内　容：県内で活躍するオキナワジャズギルドオーケストラの無料ライブを実施。グレードの高い演奏とエンターテイメントを織り交ぜ、観客を楽しませる要素にあふれたイベントとなった。家族連れやカップル、シニア世代まで幅広い年齢層が館での演奏会を楽しんだ。

入場者：約1，２５０人（無料）　1ステージ目：約６００人＋２ステージ目：約６５０人

ステージを盛り上げたオキナワジャズギルドオーケストラ出演の「おもろ夜会」

９．しまくとぅばプロジェクト

しまくとぅばの価値や重要性を認識し、活性化と可能性を広げる目的で開館年の２００７年に発足した「しまくとぅばプロジェクト」。２００９年度は毎月１回、様々な催しを開催することで一層の活性化を促そうと計画。実際は目標以上となる１３回の催しを開催し、同プロジェクトを県内外にアピールした。

（1）しまくとぅばで創造すること

実施日：４月２６日（日）14:00 ～ 18:30

場　所：県立博物館・美術館　講堂

プログラム①あいさつ：宮里朝光（沖縄語普及協議会会長）

②映像上映：『ナナムイ・神歌編』（比嘉豊光「島クトゥバで語る戦世―１００人の記憶／ナナムイ・神歌」琉球弧を記録する会２００３年より）

③詩の朗読：高良勉氏（島尻郡）、松原敏夫氏（宮古島出身）、真久田正氏（石垣島出身）

④パネルディスカッション

コーディネーター・狩俣繁久（琉球大学教授）

パネリスト：比嘉豊光（作家）、高良勉、松原敏夫、真久田正（詩人）

入場者：６４人（資料代３００円）

（2）博物館常設展示しまくとぅば解説ツアー

実施日：５月２３日（土）14:00 ～ 16:20

場　所：当館博物館常設展示場、博物館講座室

講　師：宮里朝光氏（沖縄語普及協議会会長）、仲原穣氏（琉球大学、沖縄国際大学講師）

内　容：宮里朝光氏を講師に、首里くとぅばで博物館常設展の展示物を解説してもらった。また事前講座として仲原穣氏が琉球語概説を行い、琉球語の特徴を知ってもらった。

参加者：１７人（参加費１０００円、常設展観覧料含む）

（3）まじゅんかたらな しまくとぅば

実施時：６月２０日（土）午後２時～５時

場　所：美術館講座室

コーディネーター：知念ウシ氏、ゲストスピーカー：国吉朝政氏、上原美智子氏、宮里護佐丸氏

内　容：ゲストスピーカーにしまくとぅばへの思いを語っていただき、参加者がグループごとに分かれ

てそれぞれ意見や思いを述べた後、発表するという参加者主体の催し
参加者：４０人

（4）ことばを収集・記録する―方言集から辞書まで

1）書籍展示

実施日：7月２２日（水）～8月２日（日）9:00～17:00（金・土は2まで）１２日間
場　所：情報センター
内　容：方言集や辞書の展示を情報センターで行った。展示したのは、専門家はもちろん、失われつつある地元のことばを残そうと思い立った一般の人たちによるシマごとに編纂された本など。この展示を通して、まだ記録されていないシマのことばの保存を呼びかけた。会期中の7月２５日（土）に、本の出版者と編さん途中の筆者二人を迎えて講演会を行った。
展示書籍：４０冊・・・『混効験集』（１７１１年）、『八重山語彙』（１９３０年）、『奄美方言』（１９７８年）、『宮古群島語辞典』（１９８３年）、『沖縄今帰仁方言辞典』（１９８３年）、『与論島辞典』（１９９５年）、『シマフュトゥバ 大宜味村・田嘉里の方言』（２０００年）、『石垣方言辞典』（２００３年）、『宮古スマフツ辞典』（２００３年）、『奄美大島笠利町佐仁方言の音声と語彙』（２００３年）、『Okinawa-English Word Book』（２００６年）など

2）講演会

実施日：7月２５日（土）14:00～16:00
場　所：博物館講座室
ゲストスピーカー：富浜定吉氏　（『伊良部方言辞典』執筆・編集者）
　　宮城信八氏　（『シマフュトゥバ　大宜味村・田嘉里の方言』発行者）

（5）琉球絵画展 with しまくとぅばプロジェクト「展示作品解説会　絵画からみる琉球の風俗」

実施日：8月１５日（土）14:00～15:30
場　所：「琉球絵画展」会場（美術館企画ギャラリー１、２）
講　師：宮里朝光氏（沖縄語普及協議会会長）
内　容：美術館企画展『琉球絵画展』とのコラボレーション企画。琉球の風俗を描いた作品の解説を宮里朝光氏に首里ことばで解説していただいた。
参加者：３３人（「琉球絵画展」の観覧料金）

（6）しまくとぅばの復権―再活性化に果たすメディアの役割

実施日：９月１８日（金）18:00～20:00
場　所：講堂
登壇者：コーディネーター・狩俣繁久氏（琉球大学教授）
　　パネリスト・山本勇氏（ラジオ沖縄）、土橋大記氏（ＮＨＫ沖縄放送局）、高良誠氏（琉球放送）、宜保靖氏（琉球新報）、岡部ルナ氏（沖縄タイムス）
内　容：各メディアが実施してきた「しまくとぅば」事業などについての報告とディスカッション
参加者：７３人

（7）ウチナーグチマディン　サッタルバスイ―方言札・標準語励行で得たもの失ったもの！？

実施日：９月２０日（日）13:30～17:30
場　所：講堂
登壇者：コーディネーター・仲里効氏（評論家）
　　パネリスト・宮里朝光氏（沖縄方言普及協議会会長）
　　儀間朝善氏（南城市教育委員長）、石川元平氏（元沖縄県教職員組合委員長）、
　　上原美智子氏（元教諭）、高良勉氏（詩人）
内　容：２部構成で、第１部は高良勉氏が戦後の恩師・儀間朝善氏と「方言」を巡って対談を行い、第２部でシンポジウムを行った。「方言札」の功罪を実施者と被体験者が問うというこれまでになかったテーマで議論が交わされ、活発な質疑応答がみられた。
参加者：８０人

（8）まじゅんかたらな　しまくとぅば2 『方言札・標準語励行』で得たもの、失ったもの

実施日：１０月１８日（日）14:00 ～ 17:00

場　所：博物館講座室

コーディネーター：上原美智子氏、知念ウシ氏、導入トーク・仲里効氏（いずれもプロジェクトメンバー）

内　容：６月に行った「まじゅんかたらな　しまくとぅば」の第２弾。９月２０日のシンポジウムを受けて参加者がそれぞれの方言札・標準語励行体験などを語り合い、しまくとぅばを考えた。２８人の参加者を４グループに分けて、思い思いに体験談を語ってもらいグループごとに内容を発表し、全体会で質疑応答した。

参加者：２８人

（9）しまくとぅばプロジェクトライブ

実施日：１１月２０日（金）19:00 ～ 21:30

場　所：美術館野外展示場

出演者：与那覇有羽氏、知花竜海氏、伊禮麻乃氏（以上ミュージシャン）
親川志奈子氏（プロジェクトメンバー）

内　容：しまくとぅばを若者の歌を通して考えるライブを開催。出演者の歌としまくとぅばに対する取り組みについて、親川志奈子氏（プロジェクトメンバー）がインタビューし、クロストーク。

参加者：招待含め５０人（入場料は１５００円）

(10) 民具のこと知っていますか？―沖縄民具解説会

実施日：１２月２０日（日）14:00 ～ 16:00

場　所：博物館実習室

講　師：宮里朝光氏（沖縄語普及協議会会長）

内　容：宮里朝光氏を講師に、民具の使用法や呼称から琉球の文化を知ることを目的とした。博物館の協力を得て、館所蔵の１８点の民具を借用して実施した。

参加者：１８人（資料代３００円）

(11) 琉歌をとなえる

実施日：1月２４日（日）14:00 ～ 16:15

場　所：博物館講座室

講　師：前城淳子氏（琉球大学准教授）、
中村啓子氏（琉球かるた会）、大城勇気氏（琉球かるた会、沖縄語普及協議会）

内　容：新春にあわせて「琉歌をとなえる」を実施。前城淳子氏が琉歌について解説し、琉球かるた会の中村啓子氏、大城勇気氏による「となえ」の講義を行った後で、有名な琉歌を皆で声に出して詠んだ。

参加者：５２人（資料代３００円）

(12) 連続講座「池間方言教室」

実施日：2月７、１４、２１、２８日（いずれも日曜日）16:00 ～ 17:30

場　所：美術館講座室か博物館講座室

講　師：仲間博之氏（加計学園参与、沖縄支局長）

内　容：４週連続で日曜日に開講する「池間方言教室」を開催した。池間系の言葉を学びながら、仲間氏の教え方を通して、継承にはどのような方法が可能かということについても考えてもらう機会とした。

参加者：９１人（延べ１９１人）7日６１人、１４日５２人、２１日４５人、２８日３３人
（受講１０００円）

(13) 琉球かるた会

実施日：3月１４日（日曜日）午後２時～４時

場　所：博物館野外展示場民家

内　容：琉歌に親しんでもらう一環で「琉球かるた会」を開催した。民家の一番座と二番座でかるた遊びを楽しんでもらった。詠み手には講師のほか小中学生３人が務めた。

講　師：大城勇気氏（沖縄語普及協議会、琉球かるた会）、中村啓子氏（琉球かるた会）

10. その他

（1）「ジャズフルート奏者西仲美咲　エントランスコンサート」
日　時：１月２４日（日）13:00 ～ 13:40、14:00 ～ 14:40
出　演：西仲美咲氏（フルート奏者）ほか
場　所：エントランスホール
内　容：エントランスホールを活用したミニコンサート
参加者：計約１００人（無料）

11. 職場体験受け入れ

本館の活動をよりよく知ってもらうために、次世代教育の一環として中学生、高校生の職場体験や、沖縄県や雇用開発推進機構が展開している「ジョブシャドウィング」を受け入れた。

（1）職場体験学習①
実施日：７月８、９、１０日の３日間　9：00 ～ 15：30
研修生：４人（那覇市立石田中学校２年生）
内　容：初日は中央監視で施設の管理業務、２日目は美装班とともに清掃業務、最終日は展示会準備中の夏休みこども科学展「空飛ぶ勇者たち」を見学し、広報用写真の撮影を体験した。

（2）ジョブシャドウィング
実施日：１１月１２日（木）9:00 ～ 12:00
研修生：４人（沖縄県立嘉手納高校）、２人（真和志高校）
内　容：学芸員、文化の杜スタッフにつく

（3）職場体験学習②
実施日：１１月２４（月）、２５日（火）いずれも 9:00 ～ 16:00
研修生：１人（名護市立東江中学校２年生）
内　容：館内清掃、学校見学対応の補助、学芸員へのインタビュー、展示監視

Ⅶ. 広報・交流事業

１．広報事業

広報は、当館の展覧会や事業・活動を県民や観光客に広くかつ細かくアピールしながら博物館・美術館活動への理解を深めてもらうとともに一層の集客を図った。年間を通しては、展覧会や講演会、解説会などを盛り込んだ年間計画表「沖縄県立博物館・美術館の年間行事案内」（パンフレット）を作成し、展覧会ごとにパンフレットやポスターを配布して広報に務めたほか､県内外のマスコミ･情報誌･旅行雑誌等に積極的なＰＲをお願いした。

当館で開催される展示会と関連イベント、教育普及事業、講演会、県民ギャラリー等の催しについては前年度同様、週明けの毎週月曜日までに今週の「県立博物館・美術館　週間展示会・イベント情報」を作成し、県内の主な新聞社（沖縄タイムス社、琉球新報社）やテレビ局（琉球放送、琉球朝日放送、ＮＨＫ沖縄放送局、沖縄テレビ、沖縄ケーブルネットワーク）、ラジオ局（琉球放送ＲＢＣｉラジオ、ＮＨＫ沖縄放送局、ラジオ沖縄、ＦＭ沖縄、ＦＭレキオ、ｆｍタイフーン）にＦＡＸやメールでデータを送信し、県民への情報の告知や取材をお願いした。

さらに、当館主催の講座や講演会、展覧会に連動するシンポジウムやアーティストトーク、催しの告知・募集については、募集期間前あるいは開催前にその都度、新聞社、テレビ局、ラジオ局、雑誌社、イベント情報誌等に原稿や資料を送信し、掲載や取材・報道を要請した。また、外部講師や関係者には文化の杜スタッフの案内で放送局や新聞社へのあいさつ回りをお願いし、催し物のＰＲに努めてきた。県民ギャラリーの利用者や当館で展示会を予定している関係者にも、県内マスコミを訪問して展示会をアピールするようアドバイスした。

沖縄タイムス紙面では休館日を除いて朝刊情報面の「今日の県立博物館・美術館」のコーナーや文化面、社会面等に、展覧会や講演会、県民ギャラリーの催事情報を掲載。琉球新報紙面でも情報面や文化面、社会面で展覧会や催事情報を載せてもらった。沖縄タイムスの副読誌「週刊ほーむぷらざ」や琉球新報の副読誌「週刊レキオ」、そのほか県内外で発行される観光・ガイド・情報関連誌にも展覧会やイベント情報の掲載に務めた。

ＮＨＫ沖縄放送局、琉球放送（ＲＢＣ）、琉球朝日放送（ＱＡＢ）、沖縄テレビ（ＯＴＶ）、沖縄ケーブルネットワーク（ＯＣＮ）の各テレビ局と、琉球放送（ＲＢＣｉラジオ）、ＮＨＫ沖縄放送局、ラジオ沖縄（ＲＯＫ）、ＦＭ沖縄、那覇市内のＦＭレキオ、ｆｍタイフーン等のラジオ局にも展覧会やイベント情報を取り上げて放送してもらった。

４月から８月までは沖縄タイムス社が琉球放送（ＲＢＣ）や琉球朝日放送（ＱＡＢ）のテレビ、ＲＢＣｉラジオ、ＦＭ沖縄に持っているＣＭ放送枠を活用し、美術館の企画展「アトミックサンシャインの中へ in 沖縄」展、「豊潤の美を求めて－金城安太郎と高畠華宵展」、「琉球絵画展」のＣＭを放送し展覧会をＰＲした。

加えて４月末から５月のゴールデンウイークや７月から８月の夏休み期間は告知強化を図り、国際通り・県庁前交差点と当館に面したサンエー那覇メインプレイスの大型ビジョン（テレビ画面）で集中的にＣＭを流したほか、８月は琉球放送テレビのＣＭ枠を買い、「琉球絵画展」のＣＭを流した。１０月から１１月にかけても琉球放送のＣＭ枠を買って「琉球使節、江戸へ行く！」展や「名渡山愛順展」をアピールし、１月から３月までは同様に琉球放送や琉球朝日放送で「タカエズトシコ展」のテレビＣＭを放送し誘客を図った。

雑誌社や出版社、新聞・テレビ各社の取材依頼には必ず応じ、県の広報（電光掲示板、広報誌、ラジオ番組）等には、館事務所を通して毎月、原稿を提出。４月から７月は県庁舎の掲示板５カ所に「アトミックサンシャインの中へ in 沖縄」展、「豊潤の美を求めて－金城安太郎と高畠華宵」展のポスターを掲載してもらった。企画展ごとにポスターを制作し、県内の公共掲示板への掲出を行った。

当館をはじめ那覇市歴史博物館、那覇市立壺屋焼物博物館、首里城公園、国立劇場おきなわ、浦添市美術館の６つの文化施設が団結し初めて歴史・文化情報誌「真玉」を発刊。県内外の文化・観光関連施設・機関、希望者に１万部を配布した。４月から７月まで各館の企画展や常設展情報を盛り込んだ新しい形の情報誌は各界から注目を集め、大きなＰＲ力になった。

一方、年間を通して、那覇市内外の主要ホテル、文化施設、レンタカー会社、小・中・高校、那覇市観光協会の観光案内所には、「沖縄県立博物館・美術館の年間行事案内」、展覧会ごとのチラシやポスターを配布して誘客に努めた。中南部の道路沿いにある公共掲示板や自治体の掲示板約１５０カ所には、展覧会の度にポスターを張り替えて博物館・美術館へ誘っている。

沖縄の空の玄関・那覇空港では、ロビー柱面に大型の電照広告（縦１４０センチ×横１０５センチ）を２面設置し、通年で沖縄県立博物館・美術館をＰＲしている。６月には電照広告パネルのデザイン変更に伴い、告知場所もＪＡＬ側の到着ロビーからＡＮＡ側の到着ロビーへ移して、より多くの観光客への PR を図った。
県民の足・沖縄都市モノレール（ゆいレール）の各車両の乗降口上の広告（縦約２６センチ×横約１３０センチ）は年間を通して、展覧会ごとに案内図柄を張り替えて展覧会をアピールした。

県内の医療機関や病院に配布する沖縄県社会保険診療報酬支払基金の月刊誌「沖縄基金だより」には２１年度も年間を通して開催中の展覧会を毎月の表紙に掲載してもらった。

館の建つ那覇市おもろまちの那覇新都心通り会が発行する月間ミニコミ誌「新都心かわら板」にも展覧会情報を掲載し、地域に県立博物館・美術館の行事を強くアピールした。

一方、２１年度も誘客活動の一環としてタクシー運転手の研修を受け入れ、館の魅力をアピールしたり、小中高校生の職場体験・見学、教師の１０年研修などの研修生を積極的に受け入れて、博物館・美術館活動を紹介しながら支援の拡大を図った。

２．地域イベントへの参加

那覇新都心通り会へ積極的に参加し、地域の活動に協力した。２００９年度は新都心まつりの開催はなかったが、交流会や新都心ゴミ拾いクリーンデーなどに参加、また月に１回発行される「新都心かわら板」への情報提供などを行った。

Ⅷ. 調査・研究等の活動

１．調査・研究等

【調査・視察】
福島輝一
　○名　称：「ミイラ展の調査」
　　期　間：２０１０年３月１日（月）～３月５日（金）（カナダ・ケベック４）
　　依頼機関：エジプトミイラ展実行委員会
仲程香野
　○名　称：「日本博物館協会　平成２２年度研究協議会」（東京都写真美術館）
　　期　間：２０１０年３月１１日（木）、１２日（金）
町田恵美
　○名　称：恵比寿映像祭シンポジウム「子ども×アートで地域をひらく」視察（東京都写真美術館など）
　　期　間：２０１０年２月２０日（土）、２１日（日）

【講演等】
岡本美奈子
　○名　称：「大正イマジュリィ学会」第 18 回研究発表（京都精華大学）
　　日　時：２００９年１２月１３日（日）
　　発　表：金城安太郎の挿絵―沖縄に受け継がれた大正ロマン的なものを探る―

２．著作論文等

岡本美奈子
　○「豊潤の美を求めて」展の編集を担当
　○「琉球絵画展」の編集を担当
仲程香野
○「名渡山愛順展」の編集を担当
○「タカエズトシコ展」の編集を担当

Ⅸ. その他

１．職員研修

①日　時：２００９年５月２９日（金）15:00 ～ 16:30
　場　所：美術館講座室
　講　師：大堀哲（長崎歴史文化博物館館長）
　内　容：長崎歴史文化博物館は、調査・研究や教育普及などの学芸部門も含めて、２００５年度に全国で初めて指定管理者制度が本格的に導入された館である。同館の大堀哲館長を招いて、指定管理者による運営管理の現状と課題を聞いた。
　参加者：２５人

②日　時：９月７日（月）10:00 ～ 12:00
　場　所：博物館講座室
　講　師：千木良芳範（博物館副館長）
　参加者：１６人

③日　時：１０月１９日（月）10:00 ～ 12:00
　場　所：博物館講座室
　講　師：翁長直樹（美術館副館長）
　参加者：１６人

２．スタッフ接客研修

①日　時：７月１０日（金）12:30 ～ 14:30
　場　所：博物館講座室
　講　師：中村愛（文化の杜共同企業体）
　内　容：新人向けのマナー講習、接客サービス講習
　参加者：２０人

②日　時：１１月６日（火）18:00 ～ 20:00
　講　師：中村愛（文化の杜共同企業体）
　場　所：博物館講座室
　内　容：新人向けのマナー講習、接客サービス講習
　参加者：２１人

③日　時：１１月１８日（水）18:00 ～ 20:00
　会　場：博物館講座室
　講　師：中村愛（文化の杜）
　内　容：新人向けのマナー講習、接客サービス講習
　参加者：２１人

④日　時：３月２２日（日）16:00 ～ 19:00 および３月２３日（月）14:00 ～ 17:00
　場　所：博物館講座室
　講　師：中村愛（文化の杜）
　内　容：スタッフ全般向けのマナー講習、接客サービス講習
　参加者：計１３０人

３．特別展・企画展研修

①日　時：２００９年４月９日（金）18:15 ～ 19:15
　場　所：博物館講座室
　対象展示会：「アトミックサンシャインの中へ in 沖縄」
　講　師：謝花佐和子（文化の杜）、渡辺真也氏（インディペンデントキュレーター）、中村愛（文化の杜）
　参加者：４８人

②日　時：５月２６日（金）18:10 ～ 20:10
　場　所：博物館講座室
　対象展覧会：博物館企画展「新収蔵品展」、美術館企画展「豊潤の美を求めて」、自主展覧会「王昭展」
　講　師：藤田祐樹（博物館班）、岡本美奈子（文化の杜）、福島輝一（文化の杜）、中村愛（文化の杜）
　参加者：５０人

③日　時：７月１６日 18:00 ～ 20:00
　場　所：博物館講座室
　対象展示会：夏休みこども科学展「空飛ぶ勇者たち」、美術館企画展「琉球絵画展」
　講　師：仲程香野（文化の杜）、岡本美奈子（文化の杜）、中村愛（文化の杜）
　参加者：５３人

④日　時：９月６日（日）18:00 ～ 19:00
　場　所：企画ギャラリー 1・2 など
　講　師：謝花佐和子（文化の杜）、中村愛（文化の杜）
　対象展示会：美術館企画展「オキナワデザインの現在」
　参加者：４５人

⑤日　時：１０月６日（火）18:00 ～ 20:00
　場　所：博物館講座室・特別展示室
　対象展示会：博物館特別展「琉球使節、江戸へ行く！」
　講　師：崎原恭子（博物館班）、中村愛（文化の杜）
　参加者：５５人

⑥日　時：１０月２８日（水）18:00 ～ 19:00
　場　所：博物館講座室・企画ギャラリー１・２
　対象展示会：美術館企画展「名渡山愛順展」
　講　師：豊見山愛（美術館班）、中村愛（文化の杜）
　参加者：４０人

⑦日　時：１月１４日（火）18:15 ～ 19:30
　場　所：博物館講座室、企画ギャラリー1・2
　対象展示会：美術館企画展「タカエズトシコ展」
　講　師：大城仁美（美術館班）、中村愛（文化の杜）
　参加者：文化の杜共同企業体スタッフ５０人

⑧日　時：２月１６日（火）18:15 ～ 20:30
　場　所：博物館講座室、博物館企画展示室・特別展示室
　対象展示会：博物館企画展「造礁サンゴ」展、「ものづくり今昔」展
　講　師：田中聡、與那嶺一子、岸本敬、山崎真治（博物館班）、
　　中村愛（文化の杜）
　参加者：５１人
⑨日　時：３月３１日（水）18:15 ～ 19:30
　場　所：博物館講座室・美術館企画ギャラリー
　対象展示会：美術館企画展「いわさきちひろ展」
　講　師：仲里なぎさ（文化の杜）、松方路子氏（安曇野ちひろ美術館学芸員）、
　　中村愛（文化の杜）
　参加者：５５人

４．消防訓練

（１）消防訓練①
　日　時：７月１０日 10:30 ～ 11:30
　内　容：防災・消化訓練および避難経路の確認
　参加者：館職員・文化の杜スタッフ総員７５人

（２）消防訓練②
　日　時：７月２０日（月）～２７日（月）
　場　所：美術館屋外展示場
　内　容：消火器の操作手順をマスターする訓練
　参加者：４７人

全館共同事業

Ⅰ．学芸員実習
Ⅱ．国際博物館の日
Ⅲ．移動展
Ⅳ．燻蒸・消毒処理
Ⅴ．刊行物

Ⅰ．学芸員実習

１．博物館実習

当館では、１９６９（昭和４４）年に最初の実習生を受け入れてから、２００６、２００７年度の新館準備のための休止年度を除き毎年学芸員実習を実施してきた。２０００年度までは、実習生の在籍する大学毎に個別に実習期間を設置して対応してきたが、２００１年度以降は年２回に集約して実施している。

２００９年度の学芸員実習の内容は下記のとおりである。

【実習内容と指導職員】

前期：６月２２日～７月３日		後期：８月１７日～２８日	
講義・実習	指導者	講義・実習	指導者
博物館施設・管理運営・事業概要	濱口	博物館施設・事業概要	濱口
美術館施設・事業概要	瑞慶山	美術館施設・事業概要	瑞慶山
資料の保存管理	仲里	IPM への取り組み	濱口
常設展示の展示意図	全学芸員	常設展示の展示意図	全学芸員
自然史資料取扱実習	田中	自然史資料取扱実習	藤田・山崎
考古資料取扱実習	羽方	考古資料取扱実習	羽方
美術工芸資料取扱実習	與那嶺	美術工芸資料取扱実習	與那嶺
歴史資料取扱実習	岸本弘・崎原	歴史資料取扱実習	岸本弘・崎原
民俗資料取扱実習	岸本敬	民俗資料取扱実習	岸本敬
燻蒸準備作業	全学芸員	教育普及業務（教育普及活動）	上原成・宮平
新収蔵品展撤収作業	全学芸員	課題研究（常設展示観覧者調査）	濱口
教育普及業務（教育普及活動）	上原成・宮平		
中城御殿発掘現場見学	濱口		
課題研究（常設展示観覧者調査）	濱口		

【実習生】

前期			後期		
1	大江　李奈	琉球大学	1	木野沙央里	琉球大学
2	金城　聖良		2	川上　詩織	
3	栗田　隆気		3	佐久川尚樹	
4	根上　晴香		4	照屋　雄大	
5	小畑　圭		5	玉元　大輔	
6	瑞慶覧長潤		6	稲嶺　航	沖縄国際大学
7	小谷　実李	沖縄国際大学	7	金城　良尚	
8	比嘉　俊允		8	具志堅清大	
9	屋富祖由菜		9	照屋　苑子	
10	山口こずえ		10	当銘　由美	
11	山城　李紗	八洲学園大学	11	長嶺　裕紀	国士舘大学
12	照屋　智美	信州大学			
13	伊波　綾乃	高知大学			
14	伊波　愛実	昭和音楽大学			

（濱口　寿夫）

２．美術館実習

当館では、県内大学及び県外大学の県内出身者を受け入れ、学芸員実習を年に１回実施している。２００９年度は、２００９年８月１７日（月）～２８日（金）の１０日間、下記の内容で実施した。

【実習内容と指導職員】

講義・実習	指導者
博物館・美術館の施設・設備	濱口・瑞慶山
美術館業務の考え方と実際	翁長
ＩＰＭへの取組	仲里
油彩画作品の取扱実習	豊見山
版画作品の取扱実習	翁長・仲村
彫刻作品の取扱実習	翁長・瑞慶山
写真作品の取扱実習	新里・大城
映像作品の取扱実習	翁長
工芸作品の取扱実習	國吉
資料の調査・保存・整理の実際美	仲村
術作品の修復等実習	仲村
コレクション展示の実際Ⅰ	大城・新里
コレクション展示の実際Ⅱ	國吉
コレクション展示の実際Ⅲ	瑞慶山
企画展の企画と設計	豊見山・大城
展示の検証法（観覧者調査）	瑞慶山
教育普及活動	國吉

【実習生】

１　大城　愛香　　県立芸術大学
２　平川　可奈子　　県立芸術大学
３　当間　奈津実　　県立芸術大学
４　宮里　ゆうこ　　県立芸術大学
５　宮城　麻希子　　県立芸術大学
６　宮平　彰子　　県立芸術大学
７　大城　さやか　　中央大学
８　新垣　隆吾　　愛媛大学
９　上田　幸奈　　滋賀県立大学

（翁長　直樹）

Ⅱ．国際博物館の日

名　称：５月１８日「国際博物館の日」
会　期：２００９年５月１２日（火）～５月３１日（日）（２０日間）
会　場：パネル展ーエントランスホール　ワークショップー正面玄関外

【開催趣旨】

毎年５月１８日は、全世界で博物館活動の普及と向上を目的に、国際博物館会議（通称ＩＣＯＭ：イコム）によって『国際博物館の日』と定められている。日本博物館協会の会員である当博物館・美術館もこれに伴い、多くの人々に広く博物館活動を報せ、博物館・美術館に対してより興味・関心、親近感を抱いてもらうとともに、博物館・美術館や社会教育の意義をさらに普及・啓発するために行う。

【実施内容】

２００９年度はパネルの設置場所をエントランスホールとし、来館者の目につきやすいようにした。また、新たな取り組みとして無料入館日の設定、バックヤードツアー、ワークショップ等を実施した。

○パネル展　５月１２日（火）～５月３１日（日）
パネル展の目的、ＩＣＯＭ・「国際博物館の日」の説明、今年度の行事や講座などの紹介、沖博協加盟館の紹介、「沖縄の博物館ガイド」の紹介、展示会の様子、学芸員の仕事、ボランティア・友の会・happ等の活動の様子、指定管理者の仕事、過去に実施した展覧会のチラシ展示

○あなたの町からポストカード　５月１２日（火）～５月３１日（日）

○無料入館日　５月２３日（土）のみ

○バックヤードツアー　５月２３日（土）のみ
時　間：（午前）第１回　博物館　10:00 ～ 11:00　　第２回　美術館　11:00 ～ 11:30
　　（午後）第３回　博物館　14:00 ～ 15:00　　第４回　美術館　15:00 ～ 15:30
受　付：9:00 ～　総合案内にて
定　員：当日先着１２名
参加料：無料

○ワークショップ　「勾玉を作ろう」 5/23（土）のみ
時　間：13:00 ～ 17:00
受　付：9:00 ～　総合案内にて
定　員：当日先着１００名
参加料：５００円

パネル展全景　於：エントランスホール

（岸本　弘人）

Ⅲ．移動展

名　　称：『第２回沖縄県立博物館・美術館移動展』
会　　期：２００９年１０月２３日（金）～２５日（日）9:00～17:00（２３日は10:00～）
開 催 地：沖縄県島尻郡久米島町
・具志川農村環境改善センター　大ホール、ホワイエ（メイン会場）
・久米島自然文化センター　特別展示室、ラウンジ（映画上映会場）
観 覧 料：無料
予算執行額：５，４８７，３４６円
入場者数：○メイン会場：１１５５名　　○映画上映会場：３９名
○「ソテツの実でオリジナルネックレスを作ろう」：５０名

【開催趣旨】
ふだん沖縄県立博物館・美術館に足を運ぶことの出来ない離島や遠隔地の方々に移動展の展示を見てもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、美術作品を鑑賞する機会を提供する。

【開催形式】主催：沖縄県立博物館・美術館、文化の杜共同企業体
共催：久米島町、久米島町教育委員会

【展示内容】
博物館資料：「世界の化石と輝く石」　恐竜の骨格標本、岩石、鉱物
「沖縄の自然、歴史、文化」　沖縄の自然、歴史、文化に関する総合展示
美術館資料：「沖縄県内作家の写真、絵画、彫刻、陶芸、版画」

【関連催事】
○「ソテツの実でオリジナルネックレスを作ろう」
会　場：具志川農村環境改善センター
会　期：２００９年１０月２４日（土）・２５日（日）15:00～17:00
対　象：一般　　定　員：１日あたり２０名　　材料費：１００円

○「山城知佳子ワークショップ作品上映会」
会　場：久米島自然文化センター
会　期：２００９年１０月２３日(金）～２５日(日)
対　象：一般　　観覧料：無料

開会式の様子

「ソテツの実でオリジナルネックレスを作ろう」の様子

【展示品リスト― 博物館 ―】

地学（博物館資料）

No.	名　　称	数量	種　別	No.	名　　称	数量	種　別
1	サウロロフス	1	資　料	21	重晶石	1	資　料
2	サウロロフスの皮膚化石	1	〃	22	レインボーストーン	1	資　料
3	プロバクトサウルス	1	〃	23	黒曜石	1	資　料
4	プロトケラトプス	1	〃	24	蛍光鉱物一式	1	資　料
5	プロトケラトプスの卵	1	〃	25	鍾乳石	1	資　料
6	マンモスの毛	1	〃	26	チャート	1	資　料
7	カルカロドン	1	〃	27	マンガンノジュール	1	資　料
8	アンモナイト	1	〃	28	アメジスト	1	資　料
9	フズリナ	1	〃	29	琉球石灰岩	1	資　料
10	ハロビア	1	〃	30	本部石灰岩	1	資　料
11	リュウキュウジカ	1	〃	31	琉球石灰岩	1	資　料
12	ミヤコノロジカ	1	〃	32	地質時代区分表	1	パネル
13	珪化木	1	〃	33	海底地形	1	パネル
14	マンモス（ナウマンゾウ）歯	1	〃	34	軽石	1	資　料
15	三葉虫	1	〃	35	砂（川・海）	2	資　料
16	生痕化石	1	〃	36	カルサイト結晶	1	資　料
17	貝化石	5	〃	37	ビーチロック	1	資　料
18	植物化石	1	〃	38	凝灰岩（火山灰）	1	資　料
19	水晶	1	〃	39	岩石薄片	1	資　料

生物（博物館資料）

No.	名　　称	数量	種　別	No.	名　　称	数量	種　別
1	イリオモテヤマネコ	1	本剥製	15	オオフウチョウ	1	本剥製
2	ケナガネズミ	1	〃	16	クメトカゲモドキ	1	模　型
3	カンムリワシ	1	〃	17	ヤエヤマセマルハコガメ	1	本剥製
4	キンバト	1	〃	18	キクザトサワヘビ	1	レプリカ
5	アカハラダカ	1	〃	19	ヤエヤマイシガメ	1	本剥製
6	コノハズク	1	〃	20	ジャワマングース	1	本剥製
7	ヤンバルクイナ	1	〃	21	ニホンイタチ	1	本剥製
8	サンコウチョウ（オス）	1	〃	22	キジ	1	本剥製
9	サンコウチョウ（メス）	1	〃	23	シロガシラ	1	本剥製
10	カワセミ	1	〃	24	ニホンスッポン	1	本剥製
11	リュウキュウアカショウビン	1	〃	25	ミヤコヒキガエル	1	本剥製
12	ホウロクシギ	1	〃	26	スクミリンゴガイ	1	レプリカ
13	アカガシラサギ	1	〃	27	オオクチバス	1	本剥製
14	カツオドリ	1	〃	28	マダラロリカリア	1	模　型

人類（博物館資料）

No.	名　　称	数量	種　別	No.	名　　称	数量	種　別
1	港川人復元模型	1	模型、パネル	6	山下町第一洞穴人	1	複　製
2	港川人 1 号頭骨複製	1	複　製	7	ホモサピエンスの拡散	1	パネル
3	下地原洞穴人複製	1	〃	8	沖縄県内の出土人骨	1	パネル
4	山頂洞 101 号人頭骨	1	〃	9	大山盛保氏と港川人の発見	1	パネル
5	クロマニヨン人頭骨	1	〃				

考古（博物館資料）

No.	名　　称	数量	種　別	No.	名　　称	数量	種　別
1	荻堂式土器	1	資　料	13	白磁小皿	2	資　料
2	大当原式土器	1	〃	14	染付碗・皿	2	資　料
3	下田原式土器	1	〃	15	炭化米	1	資　料
4	骨製鏃	1	〃	16	線刻石板	1	資　料
5	骨製簪	1	〃	17	沖縄考古学年表	1	パネル
6	貝輪	5	〃	18	先史時代の生活	1	パネル
7	貝斧	2	〃	19	遺跡から出土する生物の生息域	1	パネル
8	貝符	3	〃	20	貝が運ばれた道	1	パネル
9	貝（ゴホウラ、イモガイ、ヤコウガイ）	3	〃	21	貝輪の製作工程	1	パネル
10	石斧	2	〃	22	イモガイ・ゴホウラ製品の主な出土地	1	パネル
11	類須恵器の壺	1	〃	23	グスクとその時代	1	パネル
12	青磁碗・皿	2	〃	24	線刻石板の謎	1	パネル

歴史（博物館資料）

No.	名　　称	数量	種　別	No.	名　　称	数量	種　別
1	旧首里城正殿鐘（万国津梁の鐘）（複製）	1	金工品	19	弁財天堂と天女橋〈坂本万七氏撮影〉	1	写真パネル
2	かんざし	6	〃	20	首里城継世門外の赤田町〈鎌倉芳太郎氏撮影〉	1	写真パネル
3	金円通宝・世高通宝・大世通宝	3	古銭類	21	サーターグルマ〈坂本万七氏撮影〉	1	写真パネル
4	鳩目銭（一括）	10	〃	22	糸満の漁業〈坂本万七氏撮影〉	1	写真パネル
5	琉球通宝（円形）	2	〃	23	魚市〈坂本万七氏撮影〉	1	写真パネル
6	琉球通宝（楕円形）	2	〃	24	青空教室〈坂本万七氏撮影〉	1	写真パネル
7	中山世鑑〈巻１・４〉（複製）	2	古文書・典籍	25	嘉手納海岸に上陸した米軍	1	写真パネル
8	渡嘉敷間切阿波連里主所安堵辞令書（複製）	1	〃	26	戦闘中の米軍・至近弾をうける	1	写真パネル
9	おもろさうし〈巻は未定〉（複製）	2	〃	27	瓦礫と化した首里教会	1	写真パネル
10	琉球明細総図（沖縄島および周辺離島部分）（複製）	1	地図資料	28	戦い終わって山から下りる避難民	1	写真パネル
11	久米島金券（一円、十銭）	2	現代資料	29	収容所で発行されたウルマ新報	1	写真パネル
12	久米島切手	1	〃	30	戦後のヤミ市	1	写真パネル
13	琉球切手初日カバー	10	〃	31	第九回沖縄議会の状況－志喜屋知事	1	写真パネル
14	首里城開園	1	写真パネル	32	中学生と握手するブース高等弁務官	1	写真パネル
15	首里城正殿〈鎌倉芳太郎氏撮影〉	1	〃	33	Ｂ５２墜落事故	1	写真パネル
16	首里城北殿〈鎌倉芳太郎氏撮影〉	1	〃	34	主席当選を果たした屋良主席	1	写真パネル
17	首里城南殿・番所〈鎌倉芳太郎氏撮影〉	1	〃	35	返還協定調印式をテレビでみまもる屋良主席	1	写真パネル
18	尚円王御後絵〈鎌倉芳太郎氏撮影〉	1	〃	36	通貨交換所風景	1	写真パネル

美術工芸（博物館資料）

No.	名　　称	数量	種　別	No.	名　　称	数量	種　別
1	首里那覇港図屏風	1	資　料	6	魏学賢書茶掛「秋風引」		資料
2	湯庫	1	〃	7	木綿白地飛鳥に琉水蛇籠葵菖蒲文様衣裳（複製）	1	〃
3	屋根獅子	1	〃	8	紅型の道具	一式	〃
4	和歌短冊「雪中子曰」		〃	9	紅型ができるまで	5	パネル
5	和歌短冊「里山吹」		〃	10	沖縄の染織地図　（裂と地図で作成）	1	〃

民俗（博物館資料）

No.	名　　称	数量	種　別	No.	名　　称	数量	種　別
1	ピギダー（八重山凧）	1	資　料	13	鹿と猿（張り子）	1	資　料
2	六角凧（八重山凧）	1	〃	14	象と猿（張り子）	1	〃
3	八角凧（八重山凧）	1	〃	15	阿麻和利（張り子）	1	〃
4	カビドイ（宮古凧）	1	〃	16	タウチーオーラセー（張り子）	1	〃
5	マッタクー（巨大）	1	〃	17	鯉乗り童子（張り子）	1	〃
6	マッタクー	1	〃	18	虎グワー（張り子）	1	〃
7	風弾	1	〃	19	チンチン馬グヮー（張り子）	1	〃
8	ヤカジ	1	〃	20	沖縄の玩具	1	文字パネル
9	ホートゥグヮー（張り子）	1	〃	21	〃 の張り子	1	〃
10	ウッチリクブサー（張り子）	2	〃	22	〃 の凧	1	〃
11	ヌールグワー（張り子）	1	〃				
12	ジュリウマ（張り子）	1	〃				

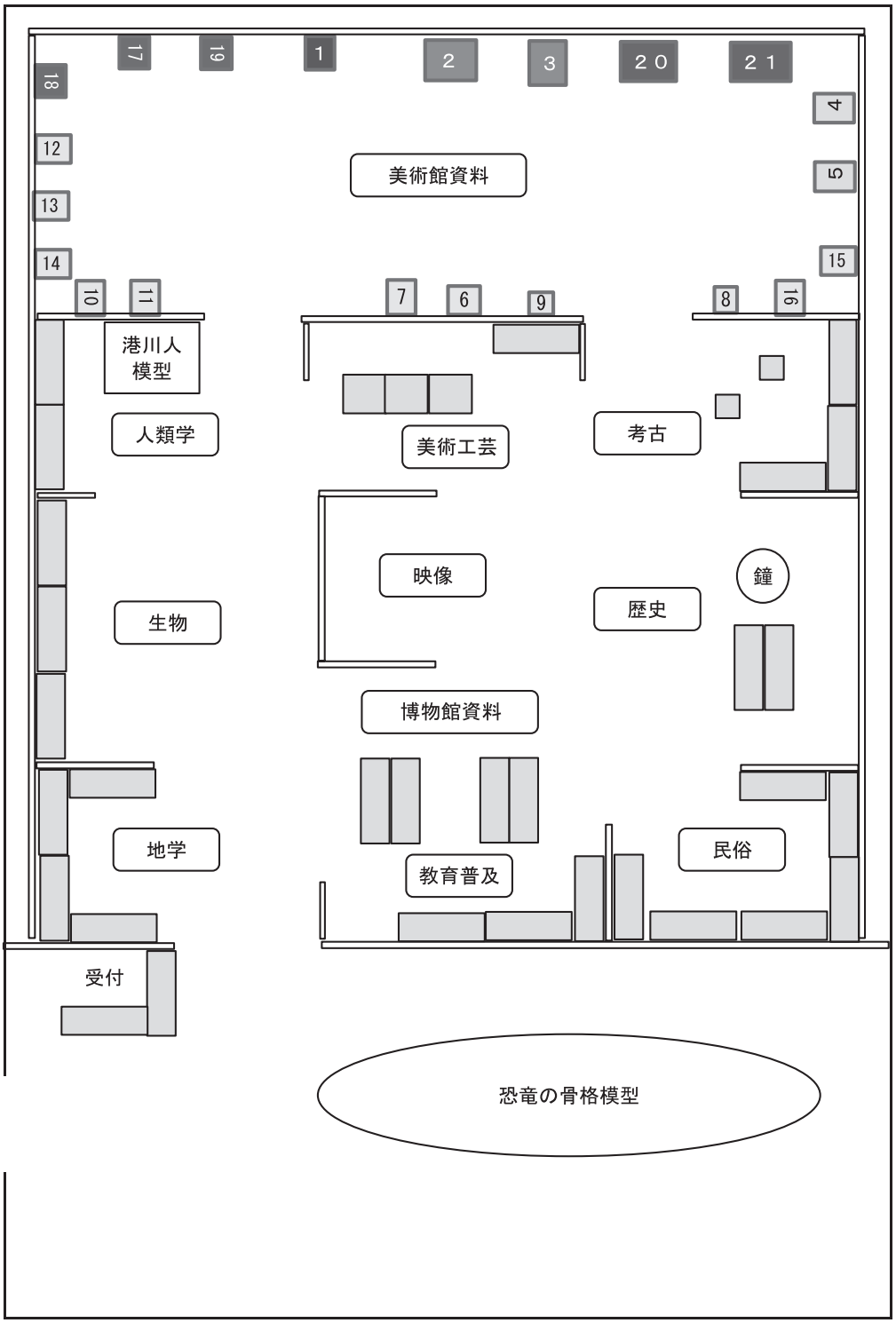
教育普及（博物館資料）

No.	名　　称	数量	種　別	No.	名　　称	数量	種　別
1	ティール	1	資　料	9	ガンシナ	2	資　料
2	バーキ	2	〃	10	ミーカガン	2	〃
3	ボール	20	〃	11	お手玉	5	〃
4	クバンヌー	2	〃	12	籠	1	〃
5	アダン葉サバ	2	〃	13	ジンブン BOX	1	製作物
6	クバガサ	2	〃	14	石で築く	1	体験キット
7	クバオージ	2	〃	15	御三味	1	〃
8	サギゾーキ	1	〃				

【展示品リスト― 美術館 ―】

No.	作　品　名	作 家 名	サイズ（内寸法）単位：mm	制 作 年	種　別
1	コンポジション	岡 本　太 郎	727×635×59　(531×453)	不明	平面
2	静物「蝶」	當 原　昌 松	945×1128×48　(727×910)	不明	平面
3	B 嬢の肖像	當 原　昌 松	1038×857×76 (918×730)	不明	平面
4	空	儀間　比呂志	943×701×31　(722×473)	1967 年	版画
5	ある祝日	儀間　比呂志	944×703×31 (702×471)	1967 年	版画
6	久米島 1977	東 松　照 明	508×610　(288×294)	2001 年	写真
7	久米島 1978	東 松　照 明	610×508　(283×283)	2001 年	写真
8	エサ運びの少年・久米島	山　田　　實	パネル 508×418　(405×314)	1965 年	写真
9	久米島の民家・久米島	山　田　　實	パネル 418×508　(314×403)	1965 年	写真
10	情民 (5)-12　100 歳の人	比 嘉　康 雄	610×507　(380×251)	1970 年代後半	写真
11	情民 (6)-1　ポートレート	比 嘉　康 雄	610×507　(419×345)	1970 年代後半	写真
12	木陰で糸巻き作業（久米島）	水 島　源 晃	－(432×356)	1957 年	写真
13	ティーサージの老母（久米島）	水 島　源 晃	－(432×356)	1957 年頃	写真
14	前むすびのウービ（久米島）	水 島　源 晃	－(432×356)	1957 年頃	写真
15	ベトナムシリーズ　戦火を逃がれて（ハウギア省）	石 川　文 洋	726×542　(527×348)	1966 年	写真
16	ベトナムシリーズ　戦争を見る瞳	石 川　文 洋	726×542　(527×348)	1960 年代	写真
17	作品１０　風景シリーズ	丸　山　　映	－(430×330×170)	2002 年	立体
18	陶器　Ｎｏ．57	國 吉　清 尚	－(339×359×310)	1980 年代	立体
19	無題（ブルー）	タカエズトシコ	－(550×240×240)	2000 年	立体
20	西伊豆風景	當 原　昌 松	(890×1100)	不明	平面
21	このしろ舟の居る風景	當 原　昌 松	(880×1160)	不明	平面
22	吉屋チルー物語	金 城　哲 夫	16mmフィルム（98分）	1962 年	映像
23	ウンタマギルー	高　嶺　　剛	35mmフィルム、βカム（120分）	1989 年	映像
24	夢幻琉球・つるヘンリー	高　嶺　　剛	βカム、DVカム（本編：86分／インタビュー16分）	1998 年	映像
25	たたかう兎	具 志 堅　剛	βカム、DVカム（42分）	1989 年	映像

【展示平面図】



岡本太郎の作品を見る観覧者

港川人模型を観察する観覧者

（羽方　誠）

Ⅳ. 燻蒸・消毒処理

２００９年度は、２００８年度から実施している総合的防害虫管理（ＩＰＭ）の運用を継続して行い、活動として、年２回の全館を休館しての燻蒸・消毒処理、簡易燻蒸・消毒処理、ＩＰＭモニタリング等を行い、毎月１回のＩＰＭ全体会議にて連絡・報告などを行っている。その目的は、収蔵資料の保存管理のため、定期的な消毒作業を行い、保存環境の適正化に努めている。

１）２００９年度　全館燻蒸・消毒処理

第１回　全館燻蒸・消毒

期　　間：２００９年6月２９日（月）～7月１０日（金）１２日間
消毒箇所：全館
使用薬剤：シフェノトリン（商品名：ミラクンＧＸ）
投 薬 量：0.7～７ｇ／ｍ以下
処理方法：シフェノトリンを気化し、害虫に呼吸毒として作用させ殺虫

第２回　燻蒸・消毒

期　　間：２０１０年1月２４日（日）（閉館後）～1月２６日（火）３日間
消毒箇所：収蔵庫・バックヤード（美）・実習準備室
使用薬剤：シフェノトリン（商品名：ミラクンＧＸ）
投 薬 量：0.7～７ｇ／ｍ以下
処理方法：シフェノトリンを気化し、害虫に呼吸毒として作用させ殺虫

２）簡易燻蒸・消毒処理

各トラックヤードに自動噴霧装置設置（博物館３ヶ所、美術館２か所、県民ギャラリー１か所）を設置、毎日深夜に散布（スミスリン乳剤）開閉する場所の害虫駆除に実施している。

又、必要に応じて作品等の燻蒸・消毒を「ふくろう君」（二酸化炭素）を実施している。

（宮里　宗彦）

Ⅴ．刊行物

（全体）

	刊　行　物　名	種類	部数	規格（頁）	内　　容
1	沖縄県立博物館・美術館　年報２号	定　期	1,500	A4(185)	前年度の博物館・美術館活動報告
2	沖縄県立博物館・美術館　行事案内－平成21年度－	〃	60,000	A3(四折)	博物館・美術館行事案内
3	第２回移動展	〃	700	A4(11)	移動展　　パンフレット
4	〃　　(ポスター)	〃	200	A2	〃　　告知ポスター
5	〃　　(チラシ)	〃	5,000	A4	〃　　告知チラシ

（博物館班）

	刊　行　物　名	種類	部数	規格（頁）	内　　容
1	沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要　第３号	定　期	1,000	A4（18）	博物館学芸員の調査研究報告
2	平成２１年度博物館教育普及活動	〃	1,000	A4（109）	博物館教育普及活動報告
3	ウチナー探検－博物館学習ノート（高校生版）－	不定期	1,000	A4（72）	博物館新館開館に伴う常設展ワークブック
4	新収蔵品展－平成２０年度収蔵資料－	定　期	1,000	A4（20）	博物館企画展　図録
5	琉球使節、江戸へ行く！	不定期	1,000	A4（75）	博物館特別展　図録
6	〃　　(ポスター)	〃	1,000	B2	〃　　告知ポスター
7	〃　　(チラシ)	〃	7,000	A4	〃　　告知チラシ
8	造礁サンゴ－楽園をつくった偉大な建築家－	〃	1,000	A4（56）	博物館企画展　図録
9	〃　　(ポスター)	〃	1,000	B2	〃　　告知ポスター
10	〃　　(チラシ)	〃	10,000	A4	〃　　告知チラシ
11	ものづくり今昔－自然の恵みを活かす	〃	500	A5（79）	博物館企画展　図録
12	〃　　(ポスター)	〃	500	B2	〃　　告知ポスター
13	〃　　(チラシ)	〃	5,000	A4	〃　　告知チラシ
14	武芸洞遺跡発掘調査概要報告書	〃	700	A4(32)	博物館共同研究事業（人類）報告書

（美術館）

	刊　行　物　名	種類	部数	規格（頁）	内　　容
1	名渡山愛順－名渡山が愛した沖縄	不定期	1,000	A4変形(160)	美術館企画展　図録
2	〃　　(ポスター)	〃	2,000	B2	〃　　告知ポスター
3	〃　　(チラシ)	〃	30,000	A4	〃　　告知チラシ
4	タカエズトシコ展－両親に捧ぐ－	〃	800	A4 変型	美術館企画展　図録
5	〃　　(ポスター)	〃	1,500	B2	〃　　告知ポスター
6	〃　　(チラシ)	〃	30,000	A4	〃　　告知チラシ

（指定管理者）

	刊　行　物　名	種類	部数	規格（頁）	内　　容
1	アトミックサンシャインの中へ　ｉｎ　沖縄	不定期	1,000	A1 変形折	指定管理者企画展　パンフレット
2	〃　　(ポスター)	〃	1,200	A1	〃　　告知ポスター
3	〃　　(チラシ)	〃	30,000	A1	〃　　告知チラシ
4	豊潤の美を求めて－金城安太郎と高畠華宵（ポスター）	〃	2,000	B2	指定管理者企画展　告知ポスター
5	〃　　(チラシ)	〃	50,000	A4	〃　　告知チラシ
6	琉球絵画展	〃	1,500	A4(108)	指定管理者企画展　図録
7	〃　　(ポスター)	〃	1,500	B2	〃　　告知ポスター
8	〃　　(チラシ)	〃	80,000	A4	〃　　告知チラシ
9	オキナワデザインの現在　　(ポスター)	〃	3,000	B2 縦割変形(2種類)	指定管理者企画展　告知ポスター
10	〃　　(チラシ)	〃	70,000	A4	〃　　告知チラシ
11	ものづくりの知恵を学ぶ体験プログラム	〃	200	A5(95)	沖縄県地域文化芸術振興プラン助成報告書

その他の活動

Ⅰ．沖縄県博物館協会
Ⅱ．全国の組織との関わり
Ⅲ．沖縄博物館友の会
Ⅳ．ｈａｐｐ（美術館支援会）

Ⅰ．沖縄県博物館協会

当館からの参加者については「博物館　Ⅰ．調査研究等の活動　７．職員研修」の項を参照のこと。

【総会・春の研修会】
期　日：２００９年６月１８日（木）、１９日（金）
場　所：沖縄県立博物館・美術館
顕彰者報告：２００９年度顕彰者：宮里正子氏
総　会：議案第１号　２００８年度事業報告
　　議案第２号　２００８年度決算報告　会計監査結果報告
　　議案第３号　２００９年度事業計画案
　　議案第４号　２００９年度予算案
研　修：基調講演　「児童・生徒が博物館等に足繁く通うバイパス作りをめざして」 前田真之氏
　　事例発表　宜野座村立博物館、壺屋焼物博物館、うるま市海の文化資料館、琉球大学風樹館
現地研修：銘苅古墓群　解説：那覇市教育委員会

【秋の研修会】
期　日：２００９年１０月１２日（月）、１３日（火）
場　所：石垣市健康福祉センター
講　演：「八重山の祭祀について」 石垣博孝氏
報　告：「Ｗｅｂ活用と博物館」 島袋綾乃（八重山博物館）、小原裕也（読谷村立歴史民俗資料館）
　　福島輝一（文化の杜共同企業体）
現地研修：竹富島種子取祭

（濱口　寿夫）

Ⅱ．全国の組織との関わり

１．日本博物館協会

（１）評議会
　期　日：２００９年６月９日（火）
　場　所：商工会館（東京）
　参加者：千木良芳範
（２）全国博物館館長会議
　期　日：２００９年６月１０日（水）
　場　所：国立オリンピック記念青少年総合センター
　参加者：千木良芳範
（３）第５７回全国博物館大会
　期　日：２００９年１０月１日（木）、２日（金）
　場　所：旭川市大雪クリスタルホール
　講　演：「博物館を創る」佐々木正峰氏
　シンポジウム：「地域と文化の創造―アイヌ文化と博物館」「博物館の再生―魅力ある博物館作り」
　　「博物館を核とした住民の学び」
　フォーラム：「博物館の評価」「私立博物館における現状と課題」
　参加者：牧野浩隆

２．全国科学博物館協議会総会

　期　日：２００９年６月１１日（木）
　場　所：国立科学博物館
　参加者：千木良芳範

３．九州博物館協議会総会

期　日：２００９年5月２８日(木)、２９日(金)
場　所：沖縄県立博物館・美術館
総　会：議　事　２００８年度事業報告及び決算報告について
　　２００８年度会計監査結果報告について
　　２００９年度事業計画案及び収支予算案について
その他：　次期総会及び研修会について、総会提出議題について他
講演会：「沖縄の本土復帰と日本のレパートリー」　牧野浩隆(沖縄県立博物館・美術館)
現地研修：大里城跡、斎場御嶽、ガンガラーの谷

（濱口　寿夫）

Ⅲ．沖縄博物館友の会

沖縄博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に参加、協力し、さらに会員相互の教養を高め、親睦をはかる」ことを目的として１９８０年（昭和５５）に発足した。本年度の会員の内訳は、普通会員２６８名、賛助会員７社、家族会員４７家族（１０２名）となっております。

博物館ボランティア活動への支援、文化の杜共同企業体と契約している博物館常設展示室への展示交流員事業等を実施しています。

事業のさらなる活発化を図り、会員への情報等のサービス向上を推進しているところです。

２００９（平成２１）年度の活動内容と事業内容は次の通りである。

【講演会】
○沖縄博物館友の会創立３０周年記念シンポジウム
『いまどきの沖縄そば、これからの沖縄そば』
日　　時：２００９年１０月１７日（土）
内　　容：仲間勇栄氏による「沖縄の木炭そばの製造と品質について」
　　平川宗隆氏による「沖縄そばのだしと具」を講演した。
　　田崎聡、土肥健一、平敷徹男、安次富順子、嘉手川學の各氏によるパネルディスカッション
参 加 者：２００名余

【展示解説会】
○企画展　「新収蔵品展－平成２０年度収蔵資料－」
日　　時：２００９年6月６日（土）
講　　師：藤田祐樹、岸本敬の各学芸員
参 加 者：１７名

【散策会】
○首里周辺
日　　時：２００９年6月７日（日）
内　　容：首里城から末吉公園まで、組踊にちなんだ場所を仲間孝蔵氏の解説で実施した。
参 加 者：２２名

【県内研修】
○離島研修（南北大東島）
日　　時：２００９年9月１１日（金）～１３日（日）
内　　容：現在でも年間約７ｃｍずつ移動し続けている両大東島の地質・地形・自然、天狗山（石灰岩の搭状地形）・屏風岩・北大東村民俗資料館・海軍棒等を神谷厚昭氏の解説で実施した。
参 加 者：１６名

【海外研修】
○台北
日　　時：２００９年１１月６日（金）～９日（月）

内　　容：国立故宮博物館を中心に、国立歴史博物館の見学等を平川信幸学芸員の解説で実施した。
参 加 者：１６名

【県外研修】
○鹿児島
日　　時：２０１０年2月２６日（金）～２８日（日）
内　　容：特別展「琉球使節江戸へ行く」琉球慶賀使・謝恩使一行の２，０００キロの旅絵巻を訪ねて、旧磯街道琉球松、維新ふるさと館、枚聞神社、山川港、花尾神社等﨑原恭子学芸員の解説で実施した。
参 加 者：１１名

【施設見学会】
○「平和記念資料館」
日　　時：２００９年6月１３日（土）
内　　容：沖縄県平和記念資料館やリニューアルしたひめゆり平和祈念資料館を主に、南部の戦跡を園原謙氏（沖縄県平和記念資料館学芸主幹）の解説で実施した。
参 加 者：２２名

【見学会】
○民俗探訪「塩屋湾のウンガミ」（国指定重要無形民俗文化財）
日　　時：２００９年9月１５日（火）
内　　容：毎年旧盆明けの初亥の日に行われる大宜味村塩屋湾のウンガミを前田朝達氏、岸本敬学芸員の解説で実施した。
参 加 者：２３名

○武芸洞・港川フィッシャー巡り
日　　時：２００９年１２月７日（月）
内　　容：藤田祐樹学芸員の解説で実施した。
参 加 者：１８人

○尚巴志ゆかりの地巡り
日　　時：２０１０年1月３１日（日）
内　　容：佐敷上グスク・苗代大親（尚思紹）の居城跡、つきしろの岩、つきしろの井など南城市佐敷の尚巴志ゆかりの地を徒歩で、与儀達憲氏の解説で実施した。
参 加 者：２７名

【会員への情報提供】
○博物館事業及び催し物の案内状発送
○友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文書発送

【サークル活動】
○家譜サークル（毎月２回勉強会実施）
○グスクサークル

【博物館サポート】
○博物館特別展・企画展のポスター・図録等の発送作業
○博物館ボランティア活動の支援
○「ボランティア通信」の印刷・発送業務
○博物館常設展示室展示交流員の配置（文化の杜共同企業体との業務委託）

（友の会）

Ⅳ. ｈａｐｐ（美術館支援会）

ｈａｐｐとは２００５年（平成１７年）に沖縄県立美術館の活躍をサポートする組織として誕生した。その年の９月には、特定非営利法人としての認証を受けている。ｈａｐｐとは、happy や happen の起源となるスカンジナビア語の「ｈａｐｐ（幸福)」からきている。h＝happiness(しあわせ)・happening(できごと)、ａ＝art(アート)、ｐ＝people（人々)、ｐ＝place（場所）の意味を込めている。
アートを身近に感じ、アートを創造するような活動を通して、それぞれの「ｈａｐｐ＝しあわせ」を見つけられる場所を作っていきたいと考え、主に美術館の教育普及活動をサポートしていく。

２００９年度活動内容

	事業　名	事　業　内　容	日　　時	開催場所	参加人数
1	文化講座	歌三線と長唄三味線の魅力	2009年4月25日	講堂	130名
2	交流事業	アートサロン「ゴッホ」	2009年5月13日	グランレイナ（３Ｆカフェ）	10名
3	ワーク・ショップ（夏休み期間）	①夏休み子どもエコポップ ②出前美術館 　夏休み子どもエコポップ 〈サンエーコラボ企画〉	2009年8月22日 2009年8月23日	アトリエ サンエー店内	65名30名
4	ワーク・ショップ	絵と遊ぼう！ かんたんアニメーション体験教室	2009年10月11日	アトリエ	37名
5	感謝の集い	花やから公演	2010年2月21日	講堂	200名

（國吉　亮子）

関係法規抄録

○博物館法
○博物館法施行令
○博物館法施行規則
○博物館の登録に関する規則
○沖縄県立教育機関組織規則（抄）
○沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例
○沖縄県立博物館・美術館管理規則
○沖縄県立博物館・美術館館長執務規程
○博物館・美術館学芸業務嘱託員設置規程
○博物館・美術館教育普及業務嘱託員設置規程
○美術品調査嘱託員設置規程
○美術品保存修復嘱託員設置規程
○沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領

関係法規抄録

○博物館法

昭和 26 年 12 月 1 日　法律第 285 号
〔最終改正〕平成 19 年 6 月 27 日　法律第 96 号

第１章　総　則

（この法律の目的）

第１条　この法律は、社会教育法（昭和 24 年法律第 207 号）の精神に基き、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

（定　義）

第２条　この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法 による公民館及び図書館法（昭和 25 年法律第 118 号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、民法（明治 29 年法律第 89 号）第 34 条 の法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人（独立行政法人（独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 2 条第 1 項 に規定する独立行政法人をいう。第 29 条において同じ。）を除く。）が設置するもので第 2 章の規定による登録を受けたものをいう。

２　この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、民法第 34 条 の法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

３　この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。

（博物館の事業）

第３条　博物館は、前条第１項に規定する目的を達成するため、おおむね左に掲げる事業を行う。

（１）実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。

（２）分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。

（３）一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。

（４）博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。

（５）博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。

（６）博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。

（７）博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。

（８）当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。

（９）他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。

(10) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。

２　博物館は、その事業を行うに当つては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

（館長、学芸員その他の職員）

第４条　博物館に、館長を置く。

２　館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。

３　博物館に、専門的職員として学芸員を置く。

４　学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。

５　博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。

６　学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

（学芸員の資格）

第５条　次の各号の一に該当する者は、学芸員となる資格を有する。

（１）学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの。

（２）大学に２年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて 62 単位以上を修得した者で、３年以上学芸員補の職にあつたもの。

（３）文部科学省大臣が、文部科学省令で定めるところにより、前各号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者。

２　前項第２号の学芸員補の職には、博物館の事業に類する事業を行う施設における職で、学芸員補の職に相当する職又はこれと同等以上の職として文部科学省大臣が指定するものを含むものとする。

（学芸員補の資格）

第６条　学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 90 条第１項 の規定により大学に入学することのできる者は、学芸員補となる資格を有する。

第７条　削　除

（設置及び運営上望ましい基準）

第８条　文部科学大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを教育委員会に提示するとともに一般公衆に対して示すものとする。

第９条　削　除

第２章　登　録

（登　録）

第 10 条　博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

（登録の申請）

第 11 条　前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

（1）設置者の名称及び私立博物館にあつては設置者の住所。

（2）名　称。

（3）所在地。

2　前項の登録申請書には、左に掲げる書類を添附しなければならない。

（1）公立博物館にあつては、設置条例の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面。

（2）私立博物館にあつては、当該法人の定款若しくは寄附行為の写又は当該宗教法人の規則の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面。

（登録要件の審査）

第 12 条　都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があつた場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めたときは、同条第１項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録するとともに登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めたときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しなければならない。

（1）第２条第１項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。

（2）第２条第１項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。

（3）第２条第１項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。

（4）１年を通じて 150 日以上開館すること。

（登録事項等の変更）

第 13 条　博物館の設置者は、第 11 条第１項各号に掲げる事項について変更があつたとき、又は同条第２項に規定する添付書類の記載事項について重要な変更があつたときは、その旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2　都道府県の教育委員会は、第 11 条第１項各号に掲げる事項に変更があつたことを知つたときは、当該博物館に係る登録事項の変更登録をしなければならない。

（登録の取消）

第 14 条　都道府県の教育委員会は、博物館が第 12 条各号に掲げる要件を欠くに至つたものと認めたとき、又は虚偽の申請に基いて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむを得ない事由により要件を欠くに至つた場合においては、その要件を欠くに至つた日から２年間はこの限りでない。

2　都道府県の教育委員会は、前項の規定により登録の取消しをしたときは、当該博物館の設置者に対し、速やかにその旨を通知しなければならない。

（博物館の廃止）

第 15 条　博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2　都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消しなければならない。

（規則への委任）

第 16 条　この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県の教育委員会の規則で定める。

第 17 条　削　除

第３章　公立博物館

（設　置）

第 18 条　公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

（所　管）

第 19 条　公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

（博物館協議会）

第 20 条　公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2　博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第 21 条　博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第 22 条　博物館協議会の設置、その委員の定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

（入館料等）

第 23 条　公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。

（博物館の補助）

第 24 条　国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2　前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第 25 条　削　除

（補助金の交付中止及び補助金の返還）

第 26 条　国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第 24 条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の一に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第１号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第３号及び第４号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

（1）当該博物館について、第 14 条の規定による登録の取消があつたとき。

（2）地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。
（3）地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。
（4）地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

第4章　私立博物館

（都道府県の教育委員会との関係）

第27条　都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2　都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関して、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

（国及び地方公共団体との関係）

第28条　国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて、必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

第5章　雑　則

（博物館に相当する施設）

第29条　博物館の事業に類する事業を行う施設で、国又は独立行政法人が設置する施設にあつては文部科学大臣が、その他の施設にあつては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部科学省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第27条第2項の規定を準用する。

附　則　（平成19年6月27日法律第96号）　抄

（施行期日）

第1条　この法律は、公布の日から起算して6月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

○博物館法施行令

昭和27年3月20日　政令第47号
〔最近改正〕昭和34年4月30日　政令第157号

（政令で定める法人）

第1条　博物館法（以下「法」という。）第2条第1項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

1　日本赤十字社。
2　日本放送協会。

（施設、設備に要する経費の範囲）

第2条　法第24条第1項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

1　施設費　施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費。
2　設備費　博物館に備えつける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費。

附　則

この政令は、公布の日から施行する。

○博物館法施行規則

昭和30年10月4日　文部省令第24号
〔最終改正〕平成18年3月31日　文部科学省令第11号

第1章　大学において修得すべき博物館に関する科目の単位

（博物館に関する科目の単位）

第1条　博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第5条第1項第1号の規定により大学において修得すべき博物館に関する科目の単位は、次の表に掲げるものとする。

科目	単位数
生涯学習概論	1
博物館概論	2
博物館経営論	1
博物館資料論	2
博物館情報論	1
博物館実習	3
視聴覚教育メディア論	1
教育学概論	1

備考

1　博物館概論、博物館経営論、博物館資料論及び博物館情報論の単位は、これらの科目の内容を統合した科目である博物館学の単位をもつて替えることができる。ただし、当該博物館学の単位数は、6を下ることはできないものとする。
2　博物館経営論、博物館資料論及び博物館情報論の単位は、これらの科目の内容を統合した科目である博物館学各論の単位をもつて替えることができる。ただし、当該博物館学各論の単位数は、四を下ることはできないものとする。
3　博物館実習は、博物館（法第2条第1項に規定する博物館をいう。以下同じ。）又は法第29条の規定に基づき文部科学大臣若しくは都道府県の教育委員会の指定した博物館に相当する施設（大学においてこれに準ずると認めた施設を含む。）における実習により修得するものとする。
4　博物館実習の単位数には、大学における博物館実習に係る事前及び事後の指導の一単位を含むものとする。

第2条　削除

第２章　学芸員の資格認定

（資格認定）

第３条　法第５条第１項第３号の規定により学芸員となる資格を有する者と同等以上の学力及び経験を有する者と認められる者は、この章に定める試験認定又は無試験認定（以下「資格認定」という。）の合格者とする。

第４条　資格認定は、毎年少くとも各１回、文部科学大臣が行う。

２　資格認定の施行期日、場所及び出願の期限等は、あらかじめ、官報で告示する。

（試験認定の受験資格）

第５条　左の各号の一に該当する者は、試験認定を受けることができる。

１　学士の学位を有する者

２　大学に２年以上在学し、６２単位以上を修得した者で３年以上学芸員補の職（学芸員補に相当する職又はこれと同等以上の職として文部科学大臣が指定するものを含む。以下同じ。）にあつた者

３　教育職員の普通免許状を有し、３年以上教育職員の職にあつた者

４　５年以上学芸員補の職にあつた者

５　その他文部科学大臣が前各号に掲げる者と同等以上の資格を有すると認めた者

（試験認定の方法及び試験科目）

第６条　試験認定は、大学卒業の程度において、筆記及び口述の方法により行う。

第一欄			第二欄
試験科目		試験認定の必要科目	試験の方法
必須科目	生涯学習概論	上記科目の全科目	筆記
	博物館学		筆記及び口述
	視聴覚メディア論		筆記
	教育学概論		筆記
選択科目	文化史	上記科目のうちから受験者の選択する二科目	筆記
	美術史		筆記
	考古学		筆記
	民俗学		筆記
	自然科学史		筆記
	物理		筆記
	化学		筆記
	生物学		筆記
	地学		筆記

２　試験科目及び各試験科目についての試験の方法は、次表第一欄及び第二欄に定めるとおりとする。

（試験科目の免除）

第７条　大学又は文部科学大臣の指定する講習等において、前条に規定する試験科目に相当する科目の単位を１単位（博物館学にあつては６単位）以上修得した者又は講習等を修了した者に対しては、その願い出により、当該科目についての試験を免除する。

２　前項の文部科学大臣の指定する講習等における単位の計算方法は、大学設置基準（昭和 31 年文部省令第 28 号）第 21 条第２項に定める基準によるものとする。

（２回以上の受験）

第８条　試験認定は、２回以上にわたり、それぞれ１以上の試験科目について受けることができる。

（無試験認定の受験資格）

第９条　左の各号の一に該当する者は、無試験認定を受けることができる。

１　学位規則（昭和 28 年文部省令第９号）による修士若しくは博士の学位又は専門職学位を有する者

２　大学において博物館に関する科目に関し二年以上教授、准教授、助教又は講師の職にあつた者

３　十年以上学芸員補の職にあつた者で都道府県の教育委員会の推薦する者

４　その他文部科学大臣が前各号に掲げる者と同等以上の資格を有すると認めた者

（無試験認定の方法）

第 10 条　無試験認定は、次条の規定により願い出た者について、博物館に関する学識及び業績を審査して行うものとする。

（受験の手続）

第 11 条　資格認定を受けようとする者は、受験願書（別記第１号様式により作成したもの）に左の各号に掲げる書類等を添えて、文部科学大臣に願い出なければならない。この場合において、住民基本台帳法（昭和 42 年法律第 81 号）第 30 条の７第３項の規定により同法第 30 条の５第１項に規定する本人確認情報の提供を受けて文部科学大臣が資格認定を受けようとする者の氏名、生年月日及び住所を確認することができるときは、第３号に掲げる住民票の写しを添付することを要しない。

１　受験資格を証明する書類

２　履歴書（別記第２号様式により作成したもの）

３　住民票の写し（出願前６月以内に交付を受けたもの）

４　写真（出願前１年以内に脱帽して撮影した手札形の写真を葉書大の厚紙にはり付け、裏面に住所、氏名（ふりがなをつける。）及び生年月日を記載したもの）

５　試験認定の試験科目の免除を願い出る者については、その免除を受ける資格を証明する書類

６　無試験認定を願い出る者については、博物館に関する学識及び業績を明示する書類及び資料

（試験認定合格者及び試験認定科目合格者）

第 12 条　試験科目（試験科目の免除を受けた者については、その免除を受けた科目を除く。）のすべてについて合格点を得た者（試験科目の全部について試験の免除を受けた者を含む。）を試験認定合格者とする。ただし、第５条第１号の規定に該当する者については、１年間学芸員補の職の職務に従事した後に、試験認定合格者となるものとする。

２　試験認定合格者ではないが、１以上の試験科目について合格点を得た者を試験認定科目合格者とする。

（無試験認定合格者）

第 13 条　第 10 条の規定による審査に合格した者を無試験認定合格者とする。

（合格証書の授与等）

第 14 条　試験認定合格者（第 12 条第１項ただし書に規定する者を含む。）及び無試験認定合格者に対しては、合格証書（別記第３号様式によるもの）を授与する。

２　合格証書を有する者が、その氏名を変更し、又は合格証書を破損し、若しくは紛失した場合において、その事由をしるして願い出たときは、合格証書を書き換え又は再交付する。

（合格証明書の交付等）

第 15 条　試験認定合格者又は無試験認定合格者が、その合格の証明を願い出たときは、合格証明書（別記第４号様式によるもの）を交付する。

２　試験認定科目合格者がその科目合格の証明を願い出たときは、科目合格証明書（別記第５号様式によるもの）を交付する。

（手数料）

第 16 条　次表の上欄に掲げる者は、それぞれその下欄に掲げる額の手数料を納付しなければならない。

上欄	下欄
１　試験認定を願い出る者	一科目につき 1,300 円
２　無試験認定を願い出る者	3,800 円
３　合格証書の書換又は再交付を願い出る者	700 円
４　合格証書の交付を願い出る者	700 円
５　科目合格証明書の交付を願い出る者	700 円

２　前項の規定によつて納付すべき手数料は、収入印紙を用い、収入印紙は、各願書にはるものとする。ただし、行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律（平成 14 年法律第 151 号）第３条第１項の規定により申請等を行った場合は、当該申請等により得られた納付情報により手数料を納付しなければならない。

３　納付した手数料は、どういう事由があつても返還しない。

（不正の行為を行つた者等に対する処分）

第 17 条　虚偽若しくは不正の方法により資格認定を受け、又は資格認定を受けるにあたり不正の行為を行つた者に対しては、受験を停止し、既に受けた資格認定の成績を無効にするとともに、期間を定めてその後の資格認定を受けさせないことができる。

２　試験認定合格者、無試験認定合格者又は試験認定科目合格者について前項の事実があつたことが明らかになつたときは、その合格を無効にするとともに、既に授与又は交付した合格証書その他当該合格を証明する書類を取り上げ、かつ、期間を定めてその後の資格認定を受けさせないことができる。

３　前二項の処分をしたときは、処分を受けた者の氏名及び住所を官報に公告する。

第３章　博物館に相当する施設の指定

（申請の手続）

第18条　法第29条の規定により博物館に相当する施設として文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定を受けようとする場合は、博物館相当施設指定申請書（別記第６号様式により作成したもの）に次に掲げる書類等を添えて、国立の施設にあつては当該施設の長が、独立行政法人（独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第２条第１項に規定する独立行政法人をいう。第 21 条において同じ。）が設置する施設にあつては当該独立行政法人の長が文部科学大臣に、都道府県立の施設にあつては当該施設の長（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が、その他の施設にあつては当該施設を設置する者（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が当該施設の所在する都道府県の教育委員会に、それぞれ提出しなければならない。

１　当該施設の有する資料の目録
２　直接当該施設の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及び図面
３　当該年度における事業計画書及び予算の収支の見積に関する書類
４　当該施設の長及び学芸員に相当する職員の氏名を記載した書類

（指定要件の審査）

第 19 条　文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、博物館に相当する施設として指定しようとするときは、申請に係る施設が、次の各号に掲げる要件を備えているかどうかを審査するものとする。

１　博物館の事業に類する事業を達成するために必要な資料を整備していること。
２　博物館の事業に類する事業を達成するために必要な専用の施設及び設備を有すること。
３　学芸員に相当する職員がいること。
４　一般公衆の利用のために当該施設及び設備を公開すること。
５　一年を通じて百日以上開館すること。

２　前項に規定する指定の審査に当つては、必要に応じて当該施設の実地について審査するものとする。

第 20 条　削除

第 21 条　文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定する博物館に相当する施設（以下「博物館相当施設」という。）が第 19 条第１項に規定する要件を欠くに至つたときは、直ちにその旨を、国立の施設にあつては当該施設の長が、独立行政法人が設置する施設にあつては当該独立行政法人の長が文部科学大臣に、都道府県立の施設にあつては当該施設の長（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が、その他の施設にあつては当該施設を設置する者（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が当該施設の所在する都道府県の教育委員会に、それぞれ報告しなければならない。

第 22 条　削除

第 23 条　文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、その指定した博物館相当施設に対し、第 19 条第１項に規定する要件に関し、必要な報告を求めることができる。

（指定の取消）

第 24 条　文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、その指定した博物館相当施設が第 19 条第１項に規定する要件を欠くに至つたものと認めたとき、又は虚偽の申請に基いて指定した事実を発見したときは、当該指定を取り消すものとする。

第四章　雑則

（従前の規程による学校の卒業者等）

第25条　第５条第１号に規定する学士の学位を有する者には、旧大学令（大正７年勅令第388号）による学士の称号を有する者を含むものとする。

第26条　第５五条第２号に規定する大学に２年以上在学し、62単位以上を修得した者には、旧大学令、旧高等学校令（大正７年勅令第389号）、旧専門学校令（明治36年勅令第61号）又は旧教員養成諸学校官制（昭和21年勅令第208号）の規定による大学予科、高等学校高等科、専門学校又は教員養成諸学校を修了し、又は卒業した者を含むものとする。

第27条　第９条第１号に規定する博士の学位を有する者には、旧学位令（大正９年勅令第200号）による博士の称号を有する者を含むものとする。

附則　（平成18年３月31日文部科学省令第11号）

（施行期日）

第１条　この省令は、平成十九年四月一日から施行する。

（助教授の在職に関する経過措置）

第２条　この省令の規定による改正後の次に掲げる省令の規定の適用については、この省令の施行前における助教授としての在職は、准教授としての在職とみなす。

1　学校教育法施行規則第８条第１号ロ
2　博物館法施行規則第８条第２号
3　大学設置基準第14条第４号
4　高等専門学校設置基準第11条第３号
5　短期大学設置基準第23条第５号

○博物館の登録に関する規則

昭和50年５月８日　教育委員会規則第５号
〔最終改正〕平成６年３月31日　教育委員会規則第２号

（趣旨）

第１条　この規則は、博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第16条の規定に基づき博物館の登録に関し、必要な事項を定めるものとする。

（登録原簿等の様式）

第２条　法第10条、第11条第１項及び第11条第２項に規定する登録原簿等の名称及び様式は、次の表に掲げるとおりとする。

根拠条項	名称	様式
法第１０条	博物館登録原簿	第１号様式
法第１１条第１項	博物館登録申請書	第２号様式
法第１１条第２項	博物館資料目録	第３号様式

（博物館登録申請書の添付書類）

第３条　博物館登録申請書には、法第11条第２項に規定する書類のほか、職員名簿（第４号様式）を添付するものとする。

（登録要件の審査）

第４条　法第12条の規定による登録要件の審査及び法第14条第１項の規定による登録の取消しを県教育委員会が行う場合は、当該博物館に対し、必要な資料を求め実地調査及び学識経験者の意見を聴くことができる。

（登録事項等の変更）

第５条　法第13条第１項の規定による変更の届出は、そのつど博物館登録事項等変更届出書（第５号様式）によつて行うものとする。ただし、博物館資料目録の軽微な変更については、毎年３月末日に届け出るものとする。

（博物館の廃止）

第６条　法第15条の規定による博物館の廃止の届出は、博物館廃止届（第６号様式）により行うものとする。

（公示）

第７条　県教育委員会は、博物館の登録若しくは登録事項等の変更があつたとき、又は登録の取消し若しくはまつ消を行つたときは、その旨を沖縄県公報により公示するものとする。

附　則

（平成６年３月31日教育委員会規則第２号）

この規則は、平成６年４月１日から施行する。

第１号様式
（第２条関係）

No.

博物館登録原簿

備考	所在地	名称	※設置者の名称及び住所	事項		
				記号番号	年月日	登録
				第号	年月日	
				年月日		登録変更
				年月日		
				年月日		登録変更
				年月日		

（※公立の場合は設置者の名称のみ記入）

第２号様式
（第２条関係）

博物館登録申請書

文書番号
年　月　日

沖縄県教育委員会　殿

申請者　氏名　　印

博物館法第１１条第１項の規定により、下記施設を博物館として登録されるよう別添関係書類等を添えて申請します。

記

設置者の名称

私立博物館設置者の住所

名称

所在地

備考　この申請書には、次の書類を添付すること。

（１）　公立博物館にあっては設置条例の写し、私立博物館にあっては、法人の定款若しくは寄附行為の写し又は宗教法人の規則の写し
（２）　館則の写し
（３）　直接博物館の用に供する建物及び面積を記載した書面並びにその図面
（４）　当該年度における事業計画書及び公立博物館にあっては予算の歳出の見積もり、私立博物館にあっては収支の見積もりに関する書類
（５）　博物館資料の目録並びに館長の氏名及び学芸員の種類ごとの氏名を記載した書面
（６）　学芸員は、その資格を有することを証するにたる書類

第３号様式
（第２条関係）

博物館資料目録

博物館名

資　料　の　種　別	資料の種類及び数量
自然科学に関する資料	
人文科学に関する資料	

種別	番号	名称	規格	品質	数量	取得年月日	備考

第４号様式
（第３条関係）

職員名簿

博物館名

番号	氏名	職名	最終学歴	博物館職員としての勤務年数	担当職務	備考

第５号様式
（第５条関係）

博物館登録事項変更届出書

文　書　番　号
年　　月　　日

沖縄県教育委員会　殿

施　設　名
届出者氏名　　印

博物館法第１３条第１項の規定により、下記のとおり変更届を提出します。

記

変　更　年　月　日		年　　月　　日
変　更　の　理　由		
変 更 事 項 の 種 類		
変更事項の内容	旧	
	新	

第６号様式
（第６条関係）

博物館廃止届

文　書　番　号
年　　月　　日

沖縄県教育委員会　殿

施　設　名
届出者氏名　　印

博物館法第１５条第１項の規定により、下記のとおり届けます。

記

廃　止　年　月　日	年　　月　　日
廃　止　し　た　理　由	
廃 止 後 の 財 産 処 分	
その他参考となるべき事項	

○沖縄県立教育機関組織規則（抄）

昭和 47 年 5 月 15 日　教育委員会規則第 2 号
〔最終改正〕平成 19 年 10 月 30 日　教育委員会規則第 15 号

（趣　旨）

第１条　この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和 47 年沖縄県条例第 24 号）及び沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例（平成 18 年沖縄県条例第 72 号）に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

（博物館・美術館）

第４条　沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）に、次の班を置く。

博物館班

美術館班

２　博物館・美術館の所掌事務は、次のとおりとする。

博物館班

（１）　博物館・美術館の博物館施設に係る資料（以下「博物館資料」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
（２）　博物館資料の利用に関すること。
（３）　博物館施設及びその他施設の利用に関すること。
（４）　博物館資料の調査研究に関すること。
（５）　博物館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。
（６）　博物館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
（７）　他の博物館等との相互協力に関すること（美術館班が分掌して処理することが適当であると認められるものを除く。）。
（８）　教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること（美術館班が分掌して処理することが適当であると認められるものを除く。）。
（９）　予算、決算その他会計事務に関すること。
（10）　公印の管守に関すること。
（11）　職員の服務及び福利厚生に関すること。
（12）　博物館・美術館協議会に関すること。
（13）　指定管理者との連絡調整に関すること。
（14）　他班の所掌に属さない事務に関すること。

美術館班

（１）　博物館・美術館の美術館施設に係る資料（以下「美術館資料」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
（２）　美術館資料の利用に関すること。
（３）　美術館施設の利用に関すること。
（４）　美術館資料の調査研究に関すること。
（５）　美術館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。
（６）　美術館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
（７）　他の博物館等との相互協力に関すること（美術館班が分掌して処理することが適当であると認められるものに限る。）。
（８）　教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること（美術館班が分掌して処理することが適当であると認められるものに限る。）。

（職制等）

第７条　総合教育センター、図書館、博物館・美術館、埋蔵文化財センター、青年の家及び少年自然の家（以下「教育機関」という。）に、所長又は館長（以下「所長等」という。）を置く。

２　所長等は、上司の命を受け、当該教育機関が所掌する事務を掌理する。

第９条　総合教育センター、図書館、博物館・美術館及び埋蔵文化財センターに、副所長又は副館長（以下「副所長等」という。）を置く。

２　副所長等は、上司の命を受け、所長等を補佐し、当該教育機関の事務を整理する。

第９条の２　博物館・美術館の班に、班長を置く。

２　班長は、上司の命を受け、班の分掌事務を処理する。

第 12 条　図書館及び博物館・美術館に、特に必要があるときは、副参事を置くことができる。

２　副参事は、上司の命を受け、特定重要事項を処理する。

第 12 条の３　図書館、博物館・美術館及び埋蔵文化財センターに、特に必要があるときは、主任専門員を置くことができる。

２　主任専門員は、上司の命を受け、専門的事務を処理する。

第 13 条　博物館・美術館に、特に必要のあるときは、主任学芸員を置くことができる。

２　主任学芸員は、上司の命を受け、博物館・美術館の専門的事務を処理する。

○沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例

平成 18 年 12 月 27 日　条例第 72 号

（設　置）

第１条　歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料（以下「博物館・美術館資料」という。）を収集し、保管し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせて博物館・美術館資料に関する調査研究を行うため、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第２条第１項に規定する博物館として沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）を設置する。

（位置及び施設）

第２条　博物館・美術館の位置は、那覇市おもろまち３丁目１番１号とする。

２　博物館・美術館は、次に掲げる施設をもって構成する。

（１）　博物館施設
（２）　美術館施設
（３）　その他施設

（事業）

第３条　博物館・美術館は、次に掲げる事業を行う。

（１）　博物館・美術館資料の収集、保管及び展示に関すること。

（２）　博物館・美術館資料の利用に関すること。

（３）　博物館・美術館の施設の利用に関すること。

（４）　博物館・美術館資料の調査研究に関すること。

（５）　博物館・美術館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。

（６）　博物館・美術館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。

（７）　他の博物館等との相互協力に関すること。

（８）　教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること。

（９）　前各号に掲げるもののほか、博物館・美術館の設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。

（博物館・美術館の管理）

第４条　博物館・美術館の管理は、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の２第３項の規定により、法人その他の団体であって教育委員会が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に行わせるものとする。

（指定管理者の業務）

第５条　指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

（１）　博物館・美術館の設置の目的を達成するために教育委員会が必要と認める事業の実施に関する業務

（２）　第 11 条の規定による観覧料の収受に関する業務、第 12 条の規定による観覧料の減免に関する業務、第 13 条ただし書の規定による観覧料の返還に関する業務その他の観覧料の収受に関する業務

（３）　第 14 条の規定による利用の許可に関する業務、第 17 条の規定による利用の許可の取消し等に関する業務、第 18 条第２項の規定による原状回復命令に関する業務その他の利用の許可に関する業務

（４）　第 19 条及び同条第３項において準用する第 11 条第５項から第７項までの規定による利用料金の収受に関する業務、第 19 条第３項において準用する第 12 条の規定による利用料金の減免に関する業務、第 19 条第３項において準用する第 13 条ただし書の規定による利用料金の返還に関する業務その他の利用料金の収受に関する業務

（５）　博物館・美術館の施設及び附属設備の維持及び修繕に関する業務

（６）　前各号に掲げるもののほか、博物館・美術館の管理運営に関して、教育委員会が必要と認める業務

（指定管理者の指定の申請）

第６条　第４条の規定による指定を受けようとするものは、教育委員会規則で定める申請書に事業計画書その他教育委員会規則で定める書類（以下「事業計画書等」という。）を添えて、教育委員会に提出しなければならない。

（指定管理者の指定）

第７条　教育委員会は、前条の規定による申請があったときは、次に掲げる基準により審査し、最も適切に博物館・美術館の管理を行うことができると認めるものを候補者として選定し、議会の議決を経て指定管理者を指定するものとする。

（１）　事業計画書等の内容が、県民の公平な利用を確保できるものであること。

（２）　事業計画書等の内容が、博物館・美術館の効用を最大限に発揮させるものであるとともに、効率的な管理がなされるものであること。

（３）　事業計画書に沿った管理を安定して行う物的及び人的能力を有するものであること。

（４）　前３号に掲げるもののほか、博物館・美術館の設置の目的を達成するために十分な能力を有するものであること。

（指定管理者の指定等の告示）

第８条　教育委員会は、前条の規定により、指定管理者を指定したときは、その旨を告示しなければならない。

２　前項の規定は、地方自治法第 244 条の２第 11 項の規定により、指定管理者の指定を取り消し、又は期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合に準用する。

（休館日）

第９条　博物館・美術館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

（１）　月曜日

（２）　12 月 29 日から翌年の１月３日までの日

２　前項第１号に規定する休館日が国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日又は沖縄県慰霊の日を定める条例（昭和 49 年沖縄県条例第 42 号）第２条に規定する慰霊の日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これに替えるものとする。

３　前２項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、臨時に休館日に開館し、又は休館日以外の日に休館することができる。

（開館時間）

第 10 条　博物館・美術館の開館時間は、午前９時から午後６時（金曜日及び土曜日にあっては、午後８時）までとする。

２　前項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、開館時間を臨時に変更することができる。

（観覧料）

第 11 条　常設展、企画展又は特別展を観覧しようとする者は、観覧料を指定管理者に納めなければならない。

２　常設展を観覧しようとする場合の観覧料は、別表第１に定める基準額に 100 分の 70 を乗じて得た額から当該基準額に 100 分の 130 を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。

３　企画展又は特別展を観覧しようとする場合の観覧料は、3,000 円を超えない範囲内で、その都度指定管理者が定めるものとする。

４　前２項の規定にかかわらず、１年間を通して常設展、企画展又は特別展を観覧しようとする場合の観覧料は、別表第２に定める基準額に 100 分の 70 を乗じて得た額から当該基準額に 100 分の 130 を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。

５　指定管理者は、第２項から前項までの規定により、観覧料を定めようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けなければならない。観覧料を変更しようとするときも、同様とする。

６　教育委員会は、前項の承認をしたときは、これを告示するものとする。

７　観覧料は、指定管理者の収入とする。

（観覧料の減免）

第 12 条　指定管理者は、公益上その他特別の理由があると認めるときは、観覧料を減額し、又は免除することができる。

2　前項の規定にかかわらず、指定管理者は、教育委員会規則で定める場合は、教育委員会規則で定めるところにより、観覧料を減額し、又は免除するものとする。

（観覧料の返還）

第 13 条　既に納付した観覧料は、返還しない。ただし、必要があると認められる場合は、指定管理者は、その全部又は一部を返還することができる。

（利用の許可）

第 14 条　別表第３に掲げる博物館・美術館の施設又は附属設備（以下「施設等」という。）を利用しようとする者は、あらかじめ指定管理者の許可を受けなければならない。許可を受けた者（以下「利用者」という。）が許可を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2　指定管理者は、博物館・美術館の管理上必要があると認めたときは、前項の許可をするに当たり、条件を付することができる。

3　指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、第１項の許可をしないことができる。

（1）　公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。

（2）　公益を害するおそれがあると認められるとき。

（3）　施設等を汚損し、損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。

（4）　前３号に掲げるもののほか、施設等の管理上支障があると認められるとき。

（利用期間）

第 15 条　施設等を引き続いて利用することができる期間は、教育委員会規則で施設等ごとに定める日数以内とする。ただし、指定管理者が特別の理由があると認めるときは、教育委員会規則で定めるところにより、当該期間を変更することができる。

（権利の譲渡等の禁止）

第 16 条　利用者は、施設等を利用する権利を譲渡し、又は転貸してはならない。

（許可の取消し等）

第 17 条　指定管理者は、利用者が次の各号のいずれかに該当するときは、第 14 条第１項の許可を取り消し、又は施設等の利用を制限し、若しくはその停止を命ずることができる。

（1）　この条例若しくはこの条例に基づく規則又はこれらに基づく指示に違反したとき。

（2）　偽りその他不正な手段により許可を受けたとき。

（3）　許可に付した条件に違反したとき。

（4）　第 14 条第３項各号のいずれかに該当するに至ったとき。

（原状回復の義務）

第 18 条　利用者は、施設等の利用を終えたとき、又は前条各号のいずれかの規定に該当することにより利用の許可を取り消されたときは、速やかに施設等を原状に回復しなければならない。

2　指定管理者は、利用者が前項の義務を履行しないときは、その原状回復に必要な措置をとるべきことを命ずることができる。

（利用料金）

第 19 条　利用者は、施設等の利用に係る料金（以下「利用料金」という。）を指定管理者に納めなければならない。

2　利用料金は、別表第３に定める基準額に 100 分の 70 を乗じて得た額から当該基準額に 100 分の 130 を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。

3　第 11 条第５項から第７項まで、第 12 条及び第 13 条の規定は、利用料金について準用する。

（事業報告書の提出）

第 20 条　指定管理者は、毎年度終了後 30 日以内に、教育委員会規則で定めるところにより、事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。

（博物館・美術館協議会）

第 21 条　博物館・美術館に、博物館・美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2　協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、15 人以内とする。

3　委員の任期は、２年とする。ただし、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4　前２項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

（教育委員会規則への委任）

第 22 条　この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附　則

（施行期日）

1　この条例は、公布の日から起算して１年を超えない範囲内において教育委員会規則で定める日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。（平成 19 年６月教育委員会規則第 11 号で、同 19 年 11 月１日から施行）

（準備行為）

2　第７条の規定による指定管理者の指定、第 11 条第５項の規定による観覧料の承認及び第 19 条第３項において準用する第 11 条第５項の規定による利用料金の承認並びにこれらに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、第６条から第８条まで、第 11 条第２項から第６項まで並びに第 19 条第２項並びに同条第３項において準用する第 11 条第５項及び第６項の規定の例により行うことができる。

（沖縄県立教育機関設置条例の一部改正）

3　沖縄県立教育機関設置条例（昭和 47 年沖縄県条例第 24 号）の一部を次のように改正する。

第１条中「、図書館法」を「及び図書館法」に改め、「及び博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 18 条」を削り、「必要な事項」を「、必要な事項」に改める。

第５条及び第６条を削り、第６条の２を第５条とし、第７条を第６条とし、第７条の２を第７条とする。

第８条中「、第５条及び第６条の２」を「及び第５条」に改める。

（沖縄県立教育機関使用料徴収条例の一部改正）

4　沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和 47 年沖縄県条例第 37 号）の一部を次のように改正する。

第２条第１項中「別表第１又は別表第２」を「別表」に改め、同条第２項を削る。

別表第１を削り、別表第２を別表とする。

別表第１（第 11 条関係）

区分		基準額（１人につき）	
		個人の場合	団体の場合
博物館施設	一般	400 円	320 円
	大学生及び高校生	250 円	200 円
	中学生及び小学生	150 円（県外の中学生及び小学生に限る）	120 円（県外の中学生及び小学生に限る）
美術館施設	一般	300 円	240 円
	大学生及び高校生	200 円	160 円
	中学生及び小学生	100 円（県外の中学生及び小学生に限る）	80 円（県外の中学生及び小学生に限る）

備考

１　「一般」とは、「大学生及び高校生」及び「中学生及び小学生」のいずれにも該当しない者（小学校就学の始期に達するまでの者を除く。）をいう。

２　「大学生及び高校生」とは、大学の学生及び高等学校の生徒その他これらに準ずる者をいう。

３　「中学生及び小学生」とは、中学校の生徒及び小学校の児童その他これらに準ずる者をいう。

４　「団体の場合」とは、20 人以上の団体で観覧する場合及び教育委員会規則で定める場合をいう。

別表第２（第 11 条関係）

区分		基準額（１人につき）		
		一般	大学生及び高校生	中学生及び小学生
博物館施設	常設展	1,200 円	750 円	450 円（県外の中学生及び小学生に限る）
	常設展、企画展及び特別展	4,200 円	2,600 円	1,600 円（県内の中学生及び小学生にあっては、1,150 円）
美術館施設	常設展	900 円	600 円	300 円（県外の中学生及び小学生に限る）
	常設展及び企画展	3,900 円	2,600 円	1,300 円（県内の中学生及び小学生にあっては、1,000 円）

備考

１　「一般」とは、「大学生及び高校生」及び「中学生及び小学生」のいずれにも該当しない者（小学校就学の始期に達するまでの者を除く。）をいう。

２　「大学生及び高校生」とは、大学の学生及び高等学校の生徒その他これらに準ずる者をいう。

３　「中学生及び小学生」とは、中学校の生徒及び小学校の児童その他これらに準ずる者をいう。

別表第３（第 14 条、第 19 条関係）

１　施設利用料金

（１）　博物館施設利用料金

区分		基準額（１日につき）
企画展示室	入場料を徴収しない場合	29,100 円
	入場料を徴収する場合	87,300 円
特別展示室	入場料を徴収しない場合	38,100 円
	入場料を徴収する場合	114,300 円
実　習　室	入場料を徴収しない場合	9,000 円
	入場料を徴収する場合	27,000 円
講　座　室	入場料を徴収しない場合	15,900 円
	入場料を徴収する場合	47,700 円

（２）　美術館施設利用料金

区分		基準額（１日につき）
県民ギャラリー１		8,100 円
県民ギャラリー２		7,500 円
県民ギャラリー３		7,500 円
県民ギャラリースタジオ		8,200 円
県民アトリエ	入場料を徴収しない場合	7,000 円
	入場料を徴収する場合	21,000 円
子供アトリエ	入場料を徴収しない場合	7,500 円
	入場料を徴収する場合	22,500 円
企画展示室１	入場料を徴収しない場合	32,800 円
	入場料を徴収する場合	98,400 円
企画展示室２	入場料を徴収しない場合	40,700 円
	入場料を徴収する場合	122,100 円
講　座　室	入場料を徴収しない場合	9,100 円
	入場料を徴収する場合	27,300 円

（３） その他施設利用料金

区分		基準額（１時間につき）
講　　堂	入場料を徴収しない場合	3,400 円
	入場料を徴収する場合	10,200 円

２　附属設備利用料金

種別	単位	基準額
舞台器具	１回１点または一式につき	10,000 円以内で教育委員会規則で定める額
音響器具	１回１点または一式につき	10,000 円以内で教育委員会規則で定める額
照明器具	１回１点または一式につき	10,000 円以内で教育委員会規則で定める額
冷房器具	１時間につき	3,000 円以内で教育委員会規則で定める額
その他教育委員会規則で定める付属設備	１回１点または一式につき	10,000 円以内で教育委員会規則で定める額

備考

１　「入場料」とは、入場料、会費、会場整理費その他名称のいかんを問わず、入場の対価として徴収するものをいう。

２　利用料金の基準額が１時間を単位として定められている施設等の利用者が許可された利用時間を超過して当該施設等を利用する場合における利用料金の基準額は、この表の区分に従い、次のとおりとする。

（１） 午前９時から午後６時（金曜日及び土曜日にあっては、午後８時）までの間は、超過時間 30 分間（30 分間に満たない端数は、これを 30 分間とする。）につき、当該区分に定める基準額の２分の１の額に 100 分の 120 を乗じて得た額

（２） 午後６時（金曜日及び土曜日にあっては、午後８時）後は、超過時間 30 分間（30 分間に満たない端数は、これを 30 分間とする。）につき、当該区分に定める基準額の２分の１の額に 100 分の 150 を乗じて得た額

○沖縄県立博物館・美術館管理規則　　平成 19 年３月 16 日　教育委員会規則第１号

（趣　旨）

第１条　この規則は、沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例（平成 18 年沖縄県条例第 72 号。以下「条例」という。）の規定並びに地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 23 条第１号及び博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 19 条の規定に基づき、沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（寄贈及び寄託）

第２条　博物館・美術館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、博物館・美術館資料寄贈申込書（第１号様式）又は博物館・美術館資料寄託申請書（第２号様式）を提出しなければならない。

２　受贈又は受託を決定したものについては、博物館・美術館資料受贈受諾書（第３号様式）又は博物館・美術館資料受託承認書（第４号様式）を交付するものとする。

３　寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）が必要と認めた場合はこの限りでない。

４　第２項の規定により寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

５　第２項の規定により寄託を受けた資料は、寄託者の請求又は博物館・美術館の都合により返付する。

（寄贈資料及び寄託資料の管理等）

第３条　寄託された資料の管理は、博物館・美術館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

２　寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し、又は損傷したときは、県及び館長並びに指定管理者は、損害賠償の責任を負わないものとする。

（指定管理者の指定の申請）

第４条　条例第６条の規則で定める申請書は、指定管理者指定申請書（第５号様式）によるものとする。

２　条例第６条の規則で定める書類は、次に掲げる書類とする。

（１） 法人である団体にあっては、定款又は寄附行為及び登記事項証明書

（２） 法人でない団体にあっては、定款又は寄附行為に相当する書類及び代表者の身分証明書（市区町村長が発行するものに限る。）

（３） 申請に係る業務の実施の方法を記載した書類

（４） 最近の事業年度における事業報告書、貸借対照表、収支決算書、財産目録その他の経理的基礎を有することを明らかにする書類（申請の日の属する事業年度に設立された法人にあっては、その設立時における財産目録）

（５） 役員の氏名、住所及び履歴を記載した書類

（６） 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める書類

（観覧券の交付）

第５条　指定管理者は、博物館・美術館の展示品を観覧しようとする者が所定の観覧料を納付した場合又は指定管理者により後納が認められた場合は、観覧券を交付するものとする。

（観覧料の免除）

第６条　条例第 12 条第１項の規定により観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ観覧料免除申請書（第６号様式）を指定管理者に提出し、その承認を受けなければならない。

２　条例第 12 条第２項の規定により観覧料を免除することができる場合は、次のとおりとする。

（１） 県内の中学校の生徒及び小学校の児童並びにその他これらに準ずる者の引率者が教育課程に基づく教育活動として博物館・美術館の常設展を観覧する場合

（２） 県内の高等学校の生徒、その他これらに準ずる者及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として博物館・美術館の常設展を観覧する場合

（３） 70 歳以上の者が常設展を観覧する場合

（４） 身体障害者福祉法（昭和 24 年法律第 283 号）第 15 条第４項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者及びその介助員が常設展を観覧する場合

（入館の禁止等）

第７条　指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

（１） 館内の秩序を乱すおそれがあると認められる者

（２） その他指定管理者が適当でないと認める者

（施設利用の許可等）

第８条　条例別表第３に掲げる博物館・美術館の施設又は附属設備を利用しようとする者は、あらかじめ博物館・美術館施設利用許可申請書（第７号様式）を提出しなければならない。

（利用期間）

第９条　条例第 15 条本文に規定する教育委員会規則で施設等ごとに定める日数は、次の各号に掲げる施設等の区分に応じ当該各号に定める日数とする。

（１） 博物館施設の企画展示室及び特別展示室並びに美術館施設の企画展示室１及び企画展示室２並びにこれらの施設の冷房設備　６月

（２） 前号に掲げる施設等以外の施設　７日

２　条例第 15 条ただし書の規定により利用期間を変更しようとする者は、沖縄県立博物館・美術館利用期間変更願（第８号様式）を指定管理者に提出しなければならない。

（利用料金の免除）

第 10 条　条例第 19 条第３項において準用する第 12 条第２項の規定により利用料金を免除することができる場合は、沖縄県が条例第３条各号に掲げる事業を行うために利用する場合とする。

２　条例第 19 条第３項において準用する第 12 条第２項の規定により利用料金の免除を受けようとする者は、博物館・美術館施設利用許可申請書を提出する際に、併せて沖縄県立博物館・美術館利用料金免除申請書（第９号様式）を指定管理者に提出しなければならない。

３　指定管理者は、利用料金の免除を承認したときは、沖縄県立博物館・美術館利用料金免除承認書（第 10 号様式）を利用者に交付するものとする。

（事業報告書の内容等）

第 11 条　条例第 20 条の事業報告書は、次に掲げる事項を記載して提出するものとする。

（１） 博物館・美術館の管理運営に関する業務（以下「業務」という。）の実施状況

（２） 業務に係る収支状況

（３） 博物館・美術館の利用状況

（４） 前３号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事項

（博物館・美術館協議会の組織等）

第 12 条　博物館・美術館協議会（以下「協議会」という。）の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

２　協議会に会長及び副会長を置き、委員のうちから互選する。

３　会長は協議会を代表し、会務を総理する。

４　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

５　協議会の会議は、会長が招集し、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

６　会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

７　協議会は協議のため必要があると認める場合は、調査を行い、又は専門家その他の関係者の出席を求め、意見若しくは説明を聴くことができる。

８　協議会の委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

９　協議会の庶務は、博物館・美術館において処理する。

10　その他協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

（観覧料の割引）

第 13 条　条例別表第１備考４に規定する教育委員会規則で定める場合は、博物館施設又は美術館施設の常設展を観覧しようとする日と同じ日に博物館・美術館が行う他の展示と併せて観覧する場合とする。ただし、併せて観覧する他の展示の観覧料が無料の場合は、この限りでない。

（附属設備の利用料金の基準額）

第 14 条　条例別表第３第２項の表の教育委員会で定める額は、別表に掲げるとおりとする。

（補　則）

第 15 条　この規則に定めるもののほか、博物館・美術館の管理に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附　則

（施行期日）

１　この規則は、条例の施行の日〔平成 19 年 11 月１日〕から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

（準備行為として行う申請に必要な申請書等）

２　条例附則第２項の規定により準備行為として行う指定管理者の指定の申請に必要な申請書及び書類については、第４条の規定の例による。

（沖縄県立博物館の管理に関する規則等の廃止）

３　次に掲げる規則は、廃止する。

（１） 沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和 47 年沖縄県教育委員会規則第 13 号）

（２） 沖縄県立博物館協議会規則（昭和 47 年沖縄県教育委員会規則第 29 号）

（沖縄県教育庁組織規則の一部改正）

４　沖縄県教育庁組織規則（昭和 47 年沖縄県教育委員会規則第１号）の一部を次のように改正する。

第 31 条第３号中「沖縄県立博物館」を「沖縄県立博物館・美術館」に改める。

第 33 条第４号中「沖縄県立博物館協議会」を「博物館・美術館協議会」に改める。

別表（第14条関係）

1　附属設備（冷房設備を除く。）の利用料金

種別	品名	単位	基準額
舞台器具	演台	1台	300円
	花台	1台	100円
	司会台	1台	150円
音響器具	メインスピーカー	1式	1,000円
	コンデンサーマイク	1本	300円
	ワイヤレスマイク	1本	600円
	ダイナミックマイク	1本	200円
	ビデオテープレコーダー	1台	700円
	ＤＶＤプレーヤー	1台	1,250円
	ＣＤ・ＭＤプレーヤー	1台	400円
	ＨＤ／ＤＶＤレコーダー	1台	1,250円
照明器具	ボーダーライト	1列	300円
	サスペンションライト	1列	500円
	アッパーホリゾンライト	1列	700円
	シーリングライト	1列	600円
	センターピンスポットライト	1台	400円
そ の 他	書画カメラ	1台	800円
	ビデオプロジェクター	1台	1,400円
	電動スクリーン	1式	1,100円
	35ミリフィルム映写機	1式	5,000円

備考　附属設備利用料金の基準額は、１ステージごとの額とする。ただし、長時間連続して利用する場合は、４時間ごとに１ステージとみなす。

2　冷房設備の利用料金

区分		単位	基準額
博物館施設	企画展示室	1時間までごとに	630円
	特別展示室	1時間までごとに	830円
	実習室	1時間までごとに	190円
	講座室	1時間までごとに	340円
美術館施設	県民ギャラリー１	1時間までごとに	170円
	県民ギャラリー２	1時間までごとに	160円
	県民ギャラリー３	1時間までごとに	160円
	県民ギャラリースタジオ	1時間までごとに	180円
	県民アトリエ	1時間までごとに	150円
	子供アトリエ	1時間までごとに	160円
	企画展示室	1時間までごとに	710円
	企画展示室２	1時間までごとに	880円
	講座室	1時間までごとに	200円
その他施設	講堂	1時間までごとに	590円

第１号様式
（第２条関係）

博物館・美術館資料寄贈申込書

年　月　日

沖縄県立博物館・美術館長　殿

申込者　住　所
氏　名　　印

私所有の下記の資料を沖縄県立博物館・美術館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。

記

１　種　　別

２　作　者　名

３　作　品　名

４　製作年月日

５　附　属　品

６　資料所在地

７　時価見積額

８　寄贈の理由

備考　用紙の大きさは、日本工業規格Ａ列４判とする。

第２号様式
（第２条関係）

博物館・美術館資料寄託申請書

年　月　日

沖縄県立博物館・美術館長　殿

申請者　住　所
氏　名　　印

私所有の下記の資料を沖縄県立博物館・美術館へ寄託したいので、受託されるよう申請します。

記

１　種　　別

２　作　者　名

３　作　品　名

４　製作年月日

５　附　属　品

６　資料所在地

７　寄託期間　　年　月　日から
年　月　日まで

備考　用紙の大きさは、日本工業規格Ａ列４判とする。

第３号様式
（第２条関係）

博物館・美術館資料受贈受諾書

年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館・美術館長　印

年　　月　　日付け申込のあった博物館・美術館資料の寄贈については下記により受諾します。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館・美術館管理規則第２条第４項の規定により返却されません。

記

１　種　　別

２　作　者　名

３　作　品　名

４　製作年月日

５　附　属　品

６　資料所在地

７　時価見積額

８　寄贈の理由

備考　用紙の大きさは、日本工業規格A列４判とする。

第４号様式
（第２条関係）

博物館・美術館資料受託承認書

年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館・美術館長　印

年　　月　　日付け申請のあった博物館・美術館資料の寄託については下記により受託します。

記

１　種　　別

２　作　者　名

３　作　品　名

４　製作年月日

５　附　属　品

６　受託期間　　年　　月　　日　から
年　　月　　日　まで

７　備　　考

備考　用紙の大きさは、日本工業規格A列４判とする。

第５号様式
（第４条関係）

年　　月　　日

沖縄県教育委員会　殿

申請者　所　在　地
団体の名称
代表者の氏名　　印

指定管理者指定申請書

沖縄県立博物館・美術館の管理に係る指定管理者の指定を受けたいので、沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例第６条の規定により申請します。

添付書類

１　事業計画書

２　法人である団体にあっては、定款又は寄附行為及び登記事項証明書

３　法人でない団体にあっては、定款又は寄附行為に相当する書類及び代表者の身分証明書（市区町村長が発行するものに限る）

４　申請に係る業務の実施の方法を記載した書類

５　最近の事業年度における事業報告書、貸借対照表、収支決算書、財産目録その他経理的基礎を有することを明らかにする書類（申請の日に属する事業年度に設立された法人にあっては、その設立時における財産目録）

６　役員の氏名、住所及び履歴を記載した書類

７　前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める書類

備考　用紙の大きさは、日本工業規格Ａ列４判とする。

第６号様式
（第６条関係）

観覧料免除申請書

年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者　　殿

申請者　住　所
氏　名　　印
電　話

下記の理由により博物館・美術館観覧料の免除を受けたいので、沖縄県立博物館・美術館管理規則第６条第１項の規定に基づき申請します。

記

１　観覧者　団体名
引率者名

２　観覧者数　　人

３　観覧日時　　年　　月　　日（　　曜日）　　時～　　時

４　申請理由

……

承　認　証

殿

年　　月　　日付け申請の博物館・美術館の観覧料免除の件、申請どおり承認します。

年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者　　印

備考　用紙の大きさは、日本工業規格Ａ列４判とする。

第７号様式
（第８条関係）

博物館・美術館施設利用許可申請書

年　月　日

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者　殿

申請者　氏　名　印
電　話

下記により貴館施設を利用したいので、申請します。

記

１　利用者　団 体 名
代表者名　印　職業（　）
住　所　電話

２　利用目的

３　利用する施設

４　利用する日時及び期間
自：　年　月　日　時　分
至：　年　月　日　時　分
（　）日間

５　予定参加人数　人

……

許　可　証

年　月　日付け申請の（　）使用の件、申請どおり許可します。

年　月　日

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者　印

備考　用紙の大きさは、日本工業規格Ａ列４判とする。

第８号様式
（第９条関係）

沖縄県立博物館・美術館利用期間変更願

年　月　日

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者　殿

申請者　住　所
団　体　名
代表者氏名　印
電 話 番 号

沖縄県立博物館・美術館管理規則第９条第２項の規定により次のとおり利用期間の変更を願い出ます。

記

１　催物の名称

２　利用する日時及び期間
自：　年　月　日　時　分
至：　年　月　日　時　分
（　）日間

３　利用期間の変更を願い出る理由

４　備考

備考　用紙の大きさは、日本工業規格Ａ列４判とする。

第９号様式
（第１０条関係）

沖縄県立博物館・美術館利用料金免除申請書

年　月　日

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者　　殿

申請者　住　　所
団 体 名
代表者氏名　　印
電 話 番 号

次のとおり利用料金の免除を申請します。

記

１　催物の名称

２　利用目的

３　催物の内容

４　利用する日時及び期間
自：　年　月　日　時　分
至：　年　月　日　時　分
（　）日間

５　減額・免除を申請する理由

６　備考

備考　用紙の大きさは、日本工業規格Ａ列４判とする。

第１０号様式
（第１０条関係）

沖縄県立博物館・美術館利用料金免除承認書

年　月　日

殿

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者　　印

次のとおり利用料金の免除を承認します。

記

１　催物の名称

２　利用目的

３　催物の内容

４　利用する日時及び期間
自：　年　月　日　時　分
至：　年　月　日　時　分
（　）日間

５　利用料金免除額

６　備考

備考　用紙の大きさは、日本工業規格Ａ列４判とする。

○沖縄県立博物館・美術館館長執務規程　　平成 19 年 10 月 30 日　教育委員会訓令第 13 号

（趣旨）

第１条　沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の館長（以下「館長」という。）を地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第３条第３項第３号に規定する非常勤の特別職とした場合における館長の執務等に関しては、別に定めるもののほか、この訓令によるものとする。

（任命及び任期）

第２条　館長は、博物館・美術館の管理運営に関し識見及び能力を有する者のうちから、教育委員会が任命する。

２　館長の任期は、１年以内とし、２回に限り更新することができる。

３　前項の規定にかかわらず、２回を超えて更新する必要がある場合には、教育庁文化課長は、教育庁総務課長と協議するものとする。

（報酬等）

第３条　館長の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和 47 年沖縄県規則第 111 号）に定めるところによる。

（勤務条件）

第４条　館長の勤務場所は、博物館・美術館とする。

２　館長の１月の勤務日数は 16 日以内とし、勤務する日は教育長が別に定める。

３　館長の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和 47 年沖縄県条例第 43 号）の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

（服務）

第５条　館長は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

２　館長は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

３　館長は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

４　館長は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

（解任）

第６条　教育委員会は、館長が次の各号のいずれかに該当すると認めたときは、任期内でも解任することができる。

（１）　館長の職務を怠ったとき。

（２）　前条の規定に違反したとき。

（３）　館長として不適当と認められる行為をしたとき。

（４）　心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。

（５）　任命の必要がなくなったとき。

（補則）

第７条　この訓令に定めるもののほか、館長を非常勤の特別職とした場合における館長の執務等に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附　則

この訓令は、平成 19 年 11 月１日から施行する。

○博物館・美術館学芸業務嘱託員設置規程　　平成 19 年 10 月 30 日　教育委員会教育長訓令第 26 号

（設置）

第１条　沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の学芸業務を円滑に行うため、博物館・美術館学芸業務嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置する。

（身分）

第２条　嘱託員は、地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第３条第３項第３号に規定する非常勤の嘱託員とする。

（職務等）

第３条　嘱託員は、博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

（１）　資料の調査、収集及び整理に関すること。

（２）　資料の保存、修復等に関すること。

（３）　展示に関すること。

（４）　その他博物館・美術館の事業に関すること。

（委嘱及び委嘱期間）

第４条　嘱託員は、次に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。

（１）　博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第５条に規定する学芸員資格を有する者

（２）　前号に規定する学芸員資格を有する者と同等以上の能力を有すると認められる者

２　嘱託員の委嘱期間は、１年以内とし、２回に限り更新することができる。

３　前項の規定にかかわらず、２回を超えて更新する必要がある場合には、文化課長は、総務課長と協議するものとする。

（報酬等）

第５条　嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和 47 年沖縄県規則第 111 号）に定めるところによる。

（勤務条件）

第６条　嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

２　嘱託員の１月の勤務日数は、16 日以内とし、勤務する日は、館長が別に定める。

３　嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和 47 年沖縄県条例第 43 号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

（服務）
第７条　嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。
２　嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。
３　嘱託員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。
４　嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。
（解嘱）
第８条　教育長は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めたときは、委嘱期間内でも解嘱することができる。
（１）　第３条に規定する職務を怠ったとき。
（２）　前条の規定に違反したとき。
（３）　嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。
（４）　心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。
（５）　委嘱の必要がなくなったとき。
（補則）
第９条　この訓令に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。
附　則
この訓令は、平成 19 年 11 月１日から施行する。

○博物館・美術館教育普及業務嘱託員設置規程　　平成 19 年 10 月 30 日　教育委員会教育長訓令第 27 号

（設置）
第１条　沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の教育普及業務を円滑に行うため、博物館・美術館教育普及業務嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置する。
（身分）
第２条　嘱託員は、地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第３条第３項第３号に規定する非常勤の嘱託員とする。
（職務等）
第３条　嘱託員は、博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。
（１）　教育普及プログラムの調査及び策定に関すること。
（２）　教育関係機関への学習支援に関すること。
（３）　ボランティア活動に関すること。
（４）　その他博物館・美術館の事業に関すること。
（委嘱及び委嘱期間）
第４条　嘱託員は、次に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。
（１）　博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第５条に規定する学芸員資格を有する者
（２）　前号に規定する学芸員資格を有する者と同等以上の能力を有すると認められる者
２　嘱託員の委嘱期間は、１年以内とし、２回に限り更新することができる。
３　前項の規定にかかわらず、２回を超えて更新する必要がある場合には、文化課長は、総務課長と協議するものとする。
（報酬等）
第５条　嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和 47 年沖縄県規則第 111 号）に定めるところによる。
（勤務条件）
第６条　嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。
２　嘱託員の１月の勤務日数は、16 日以内とし、勤務する日は、館長が別に定める。
３　嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和 47 年沖縄県条例第 43 号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。
（服務）
第７条　嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。
２　嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。
３　嘱託員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。
４　嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。
（解嘱）
第８条　教育長は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めたときは、委嘱期間内でも解嘱することができる。
（１）　第３条に規定する職務を怠ったとき。
（２）　前条の規定に違反したとき。
（３）　嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。
（４）　心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。
（５）　委嘱の必要がなくなったとき。
（補則）
第９条　この訓令に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。
附　則
この訓令は、平成 19 年 11 月１日から施行する。

○美術品調査嘱託員設置規程

平成 18 年３月 10 日　教育委員会教育長訓令第１号
改正　平成 19 年 10 月 30 日　教育委員会教育長訓令 22 号

（趣旨）

第１条　この訓令は、県が収蔵する美術品等の調査業務を円滑に推進するため、美術品調査嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置し、あわせて、勤務条件その他身分の取扱いに関し必要な事項を定めるものとする。

（身分）

第２条　嘱託員は、地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第３条第３項第３号に規定する非常勤の嘱託員とする。

（職務）

第３条　嘱託員は、沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

（１）　県が収蔵する美術品の調査に関すること。

（２）　県が収蔵を予定している美術品の調査に関すること。

（３）　その他美術品の調査に関すること。

（委嘱等）

第４条　嘱託員は、沖縄県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が委嘱する。

２　嘱託員の委嘱期間は、１年以内とし、２回に限り更新することができる。

３　前項の規定にかかわらず、２回を超えて更新する必要がある場合には、文化課長は、総務課長と協議するものとする。

（報酬等）

第５条　嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和 47 年沖縄県規則第 111 号）に定めるところによる。

（勤務条件等）

第６条　嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

２　嘱託員の１月の勤務日数は 16 日以内とし、勤務する日は館長が定める。

３　嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和 47 年沖縄県条例第 43 号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

（服務）

第７条　嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

２　嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

３　嘱託員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。

４　嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

（解嘱）

第８条　教育長は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めたときは、委嘱期間内でも解嘱することができる。

（１）　第３条に規定する職務を怠ったとき。

（２）　前条の規定に違反したとき。

（３）　嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。

（４）　心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。

（補則）

第９条　この訓令の施行に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附　則

この訓令は、平成 18 年４月１日から施行する。

附　則（平成 19 年 10 月 30 日教育委員会教育長訓令第 22 号）

この訓令は、平成 19 年 11 月１日から施行する。

○美術品保存修復嘱託員設置規程

平成 18 年３月 10 日　教育委員会教育長訓令第２号
改正　平成 19 年 10 月 30 日　教育委員会教育長訓令 23 号

（趣旨）

第１条　この訓令は、県が収蔵する美術品の保存修復業務を円滑に推進するため、美術品保存修復嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置し、あわせて、勤務条件その他身分の取扱いに関し必要な事項を定めるものとする。

（身分）

第２条　嘱託員は、地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第３条第３項第３号に規定する非常勤の嘱託員とする。

（職務）

第３条　嘱託員は、沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

（１）　県が収蔵する美術品の保存及び修復に関すること。

（２）　県が収蔵する美術品の保存状態の調査及び管理に関すること。

（委嘱等）

第４条　嘱託員は、沖縄県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が委嘱する。

２　嘱託員の委嘱期間は、１年以内とし、２回に限り更新することができる。

３　前項の規定にかかわらず、２回を超えて更新する必要がある場合には、文化課長は、総務課長と協議するものとする。

（報酬等）

第５条　嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和 47 年沖縄県規則第 111 号）に定めるところによる。

（勤務条件等）
第６条　嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。
２　嘱託員の１月の勤務日数は 16 日以内とし、勤務する日は館長が定める。
３　嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和 47 年沖縄県条例第 43 号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。
（服務）
第７条　嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。
２　嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。
３　嘱託員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。
４　嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。
（解嘱）
第８条　教育長は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めたときは、委嘱期間内でも解嘱することができる。
（１）　第３条に規定する職務を怠ったとき。
（２）　前条の規定に違反したとき。
（３）　嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。
（４）　心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。
（補則）
第９条　この訓令の施行に関し必要な事項は、教育長が別に定める。
附　則
この訓令は、平成 18 年４月１日から施行する。
附　則（平成 19 年 10 月 30 日教育委員会教育長訓令第 23 号）
この訓令は、平成 19 年 11 月１日から施行する。

○沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領　　平成 14 年３月 14 日　教育長決裁

（目　的）
第１条　この要領は、沖縄県立博物館が保管する資料（以下「資料」という。）の利用について必要な事項を定めるものとする。
（定　義）
第２条　この要領において利用とは、次の各号に掲げることをいう。
（１）展示会等における原資料等の借用。
（２）同資料の撮影。
（３）原資料等を被写体として製作された写真原板や印画などの借用。
（４）撮影等による複製品の製作。
（５）原資料等の閲覧。
（６）教育普及資料の借用。
（許可の基準）
第３条　博物館長（以下「館長」という。）は、教育・学術・文化等に係わる事業、学術研究の推進並びに文化の向上に資する事業、又は館長が特に必要と認めた場合において資料の利用を許可することができる。ただし、次の各号の一に掲げる事項はこの限りでない。
（１）資料の保存に悪影響が生じると認められる場合。
（２）好ましくない用途に供されると認められる場合。
（３）館の事務処理に支障が生じると認められる場合。
（４）資料のうち、ほかに権利を有する者があるものについて、事前に書面による同意を得ていない場合。
（５）過去に目的外使用の事実又は許可条件に違反する事実があると認められる場合。
（６）その他、許可することが適当でないと認められる場合。
（許可申請の手続き）
第４条　資料の利用を希望する者は、以下の各号に応じ、資料利用申請書（以下「申請書」という。）に事業の趣旨や主体者、事業計画等を記載した企画書等を添えて館長に利用開始 14 日前までに、申請しなければならない。
（１）原資料等の借用（第１号様式）
（２）写真撮影、原板・印画の借用（第２号様式）
（３）複製品の製作（第３号様式）
（４）原資料等の閲覧（第４号様式）
（５）教育普及資料の借用（第５号様式）
（審査及び決定）
第５条　前条の規定による申請があった場合、館長は次の各号に掲げる事項について、審査し、許可するかどうかを決定しなければならない。
（１）事業の趣旨及び内容。
（２）事業の主体者。
（３）事業計画。
（４）その他必要な事項。
（許可書の交付）
第６条　資料利用を許可する決定を行ったときは、次の各号により当該申請者に対し別表のとおりの条件を付した資料利用許可書（以下「許可書」という。）を交付するものとする。ただし、館長が特に必要と認めた軽微なものについては、その限りでない。
（１）原資料等の借用（第１－１号様式）
（２）写真撮影、原板・印画の借用（第２－１号様式）

（３）複製品の製作（第３－１号様式）
（４）原資料等の閲覧（第４－１号様式）
（５）教育普及資料の借用（第５－１号様式）
２　館長は前項のほか、必要と認められる場合は、別に条件を付することができる。

附　則

この要領は、平成14年４月１日から実施する。

別表（第６条関係）各申請の資料利用の許可条件

利用申請の内容（各申請様式）	資料利用の許可条件	
	共通条件	個別条件
原資料等の借用（第１号様式）	①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。 ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。 ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。 ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。 ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。	①資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。 ②資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。 ③貸与期間は原則として２ヶ月以内とする。 ④借用によって生じた成果品を当館に１部（１点）を納付すること。
写真撮影、原板・印画の借用（第２号様式）		①撮影は原則として休館日の午後に行うこと。 ②製作された写真デュープやビデオ、ＣＤ等を当館に無償で１部（１点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。 ③写真原板の貸与期間は３週間以内とする。 ④郵送費は申請者が負担すること。 ⑤資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
複製品の製作（第３号様式）		①撮影は原則として休館日の午後に行うこと。 ②撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。 ③製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。 ④製作された写真デュープやビデオ、ＣＤ等を当館に無償で１部（１点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。 ⑤写真原板の貸与期間は３週間以内とする。 ⑥資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
原資料等の閲覧（第４号様式）		①展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。 ②閲覧する資料は、原則として１日５点以内とする。 ③閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に１部（１点）納付すること。
教育普及資料の借用（第５号様式）		①与期間は１週間以内とする。 ②資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。 ③資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。 ④万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。

第１号様式（第４条関係）

資 料 利 用 申 請 書
（原資料等の借用）

平成　　年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館長　殿

代表者名：　　印
申請者　団 体 名：
（担当者氏名　　）
住　　所：〒

TEL：
FAX：

下記により原資料等の館外利用を許可くださるようお願いします。

記

事　業　名			
借用希望期間	年　月　日 ～　月　日		
目　　的			
展示等場所			
資　料　名		員　数	備　考
１． ２． ３． ４．			

※留意事項
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
⑧貸与期間は原則として２ヶ月以内とする。
⑨借用によって生じた成果品を当館に１部（１点）を納付すること。
前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第１－１号様式（第６条関係）

資 料 利 用 許 可 書
（原資料等の借用）

博　美　第　　号
平成　　年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成　　年　　月　　日付けで申請のあった資料の館外利用については、下記により許可します。

記

事　業　名			
借 用 期 間	年　月　日 ～　月　日		
目　　的			
展示等場所			
資　料　名		員　数	備　考
１． ２． ３． ４．			

※許可条件
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
⑧貸与期間は原則として２ヶ月以内とする。
⑨借用によって生じた成果品を当館に１部（１点）を納付すること。
前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第２号様式　（第４条関係）

資 料 利 用 申 請 書
（写真撮影、原板・印画の借用）

平成　　年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館長　殿

代表者名：　　印
申請者　団 体 名：
（担当者氏名　　）
住　　所：〒
TEL：
FAX：

下記により資料の写真撮影、原板・印画の利用を許可くださるようお願いします。

記

利　用　区　分		１　写真原板使用　　２　撮影　　３　掲載　　※○で囲む			
希望日時・期間		年　　月　　日　～　月　　日　　時　～　　時			
	事　項	名　　称	部　数	制作予定日	備　　考
目的	出版物 映　画 テレビ ＤＶＤ Ｃ　Ｄ その他				
資　　料　　名			数　量	仕　様	備　　考
１． ２． ３．					

※留意事項
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
⑦製作された写真デュープやビデオ、ＣＤ等を当館に無償で１部（１点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
⑧写真原板の貸与期間は３週間以内とする。
⑨郵送費は申請者が負担すること。
⑩資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第２－１号様式（第６条関係）

資 料 利 用 許 可 書
（写真撮影、原板・印画の借用）

博　美　第　　号
平成　　年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成　　年　　月　　日付けで申請のあった資料の利用については、下記により許可します。

記

利　用　区　分		１　写真原板使用　　２　撮影　　３　掲載　　※○で囲む			
日　時・期　間		年　　月　　日　～　月　　日　　時　～　　時			
	事　項	名　　称	部　数	制作予定日	備　　考
目的	出版物 映　画 テレビ ＤＶＤ Ｃ　Ｄ その他				
資　　料　　名			数　量	仕　様	備　　考
１． ２． ３．					

※許可条件
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
⑦製作された写真デュープやビデオ、ＣＤ等を当館に無償で１部（１点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
⑧写真原板の貸与期間は３週間以内とする。
⑨郵送費は申請者が負担すること。
⑩資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第３号様式（第４条関係）

資 料 利 用 申 請 書
（複製品の製作）

平成　　年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館長　殿

代表者名：　　印
申請者　団 体 名：
（担当者氏名　　）
住　　所：〒
TEL：
FAX：

下記により複製品製作のため資料の利用を許可くださるようお願いします。

記

利 用 区 分	１　写真原板使用　　２　撮影　　３　掲載　　※○で囲む				
希望日時・期間	年　　月　　日 ～ 月　　日　　時 ～　　時				
目　　的					
製 作 仕 様					
製 作 予 定 日	平成　　年　　月　　日	製作点数	点	販売価格	円

資　料　名	数　量	仕　様	備　考
１． ２． ３．			

※留意事項

①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
⑦撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
⑨製作された写真デュープやビデオ、ＣＤ等を当館に無償で１部（１点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
⑩写真原板の貸与期間は３週間以内とする。
⑪資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第３－１号様式（第６条関係）

資 料 利 用 許 可 書
（複製品の製作）

博　美　第　　号
平成　　年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成　　年　　月　　日付けで申請のあった特別利用については、下記により許可します。

記

利 用 区 分	１　写真原板使用　　２　撮影　　３　掲載　　※○で囲む				
日 時 ・ 期 間	年　　月　　日 ～ 月　　日　　時 ～　　時				
目　　的					
製 作 仕 様					
製 作 予 定 日	平成　　年　　月　　日	製作点数	点	販売価格	円

資　料　名	数　量	仕　様	備　考
１． ２． ３．			

※許可条件

①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
⑦撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
⑨製作された写真デュープやビデオ、ＣＤ等を当館に無償で１部（１点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
⑩写真原板の貸与期間は３週間以内とする。
⑪資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第４号様式（第４条関係）

資 料 利 用 申 請 書
（原資料等の閲覧）

平成　　年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館長　殿

代表者名：　　印
申請者　団 体 名：
（担当者氏名　　）
住　　所：〒

TEL：
FAX：

下記により原資料等の閲覧を許可くださるようお願いします。

記

目　　的				
閲覧希望日時	平成　　年　　月　　日　　時～　　時		閲覧人員	
資料名		員数	備考	
1. 2. 3. 4. 5.				

※留意事項
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること
⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
⑦閲覧する資料は、原則として１日５点以内とする。
⑧閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に１部（１点）納付すること。
前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第４－１号様式（第６条関係）

資 料 利 用 許 可 書
（原資料等の閲覧）

博　美　第　　号
平成　　年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成　　年　　月　　日付けで申請のあった資料の閲覧については、下記により許可します。

記

目　　的				
閲 覧 日 時	平成　　年　　月　　日　　時～　　時		閲覧人員	
担 当 学 芸 員				
資料名		員数	備考	
1. 2. 3. 4. 5.				

※許可条件
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること
⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
⑦閲覧する資料は、原則として１日５点以内とする。
⑧閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に１部（１点）納付すること。
前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第５号様式（第４条関係）

資 料 利 用 申 請 書
（教育普及資料の借用）

平成　　年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館長　殿

代表者名：　　印
申請者　団 体 名：
（担当者氏名　　）
住　　所：〒
TEL：
FAX：

下記により教育普及資料の利用を許可くださるようお願いします。

記

利　用　区　分	１学校（学年・学級）行事　　２地域・団体行事　　３その他		
希望日時・期間	年　月　日（　時）～　年　月　日（　時）		
行　事　名		参加人員	
目　的			

資料名	数量	備考
１． ２． ３． ４．		

※留意事項
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥貸与期間は１週間以内とする。
⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。
前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第５－１号様式（第６条関係）

資 料 利 用 許 可 書
（教育普及資料の借用）

博　美　第　　号
平成　　年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成　　年　　月　　日付けで申請のあった資料利用については、下記により許可します。

記

利　用　区　分	１学校（学年・学級）行事　　２地域・団体行事　　３その他		
日 時 ・ 期 間	年　月　日（　時）～　年　月　日（　時）		
行　事　名		参加人員	
目　的			

資料名	数量	備考
１． ２． ３． ４．		

※許可条件
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥貸与期間は１週間以内とする。
⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。
前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

沖縄県立博物館・美術館年報　No.3

２０１１年（平成２３）１月３１日

編集・発行：沖縄県立博物館・美術館
住　　所：〒900-0006
　　沖縄県那覇市おもろまち３丁目１番１号
Ｔ　Ｅ　Ｌ：０９８-９４１-８２００（代表）
Ｆ　Ａ　Ｘ：０９８-９４１-２３９２（代表）
ホームページ：http://www.museums.pref.okinawa.jp
　　（沖縄県立博物館・美術館ホームページ）
印　　刷：(有)ドリーム印刷
住　　所：〒901-1117
　　沖縄県南風原町字津嘉山1537-6（TEL：098-889-2784）

○この刊行物は、574,35円の経費により1,500部作成しました。